

大阪府茨木市

平成21年度発掘調査概報

平成24年12月



茨木市教育委員会

はじめに

私たちが暮らしているこの茨木は、北半分は丹波高原の老の坂山地の麓で、南半分には大阪平野の一部をなす三島平野が広がり、温暖な気候と豊かな自然に恵まれた過ごしやすい環境の土地として、はるか昔から多くの人たちが生活してきました。そうした人びとの生活は風習として現在に伝えられ、また人びとの生活した足跡は、土に埋もれた文化財として今に残されてきました。

このような先人たちの生活や文化は、現代の私たちの生活の基となるものであり、また、土の中に残された遺構や遺物は、過去の人びとの生活を知る手がかりとなる貴重な文化遺産として、次代に残し伝えていくべきものであります。

しかし、昨今市内においても様々な開発が計画されており、人びとの貴重な文化財を現状のまま残すことが困難になっています。そのため、文化財を記録して保存し、また出土した遺物や遺構などの資料から古代の人びとの生活像を捉えるために、各種開発等事業を実施される事業者の方々にご協力いただき、開発等に先立ち発掘調査を実施し、文化財の記録保存に努めております。

平成21年度は、茨木遺跡・中条小学校遺跡等の調査を実施しました。本冊子はそれらの発掘調査について概略を述べたものです。いずれの調査地からも先人達の生活を知るうえで貴重な遺物、遺構が出土しており今後の研究が期待されます。

終わりにになりましたが、調査にあたって惜しみないご協力をいただきました関係の皆様へ深く感謝するとともに、今後とも本市の埋蔵文化財の保存・保護に一層の温かいご理解とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

平成24年12月28日

茨木市教育委員会

教育長 八木章治

目 次

はじめに

例言

茨木市内遺跡分布図

平成21年度埋蔵文化財発掘調査一覧表

1. 総持寺遺跡（庄一丁目347-1） ㈱大京大阪支店	1
2. 総持寺遺跡（庄一丁目347-2） フジテック㈱	68
3. 茨木遺跡（大手町752-5、-6） ㈱トータルクリエイションズ	74
4. 中条小学校遺跡（下中条町125-3、-4） 神鋼不動産㈱	77
5. 中条小学校遺跡（下中条町451） MID都市開発㈱	83
6. 茨木遺跡（片桐町1222） 社会福祉法人裕榮福祉会	90
7. 中条小学校遺跡（下中条町54-2、-3） 東京建物㈱関西支店	94
8. 玉櫛遺跡（玉櫛二丁目332-3） 大阪府障害者福祉事業団	107
9. 春日遺跡（春日三丁目150-20他） 東レ建設㈱	146
10. 耳原遺跡（耳原三丁目18-8他） ㈱富士住研	150
11. 茨木遺跡（元町1513-2, 1514） 貴船宏	164

例 言

- 1 本書は、茨木市教育委員会が平成21年度に実施した埋蔵文化財の発掘調査事業報告である。
- 2 調査は、調査員 黒須 靖之、中東 正之、宮本 賢治、関 梓が担当し、各調査担当者が執筆を行ない、編集は上田哲平が行なった。整理作業は、高橋公子、堀澤照美、下口法子、西坂泰子、和田恵津子、高瀬隆治、西井貞善、辻本祐布子、菅原麻里、横尾知明が行ない、遺構トレースは初代絵理が担当した。
- 4 本書で使用する標高は、すべてT.P.（東京湾標準海水面）で表し、各挿図に掲載した方位表記のうち、M.N.は磁北、Nは真北を示す。また、平面直角座標第IV系に準じる。
- 5 出土遺物及び関係書類・図面・写真等は、茨木市教育委員会・茨木市立文化財資料館 〒567-0861大阪府茨木市東奈良三丁目1番18号 TEL072-634-3433 で保管している。
- 6 遺構・遺物等の記載は、土層及び遺物の色調については『新版標準土色帖』（小山・竹原 編）を使用した。

平成21年度埋蔵文化財発掘調査事業

茨木市における平成21年度の発掘件数は30件であり、その発掘調査原因の内訳は、民間事業が9件、公共事業が1件、個人住宅建築が20件である。民間事業は殆どが共同住宅建設工事であり、公共事業は平成20年度より続く道路敷設工事である。埋蔵文化財確認試掘・立会調査件数は167件であった。

発掘調査件数について、民間事業は前年度とほぼ同数であったが、個人住宅建築は前年度の10件より倍増していた。確認試掘・立会調査については前年度とほぼ同数であり、調査下人は個人住宅建築にかかる立会や分譲住宅建築にかかる確認試掘調査が大半を占めた。

図版目次

第 1 図 1. 総持寺遺跡	調査位置図	P. 1	第 44 図 1. 総持寺遺跡	写真図版(16)	P. 65
第 2 図 1. 総持寺遺跡	発掘調査区配置図	P. 2	第 45 図 1. 総持寺遺跡	写真図版(17)	P. 66
第 3 図 1. 総持寺遺跡	第1遺構面調査区全体図	P. 13・14	第 46 図 1. 総持寺遺跡	写真図版(18)	P. 67
第 4 図 1. 総持寺遺跡	第2遺構面調査区全体図	P. 15・16	第 47 図 2. 総持寺遺跡	調査地位置図	P. 68
第 5 図 1. 総持寺遺跡	第3遺構面調査区全体図	P. 17・18	第 48 図 2. 総持寺遺跡	調査区配置図	P. 68
第 6 図 1. 総持寺遺跡	第4遺構面調査区全体図	P. 19・20	第 49 図 2. 総持寺遺跡	第1遺構面助溝検出状況	P. 69
第 7 図 1. 総持寺遺跡	調査区断面図	P. 21・22	第 50 図 2. 総持寺遺跡	断面図	P. 70
第 8 図 1. 総持寺遺跡	遺構断面図	P. 23	第 51 図 2. 総持寺遺跡	全体図	P. 71
第 9 図 1. 総持寺遺跡	A区池状遺構出土遺物(1)	P. 24	第 52 図 2. 総持寺遺跡	遺跡全景	P. 72
第 10 図 1. 総持寺遺跡	A区出土遺物(2)	P. 25	第 53 図 2. 総持寺遺跡	出土遺物	P. 73
第 11 図 1. 総持寺遺跡	A区出土遺物(3)	P. 26	第 54 図 3. 茨木遺跡	調査位置図	P. 74
第 12 図 1. 総持寺遺跡	A区出土遺物(4)	P. 27	第 55 図 3. 茨木遺跡	調査区配置図	P. 74
第 13 図 1. 総持寺遺跡	A区出土遺物(5)	P. 28	第 56 図 3. 茨木遺跡	遺構平面図	
第 14 図 1. 総持寺遺跡	A区出土遺物(6)	P. 29		調査区東壁土層断面図	P. 76
第 15 図 1. 総持寺遺跡	A区出土遺物(7)	P. 30	第 57 図 3. 茨木遺跡		
第 16 図 1. 総持寺遺跡	A区出土遺物(8)	P. 31		遺構平面・東壁土層断面、遺構検出写真	P. 76
第 17 図 1. 総持寺遺跡	A区出土遺物(9)	P. 32	第 58 図 4. 中条小学校遺跡	調査地位置図	P. 77
第 18 図 1. 総持寺遺跡	A区出土遺物(10)	P. 33	第 59 図 4. 中条小学校遺跡	調査区配置図	P. 77
第 19 図 1. 総持寺遺跡	A区出土遺物(11)	P. 34	第 60 図 4. 中条小学校遺跡	調査区平面・断面図	P. 79・80
第 20 図 1. 総持寺遺跡	A区出土遺物(12)	P. 35	第 61 図 4. 中条小学校遺跡	遺構開掘状況	P. 81
第 21 図 1. 総持寺遺跡	B区出土遺物(13)	P. 36	第 62 図 4. 中条小学校遺跡	遺構開掘状況	P. 82
第 22 図 1. 総持寺遺跡	PIE出土遺物(14)	P. 37	第 63 図 5. 中条小学校遺跡	調査地位置図	P. 83
第 23 図 1. 総持寺遺跡	CI区出土遺物(15)	P. 38	第 64 図 5. 中条小学校遺跡	第2遺構面平面図	P. 84
第 24 図 1. 総持寺遺跡	D・E区出土遺物(16)	P. 39	第 65 図 5. 中条小学校遺跡	調査区断面図	P. 84
第 25 図 1. 総持寺遺跡	A区出土遺物(17)	P. 40	第 66 図 5. 中条小学校遺跡	SK01平面・断面図	P. 85
第 26 図 1. 総持寺遺跡	PIE出土遺物(18)	P. 41	第 67 図 5. 中条小学校遺跡	遺構断面図	P. 86
第 27 図 1. 総持寺遺跡	PIE出土遺物(19)	P. 42	第 68 図 5. 中条小学校遺跡	出土遺物実測図	P. 88
第 28 図 1. 総持寺遺跡	PIE出土遺物(20)	P. 43	第 69 図 5. 中条小学校遺跡	発掘調査写真	P. 89
第 29 図 1. 総持寺遺跡	写真図版(1)	P. 50	第 70 図 6. 茨木遺跡	調査地位置図	P. 90
第 30 図 1. 総持寺遺跡	写真図版(2)	P. 51	第 71 図 6. 茨木遺跡	調査区配置図	P. 90
第 31 図 1. 総持寺遺跡	写真図版(3)	P. 52	第 72 図 6. 茨木遺跡	出土遺物	P. 91
第 32 図 1. 総持寺遺跡	写真図版(4)	P. 53	第 73 図 6. 茨木遺跡	全体図	P. 92
第 33 図 1. 総持寺遺跡	写真図版(5)	P. 54	第 74 図 6. 茨木遺跡	断面図	P. 92
第 34 図 1. 総持寺遺跡	写真図版(6)	P. 55	第 75 図 6. 茨木遺跡	遺構面状況	P. 93
第 35 図 1. 総持寺遺跡	写真図版(7)	P. 56	第 76 図 7. 中条小学校遺跡	調査地位置図	P. 94
第 36 図 1. 総持寺遺跡	写真図版(8)	P. 57	第 77 図 7. 中条小学校遺跡	調査区配置図	P. 94
第 37 図 1. 総持寺遺跡	写真図版(9)	P. 58	第 78 図 7. 中条小学校遺跡	第1遺構面平面図	P. 97・98
第 38 図 1. 総持寺遺跡	写真図版(10)	P. 59	第 79 図 7. 中条小学校遺跡	第2遺構面平面図	P. 99・100
第 39 図 1. 総持寺遺跡	写真図版(11)	P. 60	第 80 図 7. 中条小学校遺跡	土層断面図	P. 101・102
第 40 図 1. 総持寺遺跡	写真図版(12)	P. 61	第 81 図 7. 中条小学校遺跡	第1遺構面検出写真	P. 103
第 41 図 1. 総持寺遺跡	写真図版(13)	P. 62	第 82 図 7. 中条小学校遺跡	第2遺構面完掘写真	P. 105・106
第 42 図 1. 総持寺遺跡	写真図版(14)	P. 63	第 83 図 8. 玉櫛遺跡	調査地位置図	P. 107
第 43 図 1. 総持寺遺跡	写真図版(15)	P. 64	第 84 図 8. 玉櫛遺跡	調査区配置図	P. 107

第 85 図 8. 玉櫛遺跡	A区土層断面	P. 109	第 107 図 8. 玉櫛遺跡	C区平面図	P. 129
第 86 図 8. 玉櫛遺跡	B区土層断面	P. 110	第 108 図 8. 玉櫛遺跡	C区井戸 (CSE01) 平面・断面図	P. 130
第 87 図 8. 玉櫛遺跡	C区土層断面	P. 111	第 109 図 8. 玉櫛遺跡	D区第2遺構面平面図	P. 130
第 88 図 8. 玉櫛遺跡	D区土層断面	P. 112	第 110 図 8. 玉櫛遺跡	D区第4遺構面平面図	P. 131
第 89 図 8. 玉櫛遺跡	A区第2遺構面平面図	P. 113	第 111 図 8. 玉櫛遺跡	発掘調査写真1	P. 144
第 90 図 8. 玉櫛遺跡	A区井戸 (ASE01) 土師皿出土状況	P. 114	第 112 図 8. 玉櫛遺跡	発掘調査写真2	P. 145
第 91 図 8. 玉櫛遺跡	A区出土遺物実測図	P. 114	第 113 図 9. 春日遺跡	調査地位置図	P. 146
第 92 図 8. 玉櫛遺跡	B区第2遺構面平面図	P. 115	第 114 図 9. 春日遺跡	調査区配置図	P. 146
第 93 図 8. 玉櫛遺跡	B区第2遺構面土壌 (BSK08) 平面・断面図	P. 116	第 115 図 9. 春日遺跡	掘立柱建物全景	P. 147
第 94 図 8. 玉櫛遺跡	B区第3遺構面平面図	P. 116	第 116 図 9. 春日遺跡	出土遺物	P. 147
第 95 図 8. 玉櫛遺跡	第3面土壌 (BSK10) 平面・断面図	P. 117	第 117 図 9. 春日遺跡	全体図	P. 148
第 96 図 8. 玉櫛遺跡	B区第4遺構面平面図	P. 117	第 118 図 9. 春日遺跡	全景	P. 149
第 97 図 8. 玉櫛遺跡	B区第4遺構面石敷き水路状遺構面・断面図	P. 118	第 119 図 10. 耳原遺跡	調査地位置図	P. 150
第 98 図 8. 玉櫛遺跡	B区第4遺構面水路状遺構転用木材	P. 119	第 120 図 10. 耳原遺跡	周辺調査区全体図	P. 151・154
第 99 図 8. 玉櫛遺跡	B区出土遺物実測図	P. 121	第 121 図 10. 耳原遺跡	1~3トレンチ遺構面平面図	P. 155・156
第 100 図 8. 玉櫛遺跡	B区出土遺物実測図(2)	P. 122	第 122 図 10. 耳原遺跡	4~7トレンチ遺構面平面図	P. 157・158
第 101 図 8. 玉櫛遺跡	B区出土遺物実測図(3)	P. 123	第 123 図 10. 耳原遺跡	1~3トレンチ遺構面断面図	P. 159・160
第 102 図 8. 玉櫛遺跡	B区第4面出土遺物実測図	P. 124	第 124 図 10. 耳原遺跡	4~7トレンチ遺構面断面図	P. 161・162
第 103 図 8. 玉櫛遺跡	B区出土遺物実測図	P. 125	第 125 図 10. 耳原遺跡	1~7トレンチ遺構検出状況	P. 163
第 104 図 8. 玉櫛遺跡	B区第4面出土遺物実測図	P. 126	第 126 図 11. 茨木遺跡	調査地位置図	P. 164
第 105 図 8. 玉櫛遺跡	B区第4面出土遺物実測図	P. 127	第 127 図 11. 茨木遺跡	調査区配置図	P. 164
第 106 図 8. 玉櫛遺跡	B区第4面出土遺物実測図	P. 128	第 128 図 11. 茨木遺跡	トレンチ1平面・断面図	P. 165
			第 129 図 11. 茨木遺跡	トレンチ2平面・断面図	P. 167
			第 130 図 11. 茨木遺跡	出土遺物	P. 168
			第 131 図 11. 茨木遺跡	発掘調査写真	P. 169

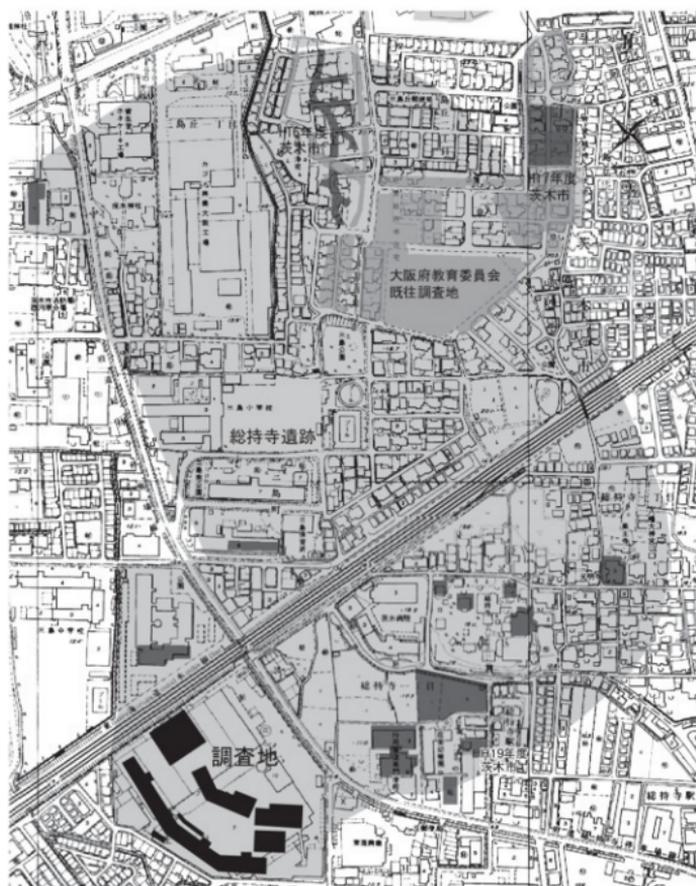
表目次

1. 総持寺遺跡	出土遺物観察表	P. 44	8. 玉櫛遺跡	遺物観察表	P. 134
----------	---------	-------	---------	-------	--------

平成21年度 埋蔵文化財発掘調査一覧表

No	遺跡名	調査担当	調査位置	調査期間	調査面積	主な調査内容
1	総持寺遺跡	黒須	庄一丁目347-1	H19. 12. 10～ H20. 7. 10	6750.0 m ²	弥生時代～近世 耕作遺構・建物跡・溝・土坑・池 状遺構
2	総持寺遺跡	中東	庄一丁目347-2	H21. 1. 13～ H21. 2. 26	2800.0 m ²	弥生時代～古墳時代・中世 竈溝・竈穴住居跡・掘立柱建物 跡・溝・井戸・土坑
3	茨木遺跡	宮本	大手町752-5, 752-6	H21. 4. 7～ H21. 4. 9	30.5 m ²	近世 町屋水路跡・柱穴・土坑
4	中条小学校遺跡	宮本	下中条町125-3, 125-4	H21. 6. 1～ H21. 6. 26	234.1 m ²	弥生時代～奈良時代 周溝・掘立柱建物跡・柱穴・土 坑・大溝
5	中条小学校遺跡	関	下中条町451	H21. 9. 7～ H21. 10. 22	80.0 m ²	弥生時代～古墳時代 柱穴・溝・土坑
6	茨木遺跡	中東	片桐町1222	H21. 9. 24～ H21. 9. 30	270.0 m ²	中世～近世 堀・井戸・竹管水道・溝・土坑
7	中条小学校遺跡	宮本	下中条町54-2, 54-3	H21. 9. 28～ H21. 12. 9	1038.0 m ²	弥生時代～平安時代 柱穴・溝・井戸・土坑
8	玉櫛遺跡	関	玉櫛二丁目332-3	H21. 12. 3～ H21. 3. 31	1216.6 m ²	中世～近世 井戸・石組水路・土坑
9	春日遺跡	中東	春日三丁目150-20他	H21. 12. 14～ H22. 2. 26	2000.0 m ²	古墳時代・平安時代～近世 掘立柱建物跡・竈溝・柱穴・柱 列群・溝・土坑
10	耳原遺跡	宮本	耳原三丁目18-8他	H21. 12. 14～ H22. 1. 30	585 m ²	中世～近世 石敷遺構・竈溝・溝・土坑
11	茨木遺跡	関	元町1513-2, 1514	H22. 3. 3～ H22. 3. 10	48.0 m ²	近世 土坑

総持寺遺跡



第1図 総持寺遺跡 (S.J07-1) 調査地位置図

所在地 茨木市庄1丁目347-1他

調査面積 6,750 m²

調査原因 共同住宅群建設事業

調査担当 黒須 靖之

調査期間 平成19年12月10日～

平成20年7月10日



第2図 総持寺遺跡 発掘調査区配置図

調査結果（調査に至る経過）

今回の調査地は、標高10～11mの高さに位置しており、沖積面に広がっている。当初、総持寺遺跡の主体は、東北側の段丘上洪積面に展開する富田台地と言われる部分にあたり、後に詳述するがこれまでに、大阪府教育委員会や（公財）大阪府文化財センター、茨木市教育委員会などの調査機関が数多く発掘調査を手がけて、そのことにより様々な発見をしている場所である。調査地は当初、埋蔵文化財包蔵地外であったが、総持寺遺跡の南東に隣接することや近接する包蔵地内の沖積面から縄文時代～中世におよぶ遺構や遺物が発見されていることから、新たに遺跡が発見される可能性が指摘されていた。

平成19年4月27日及び5月11日に事業主（今回の発掘調査事業主とは異なる）の協力により、既存建物撤去にあわせて埋蔵文化財対象土壌の確認立ち会い調査を実施する機会を得たことから、事前に在る程度の情報をつかむことが出来た。同年9月、同敷地内にて高層マンション群建設が計画申請されたことから、平成19年10月11日に対象となる申請地全域を16カ所のトレンチを設定して確認調査を実施した。その結果、既存建物の基礎で、在る程度遺構が失われている状況ではあったが、本発掘調査を実施することで容易に遺跡の全容が確認できうる状態であったことから、確認調査の情報を精査して想定される時代及び遺構面など検討し、調査計画を綿密に練って事業主の協力のもと、本発掘調査を実施するに至った。

○自然的環境と歴史的環境

総持寺遺跡は北摂山地から派生した下位段丘状の「富田台地」と呼ばれる上に立地している。この富田台地は南東に向かって緩く傾斜しながら大きく舌状に張り出し、東西約2km、南北約2.5kmの広大な段丘面を形成し、標高は概ね15～30mを測る。遺跡の西側には比高5～6mの段丘崖を介して安威川が造りだした沖積地が広がり、東側は女瀬川・芥川が開折し、同じく南側には沖積平野が広がる。総持寺遺跡の主だった部分は、安威川左岸の富田台地の南西部分に位置する。遺跡の範囲は東西約500m、南北約800mに及ぶが、台地上には総持寺北遺跡・太田遺跡・太田庵寺・太田茶臼山古墳・旧山陽道、高槻市の新池埴輪製作遺跡・今城塚古墳・嶋上郡衙などがあり土地利用のあり方や遺跡の性格を鑑みると、富田台地の持つ重要性和特異性が伺える。

○既存の調査概要

総持寺遺跡は弥生時代から中世に至る複合遺跡として周知されているが、これまでに大阪府教育委員会・（公財）大阪府文化財センター（これより以後は府教委及びセンターと呼称する。）により大規模な発掘調査が1990年代から実施され、総持寺遺跡の全容および富田台地を中心とする遺跡間同士の関連性などが徐々に明らかになりつつある。当該地周辺（総持寺遺跡・総持寺北遺跡）では既にこれまで60,000㎡にも及ぶ発掘調査が実施されている。大阪府営茨木三島丘住宅の代替えに伴い1994～2001年にかけて府教委が約23,500㎡に及ぶ発掘調査を実施したのをはじめ、遺跡の北辺部を住宅・都市整備公団（現 独立行政法人都市再生機構）の住宅建設に伴い、センターが1994～1997年にかけて約25,500㎡の発掘調査を実施している。また、府営住

宅整備関連に伴う道路拡幅及び新設にかかる調査を2002年度に約2,037㎡、2003年度に約1,076㎡をセンターが発掘調査をしている。

茨木市では総持寺北遺跡北半部を1995・1996・2001年度に約4,500㎡、府教委・センター調査に隣接する総持寺遺跡北東部を2004年度に1,860㎡、2006年度に遺跡南端にほど近い段丘崖下の沖積面に203㎡の発掘調査を実施している。今回の発掘調査の参考事例として、遺跡西側から続く安威川の浸食による沖積面に位置する調査例として、2006年度の調査があげられる。弥生時代前期～平安時代後期までの遺構面が4面確認され、現地表面の標高はT.P.10.3m程であるが、遺構面の標高はT.P.9.6m～8.8mの間で検出された。主な遺構と遺物は、第1面が奈良時代～平安時代の遺構面で東西棟の建物跡、第2面が古墳時代後期の幅8m以上におよぶ大溝、第3面が弥生時代後期の溝跡、第4面が弥生時代前期～中期の溝跡を検出した。さらに下層の遺物包含層からは縄文時代晩期の土器が出土した。従来、この沖積面には遺跡がないと想定されてきたが、覆寸結果となり今回の発掘調査において参考となった。

○調査概要（第2図）

今回の調査は、計画される高層マンション群及び立体駐車場、防火水槽など地下の埋蔵文化財の記録保存のための本発掘調査を実施した。調査区は、上記の構造物掘削範囲を設定し、A区～F区、K区（A～F棟、K棟）、P区（立体駐車場）、S区（防火水槽）、V区と大きく10カ所の調査区にて調査を実施した。調査地全域は、総持寺遺跡の中心である富田地南西端に接続する段丘崖下沖積面にあり、敷地北面はJR東海道本線が横切っている。概ね調査地北側から南東方向に向かって地形が低くなっており、遺構最終面の標高は北側のP区10.6mを測るのに対し、C・F区は9.4mを測ることから、地形は南東方向へ傾きを持っていることがわかった。

検出された遺構と遺物の概略は、第1面は標高10.9～10.25mの範囲で検出され、特にA・B区では良好な状態で平安時代中期（10世紀）～鎌倉時代（13世紀）にかけての耕作溝を中心とした耕作関連遺構が複数面確認された。その主な特徴は、耕作溝がほぼ東西南北の正方位で耕作されたことがうかがえ、当該地が「庄」という地名からもわかるように荘園制度による条里のつとつたものと想定される。また、A区では、水田とおぼしき遺構が検出されており水田と水田の間が畦道として一段高く残る状況がうかがえた。その主軸は、北北西に34°傾いており、水田からは平安時代中期（10世紀）頃の土師器皿や黒色土器A類、緑釉陶器などが出土している。正方位（11世紀～13世紀）の耕作溝からは、黒色土器B類、東播系須恵器のこね鉢や青磁碗、白磁碗、瓦器碗などが出土している。第2面は、標高10.6～9.9mの範囲で検出され、D区を除く各調査区から古墳時代前期～中期の溝や土坑、ピットなどの遺構が検出されたが、A区では古墳時代中期の土師器壺を伴う堅穴が2棟確認された。また、P区では池状遺構から古墳時代中期の須恵器甕が高坏を入れ子にした状態で発見されており、また土坑からも多数の土師器高坏や小型丸底土器が出土している。このようにA区・P区でまとまった遺構出土の遺物が多く見られるが、D区には遺構が無く、その東側のC・E・F・K区は溝やピットが中心となり、遺物の出土も小

片で少ない傾向にある。第3面は、標高 10.6～9.8mの範囲で検出され、P区・D区を除き、弥生時代後期後葉～古墳時代前期前葉頃を中心に溝、土坑、柱穴、ピットを検出した。大溝（ASD III-03）は北西から東へ弧を描くようにA・B区を貫き、溝の幅は2～4mをはかり、深さは検出面から0.3～0.7mと浅く当該期の土器が多く出土した。第4面もP・D区を除き、各調査区から弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭頃の大溝や溝、土坑、柱穴を検出した。大溝は5本で、幅がおおよそ3～7m程度でいずれも概ね北から南方向へ延びる。出土遺物は弥生時代後期後半～古墳時代前期前葉頃の壺・甕・鉢などが数多く溝（ASDIV-02）から出土した。

○基本層序（第7図）

調査区の基本層序は概ねI層～IX層の9層に大別され、現地表面（GL）の標高 11.6～11.4mに対し最終遺構面は標高 10.6～9.4mをはかり、南東に緩い傾斜を持つことがわかった。これは、南東方向に向かって沖積面に堆積土が厚く堆積していることを示すものと推察される。I層は現代の盛土層、II層は暗灰色シルトの旧耕作土で層厚 0.2m程度、III層は緑灰色シルトや灰黄褐色シルトで場所によって異なるが3～5層に細分され層厚は各0.05～0.1m程度で、主に中世の耕作土とみられる。IV層は褐色～灰白色シルト・淡黄色シルトで層厚 0.1～0.2mをはかり古代遺物包含層とみられる。V層は褐色～灰白色土で場所によって異なるが3層に細分され層厚は各0.1～0.15mで古墳時代遺物包含層とみられ、VI層は植壤土を含んだ灰黄褐色～にぶい黄褐色を呈し、層厚 0.2m 前後と多くの調査区で共通し鍵となる層で、古墳時代前期～中期の遺物包含層とみられる。VII層はV層類似層で層厚 0.1m程度である。VIII層もVI層同様、植壤土を含んだ褐色・灰黄褐色～にぶい黄褐色を呈し2層に細分される。各層厚 0.2m 前後と多くの調査区で共通し鍵となる層で、弥生時代後期後葉～古墳時代前期の遺物包含層とみられる。IX層は灰白色～青灰色粘土層である。また、P・D区は他の調査区と異なりIV層以下はVI・VIII層はみられず、0.6m程度と厚く青灰色粘土や下層には暗灰色粘土が堆積し、第3・4面の遺構は検出されなかった。

○各調査区の遺構と遺物（第3～6・8図）

A～C区 第1面 A～C区は幅 14mで長さがそれぞれ 82m・59m・42mと主軸が北西～南東方向から東西方向へと多角的に変化する調査区で、南北 115m・東西 140mの範囲に広がる調査区である。検出面はA区北端～南端で標高 10.85～10.75m、B区南端で 10.7m、C区が 10.5mをはかる。遺構はA区が溝3条、耕作溝 28条、柱穴 29口、水田状の落込み遺構（SG）8カ所、畦道状遺構（SF）を検出した。特にA区の水田状の落込みと畦道状遺構との関係は、畦道（ASF I-01）を中心に両側に水田状落込みが広がっている。畦道の主軸方向は、北西～南東方向（N34°W）で水田状落込み（ASG I-01a～d・02a～c）は調査区の幅がないことから、全体の形状・規模は不明だが方形～長方形を呈すると思われる。深さは0.25～0.35mほどで、埋土は緑灰色シルトである。遺物は須恵器壺や瓶・黒色土器・緑釉陶器（図12）・白磁碗（図13）・土師器皿・土師器羽釜・瓦器碗（図14・15）など9世紀（平安時代前期）～14世紀（室町時代）に及ぶ遺物が出土した。また、ほぼ真北の耕作溝は水田状落込みに壊される。B区は水田状の落込

みは見られず、南北方向の耕作溝が主体で164条、溝1条、柱穴27口を検出した。耕作溝はN3°～7°Eとやや東に傾き、13世紀中頃(鎌倉時代)までの瓦器碗が多く出土した。C区は第1面では全面的に攪乱を受け、一部にB区同様の南北方向の耕作溝(N7°E)を検出した。

第2面 検出面はA区北端～南端で標高10.65～10.55m、B区が10.6(北端)～10.4m(南端)、C区が10.2～10.1mをはかる。遺構はA区が堅穴(SI)2棟、溝15条、土坑2基、柱穴91口、池状遺構(SG)1カ所を検出したが、遺構は北端に集中する。ASI I-01(堅穴)は主軸方向(N5°W)がやや西に傾き、1辺5.1m、深さ0.2mをはかる。埋土は灰色粘土と褐灰色シルトで底面は平らである。遺物は土師器壺が出土した。池状遺構は全長18m以上の規模で、深さ0.4mをはかり、埋土は褐灰色粘土～シルトで5世紀後半の須恵器無蓋高坏(図35)が出土した。B区は溝6条、土坑5基、柱穴50口を検出したが、調査区張出部付近に柱列(SC)が見られる。柱列は主軸方向(N19°W)が西に傾き、間尺1.8m前後で4間を確認した。柱穴は長軸0.6m・短軸0.5mの方形で柱痕跡は径0.2～0.25m、深さ0.4mをはかり、土師器小形鉢、須恵器片が出土した。また、検出面からは5世紀代の須恵器坏身、坏蓋、甕が出土した。C区は溝10条、柱穴45口を検出した。CSD II-01は全長12.0m以上、幅2.3～2.6m、深さ0.7mをはかり、砂礫層と黒褐色～褐色シルト層が互層に堆積する。E区のESD II-01と共通点が多いことから繋がるものと推察される。遺物は5世紀前半～中頃の須恵器坏蓋・甕(図183・184)・器台・格子目タタキ甕・土師器壺・甕・高坏等が出土した。ほかにCSD II-02からは格子目タタキのある須恵器甕片が出土した。

第3面 検出面はA区が標高10.5(北端)～10.2m(南端)、B区が10.0m(南端)、C区が9.8m(東端)をはかる。遺構は、A区が溝35条、土坑15基、柱穴223口、落込み2カ所を検出した。ASD III-03は蛇行しながら調査区を貫くが、概ね北西～南東方向にのび全長76.0m以上、幅2.0～4.6m、深さ0.15～0.45mをはかり、北から南に向かって溝底面の標高は10.2～9.84mと低くなる。埋土は褐灰色～灰黄褐色土で、弥生時代終末期～古墳時代前期初頭頃の壺(図17・18)・甕(図19～23・27)・鉢(図28・29)・高坏(図24～26・31)・器台(図30)など多量の土器が出土した。また、ASD III-01からは有段口縁壺(図16)が出土したほか、他の遺構の多くからも弥生時代終末期～古墳時代前期初頭頃を中心とした土器が多数出土した。B区は、溝22条、土坑10基、柱穴113口を検出した。BSD III-12・13周辺の溝は主軸がN63°Eと東北東～西南西へ傾き、BSD III-12は幅0.5m、深さ0.1m、埋土は黒褐色土で底面は皿形を呈する。BSD III-13は幅1.15m、深さ0.2m、埋土は灰黄褐色土で底面は平らで断面形は逆台形を呈する。これら溝やASD III-03に平行または垂直方向に柱穴群の集中がみられる。これら遺構からは、弥生時代終末期～古墳時代前期初頭頃の甕(図159～162・158を除く)・鉢(図169)・器台(図168)等が出土した。C区が溝24条、土坑12基、柱穴139口、落込み4カ所を検出した。やや西に傾きを持つ南北方向の溝(CSD III-01～04)が多く、幅は0.3～0.8m、深さ0.18～0.36m、埋土は褐灰色シルトと砂礫層が堆積し底面は皿状を呈する。遺物はCSD III-01から製塩土器や甕(図181・

182)、CSDIII-03 から丸底壺や高坏 (図 178・179) など弥生時代終末期～古墳時代前期前葉頃の土器が出土した。

第4面 検出面は、A区が標高 10.25 (北端)～9.9m (南端)、B区が 9.65m (南端)、C区が 9.6～9.4m (中央～東端)をはかる。遺構は、A区が溝 32条、土坑 27基、柱穴 280口を検出した。ASDIV-02は調査区を貫き、第3面の ASDIII-03 とほぼ同じルートを通る。まるで南西方向に大きな円を描くように概ね北西～南東方向にのび、全長 75.0m以上、幅 2.0～4.4m (平均 3m以上)、深さ 0.5～0.7mをはかり、北から南に向かって溝底面の標高は 9.7～9.2mと低くなる。埋土は褐灰色～暗灰色土で、弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭頃の壺 (図 49～72)・甕 (図 73～123)・蓋 (図 124)・高坏 (図 125～127・129・132・135)・器台 (図 128・130～134)・鉢 (図 136～150・152)・手焙形土器 (図 151)・イイダコ壺 (図 153) が出土した。B区は、溝 14条、土坑 3基、柱穴 55口を検出した。また、A区との境に ASDIV-02 に西から接続する溝に、水を堰止めるための板列や杭列が検出された。A区からのびる BSDIV-07 (大溝) は L 字状に屈曲して、ASDIV-02 に壊されるかたちで溝が真下を通り重複する。屈曲部では ASDIV-02 の壁面に埋土が明瞭に残る。全長 46.0m以上、幅 3.9～4.8m、深さ 1.25mをはかり、溝底面の標高は 8.35mで断面形は V 字に近い。埋土は大きく 6 層に大別され灰色シルトや褐灰色粘土がレンズ状に堆積するが、出土遺物はない。BSDIV-03 は調査区南端に ASDIV-02 と併走するかのごとく北北西～南南東 (N21° W) で溝がのび、全長 25m 以上、幅～4.7m、深さ 0.5m、埋土は褐灰色～青灰色シルトで噴砂の痕跡が見られ底面は平らである。弥生時代終末期～古墳時代前期初頭頃の壺 (図 155)・甕 (図 156・157)・鉢 (図 163) が出土した。C区は溝 24条、土坑 11基、柱穴 45口を検出した。やや西に傾く南北方向の溝が多く、CSDIV-01 は CSDIV-02 に壊されるが、幅 1.9～2.5m、深さ 0.45m はかり埋土は褐灰色粘土で底面は皿状である。弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭頃の壺 (図 169～172・177)・甕 (図 173・174)・高坏 (図 175・176) が出土した。CSDIV-02 は幅 4.8～11.2m、深さ 0.7m はかり埋土は褐灰色～灰黄褐色粘土で底面は平らで標高 8.9m である。弥生時代後期中葉 (V 様式) の高坏が出土した。

V区 第1面 調査区は幅 3m×長さ 33.5mと細長く、検出面は北が標高 10.86m、南 10.63mをはかり、耕作溝 1条、柱穴 9口、水田状の落込みを 2カ所検出したが出土遺物はない。

第2面 検出面は標高 10.5～10.4mをはかり、遺構は溝 4条、土坑 1基、柱穴 22口を検出した。遺物は溝 (VSDII-03) から 5～6 世紀代の土師器高坏や他の溝からも土師器片が出土した。

第3面 検出面は標高 10.3～10.1mをはかり、遺構は溝 10条、土坑 1基、柱穴 30口、落込み 1カ所を検出した。遺物は溝 (VSDIII-01) から弥生時代後期の高坏坏部や壺体部片が出土した。

第4面 検出面は標高 9.9～9.85mをはかり、溝 6条、土坑 2基、柱穴 15口を検出した。遺物は溝 (VSDIV-01・02) から弥生時代後期の甕片が出土したほか、検出面からタタキ甕が多く出土した。

S区 第1面 調査区は幅 4m×長さ 15mほどで、検出面は北が標高 10.75～10.55mをはか

り、土坑1基、柱穴1口、水田状の落込みを1カ所検出したが遺物は出土しなかった。

第2面 検出面は標高10.3mをはかり、遺構は東側に集中し溝3条、土坑1基、柱穴18口を検出した。遺構から遺物出土はないが、下層包含層から弥生時代後期のタタキ甕・壺・鉢・高坏が出土した。第3面 検出面は標高10.0～9.9mをはかり、溝5条、土坑1基、柱穴7口を検出した。出土遺物はない。第4面 検出面は標高9.8～9.7mをはかり、溝5条、柱穴4口を検出した。

D区 第1面 検出面は標高10.87～10.7mをはかり、既存建物基礎により攪乱を大きく受けるが、E区同様、南北方向の耕作溝(N4～8°E)を中心に溝群、土坑2基、柱穴23口を確認した。DSG I-01は緑釉陶器、白磁、東播系須恵器捏ね鉢(12世紀)、13～14世紀頃の青磁碗が出土した。DSG I-02は東播系須恵器捏ね鉢(12世紀末～13世紀初)、13世紀前半頃の土師皿や瓦器碗、羽釜などやや遺物が多く出土した。また、下層の耕作溝は、検出面が標高10.56～10.44mをはかり、東西溝4条、南北耕作溝(N5°E)多数、土坑1基、落ち込み1カ所、柱穴11口、水田状遺構1カ所(DSG II-02・10.25m)を検出し、南北耕作溝からは10～11世紀の土師器・黒色土器が出土。柱穴からは瓦器碗片が出土した。

第3面 検出面は標高10.26～10.10mをはかり、溝10条、土坑1基、柱穴27口を検出したものの遺物は出土しなかった。

E区 第1面 検出面は西が標高10.5m、東が10.37mをはかり、既存建物基礎により攪乱されるが、残りの良い箇所は複数面の耕作遺構が確認できる。ほぼ耕作溝で真北から東へ4～6°振れる。出土遺物はESG I-01が須恵質瓶、14～15世紀の鉄軸がかかった天目茶碗(図192)、土師碗出土した。ESG I-02は陶器壺出土、ESG I-03は白磁片、土師皿、瓦器碗、ESG I-04は白磁、連弁文碗(11世紀中頃)、土師皿(13世紀)、瓦器碗、瓦質羽釜が出土、ESG I-05は緑釉陶器、土師皿、瓦器碗が出土した。

第2面 検出面は西が標高10.35m、東が10.25mをはかる。遺構は溝15条、土坑8基、柱穴163口を検出した。特に南北方向の溝が多く、ESD II-01は主軸方向はN9°Wでやや西に傾き、全長17.2m以上、幅2.1～2.4m、深さ0.5～0.64mをはかる。埋土は灰白色～青灰色シルトと褐灰色の砂礫層が互層に堆積し、砂礫層には酸化鉄の沈殿が見られることから、恒常的に水が流れていたものと推察される。断面形は段のつく逆台形を呈する。出土遺物(図193・194)は、5世紀代の須恵器坏・壺・甕、土師器壺・甕・鉢が出土した。

第3面 検出面は西が標高10.2m、東が10.0mをはかる。南北方向の溝が多く溝29条、土坑3基、柱穴は直径0.4m程度と小振りのもので多く217口を検出した。ESD III-02は主軸方向がN9°Wとやや西に傾き、全長10.2m以上、幅0.4～1.1m、深さ0.35mをはかる。埋土は褐灰色土が堆積し、断面形は皿形を呈する。出土遺物は弥生時代後期の壺・タタキ甕・高坏が出土した。他にESD III-01や柱穴からも弥生時代後期の土器が出土している。

第4面 検出面は西が10.0m、東が9.7mをはかる。溝5条、土坑6基、柱穴250口を検出し、調査区東半部に連続L字状にピット群が集中する。ESD IV-01は、主軸方向がN19°Eで、全長

11.5m以上、幅 2.85~3.6m、深さ 0.3~0.48mをはかり、埋土は灰色~暗灰色シルトに灰白色シルトがブロック状に混じる。出土遺物(図 196~200)は弥生形甕、複合口縁壺、庄内式甕、小形鉢(下田II・2(古)~3)段階の土器が出土。他に小形丸底鉢、器台、高坏、広口壺など多数の土器が出土している。ESDⅣ-02は、幅 4.5~5.8m、全長 11.5m以上、深さ 0.5mをはかり、埋土は灰色~暗灰色シルトを呈し、C区のCSDⅣ-02と繋がると推察され出土遺物はない。

F区 第1面 検出面は西が標高 10.5m、東 10.3mをはかり、ある程度既存建物基礎により攪乱されるが比較的残りの良い複数面の耕作遺構が確認できる。耕作溝は南北方向で N4° E と真北よりやや東に傾く。これら耕作溝からは、13世紀中頃の土師皿、東播系須恵器捏ね鉢、瓦器碗などが出土した。

第2面 検出面は西が標高 10.2m、東が 9.9mをはかり、溝 19条、土坑 2基、落込み 7カ所、柱穴 156口を検出した。出土遺物は、FSDⅡ-01・04が須恵器坏身、05が土師器高坏、柱穴からは土師器壺など 5~6世紀代にかけての遺物が多く出土した。

第3面 検出面は西が 9.8m、東が 9.6mをはかる。溝は南北方向が多く 14条、土坑 10基、落込み 2カ所、柱穴 166口を検出した。調査区西側に柱列・柱材が一部の残るものも見られる。FSDⅢ-01は、主軸方向が真北に近い N3° E で、全長 18.0m以上、幅が 5.5~7.3m、深さ 1.2~1.56mをはかる。埋土は大きく 3層に大別され、A層は明黄褐色シルト、B層は褐灰色シルト、C1~4層は一番堆積が厚く 0.9mで、灰~暗灰色シルトで、断面形は逆台形を呈するが北側は段が付き、一様に西側の壁に凹凸が見られることから流路と推察される。出土遺物は弥生時代後期のタタキ甕や壺(図 204)、高坏が出土している。長楕円形のFSKⅢ-01(土坑)からは、縄文時代晩期後半の深鉢片(図 203・船橋式~長原式土器)、FSDⅢ-02から鉢(図 202)が出土した。

第4面 検出面は西が標高 9.6m、東が 9.4mをはかる。遺構は南北溝が多く溝 15条、土坑 4基、柱穴 47口、自然流路 1を検出した。特に調査区東端には3面で確認された大溝をはじめ南北溝が集中している。FSDⅣ-01では弥生時代中期の鉢(図 201)が出土した。

K区 第1面 検出面は概ね標高 10.4~5mをはかり、既存建物基礎により全体面積の半分程度攪乱されるが、複数面の耕作遺構が確認できる。ほぼ耕作溝で南北方向を基調とし、N2° E と東へ傾くものが多いが、より新しい耕作溝は N19° E と傾きが大きい。遺物は 11世紀末~12世紀の青磁碗が出土している。また、下層の耕作溝は検出面が標高 10.25~15mをはかり、主軸が N20° W と西に大きく傾く。

第2面 検出面は標高 10.15~10.1mをはかり、調査区西半部・南東部に溝と柱穴を確認した。遺構からは遺物の出土はなかった。

第3面 検出面は概ね標高 9.8mをはかり、遺構は溝 11条、土坑 2基、柱穴 95口、落込み 3カ所を検出した。溝と柱穴群が遺構の主体であり、遺構に伴う出土土器はわずかであった。KSXⅢ-01は主軸方向 N51° E、全長 6.1m以上、幅 3.3m、深さ 0.2mをはかる。埋め土は褐灰色シルトで弥生土器片が出土した。また、柱穴からも弥生時代後期の甕が出土した。

第4面 検出面は西が標高9.7m、東が9.6mをはかる。遺構は溝3条、土坑5基、柱穴31口を検出した。調査区東端に南北方向の大溝(KSDIV-01)が確認され、全長19.5m以上、幅4.1m以上、深さ0.6m以上をはかり弥生時代後期の鉢が出土した。F区のFSDⅢ-01と繋がると想定される。

P区 第1面 検出面は標高10.9～10.8mをはかり、全体に既存建物基礎によりその多くが擾乱を受けており、島状に遺構面が残存し近接する遺構同士の関係性が途絶えがちであることから、遺構の解釈が難しい調査区である。遺構は、調査区南西隅に東西方向の耕作溝(N83°W)の集中が見られ、北半はN54°Eの耕作溝が存在する。また、全体に水田とみられる浅い落込みが多数存在し、全体で溝51条、土坑15基、堅穴1棟、柱穴46口、落込み13カ所を検出した。出土遺物は黒色土器A類環や土師皿Baタイプ、緑釉陶器等の9世紀代～10世紀代を中心とした遺物が水田とみられる落込み(SG・4・9・11・12)や溝(SD・1・3・6・10)・柱穴から出土した。また、青磁碗や瓦器碗など後代の遺物も落込み(SG・7・8)・溝(SD・4)・柱穴などから出土した。このことから平安時代前期～鎌倉時代にかけての長期間、おもに耕作地として利用されていたことがうかがえる。

第2面 検出面は標高10.6～10.5mをはかり、遺構は溝11条、土坑9基、柱穴71口、落込み14カ所、池状遺構2カ所を検出した。調査区西端のPSGⅡ-01(池状遺構)は、全長20m以上、深さ0.3～0.4m、埋土は褐色シルト、PSKⅡ-01(土坑)は主軸方向がN56°W、全長2.1m以上、幅1.0m、深さ0.2mをはかり、埋土はオリーブ灰色シルトで平らな底面から少し浮いた状態で遺物が出土した。出土遺物はPSGⅡ-01から一括して弥生時代後期の高坏(図209・210・213・215～7)や古墳時代前期の土師器高坏(図33・44)や甕(図221～4)、赤彩された壺、5世紀の須恵器坏蓋(図229)・甕(図238)が出土した。PSKⅡ-01から弥生時代後期後葉頃の布留式甕や祖形甕(図225・226・236)や5世紀中葉～後葉の須恵器有蓋高坏(図233・234)、甕、土師器壺・甕・鉢・高坏が出土したほか、PSKⅡ-03・04から土師器甕・高坏、PSXⅡ-02(落込み)から5世紀の須恵器坏蓋(図231)・壺、土師器壺・高坏が出土した。PSXⅡ-03・04からも土師器甕やPSPⅡ-01～9(柱穴)からは5世紀代の土師器甕・壺・鉢・高坏などが出土した。このことから、第2面では弥生時代後期後半～古墳時代中期にかけての遺物が数多く廃棄されたかのごとく落込みや土坑、池状遺構から発見され、また多量に一括出土した。特に池状遺構(PSGⅡ-01)では、須恵器甕に蓋をするように土師器高坏が逆さまに入れ子状態で発見されるなど水辺の祭祀を想起させる。居住域にみられる堅穴住居等も見られないことから、おもに古墳時代中期における特異な場所であったと推察される。

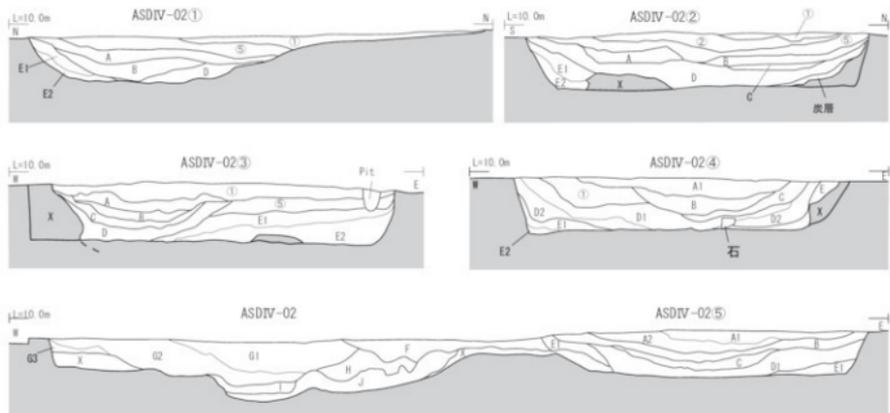
○まとめ

総持寺遺跡周辺の富田台地段丘崖下の沖積面は、平成19年度(2006年)の「総持寺」前の発掘調査で弥生時代前期～中期前葉、弥生時代中期中～後葉、弥生時代後期～古墳時代、奈良時代～平安時代の4面の遺構面が確認された。ここから南西に府道総持寺停車場線を挟んでわずか

200m 程度しか離れていない今回の調査区では、弥生時代後期後葉～古墳時代前期前半にかけての遺構面が2面、古墳時代中期、古代～中世（平安時代～室町時代）のあわせて4面の遺構面が確認された。特に、弥生時代後期後葉～古墳時代前期前葉頃（2世紀末～3世紀末）は、邪馬台国の時代とも言われ弥生社会から古墳社会への過渡期でもある。この時代の遺構群が2面及び多量の遺物が確認されたことは、この東摂地域を考察する上で大変重要な調査事例となった。当該期の周辺の遺跡を見渡すと破鏡が出土した東奈良遺跡や高槻市安満遺跡等がある。また、遺構は溝を中心に富田台地の縁を沿うかたちで南東方向へと向かい、遺物をみればイイダコ壺や製塩土器、北陸の装飾器台（図134）、讃岐の複合口縁壺（図17・177）など生業や人の移動を示す土器が見られた。古墳時代中期には池状遺構（PSKⅡ-01）から一括出土した土器群の中に、須恵器甕（図238）の蓋をするかのごとく中に逆さまに赤彩された高坏（図212）が入った状態で出土するなど、水辺の祭祀を想起させる。付近では太田遺跡・郡遺跡などで同時代の遺構が確認されており、段丘崖下の沖積面という点では太田遺跡に共通点がある。古代～中世（平安時代～室町時代）では水田や耕作溝を中心とした遺構群が確認され「庄」という地名からもわかるように荘園として食料生産基盤の地として土地利用されていたことがわかった。（追記：古墳時代出現期土器研究会の皆様方には、多大なるご教示を賜りましたことここに感謝の意を記します。）

参考文献

- 1995 『総持寺遺跡発掘調査概要』／1997『総持寺遺跡発掘調査概要Ⅱ』大阪府教育委員会
1998 『総持寺遺跡』「センター調査報告書 第30集」現 圃大阪府文化財センター
2004 『総持寺遺跡Ⅱ』「センター調査報告書 第117集」現 圃大阪府文化財センター
1997 『平成8年度発掘調査概報』 「総持寺北遺跡」 茨木市教育委員会
2002 『平成13年度発掘調査概報』 「総持寺北遺跡」 茨木市教育委員会
2005 『平成16年度発掘調査概報』 「総持寺遺跡」 茨木市教育委員会
2006 『平成17年度発掘調査概報』 「総持寺遺跡」 茨木市教育委員会
2008 『平成19年度発掘調査概報』 「総持寺遺跡」 茨木市教育委員会
2002 『考古資料大観 第2巻』（弥生・古墳時代 土器Ⅱ 赤塚次郎 編）小学館

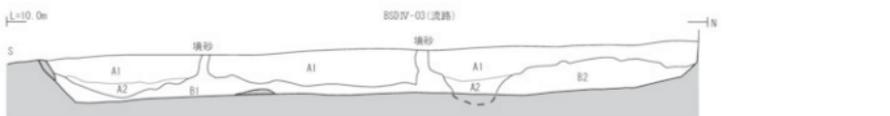


【ASDV-02】

- A1 Si110YR6/1 褐灰色土 Si15Y7/2 灰白色(砂) 粒 20-25% 0.1~0.3m大 \times 8 \times 少 ~0.3m大 \times 14少 中-軟 中-雑
 A2 Si110YR6/1 褐灰色土 Si17.5Y7/2 灰白色(砂) 粒 40-50% 0.1~0.3m大 \times 8 \times 中 0.5cm厚層状 軟 雑
 B K10YR4.2~3/2 灰黄褐色~黄褐色粘土
 Si110YR7/2 にぶい黄褐色(砂) 粉-粒 10% ~0.3m大 \times 8 \times 中 中-軟 密
 C Si110YR7.3 淡黄色(砂)質壤土~砂壤土
 Si110YR5.2~4/1 灰黄褐色~黄褐色土 粉-層状 40-50% 0.3~1m大 \times 8 \times 中 木腐植少 軟 雑(細砂)~細砂
 D Si110YR4/1~3/2 褐灰~黄褐色粘土
 Si110YR7/1 灰白色(砂) 粒 10-15% 0.3~1m大 \times 8 \times 多 P-多(土器多) 木腐植少 中-中-軟 中-密
 D1 Si110YR4/1~3/2 褐灰~黄褐色粘土
 Si110YR7/1 灰白色(砂) 粒 10-15% 0.3~1m大 \times 8 \times 中 木腐植少 中-中-軟 中-密
 D2 Si110YR4/1 褐灰色土 HC~Si110B7/1 明青灰色粘土~(砂)質壤土 0.3~3m大 \times 7 砂 10-15%
 ~0.5m大 \times 8 \times 少 3~5m大 \times 4少 木腐植 中-軟 中-密
 E Si110YR4/1 褐灰色(砂)~土 Si110YR7/1 灰白色(砂) 粒 25-30%
 K10YR3/1 黄褐色粘土 粒~2m大 \times 7 砂 30% 0.5m大 \times 8 \times 中 中-軟 中-密
 E2 Si110YR4/1 褐灰色(砂)~土 Si110YR7/1 灰白色(砂) 粒 10% ~1m大 \times 8 \times 中 ~3m大 \times 14少 中-中-軟 中-密
 E3 Si110YR4/1 褐灰色(砂)~土 Si110YR7/1 灰白色(砂) 粒 10% ~1m大 \times 8 \times 中 ~1m大 \times 14少 中-中-軟 中-密
 F Si110YR4/1 褐灰色土 Si110YR7/1 明砂 \times 灰白色(砂)~粘土 粉-粒 \times 砂 30-40%
 Si10YR7/6 明黄褐色砂壤土 ~0.3m大 \times 4 20-25% 1~3m大 \times 4 3-5% ~0.5m大 \times 8 \times 中 中-硬 中-密
 G1 Si110YR4/1 褐灰色(砂) HC10B7/1 明青灰色粘土 0.3~10m大 \times 7 砂 15-20% ~0.5m大 \times 8 \times 中 中-軟 中-密
 G2 Si110YR5/2 灰黄色(砂) 粒 15-20%
 G3 Si110YR4/1 褐灰色(砂) HC10B7/1 明青灰色粘土 0.3~5m大 \times 7 砂 30-40% ~0.5m大 \times 8 \times 少 中-木腐植多 中-軟 中-雑
 Si110YR5/2 灰黄色(砂) 粒 20-25%
 H Si110YR4/1~3/1 褐灰~黄褐色(砂) HC10B7/1 明青灰色粘土 ~1m大 \times 7 砂 10% ~0.5m大 \times 8 \times 中 中-軟 中-密
 I Si110YR5/2 灰黄色(砂) 粒 20%
 Si10YR6/1 褐灰色砂壤土 0.1~0.3m大 \times 14 40% 0.3~1m大 \times 14 15-20% 中-軟 雑
 J Si10YR6/1~7/1 褐灰~灰白色砂壤土 ~0.05m大 雑砂~粗砂
 K10YR5/1 褐色(砂) 粒 HC10Y7/1 灰白色(砂) 粉 10-15%
 Si10YR7/8 褐色(砂) ~0.5m大 \times 8 \times 少 ~1m大 \times 8 \times 中 中-硬 密
 X K10B7/1 明青灰色粘土 (over)

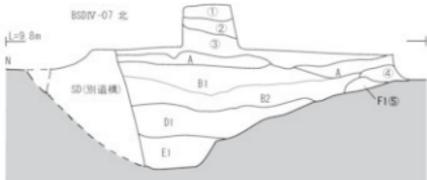
- ① Si110YR5/1~4/1 褐灰色土
 Si17.5Y7/1 灰白色(砂) 粉-粒 30-40% ~0.5m大 \times 8 \times 中
 ~0.5m大 \times 14少 Si110YR7/6 明黄褐色(砂)質壤土 粉-粒
 15-20% P-中(土器) 中-軟 中-雑 散粒状残土
 HC~Si110C2/0~2/0 褐灰~黄褐色土
 Si110YR6/1~7/1 褐灰~灰白色(砂) 粉 20-25%
 Si15Y7/1 明砂 \times 灰白色(砂) 粉 20%
 0.3~2m大 \times 14中-多(土器多) 中-硬 中-密
 Si110B7/1 明青灰色(砂)
 Si110YR5/1 褐灰色土 粒~2m大 \times 7 砂 15-20%
 ~0.3m大 \times 8 \times 少 ~0.3m大 \times 14微 中-軟 中-雑
 砂層厚 0.5~5m大 \times 14 60-70% ~0.5m大 \times 14 30-40%

0m 1:50 2m

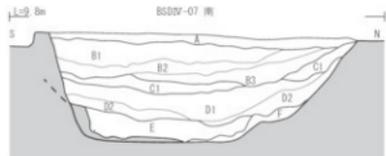


【BSDIV-03 (流路)】

- A1 Si110YR5/1 褐灰色(砂)
 Si110YR5/2 灰黄色(砂) 粉-粒 層状 10-15% ~0.3m大 \times 8 \times 少 中-中-軟 中-雑
 A2 HC~Si110YR5/1 褐灰色粘土~(砂)
 Si110YR5/3 にぶい黄褐色(砂) 粉-粒 層状 20-25% ~0.3m大 \times 8 \times 少 中-中-軟 中-雑
 B1 Si10YR5/1 褐灰色砂壤土 ~0.2m大 \times 14(長石) 粗石 30-40% 軟 雑
 B2 Si10YR7/3 にぶい黄褐色砂壤土 ~0.2m大 \times 14 30-40% ~1.5m大 \times 14 30-40% 中-軟 中-雑



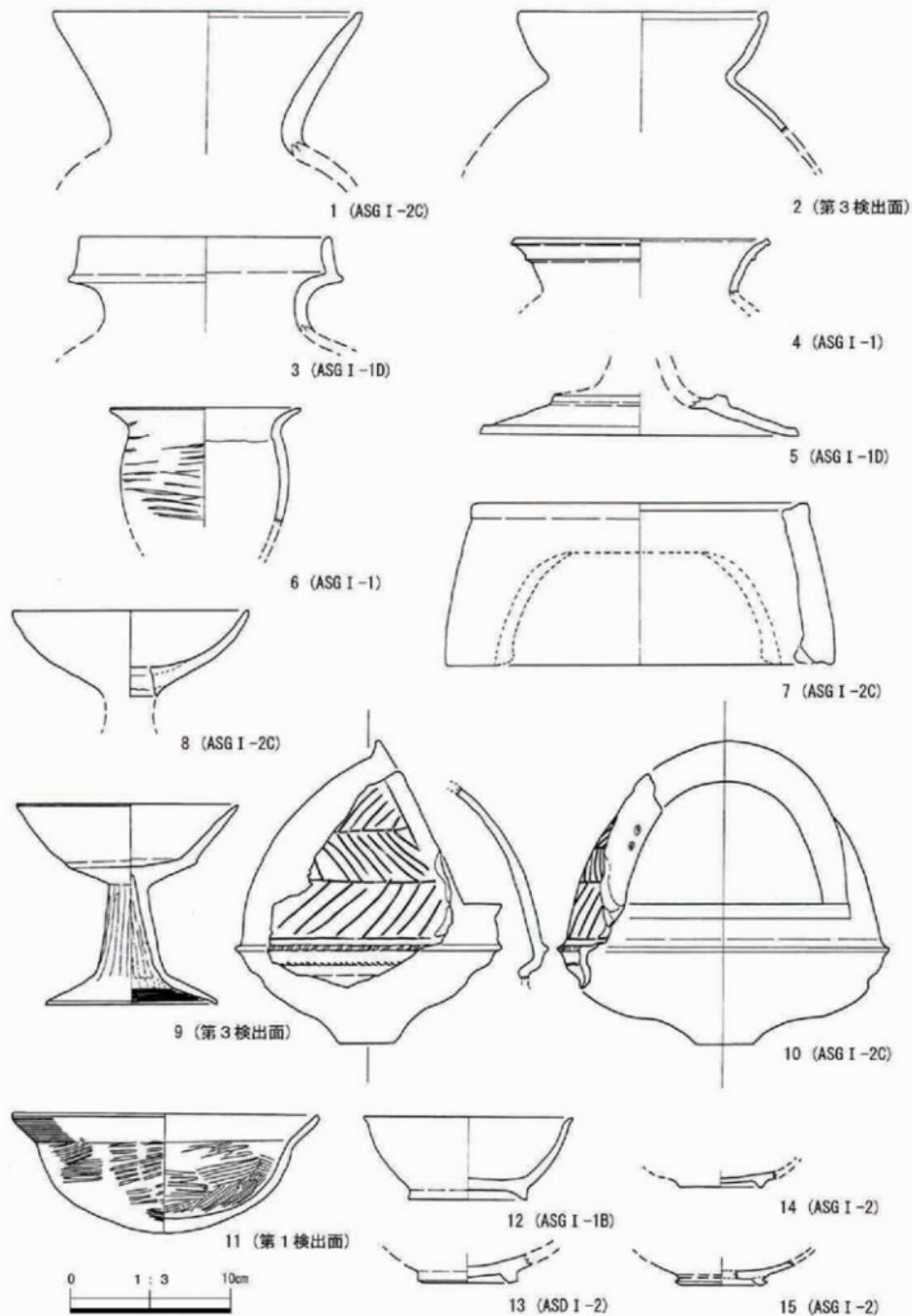
- ① Si110YR4.2 灰黄褐色土 Si110YR6/6 明黄褐色(砂) 粉-粒 30-40%
 Si110YR6/2 灰黄色(砂) 粒~1m大 20-25% 0.3~0.5m大 \times 8 \times 多 中-軟 中-密
 ② Si110YR7/3 にぶい黄褐色(砂)
 Si10YR6/1 褐灰色粘土 ~0.5m大 \times 7 砂 15-20% ~0.2m大 \times 8 \times 中 中-軟 中-雑
 HC2.5Y7/2 灰黄色(砂) Si17.5YR7/4 にぶい黄褐色砂壤土 粉-粒(細砂) 30-40%
 Si15YR6/8 褐色(砂)質壤土 散粒状残土 粒~0.3m大 \times 8 \times 少 軟 中-雑
 ③ HC10B7/2 にぶい黄褐色粘土 Si10YR6/8 褐色(砂)質壤土 散粒状残土 中-硬 密(堆土)
 ④ HC10B7/1 明青灰色粘土 堆土
 ⑤ Si110YR5/1 褐灰色砂壤土 Si110YR6/2 灰黄色(砂) 粉-粒 30-40%
 ~0.2m大 \times 14 15-20% ~1m大 \times 14 5% ~0.3m大 \times 8 \times 少 中-中-軟 中-雑
 Si110YR5/2 灰黄色粘土
 HC1YR7/2 にぶい黄褐色粘土 粉~3m大 \times 7 砂 25-30%
 0.3~0.5m大 \times 8 \times 多 中-硬 密
 E1 Si10YR6/1 褐灰色砂壤土 0.2~0.4m大 \times 14
 HC10YR4/2 灰黄色粘土 粉-層状(1.5~2m大) 20-25%
 0.5~2m大 \times 8 \times 中 中-軟 中-雑
 HC10B7/1 明青灰色粘土 ~1m大 \times 7 砂 10%
 F1 HC10B7/1 明青灰色粘土



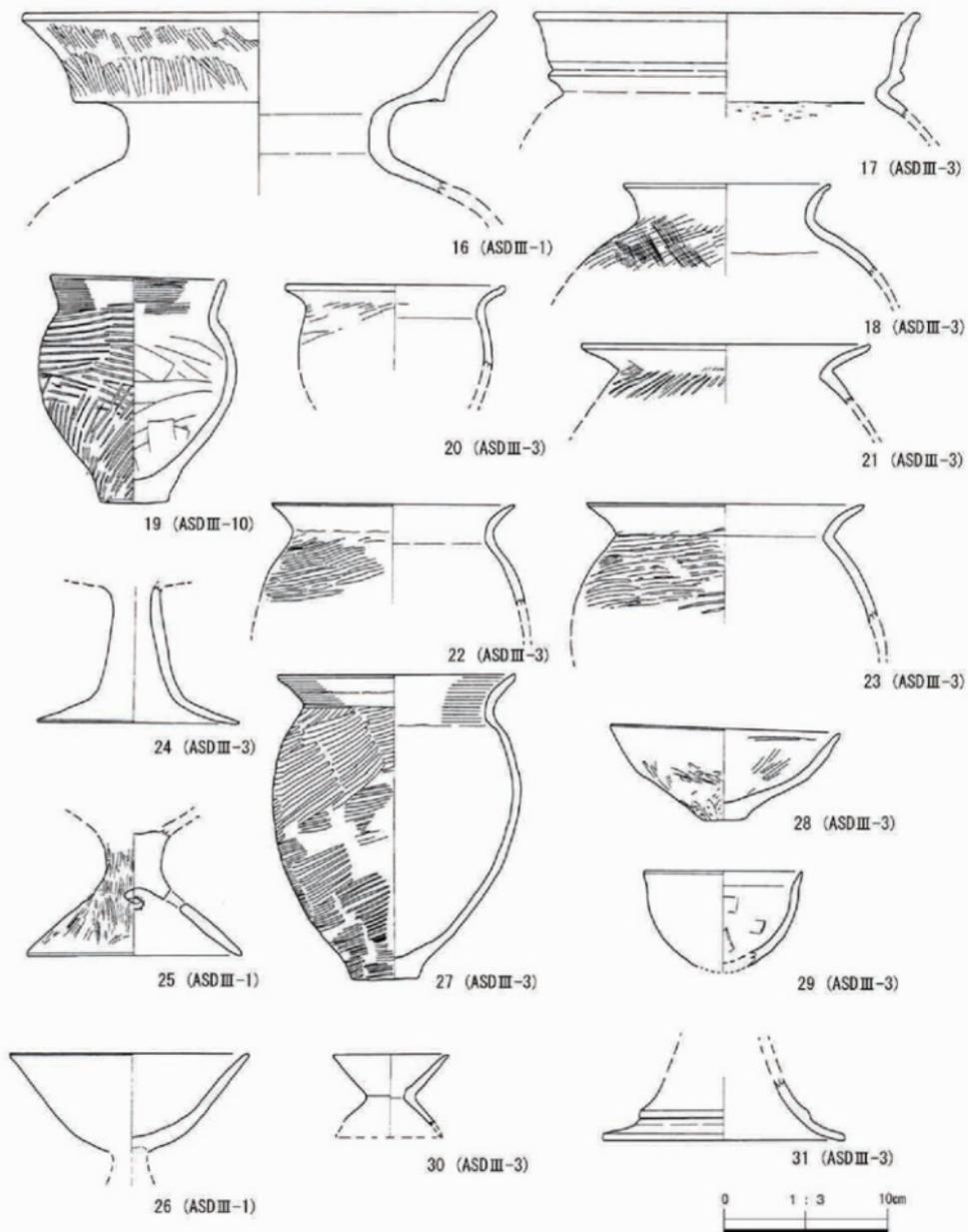
【BSDIV-07 南】

- A1 Si12.5YR6/1 黄褐色(砂) 粉~1m大 25-30% 0.1~0.5m大 \times 4少 中-軟 中-密
 Si110YR5/2 灰黄色(砂) 粉~1m大 25-30% 0.1~0.5m大 \times 4少 中-軟 中-密
 B1 HC10YR5/1 褐灰色粘土 Si110YR6/4 にぶい黄褐色(砂) 粉~0.5m大 \times 14
 ~0.1m大 \times 8 \times 少 ~0.5m大 \times 8 \times 中 中-中-軟 中-密
 B2 HC10YR5/1 褐灰色粘土 Si110YR6/2 灰黄色(砂) 粉-粒 30% ~0.1m大 \times 14少
 ~0.1m大 \times 8 \times 中 中-軟 中-密
 C1 HC10YR5/1 褐灰色粘土 Si110YR5/2 灰黄色(砂) 粉-粒 30-40%
 ~0.1m大 \times 8 \times 中-多 中-軟 中-密
 C2 HC10YR5/1 褐灰色粘土 Si110YR5/2 灰黄色(砂)質壤土 粉 30%
 ~0.2m大 \times 14 15-20% ~1m大 \times 14 5% ~0.3m大 \times 8 \times 少 中-中-軟 中-雑
 Si110YR5/2 灰黄色粘土
 HC1YR7/2 にぶい黄褐色粘土 粉~3m大 \times 7 砂 25-30%
 0.3~0.5m大 \times 8 \times 多 中-硬 密
 E1 Si10YR6/1 褐灰色砂壤土 0.2~0.4m大 \times 14
 HC10YR4/2 灰黄色粘土 粉-層状(1.5~2m大) 20-25%
 0.5~2m大 \times 8 \times 中 中-軟 中-雑
 HC10B7/1 明青灰色粘土 ~1m大 \times 7 砂 10%
 F1 HC10B7/1 明青灰色粘土

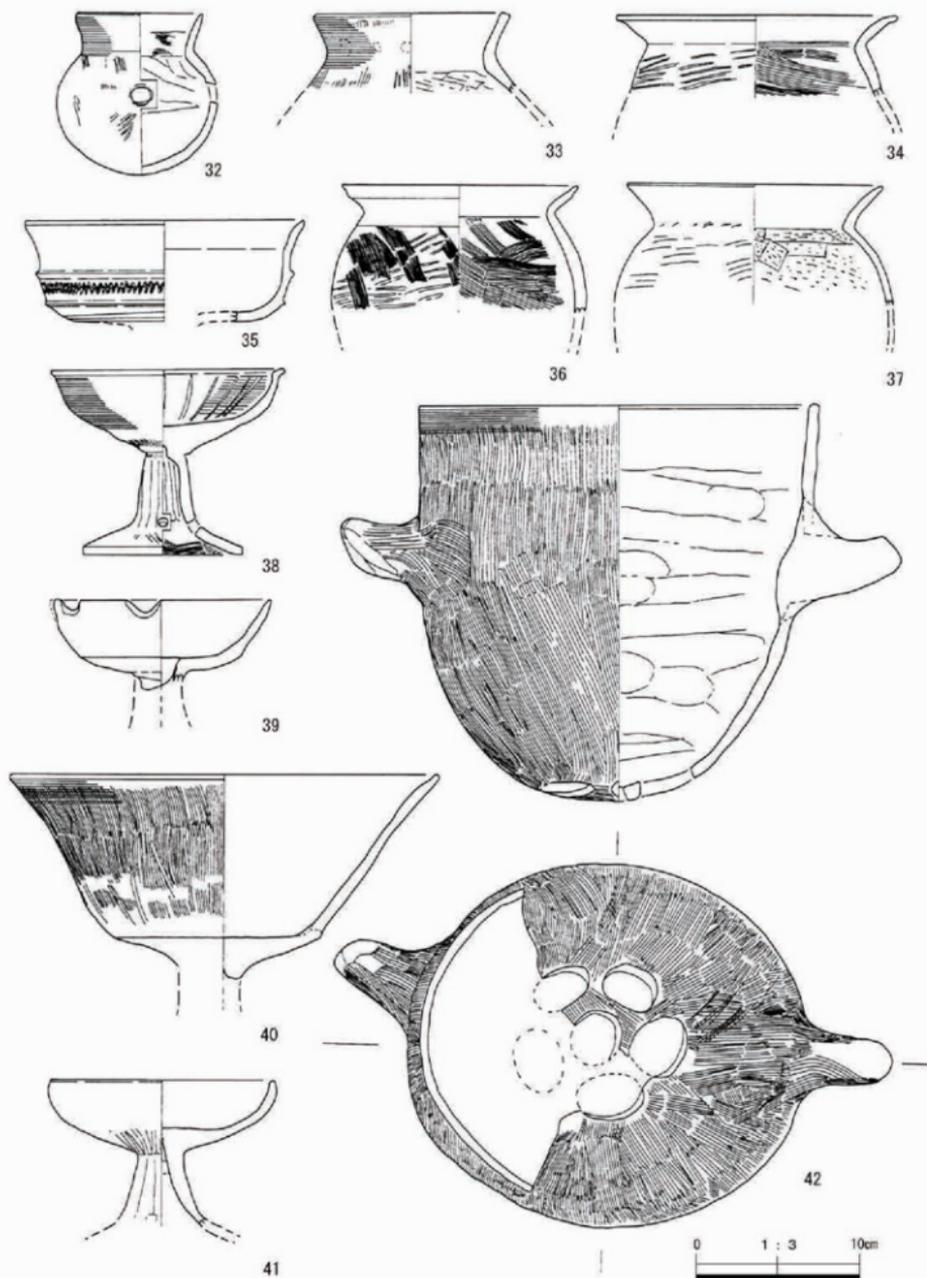
第8図 総持寺遺跡(SJ07-1) 遺構断面図



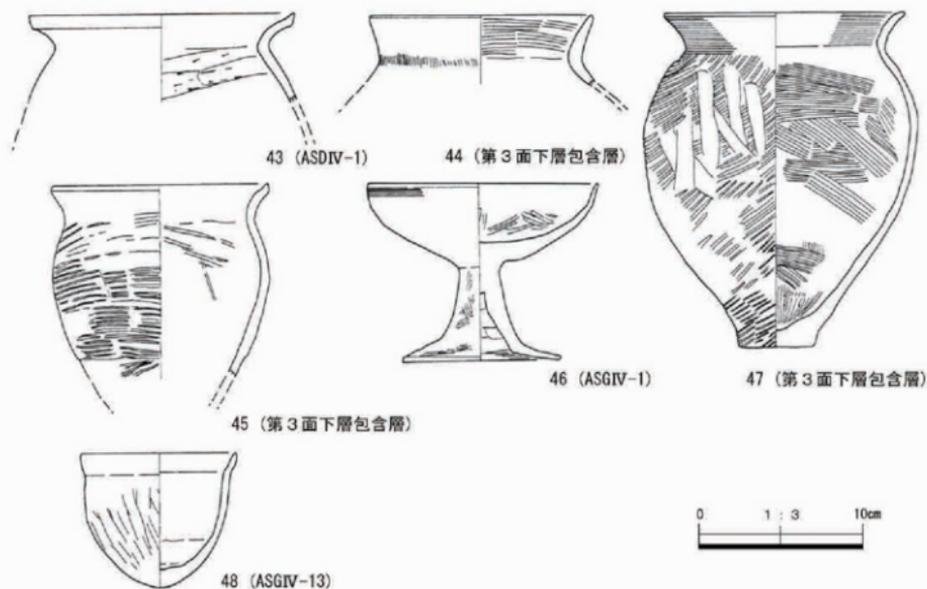
第9図 総持寺遺跡(SJ07-1) A区 出土遺物(1)



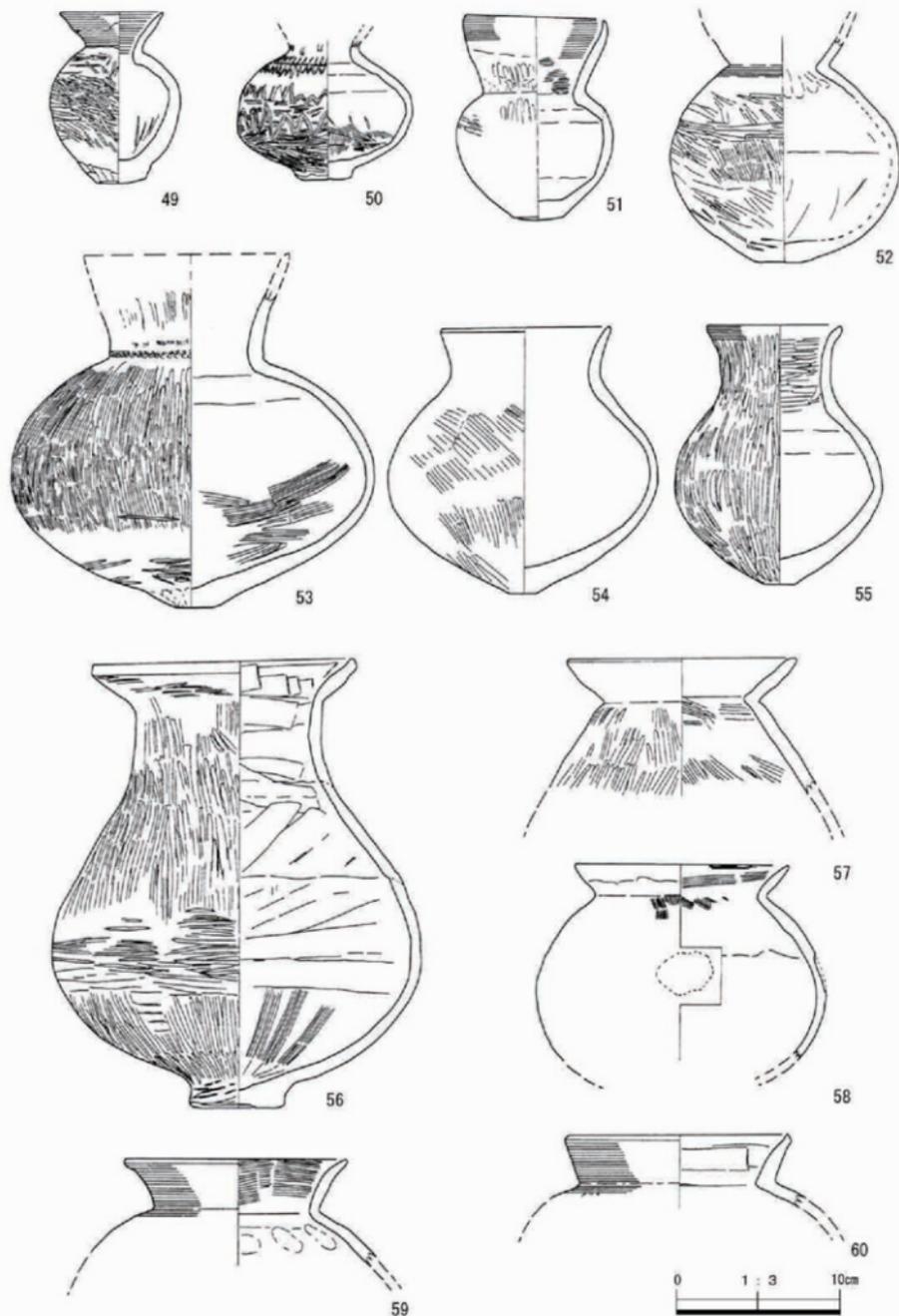
第10図 総持寺遺跡(SJ07-1) A区 出土遺物(2)



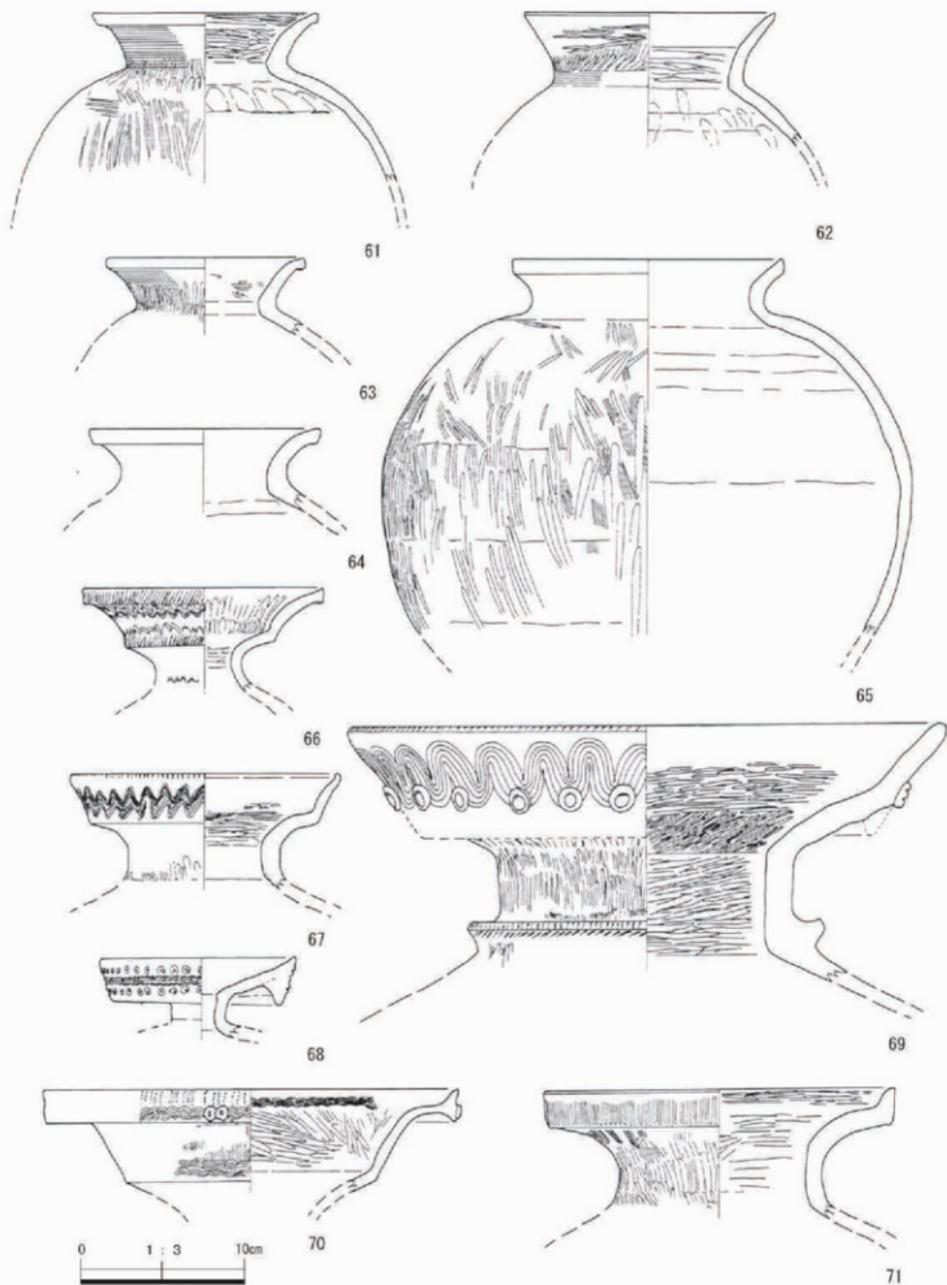
第11図 総持寺遺跡(SJ07-1) A区(ASGⅡ-1)出土遺物(3)



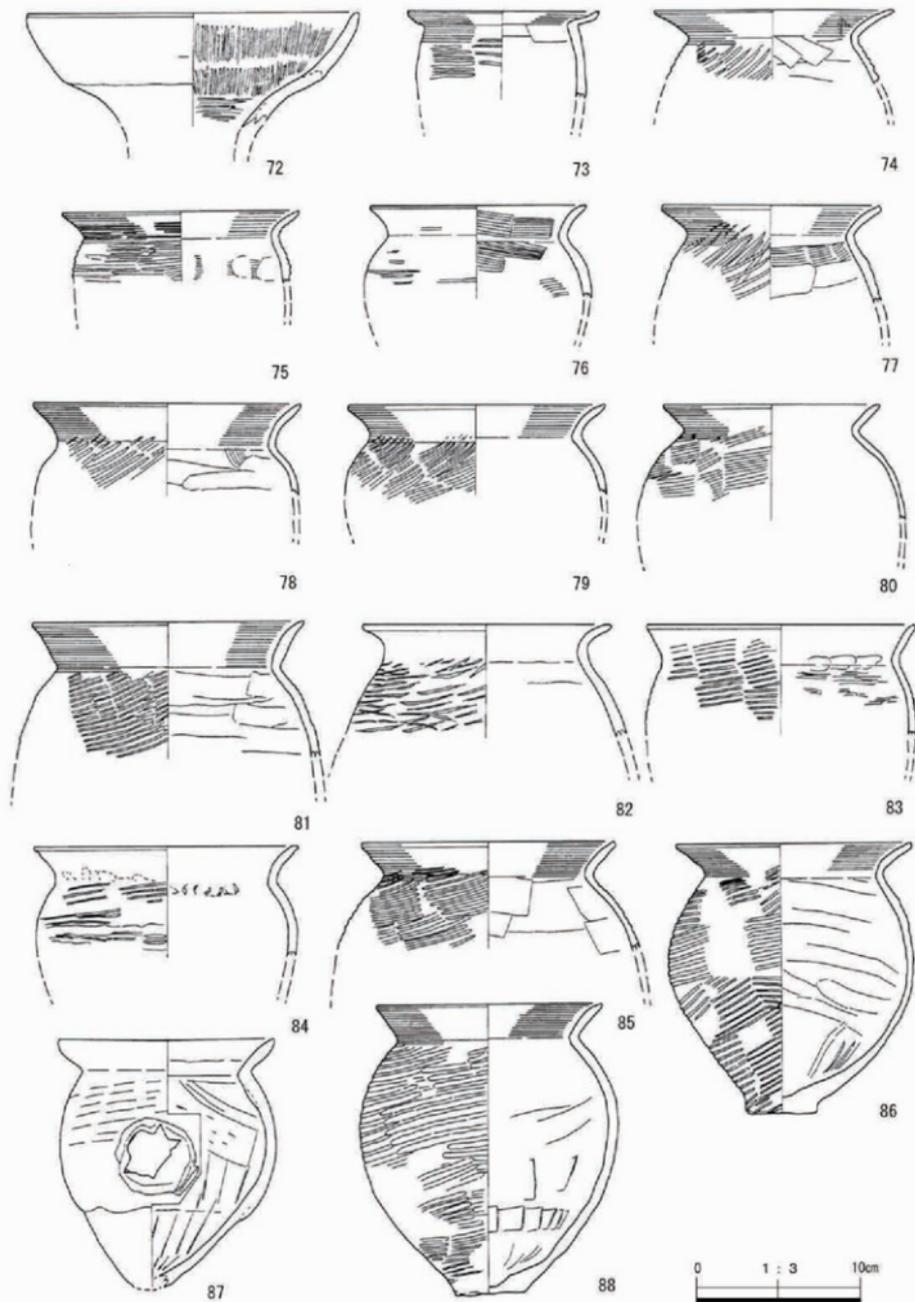
第12図 総持寺遺跡(SJ07-1) A区 出土遺物(4)



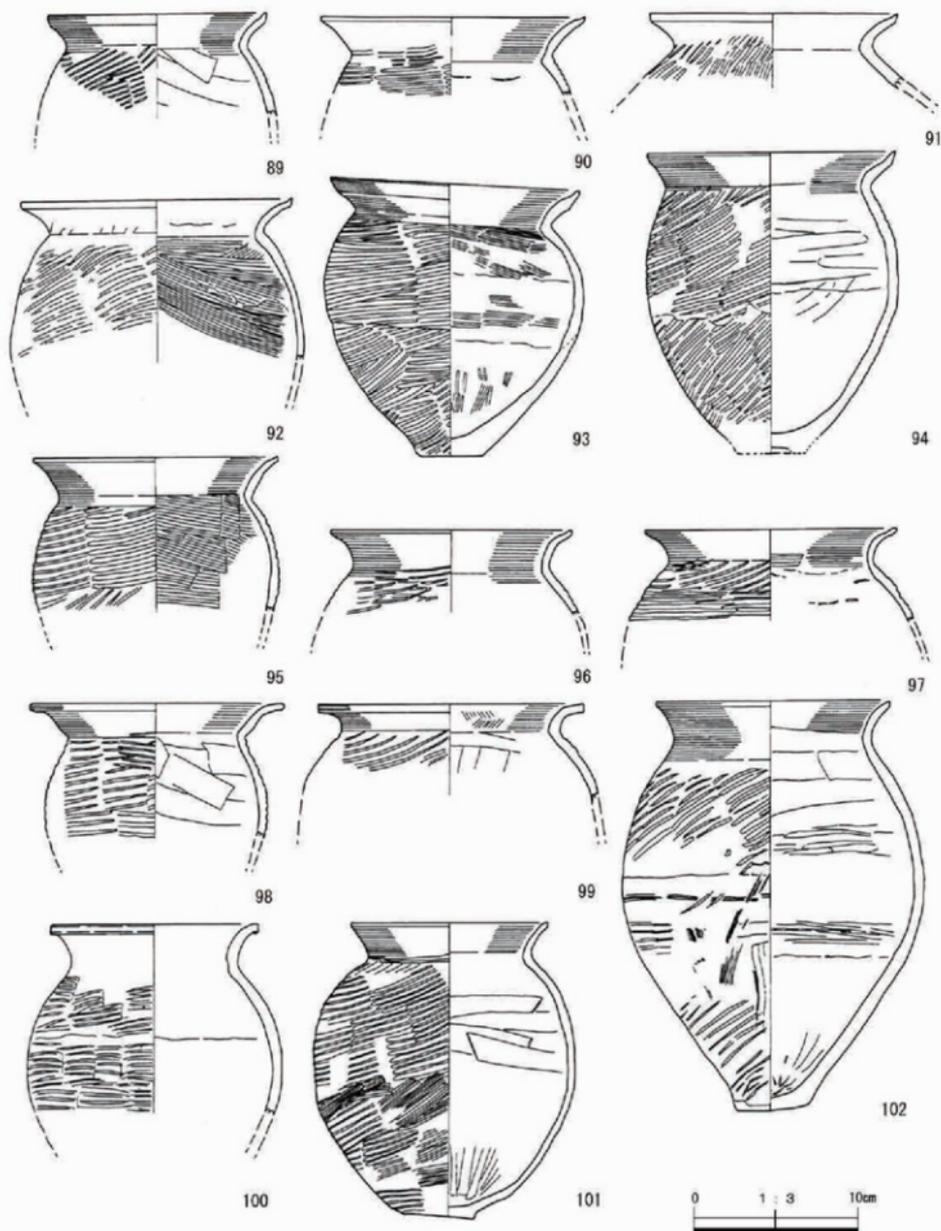
第13図 総持寺遺跡(SJ07-1) A区(ASDV-2) 出土遺物(5)



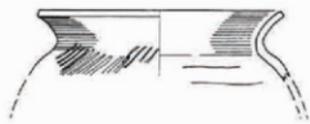
第14図 総持寺遺跡(SJ07-1) A区(ASDV-2) 出土遺物(6)



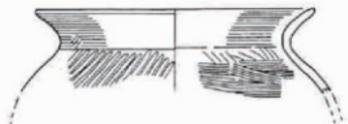
第15図 総持寺遺跡(SJ07-1) A区(ASDIV-2)出土遺物(7)



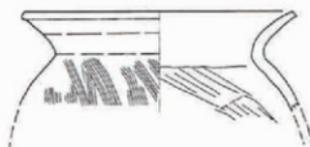
第16図 総持寺遺跡(SJ07-1) A区(ASDIV-2) 出土遺物(8)



103



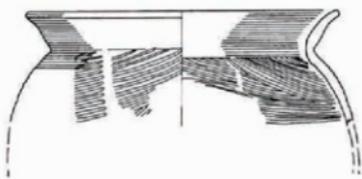
104



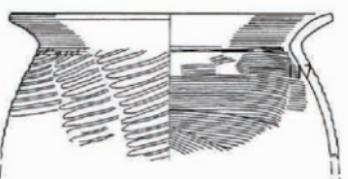
105



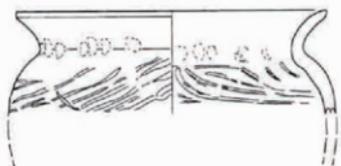
106



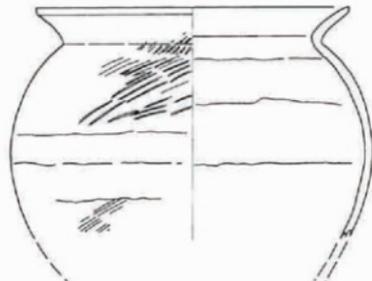
107



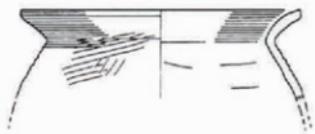
108



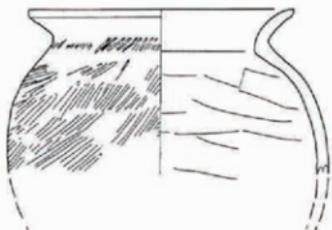
109



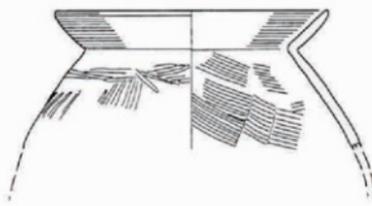
111



110



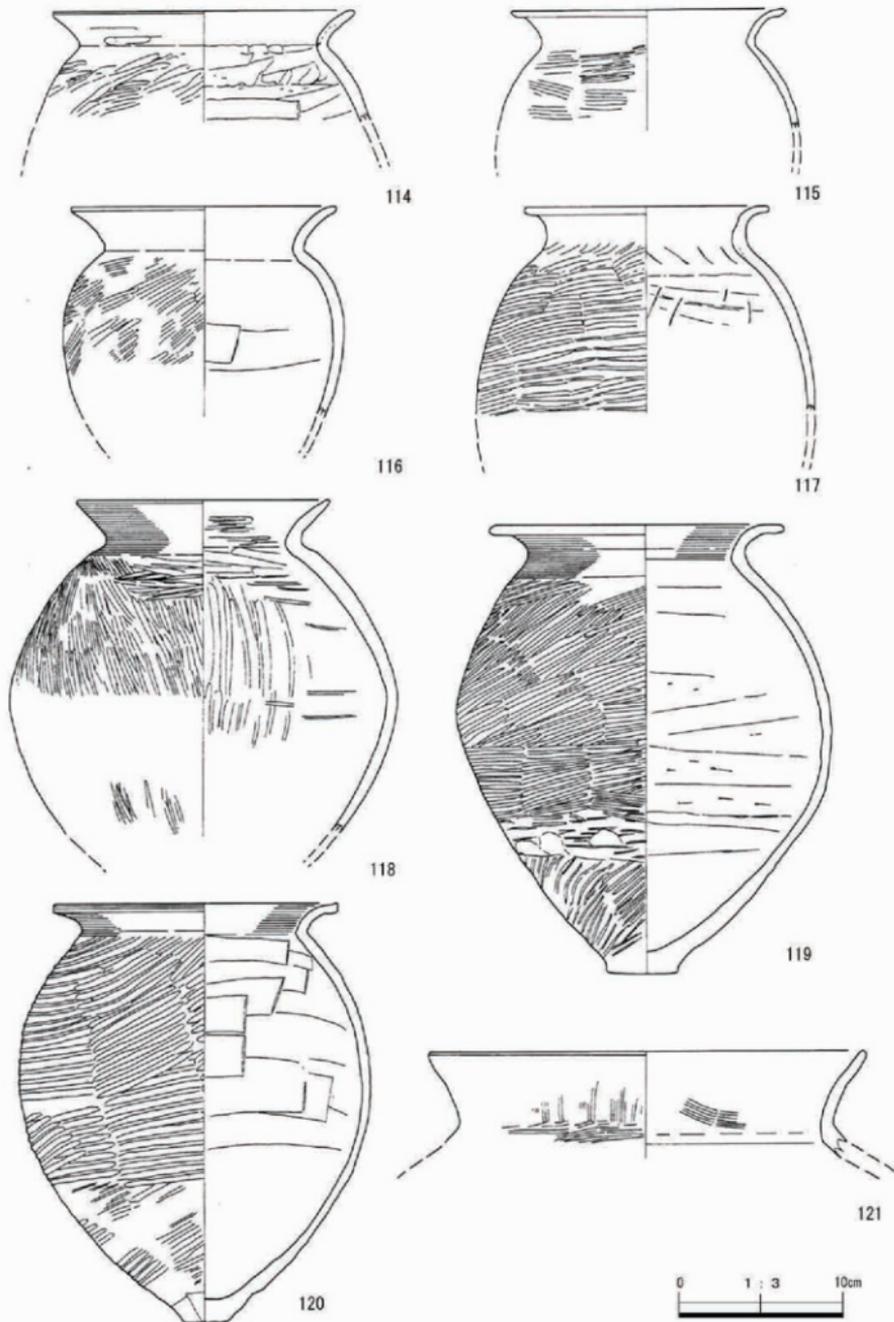
112



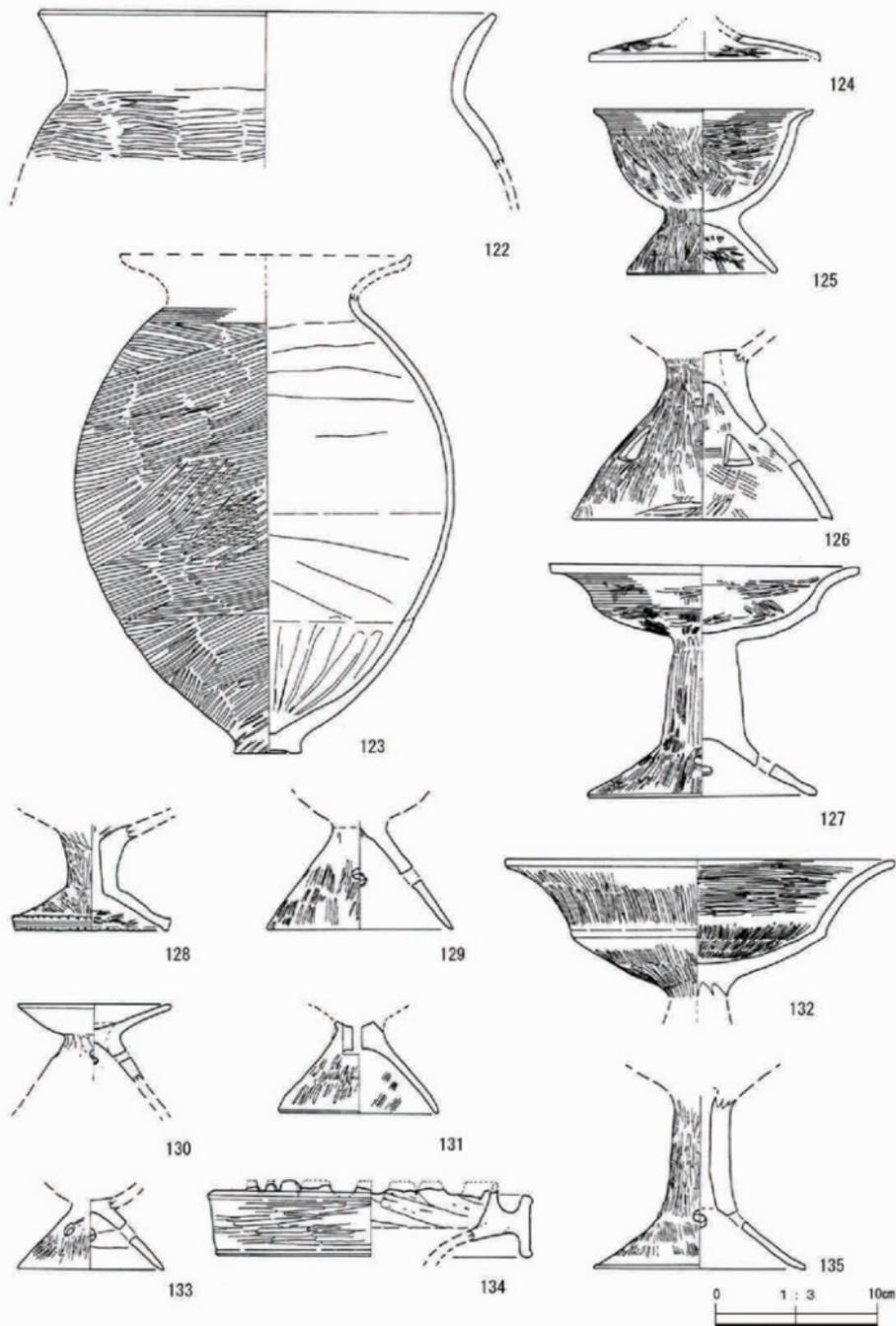
113



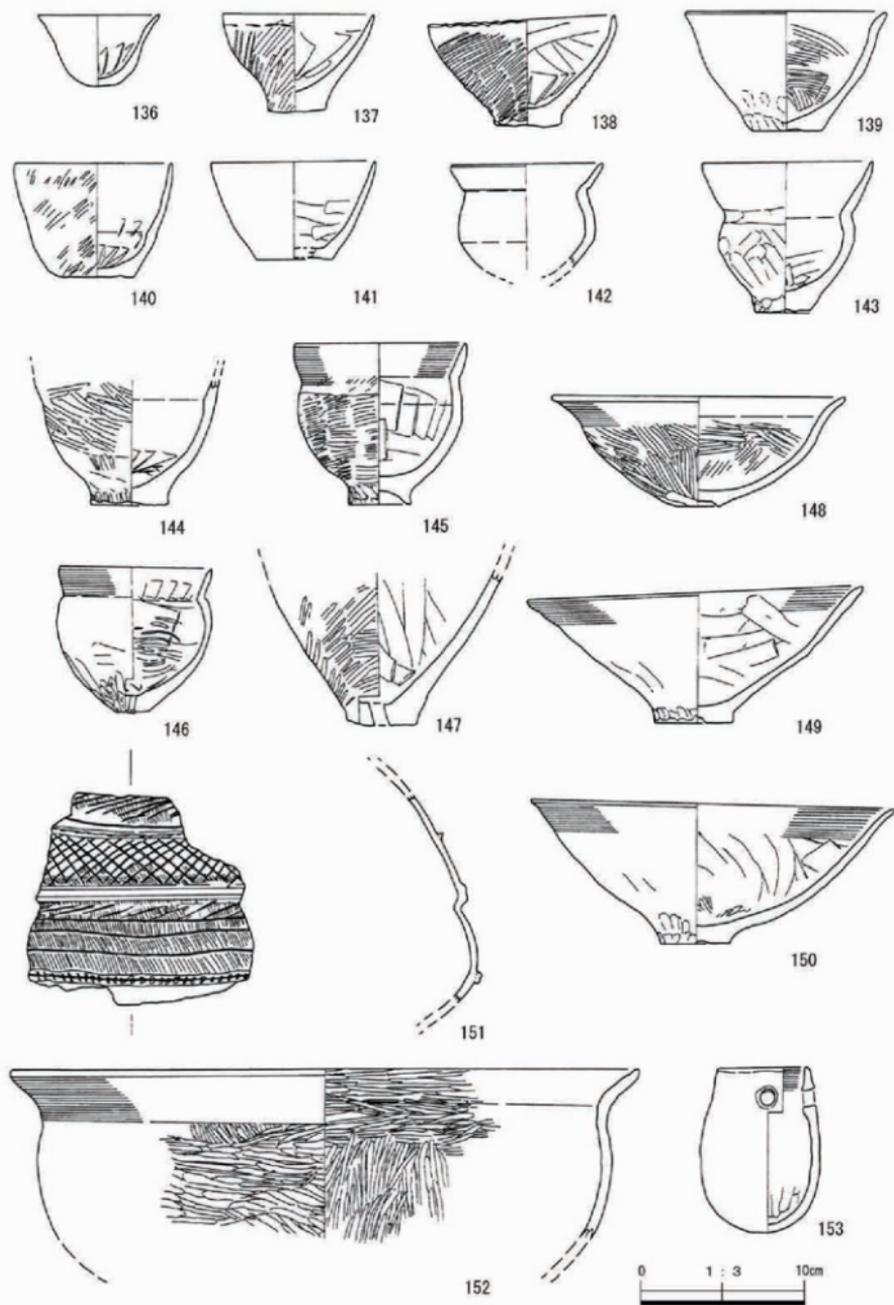
第17図 総持寺遺跡(SJ07-1) A区(ASDⅣ-2) 出土遺物(9)



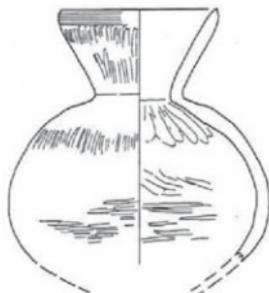
第18図 総持寺遺跡(SJ07-1) A区(ASDⅣ-2) 出土遺物(10)



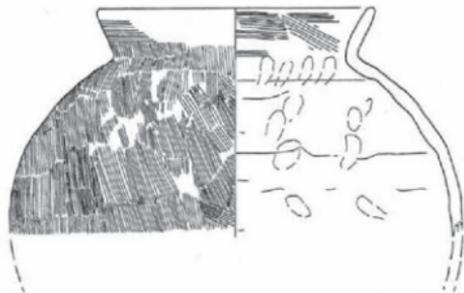
第19図 総持寺遺跡(SJ07-1) A区(ASDIV-2) 出土遺物(11)



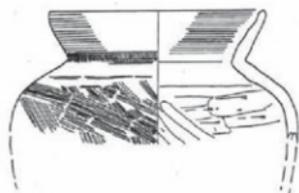
第20図 総持寺遺跡(SJ07-1) A区(ASDⅣ-2) 出土遺物(12)



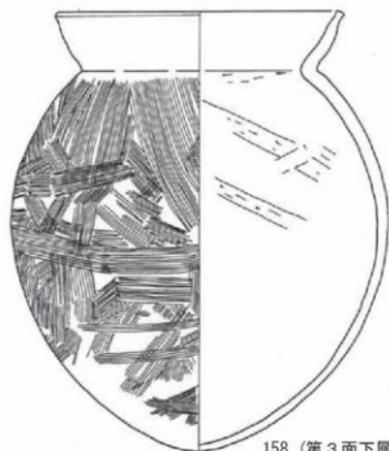
154 (第2面下層包含層)



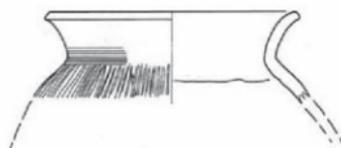
155 (BSDIV-3)



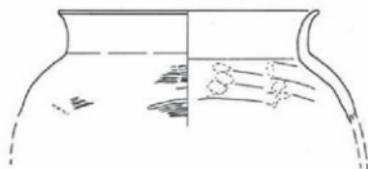
156 (BSDIV-3)



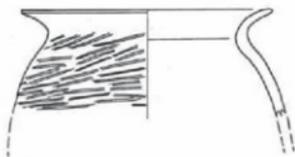
158 (第3面下層包含層)



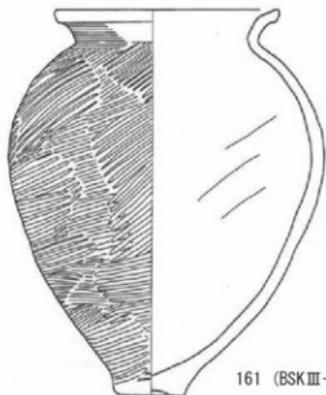
157 (BSD II-3)



159 (BSD III-12)



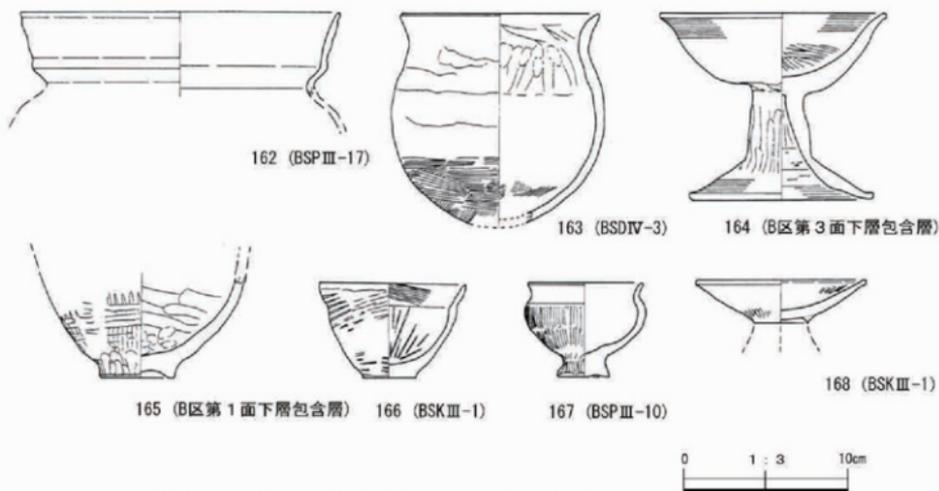
160 (BSD III-13)



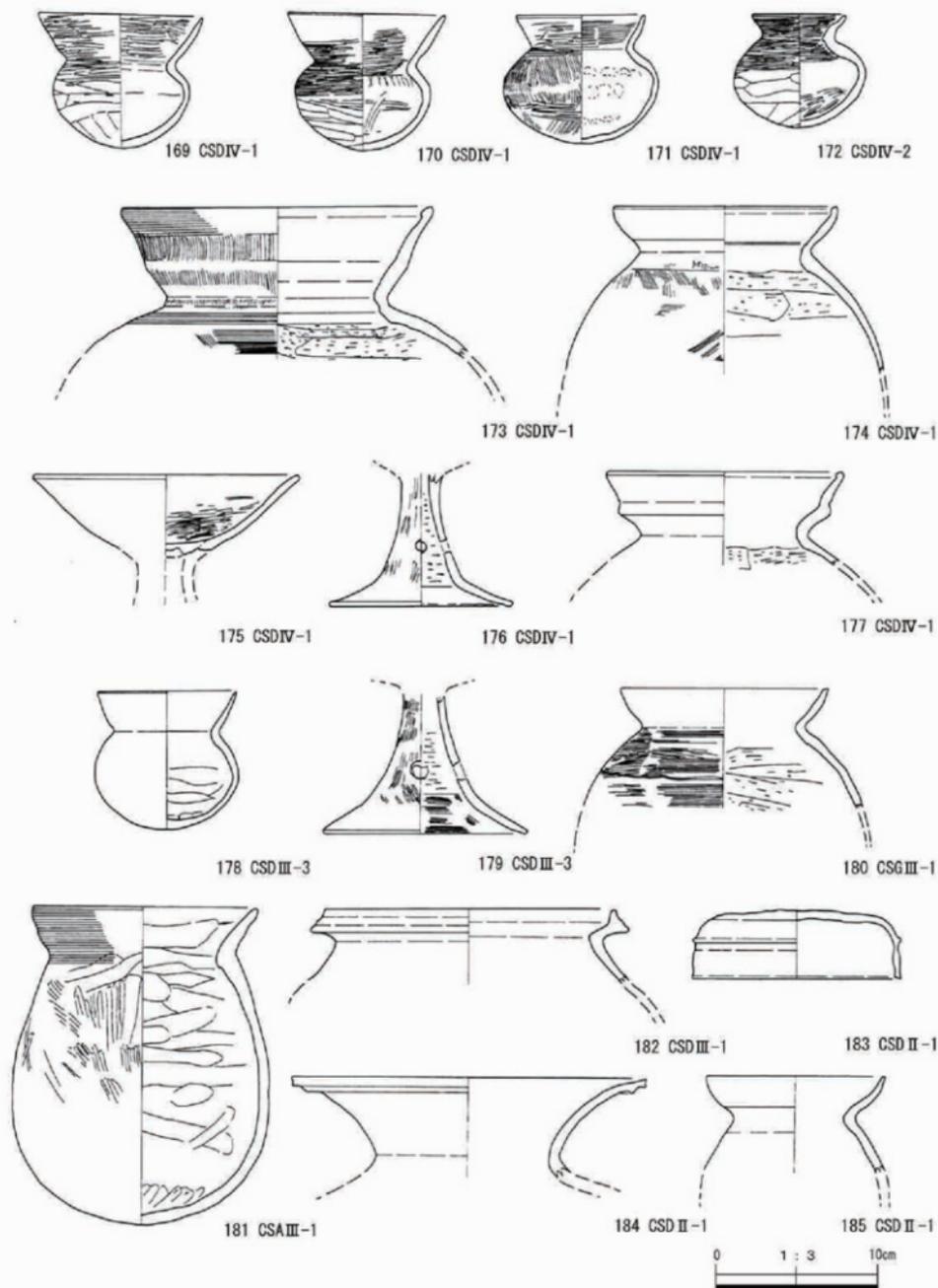
161 (BSK III-4)



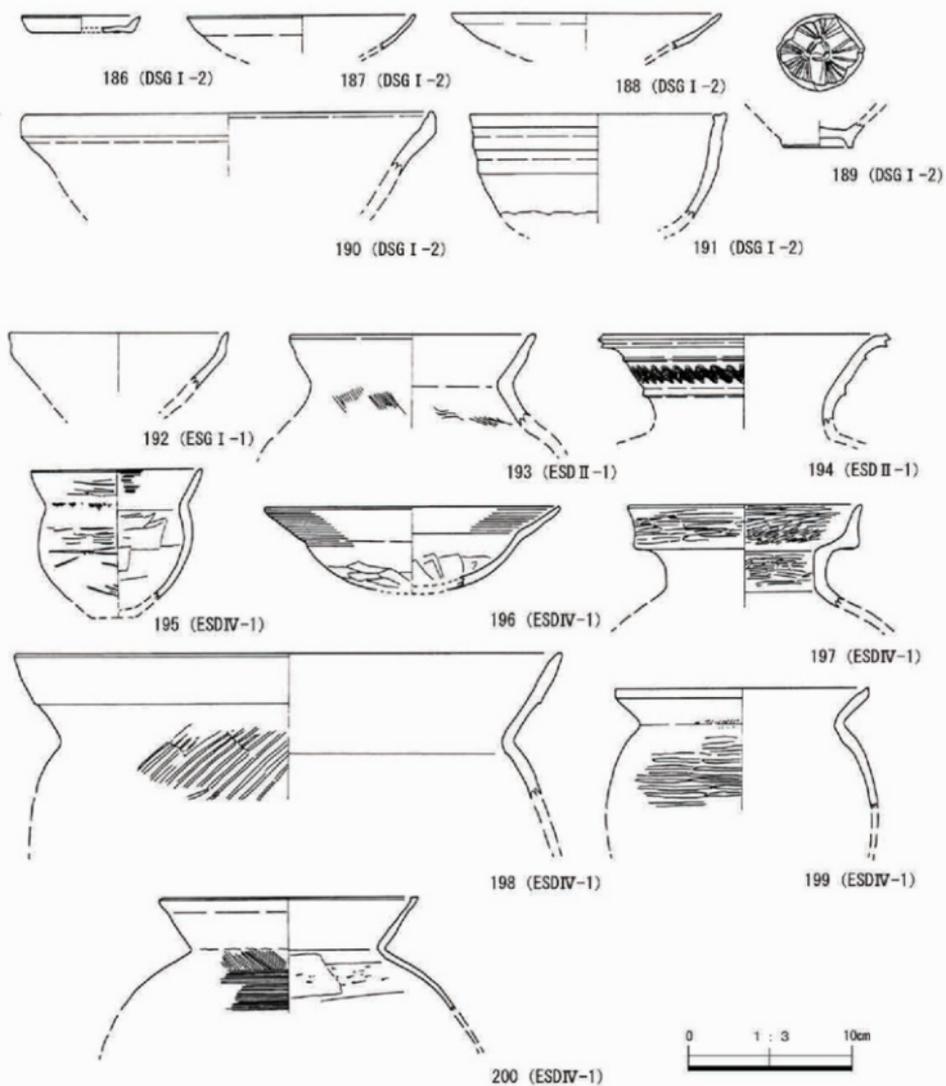
第21図 総持寺遺跡(SJ07-1) B区 出土遺物(13)



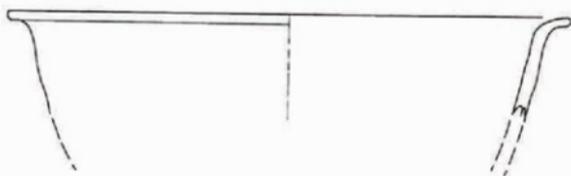
第22図 総持寺遺跡(SJ07-1) P区 出土遺物(14)



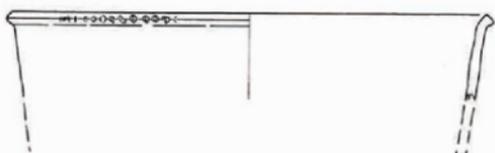
第23図 総持寺遺跡(SJ07-1) C区 出土遺物(15)



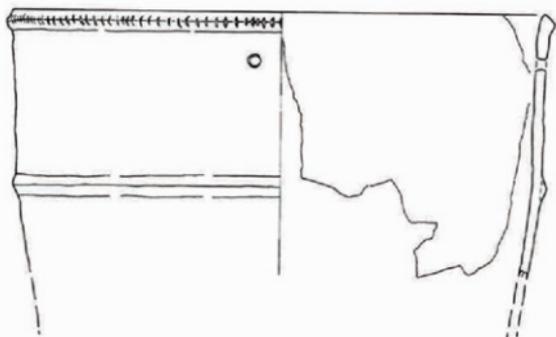
第24図 総持寺遺跡(SJ07-1) D・E区 出土遺物(16)



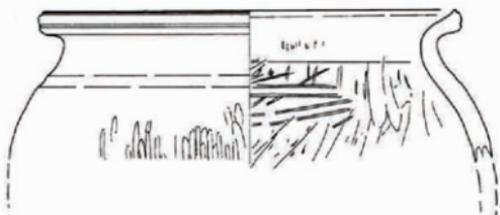
201



202



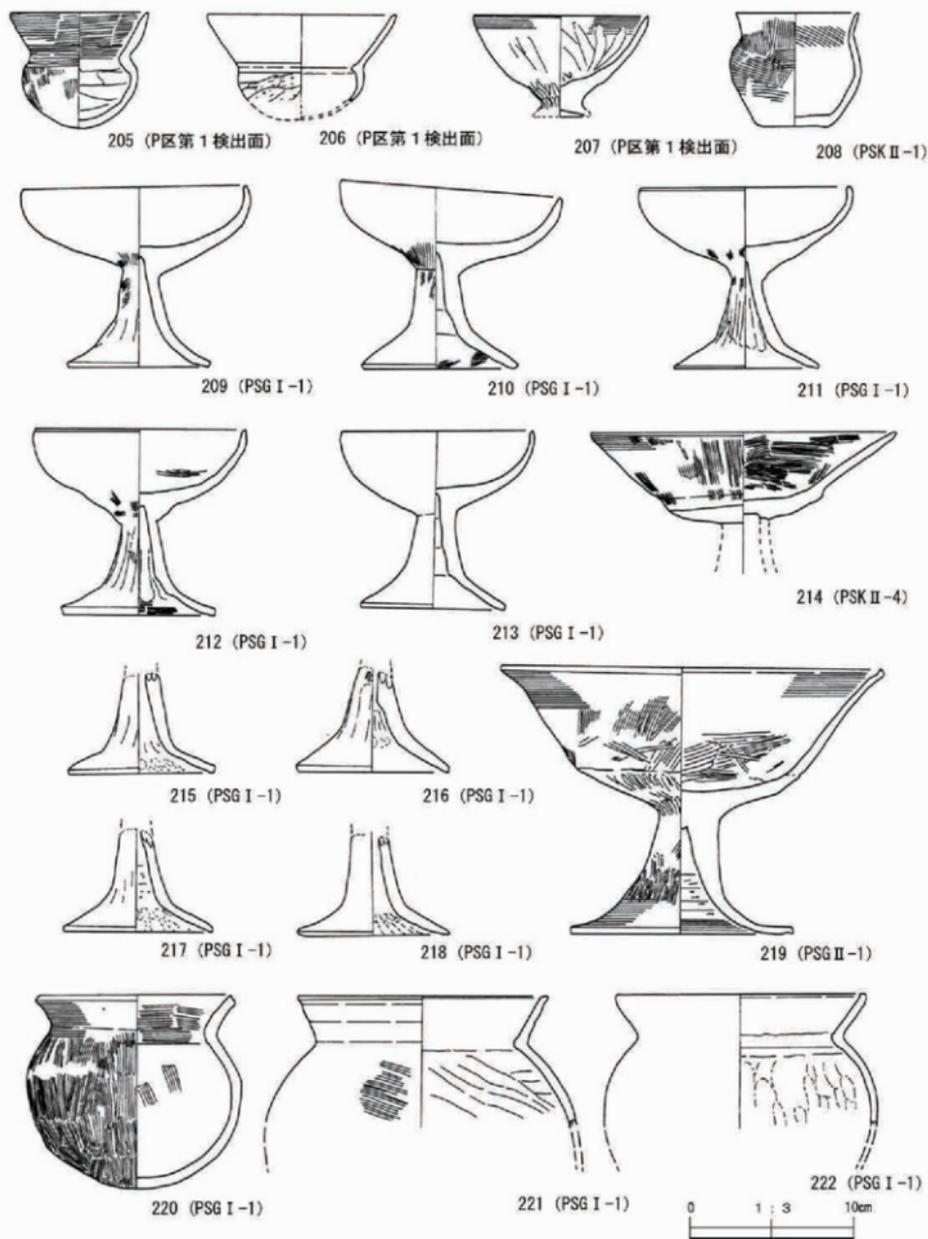
203



204



第25図 総持寺遺跡(SJ07-1) A区(ASDⅣ-2)出土遺物(17)



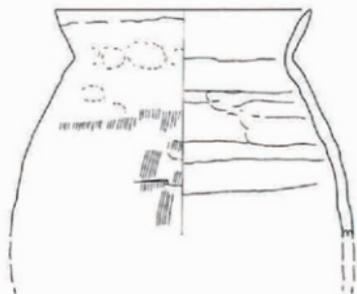
第26図 総持寺遺跡(SJ07-1) P区 出土遺物(18)



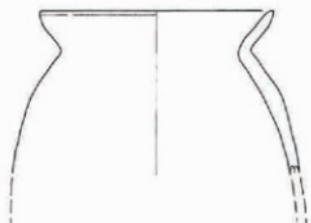
223 (PSG I-1)



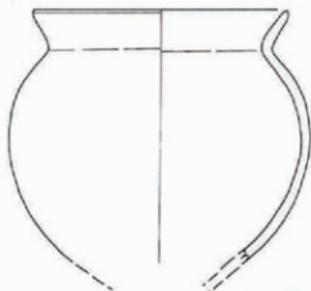
224 (PSG I-1)



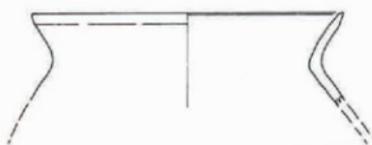
225 (PSK II-1)



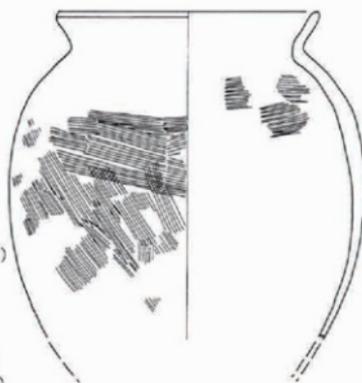
226 (PSK II-1)



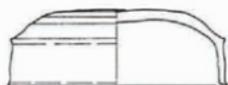
227 (PSK II-1)



228 (PSK II-1)



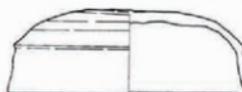
235 (PSK II-1)



229 (PSG I-10)



230 (P区第1検出面)



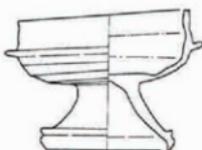
231 (PSK II-2)



232 (P区第1検出面)



233 (PSK II-1)



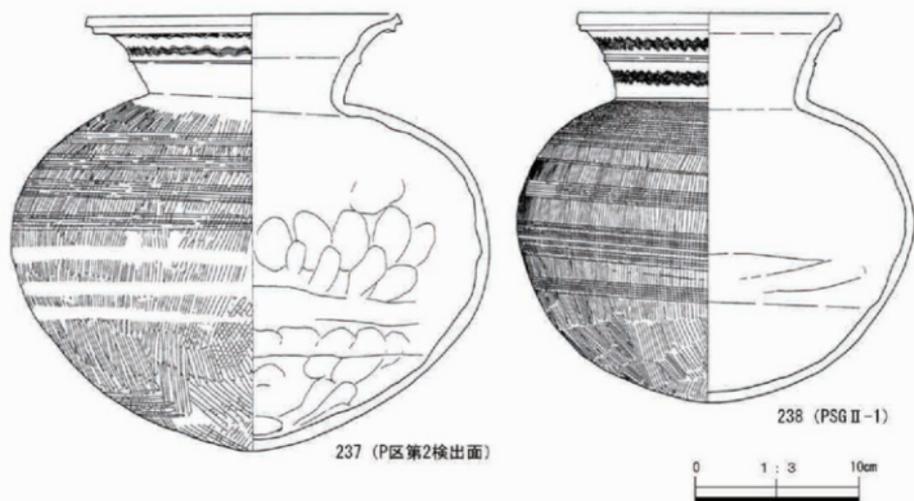
234 (PSK II-1)



236 (PSK II-1)



第27図 総持寺遺跡(SJ07-1) P区 出土物(19)



第28図 総持寺遺跡(SJ07-1) P区 出土遺物(20)

地区	法量	開削	色別	建替率%	時期	備考	法量		開削		色別		建替率%	時期	備考
							口徑	最大径	標準径	外周	内周	外周			
9 1 130 第1 A 第1	AGG 1-10C	埋土	閉込口蓋	18.9	8.9~	摩滅	摩滅	灰黄	灰黄	○	○	5	布置式?	0.2~1mmの白・黒色砂粒。	
9 2 144 第1 A 第1	AGG 10-20C	埋土	蓋	15.2	7.5~	摩滅	摩滅	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	5~7	下層土~ /布置式	0.3~2mmの白・黄褐色砂粒。	
9 3 218 第1 A 第1	AGG 1-10C	埋土	覆合口蓋	15.3	5.9~	口蓋破欠? 体摩滅	口蓋? 体摩滅	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	5	V?	0.2~1mmの白・赤褐・黒色砂粒。	
9 4 217 第1 A 第1	ASO-10C	埋土	埋込蓋	15.5	3.6~	突縁	凹凹目	灰	灰	○	○	3	I型式	0.3mm程度の白色砂粒少,TK73-216	
9 5 219 第1 A 第1	AGG 1-10C	埋土	有段口蓋 高坪部		18.7 2.9~	突帯,摩滅	摩滅	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	3	V-2	0.2~1mmの白・褐・赤褐色砂粒。	
9 6 212 第1 A 第4	ASO 2-01	埋土	養生形蓋 土蓋	11.8	7.4~	口蓋? 体摩滅	口蓋? 体摩滅	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	10	下層1-2	1~2mmの砂粒,火熱受け赤化。	
9 7 238 第1 A 第1	AGG 1-1-20C	埋土 下層	不明	20.2	23.6 10.1	摩滅	摩滅	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○		-	0.3~4mmの白・黒褐色砂粒多,生動物腐葉	
9 8 131 第1 A 第1	AGG 1-20C	埋土	新形高坪 土蓋	14.5	5.4~	凹凹目?摩滅	凹凹目?	灰黄	灰白	○	○	40	下層1~ 2	0.3~1mmの白色砂粒。	
9 9 31 第1 A 第2	下層 土蓋	埋土	有段高坪	13.6	10.6 12.6	外周,摩滅 凹凹目?凹凹目?	外周,摩滅 凹凹目?凹凹目?	黄	黄	○	○	85	布置系高坪, /布置式	布置系高坪,0.3~1mmの白色砂粒。 (AD270等~4C)	
9 10 183 第1 A 第1	AGG 1-20C	埋土 下層	手摺蓋 土蓋	携持 11.0	12.1~	凹凹目?凹凹目? 突帯-凹凹目	凹凹目?	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	20~ 25	下層1-4 ~	0.5~2mmの白色砂粒-小石,生動物腐葉	
9 11 6 第1 A 第1		掘出 土蓋	養生形 (G)	18.7	7.3	口蓋? 体摩滅	口蓋? 体摩滅	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	△	△	70	下層1~	丸底,0.3~2mmの白・黒褐色砂粒多, (AD270~300等)	
9 12 214 第1 A 第1	AGG 1-1-20C	埋土 下層	陶磁 白磁磚C 蓋	12.9	5.1 7.3	凹凹目,掘出高台,全面 磨,敷面	凹凹目,掘出高台,全面 磨,敷面	灰白,淡 黄,淡黄	灰白,淡 黄,淡黄	○	○	40	I型,凹凹 目	1.0mmの白色砂粒,釉。	
9 13 234 第1 A 第1	ASD 1-00	埋土	磁磚 白磁磚C 蓋		5.2 1.8~			灰白	灰白	○	○	5	13C,縦切 盤	0.1mmの白色砂粒,釉。	
9 14 188 第1 A 第1	ASG 1-00	埋土	瓦葺 土蓋		49.1 1.0~	凹凹目?	凹凹目?	灰白	灰白	○	○	5	120C	0.1~1mmの白・褐灰色砂粒,和型蓋-II-2	
9 15 187 -1	ASG 1-00	埋土	瓦葺 土蓋		49.1 1.8~	凹凹目?	凹凹目?	灰白	灰白	○	○	5	130C	0.1~3mmの白・褐灰色砂粒,色2付,大 粒型I-0,II-A。	
9 16 78 第1 A 第3	ASD 2-01	埋土	養生形蓋 土蓋	28.2	11.3~	凹凹目,口蓋内側に赤影	摩滅	黄	黄	△	△	20	下層1~ ~	0.3~2mmの白・褐灰色砂粒,(AD270 等~布置式)	
9 17 145 第1 A 第3	ASD 2-01	埋土	覆合口蓋 蓋(A)	11.4	5.9~	口蓋? 体摩滅	口蓋? 体摩滅	灰黄	灰黄	○	○	5	布置式?	0.2~1.5mmの白・黒色砂粒。	
9 18 189 第1 A 第3	ASD 2-01	埋土	閉込口蓋	12.5	5.6~	口蓋? 体摩滅	口蓋? 体摩滅	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	10	下層1~ 2	1~3mmの白・灰褐色砂粒,下層1-4~? 凹凹目?	
9 19 12 第1 A 第3	ASD 2-10	埋土	養生形蓋 土蓋	10.3	4.2 14.0	口蓋? 体摩滅	口蓋? 体摩滅	黄	黄	○	○		V1-3,下層 1	1~3mmの砂粒少,2分割敷面,(AD200~ 280)	
9 20 189 第1 A 第3	ASD 2-01	埋土	養生形蓋 土蓋	13.1	5.2~	口蓋? 体摩滅	口蓋? 体摩滅	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	20	下層1~ 2	0.3~3mmの白・褐灰色砂粒,火熱。	
9 21 171 第1 A 第3	ASD 2-01	埋土	養生形蓋 土蓋	17.3	3.6~	口蓋? 体摩滅	口蓋? 体摩滅	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	10	下層1~ 2	0.5~1mmの白・灰褐色砂粒?砂埋面?	
9 22 170 第1 A 第3	ASD 2-01	埋土	養生形蓋 土蓋	14.8	6.1~	口蓋? 体摩滅	口蓋? 体摩滅	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	10	下層1~ 2	1mmの白・褐褐色砂粒。	
9 23 188 第1 A 第3	ASD 2-01	埋土	養生形蓋 土蓋	16.7	7.2~	口蓋? 体摩滅	口蓋? 体摩滅	灰白	灰白	○	○	20	下層1~ 2	0.5~2mmの白色砂粒,内側黒色化。	
9 24 182 第1 A 第3	ASD 2-01	埋土	有段高坪 土蓋		12.2 6.3~	摩滅	摩滅	淡黄赤	淡黄赤	○	○	40	下層1~	0.2~0.5mmの白・赤褐色砂粒。	
9 25 155 第1 A 第3	ASD 2-01	埋土	新形高坪 土蓋		12.9 12.6~	凹凹目?	摩滅	黄	黄	○	○	45	下層1~ 2	0.3~1mmの白・褐褐・赤褐色砂粒,φ1.2 mmの鉄片4。	
9 26 154 第1 A 第3	ASD 2-01	埋土	高坪	14.5	6.0~	摩滅	摩滅	淡黄赤	淡黄赤	○	○	25	-	0.3~4mmの白・赤褐・褐褐色砂粒。	
9 27 39 第1 A 第3	ASP 2-03	埋土	養生形蓋 土蓋	24.2	4.1 18.6	口蓋? 体摩滅	口蓋? 体摩滅	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	85	V1-2,下層 1	0.5~2mmの白・灰褐色砂粒,布置式。 (AD150~240等)	
9 28 183 第1 A 第3	ASD 2-01	埋土	小形鉢(A)	13.7	2.7 5.9	凹凹目? 体下層?土?	凹凹目?	灰白	灰白	○	○	80	下層1- 2	0.1~1mmの褐灰色砂粒,黒型?I。	
9 29 181 -2	ASD 2-01	埋土	小形鉢(A)	9.5	6.2~	凹凹目?	凹凹目?	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	30	下層1-3 ~2	0.2~1mmの白・褐褐色砂粒。	
9 30 183 第1 A 第3	ASD 2-01	埋土	小形鉢蓋 土蓋		3.0 4.3~	摩滅	摩滅	赤褐	赤褐	○	○	70	下層1~ 2	0.3~3mmの白色砂粒。	
9 31 172 第1 A 第3	ASD 2-01	埋土	有段高坪 土蓋		14.5 3.8~	凹凹目?	凹凹目?	淡黄赤	淡黄赤	○	○	15	下層1~ 2	0.5~4mmの白・褐灰・黒色砂粒。	
9 32 30 第1 A 第2	ASG 1-01	埋土	小形丸蓋 土蓋	7.5	9.9	口蓋? 体摩滅	口蓋? 体摩滅	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	100	V1,下層1~ ~布置式	赤影,縦割にφ1.1mmの鉄片1つ付,0.3~ 1mmの白・褐灰色砂粒,(AD210等)	
9 33 138 第1 A 第2	ASG 1-01	埋土 中層	閉込口蓋	11.5	4.8~	口蓋? 体摩滅	口蓋? 体摩滅	灰褐	灰褐	○	○	20	50	0.3~1mmの白・	
9 34 185 第1 A 第2	ASG 2-01	埋土	養生形蓋 土蓋	16.9	5.0~	口蓋? 体摩滅	口蓋? 体摩滅	灰黄	灰黄	○	○	5~7	下層1-2 ~2-1	0.5~4mmの白・褐褐色砂粒,外周面多 量付着。	
9 35 140 第1 A 第2	ASD 2-01	埋土 中層	新形高坪	16.9		突帯,凹凹目? 下層面?凹凹目?	突帯凹凹目	灰	灰	○	○	20	50	0.3mmの白色砂粒少,赤影赤灰色,平蓋の 腐敗砂粒,TK216-208	
9 36 205 第1 A 第2	ASG 1-01	埋土	養生形蓋 土蓋	14.2	7.3~	口蓋? 体摩滅	口蓋? 体摩滅	灰白	灰白	○	○	5~7	下層1-2	0.3~3mmの白・	
9 37 206 第1 A 第2	ASG 2-01	埋土 下層	養生形蓋 土蓋	15.2	7.3~	口蓋? 体摩滅	口蓋? 体摩滅	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	10	下層1	0.2~1mmの白・褐赤灰色砂粒。	
9 38 35 第1 A 第2	ASG 2-01	埋土	新形高坪(A)	14.0	9.6 11.3	凹凹目?凹凹目? 凹凹目?凹凹目?	凹凹目?凹凹目? 凹凹目?凹凹目?	黄	黄	○	○	90	V1-2-3, V1-2-3	赤影,φ0.8mmの丸1つ,(~AD200等)	
9 39 143 第1 A 第2	ASG 2-01	埋土 中層	新形高坪	13.4	5.5~	摩滅	摩滅	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	○	○	40	50	0.5~2mmの白・灰褐色砂粒,赤影 縦割の 口蓋の穴(縦割)	
9 40 138 第1 A 第2	ASG 2-01	埋土 中層	有段高坪(A)	25.8	12.9~	凹凹目?凹凹目? 凹凹目?凹凹目?	凹凹目?凹凹目? 凹凹目?凹凹目?	黄	黄	○	○	45	布置式	0.3~2mmの白・赤褐色砂粒。	

国 道 番 号	区 道 番 号	地区 区 区 区 区	区 区 区 区	区 区 区 区	区 区 区 区	区 区 区 区	区 区 区 区	位置		形状		色相		防 土 工 法	透 水 率 %	時 期	備 考	
								口 径	敷 工 高	底 高	外 径	内 径	外 径					内 径
15	82	211	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	9.4	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-277	灰白	灰白	○	7-10	下層1-2	0.3-2mmの白-褐色砂砂。
15	83	89	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	16.2	Q21 ⁺ 体-999	Q21 ⁺ 体-912 ⁺	黒	濃い 黄緑	○	0-2	VII	~2mmの砂砂、外周多量の煤付層。
15	84	209	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	15.9	Q22F ⁺ 体-999	Q22F ⁺ 体-127	濃い 黄緑	濃い 黄緑	○	0	下層1-2	0.3-4mmの白-褐色砂砂。
15	85	77	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	15.2	Q22F ⁺ 体-999	Q22F ⁺ 体-477	黄緑 オ リーブ 黄	灰 黄	○	0	下層1-2	~3mmの砂砂、外周煤付層。(→AD300年)
15	86	18	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	14.3	Q32F ⁺ 体-999(2分割成形)	Q32F ⁺ 体-317(下へ下へ下へ下へ)	黄緑 黄緑	黄緑 黄緑	△	0	下層1-2	1-3mmの長石・石英・斜長石中多量、底部に木炭層、下層黄砂層。(→AD230年)
15	87	200	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	13.1	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-477	灰 黄	灰 黄	○	85-90	下層1-2	0.3-2mmの白-褐色砂砂、火砕岩多量、底部下層、白煤付層。
15	88	13	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	12.6	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-477	黄緑 黄緑	濃い 黄緑	○	100	下層1-2	1-2mmの長石・斜長石中多量、多量の煤(外周黄砂・内周下層),(AD200-240年)
16	89	66	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	13.2	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-477	濃い 黄緑	濃い 黄緑	○	0-2	下層1-2	~1mm以下の砂砂。(→AD230年)
16	90	71	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	18	Q32F ⁺ (V77) 体-999	Q32F ⁺ 体-277	濃い 黄緑	濃い 黄緑	○	0	下層1-2	1-2mmの砂砂、糖積層。
16	91	133	第1A	第4	ASD 37-12	7 ⁺	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	14.9	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-77	灰 白	灰 白	○	15	下層1-2	0.3-3mmの白-褐色砂砂。
16	92	203	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	16.4	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-977	灰 黄	灰 黄	○	20	下層1-2	0.3-2mmの白-褐色砂砂、多量の煤付層。
16	93	21	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	15.0	Q32F ⁺ 体-999(2分割)	Q32F ⁺ 体-977(→912 ⁺)	灰 白	灰 白	○	92	下層1-2	0.5-2mmの白-褐色砂砂、底部木炭層、糖積層、煤付層。(AD150-240年)
16	94	13	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	14.8	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-317	黒	黄緑	○	0	下層1-2	1-3mmの白色4.5、2分割成形、糖積層、多量の煤付層。
16	95	87	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	14.7	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-977	灰 黄	濃い 黄緑	○	25	下層1-2	~1mmの砂砂。(→AD220年)
16	96	74	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	14.6	Q32F ⁺ 体-977	Q32F ⁺ 体-77	黄緑 黄緑	濃い 黄緑	○	0-2	下層1-2	~1mmの砂砂、煤付層。(→AD270年)
16	97	75	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	15.2	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-977	黄緑 黄緑	濃い 黄緑	○	0-2	下層1-2	~1mmの砂砂、糖積層。(→AD270年)
16	98	84	第1A	第4	ASD 37-02	7 ⁺	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	15.5	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-977	濃い 黄緑、 黒	灰 黄、 糖積	○	15	下層1-2	~3mmの砂砂、外周多量の煤付層。(AD230年)
16	99	80	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	18	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-277	黒	灰 黄	△	0-2	下層1-2	1-3mmの砂砂、外周粘土に多量の煤付層。(AD230年)
16	100	203	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	12.5	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-977	暗 黄緑	暗 黄緑	○	25	下層1-2	0.2-2mmの白-褐色砂砂。
16	101	14	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	11.4	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-977	灰 黄	灰 黄	△	65	下層1-2	1-2mmの長石・斜長石・黒炭層、(AD230-240年)
16	102	118	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	14.1	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-977(→912 ⁺)	灰 白	灰 白	○	0	下層1-2	2.5割成形、0.5-2mmの白-褐色砂砂。
17	103	44	第1B	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	14.6	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-77	濃い 黄緑	濃い 黄緑	△	0-2	下層1-2	~2mmの砂砂、外周煤付層。
17	104	51	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	16.6	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-977	濃い 黄緑	黄緑	△	0-2	下層1-2	1-3mmの砂砂、外周煤付層。(→AD230年)
17	105	199	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	16.2	Q32F ⁺ 体-977	Q32F ⁺ 体-477	濃い 黄緑	濃い 黄緑	○	0-2	V	0.5-2mmの白-褐色砂砂、外周煤付層。
17	106	79	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	16.3	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-77	黒 黄緑	黄緑	△	0-2	下層1-2	1-3mmの砂砂、外周多量の煤付層。(→AD240年)
17	107	118	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	16.0	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-977	灰 黄	灰 黄	○	0-2	下層1-2	~2mmの砂砂、外周煤付層。
17	108	69	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	19.4	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-977	黄緑 黄緑	灰 白	○	10	下層1-2	1-3mmの長石・斜長石少、外周煤付層。(→AD270年)
17	109	204	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	18.7	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-127	灰 白	灰 白	○	5	下層1-2	0.5-2mmの白-褐色砂砂、多量の煤付層。
17	110	48	第1B	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	16.9	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-77	青 黄	暗 黄緑	○	5	下層1-2	1-3mmの砂砂、外周煤付層。
17	111	199	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	18.8	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-77	灰 黄	灰 黄	○	15	下層1-2	0.3-1mmの白-褐色砂砂、外周黄砂、中心黒色化。
17	112	132	第1A	第4	ASD 37-12	7 ⁺	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	16.0	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-477	灰 白	灰 白	○	30	下層1-2	0.5-3mmの白色砂砂。
17	113	73	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	16.4	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-977	黒 黄緑	濃い 黄緑	△	15	下層1-2	底内式粘土層、1-2mmの長石・石英、外周多量の煤付層。
18	114	200	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	18.1	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-477	灰 白	灰 白	○	0-2	下層1-2	0.5-2mmの白-褐色砂砂、外周煤付層。
18	115	201	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	16.6	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-77	灰 白	灰 白	○	0-2	下層1-2	0.3-2mmの赤-褐色砂砂。
18	116	134	第1A	第4	ASD 37-12	7 ⁺	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	16.1	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-477	灰 白	灰 白	○	40	下層1-2	0.5-4mmの白色砂砂、火砕岩を付層。
18	117	210	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	14.6	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-977	灰 白	灰 白	○	20	下層1-2	0.3-2mmの白-褐色砂砂、底部多量の煤付層。
18	118	57	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	15.2	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-912 ⁺	灰 黄	灰 黄	○	30	下層1-4	0.5-3mmの白-褐色砂砂、下半多量の煤付層。
18	119	41	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	17.1	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-77	濃い 黄緑	濃い 黄緑	△	80	下層1-2	0.5-4mmの白-褐色砂砂、下半粘土層、2分割成形。(→AD230年)
18	120	43	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	17.0	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-977	濃い 黄緑	濃い 黄緑	×	87	VII	1-3mmの1/4多量。
18	121	115	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	26.0	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-977	灰 黄	灰 黄	○	5	下層1-2	0.3-2mmの白-褐色砂砂。
18	122	114	第1A	第4	ASD 37-02	埋土 上層	粘土 土層	粘土 土層	粘土 土層	27.6	Q32F ⁺ 体-999	Q32F ⁺ 体-977	灰 白	灰 白	○	0-2	下層1-2	0.5-3mmの白-褐色砂砂。

図面 番号	実 地 区 区 区 区	地区 工区 棟	面 積	用途 種別	用途 種別	位置			隣接		色調		施工 種別	透 水 率 %	時期	備考	
						口 寸	最大 寸	高さ	遮 光	外 面	内 面	外 面					内 面
19 123 40	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅型壁 (A)	14.2	4.1	28.3	0.327 ⁺ 0.899	+	灰白	灰白	○	0	0	0	V-3, 下回 E-2(IV)	0.5-3mmの褐灰色砂粒, 2分製成砂, (~ AD240系)
19 124 107	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	14.0	8.1	10.2	1.8~ ~0.512 ⁺	~0.512 ⁺	に近い 黄緑	に近い 黄緑	○	0	40	V~VI	0.5-1mmの褐灰, 白色砂粒,	
19 125 1 第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	14.0	8.1	10.2	1.8~ ~0.512 ⁺	1.8~ ~0.512 ⁺	灰白 黄緑	灰白 黄緑	○	0	85	VI	0.5-1mmの褐灰, 白色砂粒, 表面に増成風 土?を付着,		
19 126 108	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	16.0	10.5	~0.512 ⁺	~0.512 ⁺ , + ⁺	灰白	灰白	○	0	30	下回 1-4 ⁺	幅2.5mm 高さ1.0mmの三角形砂孔15x77 7, 0.5-2mmの白色砂粒,		
19 127 8 第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	18.9	13.8	14.4	4.327 ⁺ 下回(15x77)~ 0.512 ⁺	1.8~ ~0.512 ⁺	灰白	灰白	△	0	85	下回 2- E-2	0.5-4mmの褐灰色砂粒多, (AD200~ 300)		
19 128 113	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	9.4	6.5	0.0	0.512 ⁺ 0.512 ⁺	0.512 ⁺	灰黄	灰黄	○	0	0	下回 2- E-2	直径3mm, 0.5-2mmの白- 炭褐色砂粒	
19 129 112	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	11.3	6.7	~0.512 ⁺	+	に近い 黄緑	に近い 黄緑	○	0	30	下回 2- E-2	φ3mmの砂孔4x7列, 真鍮片7x, 0.5mm の白-炭褐色砂粒少,		
19 130 111	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	9.3	4.8	~0.512 ⁺ ~0.327 ⁺	+	黄	黄	○	0	50	下回 2- E-2	φ3mmの砂孔4x7列, 0.5-2mmの白- 褐 灰色砂粒少,		
19 131 136	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	8.8	5.7	~0.512 ⁺	0.512 ⁺	灰白	灰白	○	0	50	下回 2- E-2	小型鉄線鋼線, 0.3-2.5mmの褐灰色砂 粒, (AD200-4C)		
19 132 117	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	23.7	8.5	~0.512 ⁺	~0.512 ⁺	灰白	灰白	○	0	40	下回 1- E-2	0.5-2mmの白-炭褐色砂粒, 煤多量に付 着, (AD200-220系)		
19 133 110	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	8.9	8.4	~0.512 ⁺	~0.512 ⁺	灰白	灰白	○	0	20	下回 2- E-2(IV)	φ7mmの砂孔3x7列, 0.3-1mmの白- 黒 色砂粒,		
19 134 68	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	15.3	4.6	~0.512 ⁺	~0.512 ⁺	灰白	灰白	○	20	VI	0.5-2mmの白- 炭褐色砂粒, 赤鉄,			
19 135 108	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	12.9	10.7	~0.512 ⁺	+	灰白	灰白	○	0	40	下回 1-4	内孔4箇所 φ8mm, 0.3-1mmの白-炭褐色 砂粒,		
20 136 28	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	7.8	4.3	+	~0.512 ⁺	洗青壁 塗	に近い 黄緑	△	0	80	下回 2- E-2(IV)	1mm前後砂粒多, (AD240-270系)		
20 137 93	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	9.2	3.6	6.1	~0.512 ⁺	~0.512 ⁺	灰白	灰白	○	85	下回 2- E-2(IV)	0.5-1mmの白色砂粒, 輪縁, 煤多量, 産 物, (~AD240系)		
20 138 11 第 1 B	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	11.0	4.0	6.1	~0.512 ⁺	~0.512 ⁺	褐灰	灰白	○	85	0	0	V-3-VI- E-2	1-2mmの白色1x4, (AD150?~240系?)	
20 139 184	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	12.0	4.2	7.3	保潔減 低付?	~0.512 ⁺	灰黄	灰黄	○	20	下回 1-3	0.2-2.5mmの褐灰色砂粒,		
20 140 99	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	9.3	5.3	6.9	保潔減 低付?	~0.512 ⁺	明褐色	明褐色	△	70	下回 1-3	0.5-3mmの白- 炭褐色砂粒多, 小形丸底 への砂付着, (AD260-4C)		
20 141 103	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	5.0	4.7	5.9	+	+	明褐色	明褐色	△	25	下回 1-3	0.5-3mmの白-炭褐色砂粒, 内部黒色化, ~E-2(IV)	(AD200-230系)	
20 142 137	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	9.1	6.4	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	灰白	灰白	○	30	下回 2- E-2	0.3-1mmの白- 白色砂粒, 黒塵?,			
20 143 102	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	10.2	3.3	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	0.512 ⁺ ~0.327 ⁺ 0.512 ⁺	灰白	灰白	△	85	下回 1	0.5-3mmの白- 炭褐色砂粒多, (~AD200 系?),			
20 144 97	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	4.8	7.8	~0.512 ⁺	~0.512 ⁺	に近い 黄緑	に近い 黄緑	○	90	下回 1- E-2	0.3-4mmの白-炭褐色砂粒,			
20 145 101	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	10.3	3.5	9.9	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	灰白	灰白	○	75	下回 1	0.3-1mmの白-炭褐色砂粒, (~AD200系)		
20 146 104	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	9.15	2.0	7.8	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	灰白	灰白	○	70	下回 2- E-2(IV)	1-2mmの白色砂粒, 産物にφ3.9mmの 砂孔1つ, (AD220~)		
20 147 105	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	4.1	9.3	~0.512 ⁺	~0.512 ⁺	灰白	灰白	×	25	下回 1- E-2	0.5-3mmの白- 炭褐色砂粒, (AD190~ 230系?)			
20 148 86	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	17.7	2.7	6.7	0.512 ⁺ , 0.327 ⁺ , 9.2 ⁺	~0.512 ⁺	灰黄	灰黄	○	65	下回 1-4	0.3-3mmの産物, 白色砂粒, 黒塵?!, (~ AD180~240系?)		
20 149 80	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	20.3	5.1	7.1	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	に近い 黄緑	に近い 黄緑	○	85	下回 2- E-2(IV)	0.3-3mmの白- 炭褐色砂粒, (AD200~ 230系?)		
20 150 96	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	22.0	4.2	8.9	0.327 ⁺ , + ⁺	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	灰白	灰白	×	70	下回 2- E-2(IV)	0.5-2.5mmの白- 産物砂粒多, (AD240 系?)		
20 151 120	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	10.3	10.3	~0.512 ⁺	~0.512 ⁺	灰白	灰白	○	15	~20	VI	0.3mmの白-炭褐色砂粒少,		
20 152 116	第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	28.0	10.3	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	灰白	灰白	○	0	5-7	下回 1- E-2	0.5-3mmの白-炭褐色砂粒, (AD140~ 230系?)		
20 153 3 第 1 A	ASD 37-02	7x5	住宅土 壁	20.5	10.0	+	+	2x+	灰白	灰白	○	100	下回 2- E-2	1-10mmの砂孔φ10x19用, 0.3-3mmの白- 炭 褐色砂粒多, 内面塗付着, (AD220-240 系?)			
21 154 121	第 1 B	BSD 37-03	7x5	住宅土 壁	6.5	15.8	0.512 ⁺ ~0.327 ⁺ 0.512 ⁺	0.512 ⁺ 0.512 ⁺	黄	黄	○	0	50	下回 1- E-2(IV)	1-3mmの赤褐色砂粒多, (AD200-240 系?)		
21 155 151	第 1 B	BSD 37-03	7x5	住宅土 壁	16.5	14.0	0.512 ⁺ ~0.327 ⁺	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	灰黄	灰黄	○	15	下回 2- E-2	0.3-2mmの白-炭褐色砂粒, 輪縁,			
21 156 149	第 1 B	BSD 37-03	7x5	住宅土 壁	8.1	0.1	0.512 ⁺ ~0.327 ⁺ 0.512 ⁺	0.512 ⁺ ~0.327 ⁺ 0.512 ⁺	に近い 黄緑	に近い 黄緑	○	35	下回 2- E-2	0.3-3mmの白-炭褐色砂粒, 外塗付着,			
21 157 152	第 1 B	BSD 37-03	7x5	住宅土 壁	15.0	5.6	0.512 ⁺ ~0.327 ⁺	0.327 ⁺	に近い 黄緑	に近い 黄緑	○	0	3-5	下回 2- E-2	0.3-4mmの白-炭褐色砂粒, 輪縁, 外塗多量の付着,		
21 158 123	第 1 B	BSD 37-03	7x5	住宅土 壁	16.7	26.8	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	に近い 黄緑	に近い 黄緑	○	80	下回 2- E-2	0.5-3mmの白-炭褐色砂粒多,			
21 159 168	第 1 B	BSD 37-12	7x5	住宅土 壁	13.5	7.0	0.512 ⁺ ~0.327 ⁺ 0.512 ⁺	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	灰白	灰白	○	10	下回 2- E-2(IV)	0.5-3mmの白い白色砂粒多, 黄色化,			
21 160 184	第 1 B	BSD 37-13	7x5	住宅土 壁	15.1	8.6	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	洗青壁 塗	洗青壁 塗	○	15	下回 2- E-2	0.3-4mmの白-炭褐色砂粒, 火熱おむら ひ,			
21 161 36	第 1 B	BSD 37-04	7x5	住宅土 壁	13.0	4.0	23.8	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	灰白	灰白	△	80	下回 1- E-2	0.5-4mmの白-炭褐色砂粒多, (~ AD200系?)		
22 162 156	第 1 B	BSD 37-11	7x5	住宅土 壁	19.2	5.2	~0.512 ⁺	~0.512 ⁺	に近い 黄緑	に近い 黄緑	○	0	5	下回 2-3	0.3-1mmの白-炭褐色砂粒, 注内?中 ~E-2		
22 163 150	第 1 B	BSD 37-03	7x5	住宅土 壁	11.9	12.7	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	灰白	灰白	○	40	5-607	0.3-2mmの白-炭褐色砂粒, 輪縁,			
22 164 85	第 1 B	BD 37-03	7x5	住宅土 壁	13.5	10.9	11.3	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	0.327 ⁺ 0.512 ⁺	に近い 黄緑	に近い 黄緑	○	85	下回 1	0.5-3mmの白-炭褐色砂粒, (~AD200 系?)		
22 165 100	第 1 B	BD 37-03	7x5	住宅土 壁	6.4	6.4	~0.512 ⁺	~0.512 ⁺	灰白	灰白	○	50	0	0	VI	0.5-2mmの白-炭褐色砂粒,	

国 道 番 号	道 路 区 画 番 号	地区	区 画 種 別	区 画 種 別	種 別	種 別	法量		調候		色調		塗 工 種	塗 工 種	時 期	備 考				
							口 幅	溝 深	外 面	内 面	外 面	内 面								
22	166	93	第 1 区画	B	3SK -10	埋土 土層	小形丸籠 (20)	3.8	3.4	5.9	99%	~377'	灰白	灰白	△	0	70	下道 2-1 (2期)	0.3~3mmの黒・白・灰色砂粒。(AD220~240 mm)	
22	167	164	第 1 区画	B	3BP -13	埋土 土層	小形合併 砂	6.9	3.1	5.7	97%	~377'	77'	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	○	0	80	不明	0.3~2mmの白・灰褐色砂粒。
22	168	94	第 1 区画	B	3SK -21	埋土 土層	小形丸籠 (A1)	10.0	13.2	2.7~		77'部~512'4"	77'部~512'4"	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	△	0	20	下道 2-1	0.5~3mmの白色砂粒。(AD200~220mm)
23	169	28	第 1 区画	C	3SD 37-01	埋土 土層	小形丸籠 (B4)	10.0		8.4	~512'8"~459'X"	~512'8", 77"	緑	緑	○	0	85	下道 2, 青留 式	0.5~3mmの白・灰色砂粒 30%程度。 (AD270~300mm)	
23	170	124	第 1 区画	C	3SD 37-01	埋土 土層	小形丸籠 (B4)	9.8		8.5	□~512'8" 係~512'8", 459'X"	□~512'8" 係~512'8", 77"	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	○	0	80	青留 式, 下留留 式	0.3mmの黒色砂粒, 1mmの白色砂粒少, 体 積比 1%程度。(AD270mm~)	
23	171	27	第 1 区画	C	3SD 37-01	埋土 土層	小形丸籠 (B4)	7.8		7.85	~512'8"	□~512' 係~512'	灰白	灰白	○	0	80	下道 2, 青留 式	0.3~1mmの白・褐色砂粒。	
23	172	122	第 1 区画	C	3SD 37-01	埋土 土層	小形丸籠 (B4)	5.7		7.5	□~512'8" 係~512'8"~459'X"	□~512'8" 係~512'8", 77"	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	○	0	83	下道 2	0.5~2mmの白・褐色砂粒。(AD270mm)	
23	173	128	第 1 区画	C	3SD 37-01	埋土 土層	有留留式 砂	18.9		8.4	□~512'8" 係~512'8"	□~512'8" 係~512'8"	灰白	灰白	○	0	20	下道 2	青留留式, 0.5~2mmの白・白・灰色砂粒。	
23	174	125	第 1 区画	C	3SD 37-01	埋土 土層	有留留式 砂	13.6		10.3~	□~512'8" 係~512'	□~512'8" 係~512'8"	灰黄	灰黄	○	0	25	下道 2	0.5~3mmの白色砂粒。	
23	175	129	第 1 区画	C	3SD 37-01	埋土 土層	有留留式 砂	16.2		7.0~	377'7"~512'8"	~512'8"	灰白	灰白	○	0	30	下道 1	0.3~2mmの白色砂粒。	
23	176	129	第 1 区画	C	3SD 37-01	埋土 土層	有留留式 砂	10.9		8.1~	~512'8"	77", 77"	灰白	灰白	○	0	40	下道 2	0.3~1mmの白・赤褐色砂粒, 青留留式土層。	
23	177	127	第 1 区画	C	3SD 37-01	埋土 土層	有留留式 砂	14.2		5.7	□~512'8" 係~512'	□~512'8" 係~512'	灰白	灰白	○	0	10	下道 1~4	1mmの灰褐色砂粒。	
23	178	81	第 1 区画	C	3SD 37-01	埋土 土層	小形丸籠 (B4)	8.5		8.5	緑	77'緑	灰白	灰白	△	0	50	下道 2	0.5~2mmの白・褐色 緑色砂粒。 (AD270mm~)	
23	179	145	第 1 区画	C	3SD 37-01	埋土 土層	有留留式 砂	12.2		8.6~	~512'8"	~512'	灰白	灰白	○	0	40	青留留式	0.3~2.5mmの白・灰褐色砂粒, 円孔 2φ 1.1mm	
23	180	175	第 1 区画	C	3SD 37-01	埋土 土層	有留留式 砂	12.6		7.3~	□~512'8" 係~512'8"	□~512'8" 係~512'8"	灰白	灰白	○	0	30	下道 2-3 ~10'	0.5~1mmの白・褐色砂粒。	
23	181	7	第 1 区画	C	3SD 37-01	埋土 土層	有留留式 砂	13.6		19.3	□~512'8" 係~512'8"	77"	灰白	灰白	○	0	85	下道 2	0.3~3mmの白色砂粒多, 体積比 1%程度 77' (AD270mm~青留留式)	
23	182	167	第 1 区画	C	3SD 37-01	埋土 土層	有留留式 砂	17.6		4.4~	□~512'8" 係~512'8"	77"	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	○	0	5	7'	0.2~4mmの白・褐色砂粒。	
23	183	221	第 1 区画	C	3SD 37-01	埋土 土層	有留留式 砂	12.7		4.3	0.5φ, 0.5φ, 0.5φ	0.5φ	灰黄 赤褐色 赤褐色	赤褐色	○	0	85	I 型式, 2- 50枚	0.1~1mmの白色砂粒, TK16	
23	184	230	第 1 区画	C	3SD 37-01	埋土 土層	有留留式 砂	21.7		6.1~	0.5φ, 0.5φ	0.5φ	灰	灰	○	0	5	I 型式, 50 枚	0.2~0.5mmの黒色砂粒少, TK73~2167	
23	185	167	第 1 区画	C	3SD 37-01	埋土 土層	有留留式 砂	10.8		6.0~			灰白	灰白	○	0			0.3~1mmの灰褐色砂粒。	
24	186	228	第 2 区画	D	3SG 1-01	埋土 土層	有留留式 砂	7.1		8.0~10.0			黄褐色	黄褐色	○	15	130mm	0.1~2mmの白・褐色砂粒, D54'。		
24	187	227	第 2 区画	D	3SG 1-01	埋土 土層	有留留式 砂	13.8		2.2~			黄褐色	灰白	○	0	5	130mm	色白, 粘着性 3-。	
24	188	226	第 2 区画	D	3SG 1-01	埋土 土層	有留留式 砂	16.3		2.2~			灰白	灰白	○	0	5	130mm	0.2~0.5mmの灰色砂粒, 30~50 3-粘着 性。	
24	189	224	第 2 区画	D	3SG 1-01	埋土 土層	有留留式 砂	1.5~					深緑青	深緑青	○	15	13~14C	適量 湧出 4.6mm, 5.4mm。		
24	190	224	第 2 区画	D	3SG 1-01	埋土 土層	有留留式 砂	24.5		3.6~			灰白	灰白	○	0	5	130mm	0.2~1mmの黒色砂粒, 真珠系赤褐色 砂。	
24	191	223	第 2 区画	D	3SG 1-01	埋土 土層	有留留式 砂	15.4		6.9~			灰土 灰土	灰土	○	0	5~7	140mm ~15C	0.1mmの白色砂粒, 円孔 1φ 1.1mm	
24	192	222	第 2 区画	E	3SG 1-01	埋土 土層	有留留式 砂	13.2		3.5~			灰黄 灰黄	○	0	3	14~15C	0.3mm程度の白色砂粒, 黒粒少 かり灰褐色の底層心, 0.5mm?		
24	193	215	第 2 区画	E	3SG 1-01	埋土 土層	有留留式 砂	10.7		5.7~	□~512'8" 係~512'8"	□~512'8" 係~512'8"	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	○	0	3	50mm	0.3~2mmの白・褐色砂粒。	
24	194	216	第 2 区画	E	3SG 1-01	埋土 土層	有留留式 砂	17.1		5.7~	緑褐色(実), 濃灰 文	0.5φ	灰白 赤褐色 赤褐色	赤褐色	○	0	5~7	I 型式, 90 枚	0.3mm以下の白色砂粒少, TK73~216	
24	195	160	第 2 区画	E	3SD 37-01	埋土 土層	小形丸籠 (D)	10.3		7.9~	~512'8"	~512'8"	灰白	灰白	○	0	70	下道 3- 2(期)	0.5~1mmの白・灰褐色砂粒。	
24	196	88	第 2 区画	E	3SD 37-01	埋土 土層	有留留式 砂	16		5.0~	□~512'8" 係~512'8"	□~512'8" 係~512'8", 77"	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	○	0	40	下道 2	~0.5mmの砂粒少, (AD270mm~青留留式)	
24	197	156	第 2 区画	E	3SD 37-01	埋土 土層	有留留式 砂	13.9		6.3~	□~512'8" 係~512'8"	□~512'8" 係~512'8"	灰白	灰白	○	0	30	下道 2-2	0.3~1mmの白・褐色砂粒。	
24	198	161	第 2 区画	E	3SD 37-01	埋土 土層	有留留式 砂	33.0		8.9~	99%~377'	~377'	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	○	0	5	下道 2- 2(期)	0.5~2mmの白・灰褐色砂粒。	
24	199	153	第 2 区画	E	3SD 37-01	埋土 土層	有留留式 砂	15.3		7.9~	□~512'8" 係~512'8"	□~512'8" 係~512'8"	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	○	0	20	下道 1~ 2(期)	0.2~1.5mmの白・灰褐色砂粒少。	
24	200	159	第 2 区画	E	3SD 37-01	埋土 土層	有留留式 砂	15.4		7.0~	□~512'8" 係~512'8"	□~512'8" 係~512'8"	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	○	0	5~7	下道 2- 2(期)~3	0.5~1mmの白・赤・褐色砂粒, 外圍口縁 に多量の砂。	
25	201	173	第 2 区画	F	3SD 37-01	埋土 土層	有留留式 砂	34.0		6.3~	~512'	~512'	灰白	灰白	○	0	5	2~3'	0.5~5mmの白・褐色砂粒。	
25	202	174	第 2 区画	F	3SD 37-01	埋土 土層	有留留式 砂	14.4		5.2~	□~512'8" 係~512'8"	不明	黒褐色	黒褐色	○	0	1~2	横文地肌	0.5~5mmの白・褐色砂粒, 量多, 生動 性。	
25	203	83	第 2 区画	F	3SK 37-01	埋土 土層	有留留式 砂	32.2		16.0~	実層心(0~8mm), 8mm	77"	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	△	0	5~7	横文地肌 後半~	0.3~3mmの白・褐色砂粒多(黄褐色), 赤 褐色粒, 口縁下部に 0.8mmの砂孔(1つ 程度), 粘着性~粘着性土層	
25	204	153	第 2 区画	F	3SD 37-01	埋土 土層	有留留式 砂	24.8		9.3~	□~512'8" 係~512'8"	□~512'8" 係~512'8"	灰黄	灰黄	○	0	5	-	0.3~2mmの白・灰褐色砂粒, 濃黄質?	
26	205	28	第 2 区画	P	X1 P	埋土 土層	小形丸籠 (B4)	8.2		7.2	~512'8"	□~512' 係~512'	灰白	灰白	○	0	85	下道 2, 青留 式	0.3~1mmの白・褐色砂粒。	
26	206	165	第 2 区画	P	X1 P	埋土 土層	小形丸籠 (B4)	11.3		5.4~	□~512'8" 係~512'8"	□~512'8" 係~512'8"	灰白	灰白	○	0	25	下道 2	0.1~0.5mmの褐色砂粒。	
26	207	86	第 2 区画	P	X1 P	埋土 土層	有留留式 砂	10.4		13.0	6.0~	□~512'8" 係~512'8"	灰白	灰白	○	0	80	下道 1~ 2(期)	0.3~2mmの黒褐色砂粒 少, (1~AD150 mm)	
26	208	25	第 2 区画	P	3SK 37-01	埋土 土層	有留留式 砂	7.4		3.9	~512'	~512'	黄褐色 黄褐色 黄褐色	黄褐色	○	100	下道 2 2(期)~3, 青留留式	~1mm砂粒少, 内面~77'まで多量分 布。(AD240~270mm)		

区画番号	実地番号	地区	区画	用途	種別	用途	面積	法量			数量		色別		積土 積成率%	埋立 積成率%	時期	備考
								口積	最大径	直径	標準高	外径	内径	外径				
26	209	177	第2 P	第2	PG2 Z-G1	埋土	粘土 熟成高坪 (A)	13.4	8.3	11.0	円形$\phi 12.7$ 脚部$\phi 7.9$	円形13.7×11.7 脚部7.9	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	○	0	80	布留式→ 0.2~1mの白・褐色色砂粒。
26	210	176	第2 P	第2	PG2 Z-G1	埋土	粘土 熟成高坪 (A)	13.1	8.1	11.3	円形$\phi 12.7$ 脚部12.7	円形12.7×11.7 脚部7.9	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	○	0	90	布留式→ 0.3~2mの白・褐色色砂粒・砂り種。
26	211	33	第2 P	第2	PG2 Z-G1	埋土	粘土 土層	12.6	8.6	11.0	円形$\phi 12.7$ 脚部$\phi 12.7$	円形12.7×11.7 脚部$\phi 7.9$	埋	埋	○	0	80	布留式→ 赤砂,布留高坪。
26	212	34	第2 P	第1	PG2 Z-G1	埋土	粘土 土層	12.6	8.1	11.3	円形$\phi 12.7$ 脚部$\phi 7.9$	円形13.7×11.7 脚部$\phi 7.9$	埋	埋	○	0	80	布留式→ 布留高坪,赤砂,(AD270→4C)
26	213	176	第2 P	第1	PG2 Z-G1	埋土	粘土 土層	11.5	8.6	10.8	円形$\phi 12.7$ 脚部12.7	円形12.7×11.7 脚部12.7	埋	埋	○	0	85	布留式→ 0.2~2.5mの白・褐色色砂粒。
26	214	88	第2 P	第2	PK2 Z-G1	埋土	粘土 土層	18.4	5.5~		$\phi 7.9 \times 12.7$	$\phi 7.9$	灰白	灰白	○	0	40	布留式→ 布留高7.0,0.3~0.5mの白・褐色色砂粒, (AD245年→布留式)
26	215	140	第2 P	第2	PG2 Z-G1	埋土	粘土 土層		8.7	6.0~	13.6	円	埋	埋	○	0	50	布留式→ 0.1~2mの白・褐色色砂粒。(→AD300)
26	216	181	第2 P	第2	PG2 Z-G1	埋土	粘土 土層		8.1	6.3~	13.6	円	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	○	0	45	布留式→ 0.1~2mの白・褐色色砂粒,庄内式(埋 蓋)→布留式
26	217	182	第2 P	第2	PG2 Z-G1	埋土	粘土 土層		8.9	7.0~	13.6	円	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	○	0	40	布留式→ 0.1~2mの白・褐色色砂粒,庄内式(埋 蓋)→布留式
26	218	179	第2 P	第2	PG2 Z-G1	埋土	粘土 土層		8.7	6.0~	13.6	円	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	○	0	50	布留式→ 0.1~2mの白・褐色色砂粒,庄内式(埋 蓋)→布留式
26	219	177	第2 P	第2	PG2 Z-G1	埋土	粘土 土層 (有緑土層 (A))	22.8	13.4	16.3	円形$\phi 12.7 \times 12.7$, $\phi 13.7$ 脚部$\phi 7.9 \times 7.9$	円形13.7×13.7 脚部$\phi 7.9 \times 7.9$	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	○	0	85	布留式→ 0.5~2mの白・褐色色砂粒,布留高坪, (AD270→4C)
26	220	223	第2 P	第2	PG2 Z-G1	埋土	粘土 土層 (熟成高坪 (A))	11.4	11.8		$\phi 12.7$ 脚部7.9	$\phi 12.7$ 脚部7.9	灰黄	灰黄	○	0	90	布留式→ 0.5~1mの白・褐色色砂粒,0小形丸型土 器。
26	221	190	第2 P	第2	PG2 Z-G1	埋土	粘土 土層	15.2	8.0~		$\phi 12.7$ 脚部7.9	$\phi 12.7$ 脚部7.9	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	○	0	20	布留式→ 0.1~0.3mの白・褐色色砂粒。
26	222	181	第2 P	第2	PG2 Z-G1	埋土	粘土 土層	14.9	18.0~		$\phi 12.7$ 脚部7.9	$\phi 12.7$ 脚部7.9	灰黄	灰黄	○	0	15	布留式→ 0.2~2mの褐色色砂粒。
27	223	192	第2 P	第1	PG2 Z-G1	埋土	粘土 土層	13.3	5.3~		$\phi 12.7$ 脚部7.9	$\phi 12.7$ 脚部7.9	灰黄	灰黄	○	0	7~	布留式→ 0.3~1mの白・褐色色砂粒,下田2-3~ 埋?
27	224	187 -2	第2 P	第1	PG2 Z-G1	埋土	粘土 土層	16.0	8.9~		$\phi 12.7$ 脚部7.9	$\phi 12.7$ 脚部7.9	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	○	0	10	布留式→ 0.1~1mの褐色色砂粒,庄内(中重→埋 蓋)下田2-2(埋?)
27	225	146	第2 P	第2	PK2 Z-G1	埋土	土層 壁	15.4	13.9~		$\phi 7.9 \times 7.9$	円	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	○	0	15~ 20	布留式→ 0.3~2mの白・褐色色砂粒,輪埋蓋。
27	226	147	第2 P	第2	PK2 Z-G1	埋土	土層 壁	14.1	10.0~		摩滅	摩滅	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	○	0	10	布留式→ 0.3~2mの白・褐色色砂粒。
27	227	136	第2 P	第2	PK2 Z-G1	埋土	粘土 土層	15.4	15.4~		摩滅	摩滅	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	○	0	40	布留式→ 0.5~5mの白・褐色色砂粒,内面$\phi 7.9$ 付着
27	228	136 -2	第2 P	第2	PG2 Z-G1	埋土	粘土 土層	18.8	5.7~		3277	3277	灰白	灰白	○	7~10	布留式→ 0.5~2mの白・褐色色砂粒,内外面に$\phi 7.9$ 付着	
27	229	230	第2 P	第1	PG2 Z-G1	埋土	埋蓋 環	13.2	4.5		円形$\phi 7.9 \times 7.9$, $\phi 10.7 \times 10.7$	円, $\phi 10.7 \times 10.7$	灰白	灰白	○	0	70	I型式-3- 4 →I型式- 5,5C埋 付着
27	230	233	第2 P	第2	PG2 Z-G1	埋土	埋蓋 環	10.5	3.5~		07077	07077	灰	灰	○	0	3~5	I型式-3- 4 →I型式- 5,5C埋 付着
27	231	229	第2 P	第2	PK2 Z-G1	埋土	埋蓋 環	14.6	5.1		円形$\phi 7.9 \times 7.9$, $\phi 10.7 \times 10.7$	円, $\phi 10.7 \times 10.7$	灰	灰	○	0	65	I型式-3- 4 →I型式- 5,5C埋 付着
27	232	231	第2 P	第2	PG2 Z-G1	埋土	埋蓋 環	12.5	4.8		円形$\phi 7.9 \times 7.9$, $\phi 10.7 \times 10.7$	07077	灰	灰	○	0	25	I型式-3 →I型式- 5,5C埋 付着
27	233	38	第2 P	第2	PK2 Z-G1	埋土	埋蓋 環	10.2	8.7~ 9.3		円形$\phi 7.9 \times 7.9$	07077	黄灰	黄灰	○	0	90	I型式-1~ 3 →0.1mの白色粒,円孔(透か) $\phi 1.2m \times 3$,TK73-216-208,5C埋蓋→中重
27	234	37	第2 P	第2	PK2 Z-G1	埋土	埋蓋 環	9.7~ 9.8	7.7~ 8.6		円形$\phi 7.9 \times 7.9$	07077	黄灰	黄灰	○	0	99	I型式-3- 4 TK208→TK23,5C埋蓋
27	235	136 -1	第2 P	第2	PK2 Z-G1	埋土	粘土 土層	15.7	20.0~		$\phi 7.9$	$\phi 7.9$	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色	○	0	40	下田目 0.5~2mの灰褐色色砂粒,外面に$\phi 7.9$ に$\phi 7.9$付着,環埋蓋?
27	236	148	第2 P	第2	PK2 Z-G1	埋土	土層 壁	17.2	5.3~		摩滅	摩滅	埋	埋	○	0	10	5~60 0.3~1mの白色砂粒。
28	43	2 -2	第2 P	第2	埋土	埋蓋 環	18.7	28.8	26.0	円形$\phi 12.7 \times 12.7$ 脚部7.9×7.9	円形$\phi 12.7 \times 12.7$ 脚部7.9×7.9	明黄灰	明黄灰	○	0	88	I型式-3- 5,5C埋 付着	
28	238	42	第2 P	第2	PG2 Z-G1	埋土	埋蓋 環	15.4	23.8	23.6	円形$\phi 12.7 \times 12.7$ 脚部7.9×7.9	07077,円形$\phi 7.9 \times 7.9$	灰白	灰白	○	0	96	I型式-3- 5,5C埋 付着



A区 第1面全景 (北西から)



A区 第3面全景 (北西から)

第29図 総持寺遺跡(SJ07-1) 写真図版(1)



A区 第4面全景 (南東から)



A区 第4面全景 (北西から)

第30図 総持寺遺跡(SJ07-1) 写真図版(2)



B区 第1面全景 (西から)



B区 第2面全景 (南東から)

第31図 総持寺遺跡(SJ07-1) 写真図版(3)



B区 第3面全景 (南東から)



B区 第3面全景 (北西から)

第32図 総持寺遺跡(SJ07-1) 写真図版(4)



C区 第2面全景 (東から)



C区 第3面全景 (東から)

第33図 総持寺遺跡(SJ07-1) 写真図版(5)



C区 第4面全景 (東から)

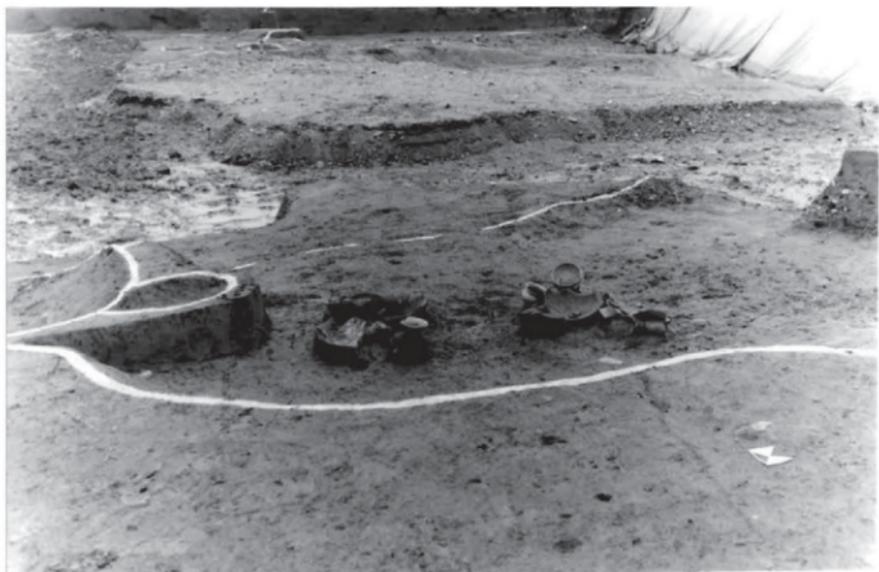


C区 第4面全景 (北から)

第34図 総持寺遺跡(SJ07-1) 写真図版(6)



P区 第2面全景 (南西から)



P区 第2面 PSK II -1 (北東から)

第35図 総持寺遺跡(SJ07-1) 写真図版(7)



P区 第2面 PSK II -1 出土遺物 (南西から)



P区 第2面 PSG II -1 出土遺物 (南から)

第36図 総持寺遺跡(SJ07-1) 写真図版(8)



D・E区 第1面全景 (南から)



D区 第2面全景 (南から)

第37図 総持寺遺跡(SJ07-1) 写真図版(9)



D区 第2面全景 (北西から)



D・E区 第4面全景 (南から)

第38図 総持寺遺跡(SJ07-1) 写真図版(10)



E区 第2面全景(南東から)



E区 第3面全景(南東から)

第39図 総持寺遺跡(SJ07-1) 写真図版(11)



E区 第4面全景 (南東から)



F区 第1面全景 (西から)

第40図 総持寺遺跡(SJ07-1) 写真図版(12)



F区 第2面全景 (西から)



F区 第3面全景 (西から)

第41図 総持寺遺跡(SJ07-1) 写真図版(13)



F区第4面全景(西から)



K区第1面全景(西から)

第42図 総持寺遺跡(SJ07-1) 写真図版(14)



K区 第2面全景 (西から)



K区 第3面全景 (西から)

第43図 総持寺遺跡(SJ07-1) 写真図版(15)



K区 第4面全景 (西から)



調査区基本層序

第44図 総持寺遺跡(SJ07-1) 写真図版(16)



A区 第4面 ASD IV-2 土層断面 (南東から)



A区 第4面 ASD IV-2 土層断面 (南東から)

第45図 総持寺遺跡(SJ07-1) 写真図版(17)



B区第4面 BSD IV-7 土層断面 (東から)

第46図 総持寺遺跡(SJ07-1)写真図版(18)

総持寺遺跡

所在地	茨木市庄一丁目 347-1
調査原因	倉庫兼研修棟新築工事
調査期間	平成21年1月13日～2月26日
調査面積	約 2800 m ²
調査担当	中東正之
調査結果	

経過 総持寺遺跡は、富田台地南西部からその崖下の低地部にかけて広がる、弥生時代～中世の複合遺跡である。遺跡範囲は、東西約 550m、南北約 850mが周知されている。富田台地は、北摂山地から派生した低位段丘にあたり、沖積面に突出した舌状の台地である。総持寺遺跡の台地上では、弥生時代後期後半の墓域や古墳時代中期の古墳群、古墳時代前期および後期の住居跡、飛鳥時代から平安時代前期に属する建物群などが検出されている。遺跡の低地部は、台地の西方を流下する安威川が形成した氾濫平野であり、弥生時代から中世の集落の存在があきらかとなっている。本調査は、この低地部に所在するフジテック株の倉庫等の新築に伴うものである。同社敷地内では、平成 19 年度調査に続く二回目の調査となる。19年度調査は、マンション建設計画に伴うもので、第1面で平安時代～中世の水田や畑等の耕作遺構、第2面で古代(奈良時代)の建物跡と耕作溝、第3面では古墳時代前期～中期(4～5世紀)の竪穴式住居や溝・土壇・池など、第4・5面では弥生時代後期の大溝や溝を検出している。出土遺物は、弥生時代後期の大溝から多量の甕を中心とする土器群が出土している



第 47 図 総持寺遺跡位置図



第 48 図 総持寺遺跡調査区配置図

ほか、古墳時代の土師器壺・甕・高杯、須恵器壺・壺・高杯が一括出土している。今回の調査区は、既設建物による攪乱が著しいものであったが、試掘によって残存状況を確認して発掘調査を実施した。

遺構・遺物 調査地から安威川にかけては、旧湿地、旧川微高地、自然堤防などの微地形がみとめられる。当地の堆積層は、大きく上下2群に分けられる。上層群は、細粒物質の水平堆積で構成される。洪水堆積をベースに、水田耕作などの人為的改変によって形成されたとみられ、土壌化が進行している。下層群は、当地で人間活動が始まる以前に埋積した砂礫などから構成され、流路な

ど活発な土砂移動の痕跡を示す。現地表面は標高 11.3～11.6mを測る。基本層序は、盛土(0.5～0.7m)下に2～3層に細分される耕作関連土(約 0.3m)が堆積し、これらを除去すると包含層の暗褐色砂質シルト(約 0.2m)となる。

包含層は、その下層の黄褐色砂質シルトが土壌化したもので、弥生時代後期～古墳時代後期の遺物を含む。黄褐色砂質シルト(0～0.2m)は、調査区東側では徐々に欠如し、下層群があらわとなる。検出面は、以下の3面である。主要な遺構について概説する。

第1面は、標高 10.7m前後を測る暗褐色砂質シルト上面とした。この面は、削平や攪乱が顕著であるが、調査区南側を中心に中世耕作溝群を検出した。完掘するには至らなかったが、幅約 0.5m、間隔2～2.2m、方位N60° Wの溝群に直交して、幅0.1～0.2m、間隔0.2～0.4m、方位N30° Eの溝群が重複する。検出面の覆土中からは平安時代中期～中世の摩滅した遺物がわずかに出土した。

第2面は、標高 10.3～10.6mを測る黄褐色砂質シルト上面まで掘り下げ、おもに古墳時代に属する遺構を検出した。

溝-1・2は、調査区東側の基底となる砂礫層の端部に沿うように南へ流下する流路である。概ねこれを境にして、掘立柱建物跡などが成立する安定した地盤の東側と、水田遺構が展開する低湿な西側にわかれる。溝-1は、幅約 2.5m、深さ約 0.6mを測る。溝-2の再流であるため、埋土は交錯して、複雑に堆積する。遺物は、庄内式から布留式併行期の古墳時代前期の土器を主体に、弥生後期の土器や古墳時代の須恵器も認められる。溝-2の規模は、溝-1に切られているため不明であるが、蛇行はより顕著で、幅 2.3m以上、深さ約 0.5mを測る。埋土はレンズ状に堆積し、下層は弥生後期から庄内式併行期、上層はおもに布留式併行期の土器が出土した。

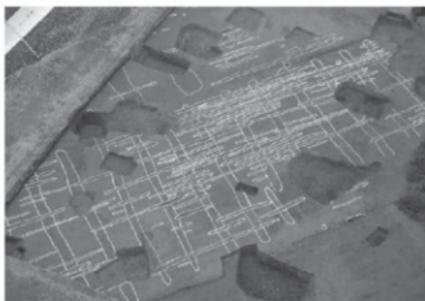
溝-4・5は、幅 0.4～0.5m深さ 0.2m程度の平行する南北溝である。溝-2埋没後に溝-1の東西に掘られた区画溝とみられる。

掘立柱建物は、2間×2間(3.4m×3.4m)の規模で、方位はN30° Wにとる。時期は不明であるが、状況的に古墳時代に属するものと思われる。

堅穴住居は、溝-1・2西側の低湿域に位置する。短軸 9.2m、長軸約 9.5mの規模を持つ住居である。攪乱を受けているが、残存部の壁溝は全周し主柱穴が3基認められる。検出面から床面間は約 0.2mを測る。埋土は、地山とほぼ同様の黄褐色シルトを基調とするもので、床面には焼土や炭化物を含む暗褐色シルトの薄い堆積がみられる。埋土中からは、5世紀代の土師器や須恵器が出土した。このうち須恵器の完形品を第53図に示した。とくに平底の坏(2)は、底面が内外とも不調整で、初期須恵器に属するものとみられる。

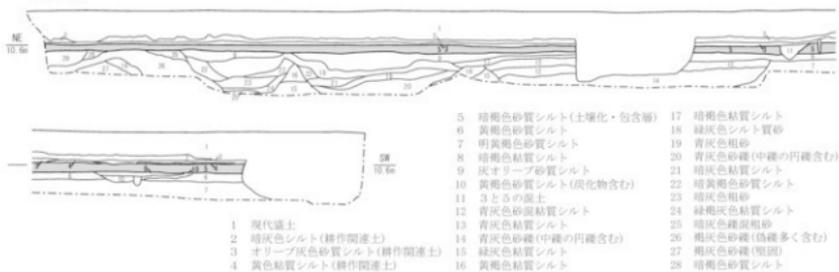
窟跡とそれに接続する水田跡は、堅穴住居の西方で検出した。2m×4～5m程の方形に掘り込まれた網の目状の畦が確認できるが、攪乱や、水利目的とみられる改変によって不明瞭な検出プランとなっている。水田覆土中からは古墳時代から中世に至る遺物が出土している。

第3検出面は、標高 9.8～10.1mを測る。黄褐色砂質シルトを掘り下げ、当地における最初の人

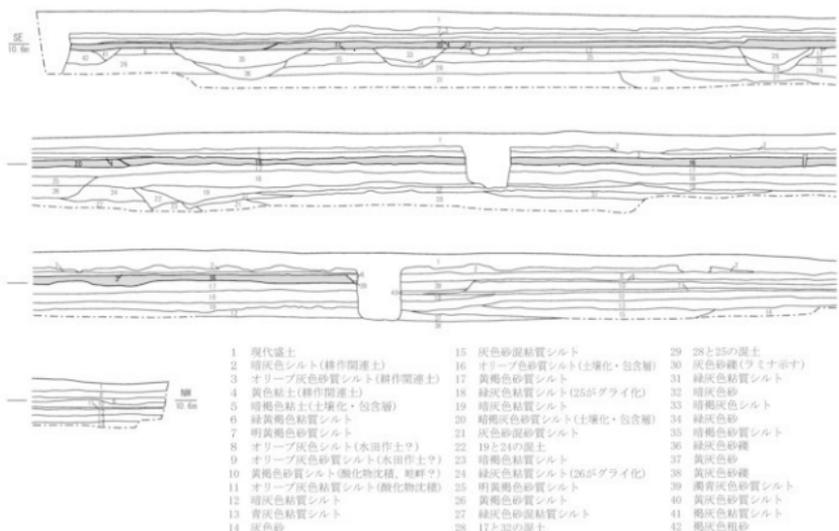


第49図 第1面掘溝検出状況(東から)

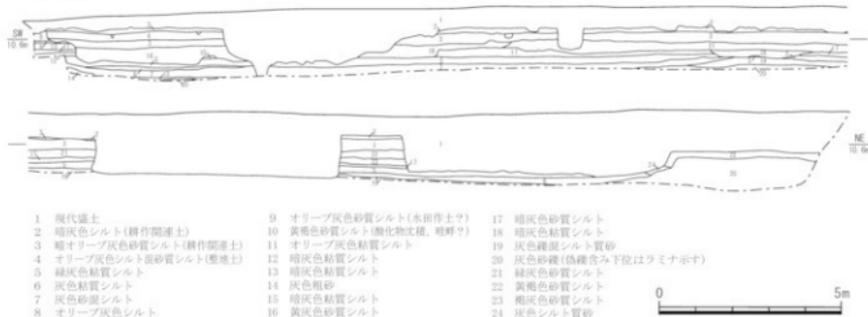
南東壁面



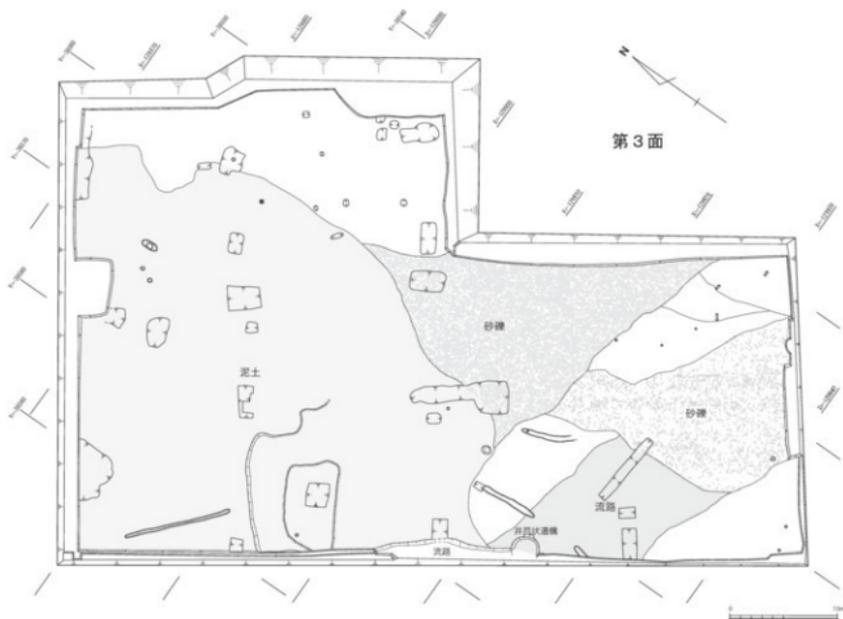
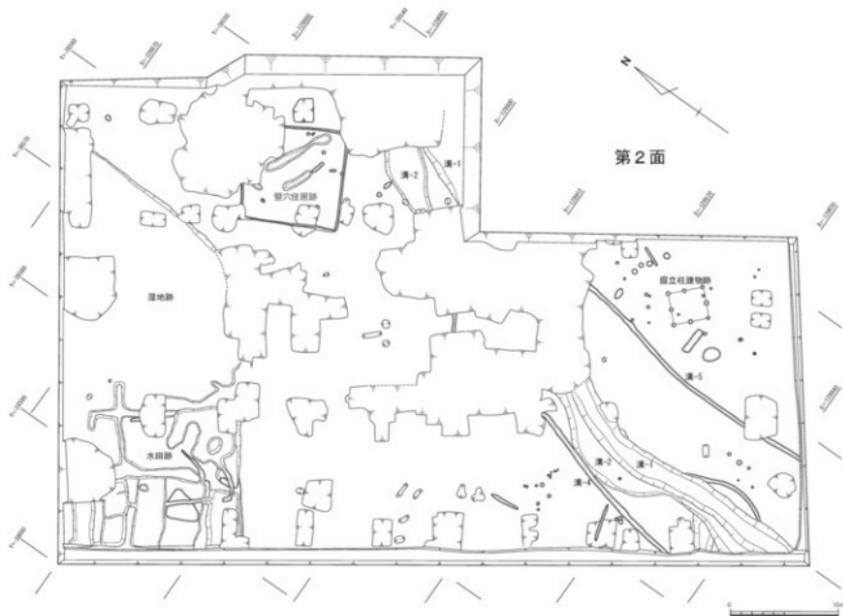
南西壁面



北西壁面



第50図 総持寺遺跡断面図



第51図 総持寺遺跡全体図

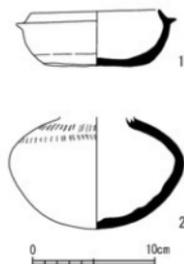


第2面



第3面

第52図 総持寺遺跡全景(南東から)



第53図 総持寺遺跡
出土遺物 (1:4)

間活動の痕跡を探った。検出面では、粗い物質の堆積を、西方からの細かい浮遊物質が覆っている状況が観察できた。遺構は、庄内式併行期と思われる径約 2.5mの井戸状遺構と、幅 2m以上の流路の一部を検出したが、壁面に沿って位置するうえ湧水による崩落のため、詳細は追えなかった。

遺物は、弥生時代後期から中・近世までの遺物が整理箱 6 箱が出土した。大半が古墳時代の土師器・須恵器である。土師器では皿・杯・碗・蓋・高杯・壺・甕など、須恵器では皿・杯・蓋・高杯・椀・壺・甕などがある。

小結 当地において、人間活動に適した地形が形成され、足跡が刻まれるのは、弥生時代後期から庄内式併行期と考えられる。とくに調査区西側の低地は、湿潤で、細粒物質からなる水平堆積が広がり、水田の成立に適したものである。西側の低地と東側の微高地を分つ自然流路である溝・2 は、布留式併行期の段階には廃され、溝・4・5 を従えた溝・1 に置き換えられている。調査区東側では住居域としての土地利用が確立していったようすが伺われる。平成 19 年度調査地においても、古墳時代前期～中期の堅穴住居や古代（奈良時代）の建物が検出されている。そして、中世の段階には、当地も全面が耕作地となったものと判断される。

参考文献

茨木市教育委員会 2005『平成 16 年度発掘調査概報』

茨木遺跡 (IK09-1)

所在地	茨木市大手町 752-5、752-6
開発事業	店舗付きマンション
調査期間	平成 21 年 4 月 7 日～ 平成 21 年 4 月 9 日
調査面積	30.5 m ²
調査担当	宮本 賢治
調査結果	

茨木遺跡は、上泉町・元町・本町・片桐町・宮元町・大手町にかけて広がる、弥生時代から中・近世にかけて営まれた集落跡である。遺跡の範囲は東西約 0.4km×南北約 1km の南北に長く広がりを見せ、その包蔵地面積は約 47 万 4 千 m² を占める。織豊期(16 世紀半ば頃～17 世紀前葉頃)には片桐町・本町・元町を中心に広がる茨木城やそれを核とする城下町が存在した。なお、明治期の街路構造や町並みの形態は、織豊期における町並みが踏襲されていると考えられている。その後、茨木城は 1615(元和元)年に徳川將軍二代目秀忠の発令により一國一城令により、廢城となる。その後は、在郷町となって栄えたとされる。なお、平成 18 年度の調査では、茨木城の濠と考えられる大溝より欄間や建具などが保存の良い状態で出土している。また、本調査地から南に約 50m の地点では平成 8 年度に調査が実施され、黒色土器 A 類、同 B 類や蓮花文軒平瓦(平安時代前期)、近世の土壌からは摺鉢等が出土している。同 13 年度には、瓦製土管列(下水道)や竹樋(上水道)等が見つかっている。

今回は店舗兼マンションの建設に伴い、事前に現地においてトレンチを設定し確認調査を行なった。その結果、近世瓦や摺鉢などでの遺物および遺構を検出した。その後、数度の協議を経て、今回の本発掘調査を実施するに至った。

今回の調査では、近世(17 世紀末～18 世紀代)を



第 54 図 調査位置図



第 55 図 調査区配置図

中心とした生活面を第1遺構面とし、その面を中心に調査を行なった。

基本層序 当地の現地表面は、標高約 8.6m を測る。基本層序については、第1層～第6層に大別する事ができる。上層より順に、第1層、現代の盛土層である。層厚は、概ね約 0.5m を測る。第2層は、オリブ黒色粘性シルト SiCL5Y3/1 にオリブ褐色砂質土 SiL2.5Y4/6 混じる。層厚は、概ね 0.1m を測る。第3層は、黄灰色粘質土 SC2.5Y4/1 に明黄褐色微砂 S2.5Y6/6 混じる。層厚は、平均 0.2m を測るが、調査区の北側では 0.3m の層厚が、また、南側においては 0.1m のそれがみられ、南側にいくにつれ層の堆積が希薄になる傾向がみられる。第4層は、褐灰色砂質土 SCL10YR4/1 に褐色砂質土 SL10YR4/6 混じる。層厚は概ね 0.1m と堆積が希薄であるが、この層からは近世瓦、陶磁器、釘などの遺物が出土している。第5層は、オリブ灰色粘性砂質土 Lie2.5GY5/1 にオリブ褐色微砂 S2.5Y4/6 混じる。第6層は、暗灰黄色微砂に明褐色微砂 S7.5YR5/6 の互層である。湧水が激しかった為、下層まで確認出来なかったが、層厚は概ね 0.1m を測る。この層は、洪水堆積によるものだと考えられる。茨木遺跡の基本層序は、各時代による地業や度重なる洪水、改変等により堆積状況は場所により複雑化しているが、同地ではそのような層の様相は見受けられなかった。

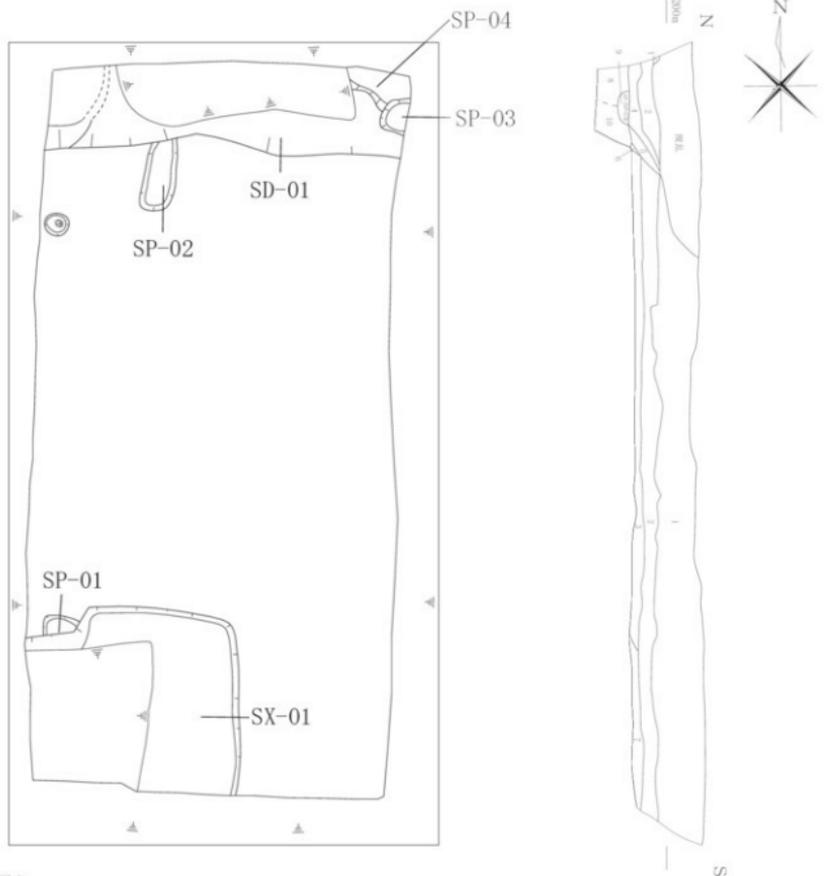
検出遺構 今回の調査では、近世面を中心とした調査を実施した。検出した遺構としては、ピット状遺構 5 基、溝 1 条、不明遺構 1 基である。調査区の北部では、東西方向に走る溝状遺構を 1 条検出しているが、その大半は後世の攪乱にあっており、その詳細は不明である。なお、この溝の北側の肩は調査区外に続いている。また、調査区の南部では、土壌を検出した。この土壌の検出規模は南北約 2m、東西約 1.7m 超えるもので、深度は約 0.3m を測る。深度はほぼ均一的に保っており、平底の様相を示している。なお、全体の形状は調査区外に伸びている事、また後世の攪乱などの要因から捉える事が出来なかったが、南北に長い形状のなるものと推定される。

出土遺物 今回の調査において出土した遺物の量は、遺物収納用コンテナバッド(縦 14×横 36×奥行 56cm)に換算して 1 箱分である。その種類と内訳は、近世瓦、陶磁器、釘などの遺物が出土している。

まとめ 今回の調査では、近世遺構の生活面の様相の一端を垣間みる事が出来た。ここ数年来、茨木遺跡において個人住宅建築に伴う発掘調査が増加傾向にある。今後の周辺での調査および成果に期待したい。

参考文献

- 茨木市 2004 『新修 茨木市史第八巻 史料編 地理』
- 茨木市教育委員会 2006 『平成 18 年度発掘調査概報』



基本層序

1. 盛土
2. オリーブ黒色粘性シルトS1C1.5Y3/1にオリーブ褐色砂質土S1L2.5Y4/6混じる。
3. 黄灰色粘質土SC2.5Y4/1に明黄褐色微砂S2.5Y6/6混じる。
4. 褐灰色砂質土SCL10YR4/1に褐色砂質土SL10YR4/6混じる。
5. オリーブ灰色粘性砂質土LiC2.5GY5/1にオリーブ褐色微砂S2.5Y4/6混じる。
6. 暗灰黄色微砂に明褐色微砂S7.5YR5/6の互層。
7. 黄褐色砂質土SCL2.5Y5/4※植物遺体含む。
8. 黒色粘質土SC2.5Y2/1 ※SP-04遺構埋土。
9. 黄灰色粘質土SC2.5Y4/1※木片含む。
10. 黒色粘質土SC7.5Y2/1※SD-01遺構埋土、木片含む。

第56図 茨木遺跡(İK09-1) 遺構平面図、調査区東壁土層断面図



調査区南部 遺構検出状況 (東より)



調査区北部 遺構検出状況 (東より)

第57図 茨木遺跡(İK09-1) 遺構平面図、調査区東壁土層断面図、遺構検出写真

中条小学校遺跡 (CJ09-1)

所在地 茨木市下中条町 121-5、125-3、125-4
開発事業 マンション新築工事
調査期間 平成 21 年 6 月 1 日～
 平成 21 年 6 月 26 日

調査面積 236 m²
調査担当 宮本 賢治

調査結果

中条小学校遺跡は、新中条町の中条小学校を中心に、南北約 0.8km×東西約 0.4km の西中条町・下中条町・小川町にかけて南北に長細く広がる、弥生時代中期から中世にかけて継続的に営まれた複合遺跡である。

今回の調査地は、中条小学校遺跡のほぼ中央に位置しており、南方には近年小銅鐸が出土した弥生時代前期から中・近世頃にかけての集落である東奈良遺跡があり、北方には弥生時代中期後半から古墳時代後期にかけての住居跡がみられる駅前遺跡が存在する。周辺の既往の調査では、平成 8 年度に当調査区から私道を挟んで南西のところにおいて、マンション建築に伴う調査

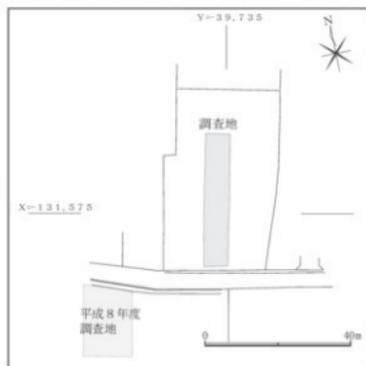
が行なわれている。古墳時代中期頃の堀立柱建物跡を中心とした住居跡や群集墳などの古墳が多く見られる。また、その後の空白時期において平安時代中期から後期頃の黒色土器碗 A 類や同 B 類も出土している。

今回の調査においては、第 1 遺構面では古墳時代中・後期、第 2 遺構面では弥生時代中期頃～庄内併行期の生活面をそれぞれ調査の対象とした。

基本層序 現地表面は、標高約 11.8m を測る。基本層序は、1 層から 7 層まで大別することができる。1 層が盛土層で、調査区の北部では層厚約 0.4m、2 層が旧耕土で、層厚約 0.2m。3 層は、黄褐色粘性シルト SiCL2.5Y5/3 に明黄褐色砂 S2.5Y6/8 混じる。層厚は約 0.2m となる。4 層は、黒褐色砂質土 SL2.5Y3/2 で、層厚は約 0.2m となる。5 層は、黄灰色粘質土 LiC2.5Y4/1 に褐色砂 S10YR4/4 混じる。層厚は、約 0.15m となる。6 層は黄灰色砂質土



第 58 図 調査位置図



第 59 図 調査区配置図

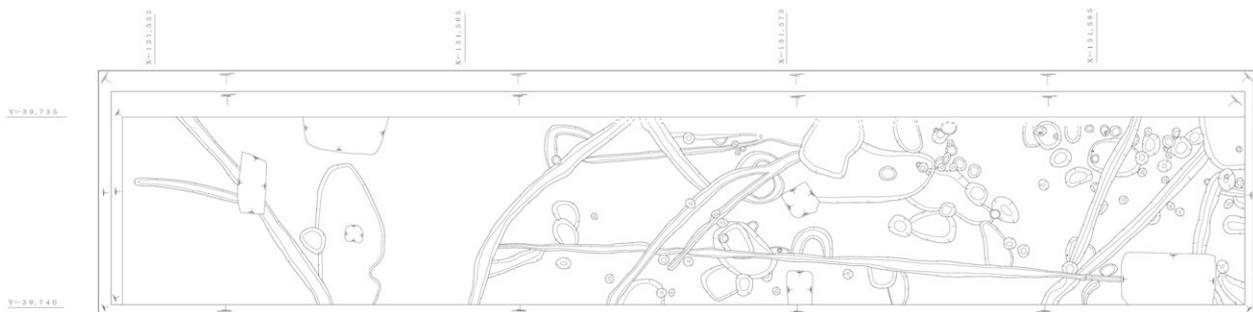
SCL2.5Y6/1に褐色砂S7.5YR4/6混じる。層厚は、約0.15mとなる。7層は、明黄褐色粘質土SC10YR6/8の地山層となる。

検出遺構 第1遺構面

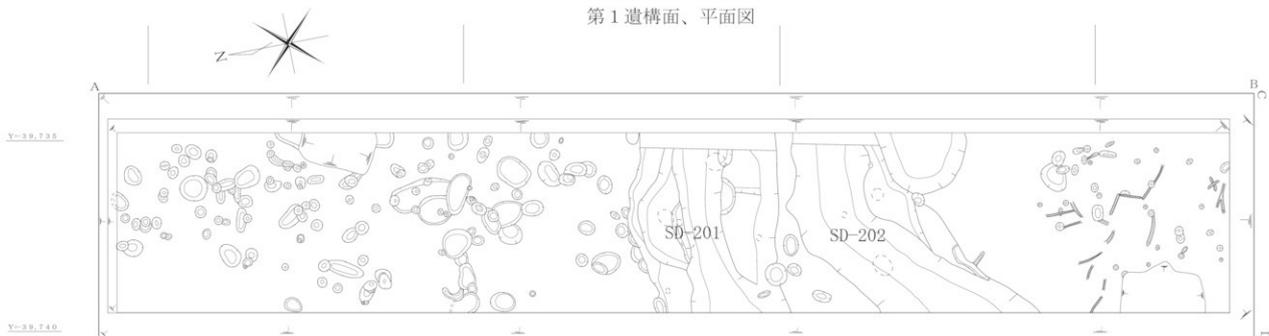
古墳時代中・後期の遺構面を検出した。検出した遺構は、掘立柱建物跡1棟、円形周溝状遺構2条、様相的には、平成15年度と同遺跡調査(CJ04-1)による遺構の性格の類似性が伺われる。その特徴としては、弧状形遺構(4条)、南北に伸びる長い溝(1条)などが挙げられる。なお、円形周溝状遺構については直径1.3mから1.7m程の規模となるが、遺物の出土もほとんどなく時期は不詳である。

第2遺構面

弥生時代中期頃～庄内併行期にかけての時期の遺物・遺構面が検出した。主な遺構は、大溝2条、土壕状遺構1基、ピット状遺構複数基で、そのピット状遺構がその大半である。SD-201の断面形態は上幅約4.2m、下幅約0.6m、深さ約1.1mのU字形の様相を示す。大きく、上層・下層に分ける事ができる。上層では、粗砂層や細砂層がその大半を占有している。前者では、褐色(暗～黒～灰)系統に属する土色が見られ、後者においては同褐色系統であるが、赤色や黄色の土色に属する層がその大半を占有している。ただ、一部に粘土やシルトが混じる。その下層においては、シルト層や粘土砂質土層や細砂層の割合が大きくなる。この大溝は北側肩2段落ちの様相を示しており、断面形態がU字形である事から当遺跡の南に位置する東奈良遺跡の環濠を思わせるものがある。このような規模の大溝は中条小学校遺跡では、初出のものである。また、このSD-201のすぐ南に接するSD-202の断面形態は上幅約5m、下幅約1.7m、深さ約0.5mの逆台形の様相を示す。SD-201と同様、大きく上層・下層に分ける事ができる。この大溝の埋土組成は、一部粘土ブロックの混入が見られるが、そのほぼ全容は粗砂層や細砂で占められている事がSD-201と異なる点である。上層では、粗砂層や細砂層、一部に粗砂礫が見られ、それらの土色は褐色と黄色系統にほぼ占められる。その下層においても、上層同様に粗砂層や細砂層にほぼ二分される。その土色においては、黄色を主体としたものに占められる。こうした砂層を主体とした組成状況からみて、本調査区の東に流れていた元茨木川の旧河道の派川(分流)の水系であった可能性も考えられる。なお、上面で見られた円形周溝遺構が、この最終遺構面では見られなかった。遺構の総数としては、上面とほぼ同数である。柱列として並ぶ遺構が、いくつかみられた。建物跡として、復元されるものは見られなかった。



第1遺構面、平面図



第2遺構面、平面図



基本層序

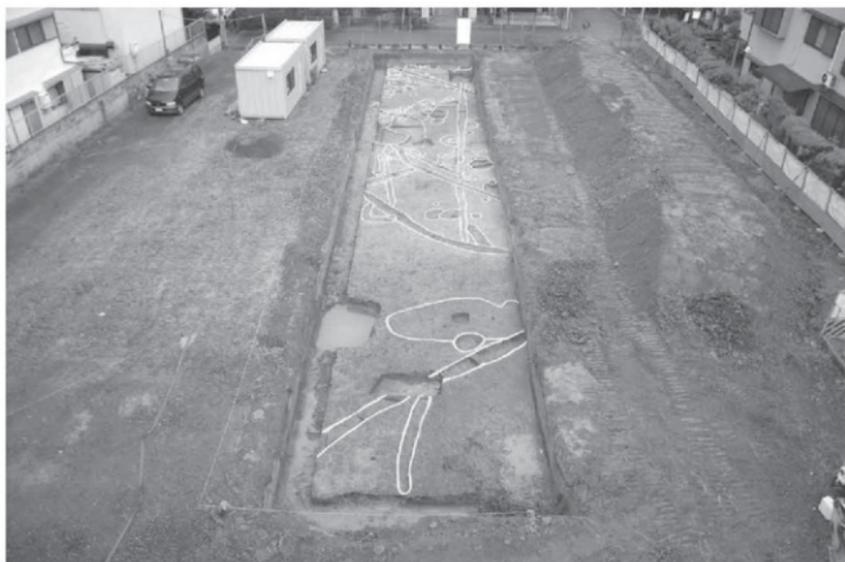
1. 盛土
2. 旧耕土
3. 黄褐色粘性シルトSiCL2.5Y5/3に明黄褐色砂S2.5Y6/8混じる。
※古代一飛鳥時代、遺物包含層。
4. 黒褐色砂質土SL2.5Y3/2
5. 黄灰色粘質土LiC2.5Y4/1に褐色砂S10YR4/4混じる。
6. 黄灰色砂質土SCL2.5Y6/1褐色砂S7.5YR4/6混じる。
7. 明黄褐色粘質土SCI10YR6/8赤地山崩。
8. 黄褐色砂質土SL10YR5/6に褐灰色粗砂S10YR6/1混じる。
9. 灰黄褐色粘性砂質土CL10YR5/2に明赤褐色砂S2.5Y5/8混じる。
10. 灰黄褐色粘質土SCI10YR4/2に灰白色砂S10YR7/1混じる。
11. 黒褐色粘土HC10YR3/1に明赤褐色砂S5YR5/8混じる。
12. 褐灰色粘土SL10YR4/4炭灰を含む。
13. 褐色砂質土SL10YR4/4炭灰を含む。
a. 明褐色砂質土SL7.5YR5/6に灰黄褐色砂質土S10YR5/2ブロック状で含む。
b. 褐色砂質土Li10YR4/6に灰白色細砂S10YR8/2混じる。※マンガン含む。
c. 黄色粘性シルトSiCL5Y7/6に橙色粗砂S7.5YR6/8混じる。※植物遺体を含む。
d. 褐灰色粘質土SCI10YR4/1
e. にぶい黄色砂質土SL2.5Y6/4
f. 黒褐色粘質土SCI10YR3/2に褐色砂S10YR4/6混じる。

- A-1: 明褐色砂質土SL7.5YR7/1※土器片を含む。
- A-2: 暗オリーブ褐色砂質土SL2.5Y3/3※土器片を含む。
- A-3: オリーブ黒色砂質土LSV2/1※土器片、炭含む。
- A-4: 黄褐色粗砂S2.5Y5/6
- A-5(1): 黒褐色砂質土Li10YR3/2に褐色砂S7.5YR4/6混じる。※土器片を含む。
- A-5(2): 暗灰黄色細砂S2.5Y5/2に黄灰色粗砂S2.5Y6/1混じる。※土器片を含む。
- A-6: 灰黄褐色粗砂S10YR4/3※土器片を含む。
- A-7: 灰黄褐色粘性砂質土LiC10YR4/2に灰黄褐色粗砂S10YR6/2混じる。
※庄内式土器片を含む。溝遺構、上層埋土。
- A-8: にぶい黄褐色粗砂S10YR4/3ににぶい黄褐色粗砂S10YR6/4混じる。
※土器片を含む。溝遺構、中層埋土。
- A-9: 黄褐色粗砂S10YR5/6に灰黄褐色粗砂S10YR5/2混じる。
※明黄褐色砂S2.5Y6/6ブロック状で含む。炭混じる。溝遺構、下層埋土。
- A-10: 黒褐色砂質土SL10YR2/3※庄内式土器片を含む。
- A-11: 黒褐色砂質土SL10YR2/2に黄褐色粗砂S10YR5/8混じる。※庄内式土器片を含む。
- A-12: 灰黄褐色粗砂S10YR6/2に褐色粗砂S10YR4/6混じる。
- A-13: 黒褐色粘性砂質土SCL10YR3/2に褐色粗砂S7.5YR4/6混じる。
- A-14: 明オリーブ灰色砂質土LS2.5G7/1に明黄褐色粗砂S10YR6/8混じる。※粗砂混じる
- A-15: 褐灰色粘性砂質土SCL10YR6/1に明黄褐色粗砂S10YR6/6混じる。
- A-16: 黒褐色粘性シルトSiC10YR3/2に黄褐色細砂S10YR5/6混じる。
- B-1: にぶい黄褐色砂質土LiC10YR7/2※植物遺体を含む。



- C-1: にぶい黄褐色粘土HC10YR5/4に暗赤褐色砂S5YR3/6混じる。※マンガンを含む。
- C-2: にぶい黄褐色粘土HC10YR5/4に褐灰色砂質土ブロックLS10YR5/1混じる。
- C-3: 灰黄褐色粘土HC10YR4/2※炭を含む。
- C-4: 灰黄褐色粘性シルトSiCL10YR5/2に明褐色砂S7.5YR5/6混じる。
- C-5: 赤灰色粘土HC2.5YR4/1に黄褐色砂質土ブロックLS10YR5/6混じる。
- C-6: 灰褐色粘土HC7.5YR5/2に明褐色砂S7.5YR5/8混じる。
- C-7(1): 褐灰色粘土HC5YR4/1に暗赤褐色砂S5YR3/6混じる。※植物遺体を含む。
- C-7(2): 褐灰色粘土HC5YR4/1にオリーブ粘土ブロックHC5Y5/6混じる。
- C-8: 褐灰色粘土HC5YR5/1に暗褐色砂質土ブロックSL7.5YR3/3、
褐色粘土ブロックHC7.5YR6/6含む。
- C-9: 黄褐色粘土HC2.5Y5/4に橙色粗砂S7.5YR6/8混じる。
- C-10: 褐灰色粘性シルトSiCL7.5YR5/1に明褐色砂S7.5YR5/8混じる。
- C-11: 褐灰色粘性砂質土SCL7.5YR5/1に明褐色砂S7.5YR5/8混じる。※マンガンを含む。
- C-12: 灰黄褐色粘性砂質土SCL10YR4/2に黄褐色砂質土ブロックLi10YR7/8混じる。
※植物遺体を含む。
- C-13: 黒褐色粘性砂質土SCL10YR3/2に褐色細砂S10YR4/6混じる。
- C-14: 褐色粘土SCL10YR4/4に明赤褐色砂S5YR5/8混じる。
a. 灰黄色粗砂S2.5Y6/2に明黄褐色粗砂S2.5Y6/8混じる。

第60図 中条小学校遺跡(CJ09-1) 調査区平・断面図(第1・2面)



第1遺構面 完掘状況（北から）



第2遺構面 完掘状況（北から）

第61図 中条小学校遺跡(CJ09-1) 遺構完掘状況



第2遺構面 SD-201 完掘状況全景（西から）



第2遺構面 SD-202 完掘状況全景（東から）



第2遺構面 SD-201・202 完掘状況全景（南東から）

第62図 中条小学校遺跡(CJ09-1) 遺構完掘状況

中条小学校遺跡 (CJ09-4)

所在地	茨木市下中条町451
調査原因	マンション新築工事
調査期間	平成21年9月7日～ 平成21年10月22日
調査面積	約80㎡
調査担当	関 梓
調査結果	

位置と環境 中条小学校遺跡は茨木市の中央部、千里丘陵から派生した低位段丘と茨木川が形成した沖積地に位置し、中条小学校を中心に南北約1km、東西0.4mの広さを有する弥生時代中期から中世にかけての複合遺跡である。

今回の調査地は、中条小学校遺跡の北側に位置する。

本調査地周辺の既往の調査では、昭和61年度発掘調査において弥生時代後期の溝・井戸、古墳時代後期の溝が検出されている。また、調査地東側での平成10年度発掘調査では、古墳時代前期

初頭の溝・土坑が検出され、土器が出土している。本調査地の北側では、平成7年度発掘調査で弥生時代の遺構が検出され、平成11年度調査においては古墳時代前期の遺構が検出されている。

このように、本調査地周辺では弥生時代から古墳時代にかけての遺構や遺物が多数確認されている。

本調査地においても、試掘調査を行った結果、現地表面から約90cm掘り下げたところで遺構を検出し、遺物が出土したことから本調査を実施するにいたった。

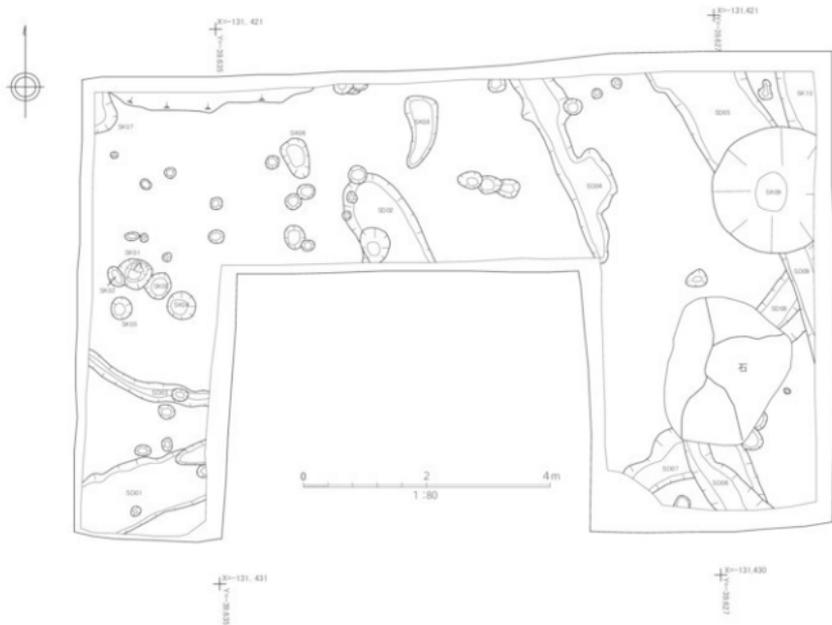
調査区は、当初、当時のマンション中庭部分において、新築マンションの建物部分にあたる南北9.5m、東西12.5mを設定した。しかし、現地においては隣接地との境界や既存の建物・立木などといった配慮すべき点が多く、安全面の問題から当初の予定よりも狭い、南北8m、東西12mを調査する事になった。

調査方法は、重機を使用できないことから、すべてを人力により掘削を行い、土置き場を確保するため調査区を東西で反転調査を行った。

また、調査区の南側中央には巨木があり、既存建物との関係から、現状では木の伐採が不可能なため、木の周囲南北3m、東西5mの範囲については、建物解体後の木の伐採時に立会調査をおこなうこととなった。立会調査時においては、木の根による視乱が著しく、遺構や遺物は確認されなかった。

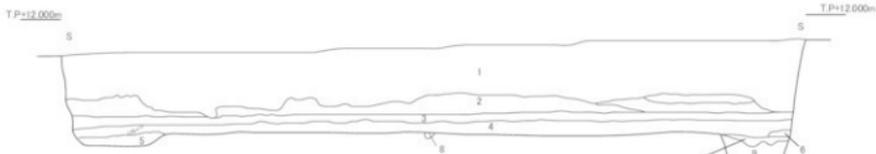


第63図 調査位置図

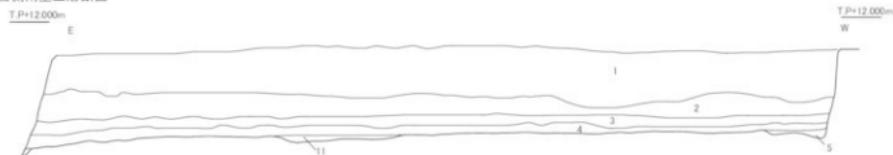


第64図 中条小学校遺跡(CJ09-4) 第2遺構面平面図

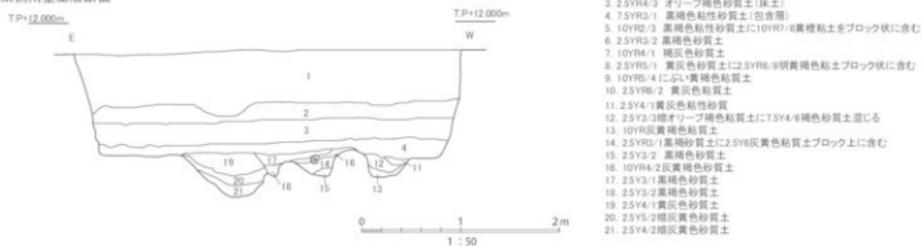
西壁土層断面



西側南壁土層断面



東側南壁土層断面



1. 盛土
2. 10YR4/1 褐色砂質土(印綑作土)
3. 2.5YR4/3 オリーブ褐色砂質土(埴土)
4. 7.5YR2/1 黒褐色粘性砂質土(包含層)
5. 10YR2/3 黒褐色粘性砂質土に10YR7/8黄褐色粘土をブロック状に含む
6. 2.5YR3/2 黒褐色砂質土
7. 10YR4/1 褐色砂質土
8. 2.5YR5/1 黄灰色砂質土に2.5YR6/8明黄褐色粘土ブロック状に含む
9. 10YR5/4 に5Y4黄褐色粘質土
10. 2.5YR6/2 黄褐色粘質土
11. 2.5Y4/1黄灰色粘性砂質
12. 2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘質土に7.5Y4/6褐色砂質土混じる
13. 10YR4黄褐色粘質土
14. 2.5YR2/1黒褐色砂質土に2.5Y6/8灰黄色粘質土ブロック状に含む
15. 2.5Y2/2 黒褐色粘質土
16. 10YR4/2灰黄褐色砂質土
17. 2.5Y3/1 黒褐色砂質土
18. 2.5Y3/2 黒褐色砂質土
19. 2.5Y4/1黄灰色砂質土
20. 2.5Y5/2暗灰黄色砂質土
21. 2.5Y4/2暗灰黄色砂質土

第65図 中条小学校遺跡(CJ09-4) 調査区断面図(S=1/50)

基本層序 現地表面はT.P. + 11.7mをはかる。上層から第1層が現代盛土であり層厚約45cmをはかる。第2層は旧耕作土層であり、層厚約25cm。第3層は灰黄色土層で層厚10cm、上面で第1遺構面を検出した。第4層は暗褐色粘質土層であり、層厚15cmで弥生時代後期～中世の遺物を含む包含層である。第5層は明黄褐色粘質土層であり、上面で第2遺構面を検出した。これより下層においては遺構や遺物を確認できなかつた。

検出遺構 (西側調査区)

第1遺構面では灰黄色土層上面において南北にはる数条の鋤溝を検出した。第1面の時期は出土した遺物などから中世～近世に相当するものと考えられる。

次に、第2遺構面では明黄褐色粘質土(地山)上面において東西にのびる溝2条(SD01・SD03)、土坑・柱穴を複数検出した。主な遺構について以下に記述する。

SK01は、調査区の中央付近に位置する土坑であり、南北約60cm、東西約50cm、深さ約35cmをはかる。西側部分はSK02と重複している。SK01からは、弥生時代後期の手焙形土器がほぼ完形の状態で出土した。遺構の埋土などを詳細に調べたが炭化物などは確認できなかつた。

SK02は、南北約30cm、東西約20cm、深さ約25cmをはかる。SK01の西側部分と一部重複している。

SK04は、南北約45cm、東西約45cm、深さ約30cmをはかる。

SD03は、東西にはる溝であり、南北幅約20cm、深さ約30cmをはかる。

第2遺構面の時期は、遺構内から出土した遺物などから、おおむね弥生時代後期に属するものと考えられる。

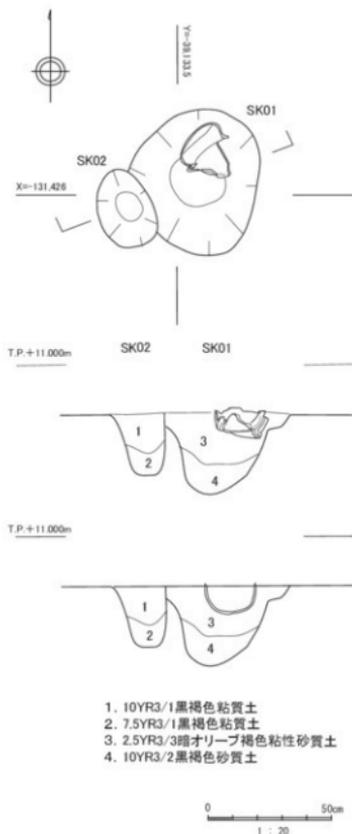
(東側調査区)

西側調査区と同様に灰黄色土層上面において南北にはる鋤溝を複数条検出し、第1遺構面とした。時期は西側調査区と同じく中世～近世に相当するものと考えられる。

第2遺構面では、第5層の明黄褐色粘質土上面において、土坑1基(SK09)と、複数条の溝やピットを検出した。

SK09は、南北約2m、東西約1.7m、深さ約25cmをはかる。遺構埋土には多くの遺物が含まれており、弥生土器片、中世の羽釜や瓦器などが出土している。

これら東側調査区の遺構の時期については、出土遺物などから西側調査区の第2遺構面と同じく



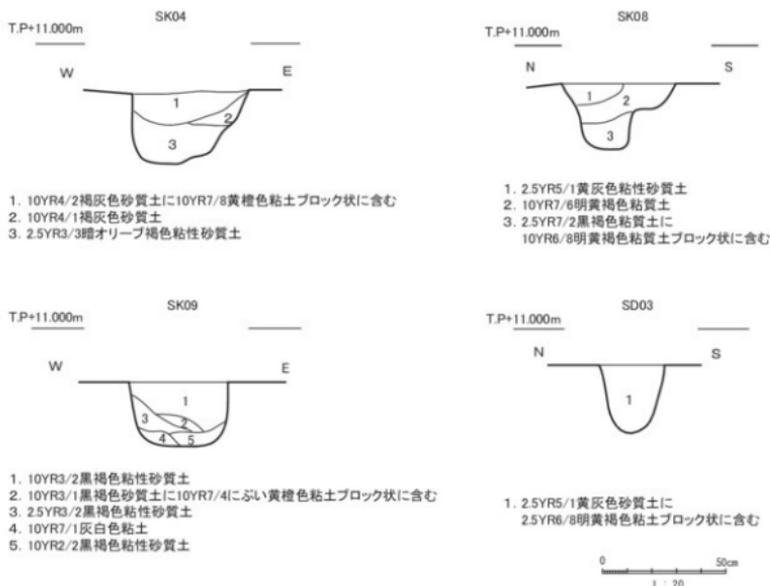
第66図 SK01平面・断面図

大半が弥生時代後期に相当すると考える。しかし、東側中央部に位置する土坑(SK09)は、弥生時代後期の溝を切る形で掘削されており、遺構埋土から出土した土器の時期などから、中世の遺構であると考えられる。

出土遺物 出土遺物は東西調査区をあわせて、コンテナ6箱分である。その大半は、暗褐色粘質土層(遺物包含層)からの出土である。出土遺物の内容は、弥生土器の甕・壺・高杯などが非常に多く、他に須恵器片なども若干みられるが量的には少ない。特に注目すべきは、西側調査区よりほぼ完形に近い状態で手焙形土器が出土したことが上げられる。

第1面などからは瓦器碗や土師器片、瓦などが出土している。以下、遺物の詳細を述べる。

1～4までは、SK09からの出土遺物である。1は弥生土器の壺の口縁である。口径13.2cm、残存高4.0cmをはかる。内外面ともにナデ調整を施す。時期は弥生時代後期(摂津VI)に相当する。2は弥生土器の壺か甕の底部である。底径5.6cm、器高4.2cmをはかる、内面は磨耗が著しく調整が不明瞭であった。外面はタタキを施した後に板ナデを施している。時期は弥生後期(摂津VI)である。3は、黒色土器A類である。外面口径14.8cm、器高4.5cmをはかる。内外面には丁寧なミガキ調整が施され、口縁端部には炭化物が付着していた。時期は10世紀前半と想定される。4は、羽釜の口縁



第67図 中条小学校遺跡(CJ09-4) 遺構断面図

である。口径26cm、残存高が4.0cm。内外面ともに丁寧なナデ調整がなされている。時期は15世紀頃のものである。

5は、SK01からの出土した、手培り形土器である。口径19.2cm、底径3.2cm、器高20.8cmをはかる。調整は、剥離が著しいことから内外面ともに不明瞭であるが、覆い部分には四条の沈線が施されている。時期は弥生時代後期(摂津VI)に相当する。

6は、SK07から出土した、弥生土器の壺の底部である。底径5.6cm、残存高4.8cmをはかる。内面はナデ調整、外面は磨耗が著しく調整が不明瞭である。時期は弥生時代後期(摂津VI)に相当する。

7～11まではSK10からの出土遺物である。7は、弥生土器の壺の口縁である。口径12.6cm、器高4.2cmをはかる。内面はナデ調整、外面はミガキが施される。時期は弥生時代後期(摂津VI)に相当する。8は、弥生土器の甕の口縁である。口径14cm、器高3.2cmをはかる。内面はナデ調整、外面はタタキが施される。時期は弥生時代後期(摂津VI)に相当する。9は、弥生土器の高杯である。口径23.4cm、残存高5cmをはかる。内外面ともにナデ調整が施される。時期は弥生時代後期(摂津VI)に相当する。10は、弥生土器の鉢である。口径18.4cm、残存高4.2cmをはかる。調整は磨耗が著しく不明瞭である。時期は弥生時代後期(摂津VI)に相当する。11は、弥生土器の高杯もしくは鉢である。口径12.2cm、残存高4.7cmをはかる。内外面ともに調整は磨耗が著しく不明瞭である。時期は弥生時代後期(摂津VI)に相当する。

12は、SP1から出土した弥生土器の壺である。口径9.2cm、残存高5.8cmをはかる。内外面ともにナデ調整が施され、内面には粘土紐の接合痕が明瞭に残る。時期は弥生時代後期(摂津VI)に相当する。

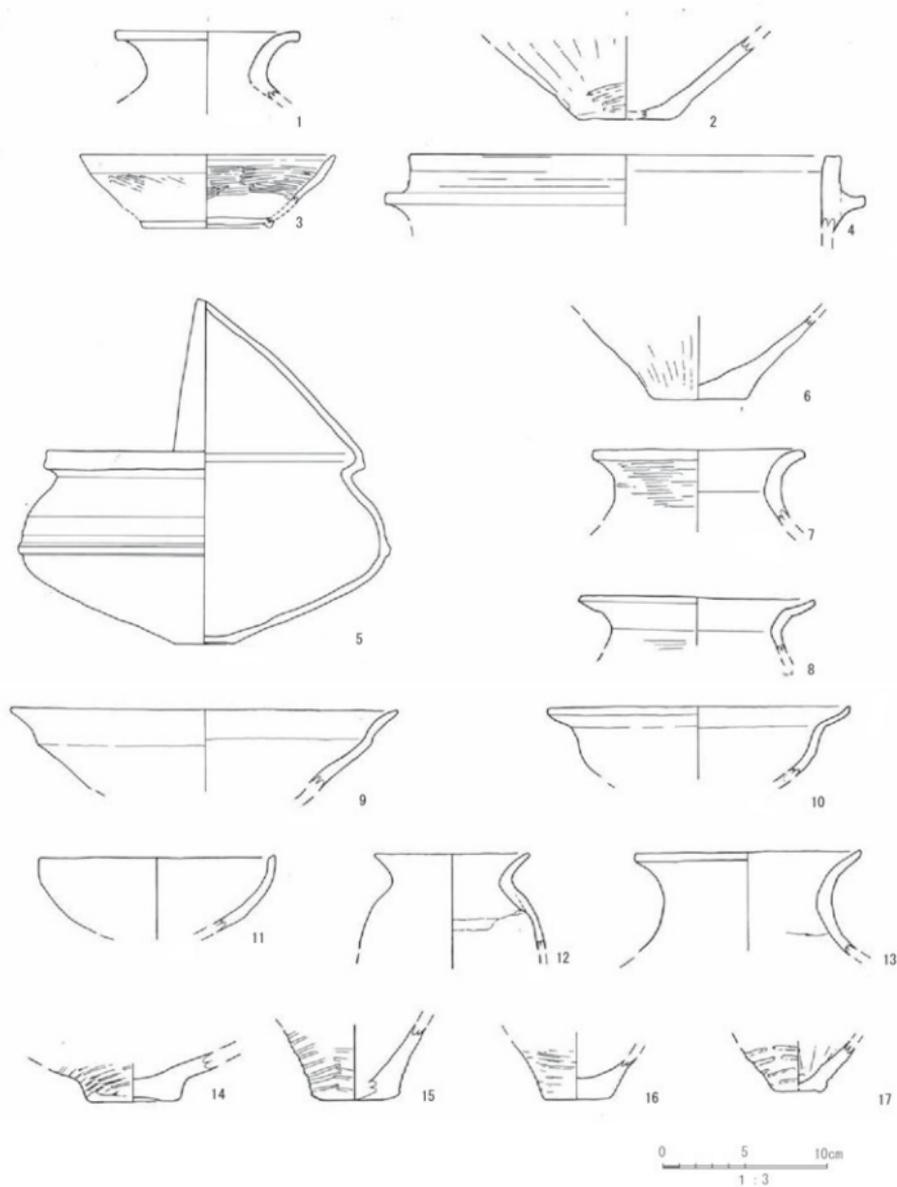
13～17は、暗褐色粘質土(遺物包含層)からの出土である。13は、弥生土器の壺である。口径13.6cm、残存高7.6cmをはかる。内外面ともにナデ調整が施され、頸部内面には粘土紐の接合痕が残る。時期は弥生時代後期(摂津VI)に相当する。14は、弥生土器の甕の底部である。底径5cm、残存高2cmをはかる。内面はナデ調整、外面はタタキを施す。時期は弥生時代後期(摂津VI)に相当する。15は、弥生土器の甕の底部である。底径5cm、残存高4.2cmをはかる。内面はナデ調整、外面はタタキを施す。時期は弥生時代後期(摂津VI)に相当する。16は、弥生土器の甕の底部である。底径4cm、残存高3.5cmをはかる。内面はナデ調整、外面はタタキを施す。時期は弥生時代後期(摂津VI)に相当する。17は、弥生土器の甕の底部である。底径3cm、残存高3cmをはかる。内面はナデ調整、外面はタタキを施す。時期は弥生時代後期(摂津VI)に相当する。

まとめ 今回の調査においては、旧耕作層土直下において南北に走る鋤溝などを第1面として検出し、その下層において遺物を多量に含む暗褐色の遺物包含層を確認した。また、包含層の直下の地山面では弥生時代後期の遺構を多数確認できた。

今回の調査成果は、範囲が狭小であるため限定されたものであるが、中条小学校遺跡の弥生時代の様相を知る上で貴重な成果である。

参考文献

- 茨木市教育委員会 1987 『昭和61年度発掘調査概報Ⅱ』
- 茨木市教育委員会 2000 『平成11年度発掘調査概報』
- 茨木市教育委員会 2006 『平成17年度発掘調査概報』



第68図 中条小学校遺跡(CJ09-4) 出土遺物実測図(S=1/3)



東側調査区遺構検出



西側調査区遺構検出



東側調査区遺構完掘



西側調査区遺構完掘



西側調査区 SK01 手埴り土器出土状況



第69図 中条小学校遺跡(CJ09-4) 発掘調査写真

茨木遺跡

所在地 茨木市片桐町 1222
調査原因 保育園増築工事
調査期間 平成 21 年 9 月 24 日～30 日
調査面積 約 270 m²
調査担当 中東正之
調査結果

経過 茨木遺跡は、元茨木川と安威川に挟まれた氾濫平野に立地している。元茨木川沿いに築城された茨木城の城下町として成立した、中世～近世の町場を主体とする遺跡である。その範囲は、北から上泉町・東宮町・片桐町・本町・宮元町・元町・大手町にかけての、南北に約 1Km、東西約 0.45Km に広がり、現在も近世在郷的景観を残す地域である。発掘調査は、平成 2 年度より遺跡の南側を中心に実施され、平成 8 年度の大手町の調査では、茨木城総構えの一部ではないかとされる堀などが検出されている。平成 18 年度の本町の調査では、茨木城東堀と推定される位置において、流路から格式の高い一括建具が出土するなど、茨木城に直接関係するとみられる遺構・遺物が検出され、注目されている。本調査地は、城郭中心部推定範囲から北東の方向に位置する真知山妙徳寺の敷地である。同寺は、河尻秀長が代官として茨木城に入城した 1593 年(文禄 2 年)、日応が開基した日蓮宗寺院である。調査は、西側の市道に面した境内地で営まれている保育園の建て替えに伴うものであり、創建時の妙徳寺に係る施設の検出が予想された。

遺構・遺物 旧園舎は、昭和 40 年に建設された RC 二階建でありながら、木製杭(松杭)による地盤改良が用いられていた。これは相当の含水地盤であることを示す。そのため、親杭横矢板工法による土留めを用いて掘り下げた。現地表面は標高約 11.3m を測る。上層より、近・現代盛土層(約 1.0m)、締まりのわるい灰白色砂質土(約 0.1m)となる。これらを除去すると、やや安定した青灰色砂質土(約 0.15m)が広がっており、その上面を検出面とした。検出面以下は、北壁沿いの断ち割りによる確認である。上層より、緑灰色粘質シルト(約 0.2m、やや土壌化)、明青灰色シルト(約 0.2m、顕著なラミナ)、暗灰色粘質シルト(0.2～0.4m)、漸移層(約 0.1m)、黒色砂礫混腐植質粘質シルトとなる。検出面は標高約 10.0m を測る。検出遺構は、中世末から近世の流路、溝、井戸、竹管水道、土壇、柱穴などである。尚、調査区東側約四分の一は深く破壊されていた。



第 71 図 茨木遺跡調査区配置図



第 70 図 茨木遺跡調査地位置図

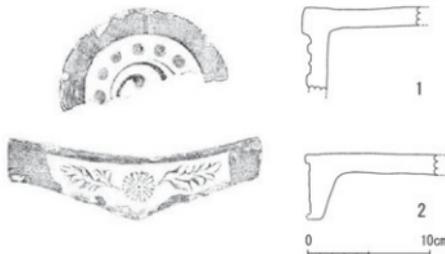
溝-1は、南北掘割状の溝であるが、流

路で切られているため、検出長は約7mにすぎない。西肩口は検出されていないが、底面は幅1.2～2.0mの平坦面を呈し、東肩に沿っては側溝状に窪みが続いている。深さは1.0mを測る。西肩も一旦の立ち上がりみせるが、また平坦面を得て調査区外に至るため、全形は不明である。埋土は10層ほどで、大きく上下に2分される。外側(西側)から掘り込まれたように堆積する上層には、火災の整理とみられる炭化物が集積する間層があるが、とくに地業は施されておらず、重複する柱穴等もなかった。遺物は、備前すり鉢・甕、羽釜、土師皿、平瓦・丸瓦などで、江戸時代初期までの遺物が主体と考えられる。下層は、東肩から底面にかけて堆積する。遺物はほとんど出土せず、わずかに16世紀に遡るとみられる備前すり鉢と丸瓦が出土している。流路は、調査区の南半を占め、調査区外に至るため、肩口の検出と一部断面観察にとどめた。幅6.5m以上、深さ1.0m以上の規模を持つ、東西方向の流れである。埋土は最上層のみ掘削したが、17世紀中葉頃の大濃唐津丸碗、すり鉢、肥前染付、瓦質羽釜、平瓦・丸瓦などが出土している。井戸-1は、径約1.0mを測る。井戸枠として径0.7mの桶が設置されているが、検出面から上端が露出した状態で検出されている。壺形の掘削はしなかったが、枠の上端から0.21m下に竹管が接続され、南側の水道の会所へと延びている。枠内には、明治時代の岸辺瓦や灰木瓦をはじめ多量の近・現代遺物が投入されていた。これらを除くと、美濃錆軸灯明受皿・丸皿、染付、平瓦・丸瓦・右棧瓦などが出土した。土壌-1は、東西約2.5m、南北3.0m、深さ0.4mを測る不整形で、ゴミ廃棄坑と思われる。17世紀後半頃の大濃胎丸碗・鉄軸碗、備前すり鉢、18世紀の肥前染付碗、平瓦・丸瓦・軒平瓦(2)・軒丸瓦(1)などが出土した。竹管水道は、流路埋設後に布設されたものである。幅0.15～0.3m、深さ0.3～0.4mの溝内に会所と継ぎ手で接続されており、接合面には白色粘土の目張りがなされている。検出長は東西約13mで、会所からの分岐は4.0m北側の井戸-1に向かって延びている。幾度かの修繕をうけており、同じ溝内、もしくは重複する溝内には用を廃した竹管が残されている。意外なことには、旧園舎の基礎が竹管を避けるように打たれており、昭和40年代においてもその存在が意識されていた可能性がある。

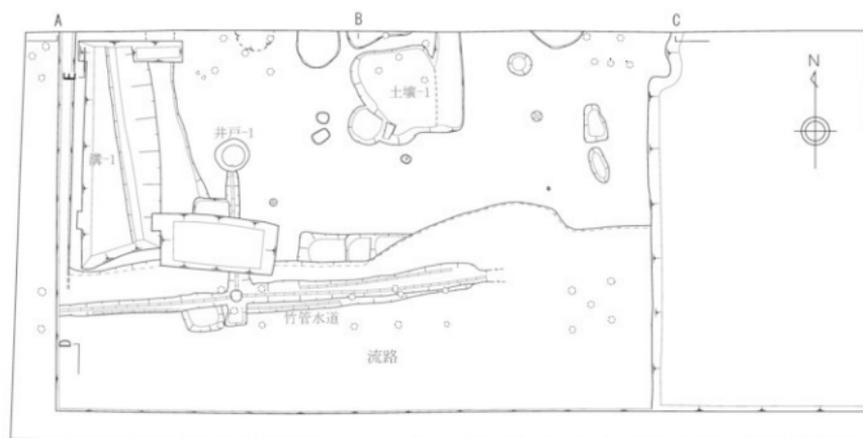
出土遺物は、中世後半から近世の土器・陶磁器類、瓦類であり、江戸時代以降の国産日常雑器類や平瓦・丸瓦・棧瓦が主体となる。混入遺物として、古墳時代の須恵器や平安時代中期の土師器が出土している。遺物の多くが攪乱によって近・現代層とも混在しており、一括性を示す遺物も少ないため、遺構との関連が捉えにくいものであった。

小結 今回の発掘調査によって判明したことは、城下町形成以前、当地は長らく灰木川の後背湿地であったが、洪水運搬物により徐々に埋積する。この地形変化に伴って、人間活動が安定した段階に至り、町場が形成されていったと考えられる。しかし、記録によると近世以降も水の脅威はかわらず、とくに天井川化の進行する灰木川の治水に苦労したようすが伺える。また、溝-1については、織豊期から江戸初期と考えられ、妙徳寺創建時の掘削もしくは、それ以前の灰木城総構えに属する遺構の可能性がある。

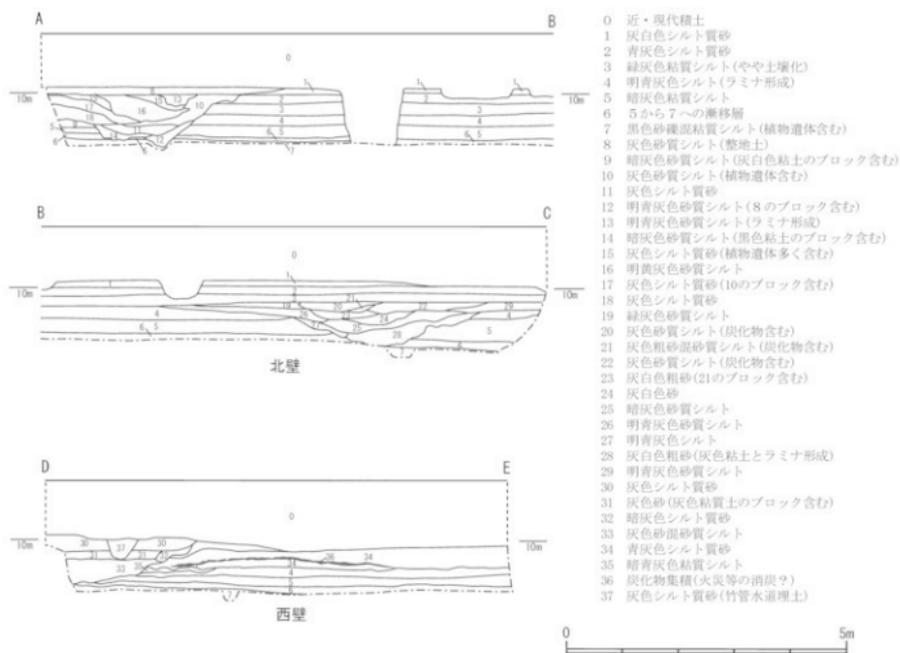
参考文献
 灰木市教育委員会 2007
 『平成18年度発掘調査概報』



第72図 灰木遺跡・出土遺物(1:4)



第73図 茨木遺跡全体図



第74図 茨木遺跡断面図



遺構面全景 (西から)



竹管水道検出状況 (北から)



溝-1 完掘状況 (南から)



土壇-1 完掘状況 (西から)

第75図 茨木遺跡遺構面状況

中条小学校遺跡 (CJ09-5)

所在地 茨木市下中条町 54-2、54-3
 開発事業 マンション新築工事
 調査期間 平成 21 年 9 月 28 日～
 平成 21 年 12 月 17 日

調査面積 236 m²
 調査担当 宮本 賢治
 調査結果

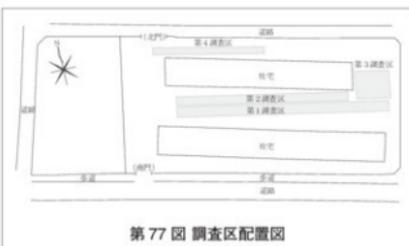
中条小学校遺跡は、新中条町の中条小学校を中心に、南北約 0.8km×東西約 0.4km の西中条町・下中条町・小川町にかけて南北に長細く広がる、弥生時代中期から中世にかけて継続的に営まれた複合的な集落遺跡である。地形的には、同地の西側の洪積層から成る千里丘陵から伸びる低位段丘と、茨木川が形成した沖積面に立地する。周辺の既往の調査では、調査地の西隣りで平成 18 年度に社員寮建築に伴い事前に調査が行われた。その時の調査では、弥生時代後期頃のものと考えられる竪穴住居跡や円形周溝状遺構が 2 条、井戸状遺構 1 基が検出された。また、古墳時代中期頃の掘立建物跡を中心とした住居跡や群集墳などの古墳が見られる。また、その後の空白時期において平安時代中期から後期頃の黒色土器碗 A 類や同 B 類も出土している。調査地の南方には当遺跡と接する形で、近年小銅鐸が出土した弥生時代前期から中・近世頃にかけての集落跡である東京良遺跡があり、北方には弥生時代中期後半から古墳時代後期にかけての住居跡がみられる駅前遺跡が存在する。

今回の調査においては、第 1 遺構面では奈良時代～平安時代頃にかけての生活面を、第 2 遺構面では弥生時代後期頃～古墳時代前期初頭頃にかけての生活面をそれぞれ調査の対象とした。

基本層序 当地の現地表面は、標高約 9.9m を測る。調査区の基本層序は、1 層から 12 層まで大別する事ができる。なお、層序は比較的残存状況も良く情報を一番得られやすい、東西約 70m の距離をもつ第 1 調査区を基準とすることにした。上層より第 1 層は、現代盛



第 76 図 調査地位置図



第 77 図 調査区配置図

土層の層厚約 0.6m(調査区西部)～2.2m(同区東部)、第2層は、旧耕土の褐色粘土 HC10YR5/1 に褐色細砂粒 S10YR4/6 混じり炭、微量に含むもので層厚約 0.15m、第3層は、暗オリーブ灰色粘性砂質土 SCL5GY4/1 に明オリーブ灰色細砂 S2.5GY7/1 混じるもので層厚約 0.1m、第4層は、灰オリーブ色粘質土 SC7.5GY5/3 に淡黄色粗砂粒 S7.5Y8/3 混じるもので層厚約 0.1m、第5層は、オリーブ色粘性シルト SiCL5Y6/8 に浅黄色細砂 S5Y7/3 混じるもので層厚約 0.1m、第6層は灰オリーブ色粘性シルト SiCL5Y5/3 にオリーブ色細砂 S5Y6/8 混じり土器細片含むもので層厚約 0.1m、第7層はオリーブ褐色粘質土 SCL2.5Y4/3 に黄褐色粗砂 S2.5Y5/6 混じり土器細片含むもので層厚約 0.15m、第8層は暗灰黄色粘土 SC2.5Y4/2 に暗褐色細砂粒 S10YR3/4 混じりシルト質、微量に含むもので層厚約 0.15m、第9層は黄褐色粘性シルト SiCL2.5Y5/4 に黄灰色粗砂 S2.5Y6/1 混じるもので層厚約 0.1m、第10層は褐色粘土 HC10YR5/1 に褐色細砂粒 S10YR4/6 混じり炭、微量に含むもので層厚約 0.2m、第11層は褐色粗砂質土 SCL10YR5/1 に、にぶい黄橙色細砂粒 S10YR7/2 混じるもので地山層となる。第12層はオリーブ褐色粘質土 SC2.5Y4/6 に灰白色粘性シルトブロック SiCL2.5Y7/1 含むもので地山層となる。以上の事から、調査区の旧地形は西から東にかけて傾斜していることが分かった。調査地の最終遺構面(地山)の標高は、調査区の西端で T.P.+10.4m、東端で T.P.+8.6m を測り、比高差は約 1.8m となる。なお、調査区の西端から約 5m～6m 付近にかけて T.P.+9.6m を測り急傾斜の様相をみせており、そこからは東に向かって緩傾斜の地形の様相を呈している。

検出遺構・出土遺物 第1遺構面では奈良時代～平安時代頃にかけての遺物やピット状遺構、柱穴、土坑、溝などを、第2遺構面では弥生時代後期頃～古墳時代前期初頭頃にかけての生活面を検出した。第1遺構面は、調査区の北西に位置する第4調査区の東半部(Y=39.360 付近)から東南下して、第2調査区、第1調査区東部(Y=39.340 付近)を境にして西側では遺構は検出されず、東側では数多くの遺構を検出した。西側では建造物の痕跡が全くみられなかったことから、広場的な利用がなされていたのではないかと考えられる。また、第2遺構面からはピット状遺構、柱穴、溝、井戸状遺構などを検出した。なかでも、井戸状遺構が3基(第1調査区内)、東西方向に並んで約 50m の範囲内で検出している。なお、第1調査区内で検出した SD-201 からは畿内VI様式の扁球形の体部をもつ無文系の広口壺や SD-203 からは弥生時代後期頃～古墳時代前期初頭頃にかけての壺等が出土している。



第1調査区東部、第1遺構面検出写真（西より）



第1調査区西部、第1遺構面検出写真（西より）



第2調査区、第1遺構面検出写真（東より）



第2調査区（写真、左上）と第3調査区（同、右下）
第1遺構面検出状況（南東より）



第2調査区、第1遺構面検出写真（東より）



第4調査区、第1遺構面検出写真（東より）

第81図 中条小学校遺跡(CJ09-5) 第1遺構面、検出写真

玉櫛遺跡 (TK09-1)

所在地 茨木市玉櫛二丁目332-3
調査原因 地域生活総合支援センター
 建設工事
調査期間 平成21年12月1日～
 平成22年3月31日
調査面積 1216.62㎡
調査担当 関 梓
調査結果

位置と環境

玉櫛遺跡は、茨木市の南東部、茨木川左岸の後背湿地に位置する。遺跡の範囲は、南北250m、東西300mをはかる、弥生時代中期から中世にかけての複合遺跡である。本調査地は、玉櫛遺跡の北東部に位置する。

この地域は西に茨木川、東に安威川という二つの河川にはさまれており、古くから両河川の河川氾濫と悪水滞留の被害に悩まされた地域であり、本調査地においても南西部に南北にはしる大きな自然流路を確認した。

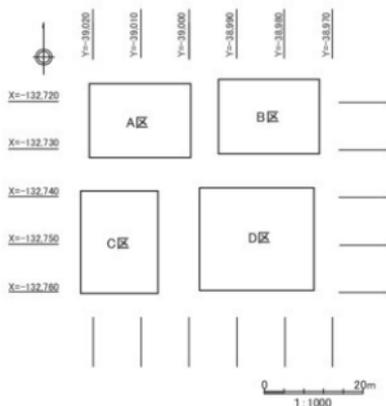
今回の発掘調査は、福祉施設の建設に伴い試掘調査がおこなわれ、中世の遺物包含層や遺構を確認したことから発掘調査が行われることになった。本調査では、建築される4棟の建物ごとに、北西から順にA区からD区までの4区に分けた。発掘調査は反転調査で行い、最初に西側のA区・C区の調査を行い、その後、東側のB区・D区の調査を行った。

玉櫛遺跡は、平成2年に大阪府営住宅の建て替えに先立って試掘調査において中世や古墳時代の遺物が発見され、府営住宅一帯が玉櫛遺跡として周知されることになった。その後、平成3年、平成4年度に大阪府教育委員会により発掘調査がおこなわれ、平成7年から平成13年の間に㈱大阪府埋蔵文化財センターによって4次にわたり発掘調査がおこなわれた。

玉櫛遺跡では、大阪府教育委員会による調査で6世紀の杭列が検出され、10世紀代の水田跡、



第 83 図 調査地位置図



第 84 図 調査区配置図

遺跡の西側には南東方向の自然流路も確認されている。また、12世紀から14世紀にかけての水田や建物、屋敷墓などが検出されている。鯛大阪府埋蔵文化財センターによる平成7年・平成8年度の調査においても、同様に10世紀から11世紀代の水田跡を検出し、11世紀末以降になると掘立柱建物などからなる集落が確認された。この集落は14世紀中葉にかけて連続と営まれ、15世紀以後になると集落の場所が移動し耕作地となることが確認されている。平成12年・平成13年度の調査では、6世紀末から7世紀にかけての掘立柱建物が検出された。また、10世紀代の土師器や黒色土器A類、瓦などが一定量出土したことから、仏教関係施設の存在が指摘されている。その後、11世紀中ごろから13世紀後半まで集落が確認されており、中でも13世紀初頭の黄軸鉄絵盤や尊勝寺と同形の軒平瓦、仏具とされる遺物が出土し、基壇状遺構なども検出されている。これらの点から有力寺院の存在が想定されている。平成18年の発掘調査では、6世紀中葉の馬骨、木製鞍(前輪)が出土している。また、他の調査地と同じように10世紀代の条里制水田、11世紀後葉、12世紀前葉から13世紀前葉、13世紀中葉から15世紀前葉の集落関係の遺構が検出されている。

基本層序

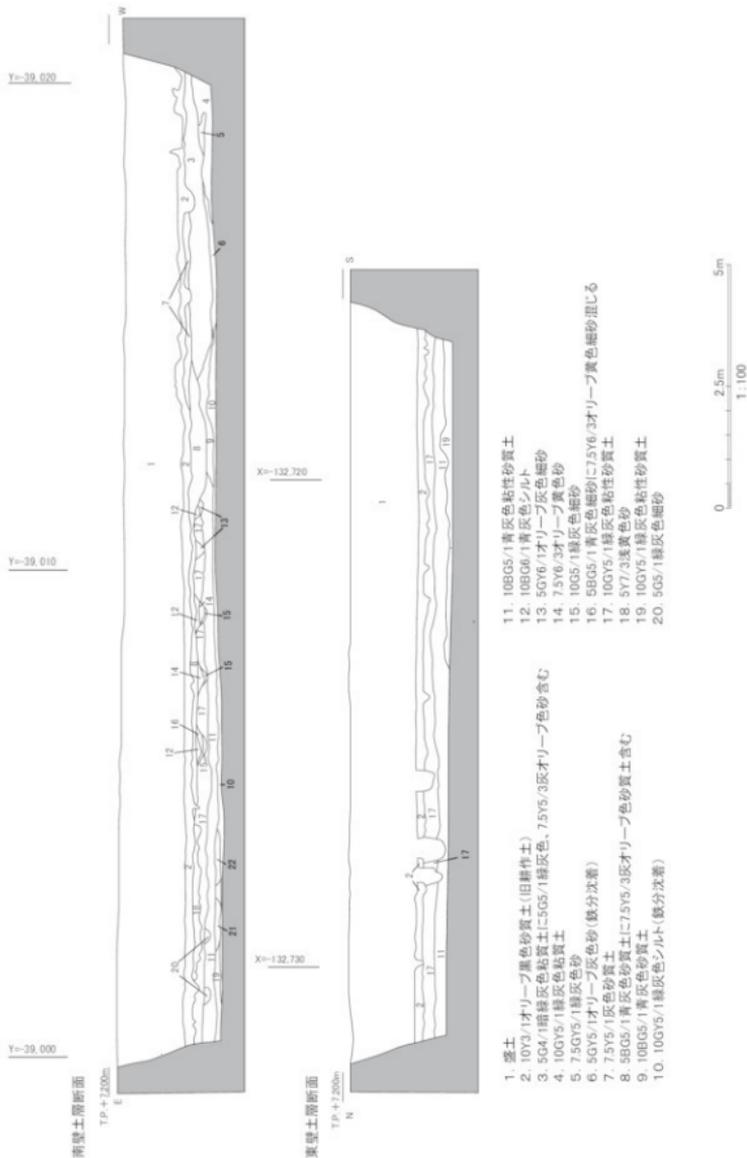
本調査地では、4区(A～D区)に分けて調査をおこなった。建築物の基礎の掘削深度より現地表面から-1.75mまでの範囲を調査対象とした。しかし、調査地は元府宮住宅跡地であり、府宮住宅解体時に当時の現状地盤からさらに盛土が行われており、現地表面の標高差は地区により最大で0.5mの高低差が生じていた。このため、標高からみると掘削した高さに多少の差異が生じ、結果として地区によって掘削深度に差が生じるようになった。以下、地区ごとに層序を見ていく。

A区は、現地表面の標高は約7.0mである。第1層が現代盛土(層厚約135cm)。第2層が旧耕地(層厚約15cm)。第3層が10GY5/1緑灰色粘性砂質土(層厚約10cm)、この層の上面で南北に走る鋤溝を確認し第1面(近世末から近代)を検出とした。第4層が10BG5/1青灰色粘性砂質土(層厚約20cm)。第5層が10GY5/1緑灰色シルト・鉄分沈着(層厚約20cm以上)。この層の上面で第2面(14世紀後半)を検出した。

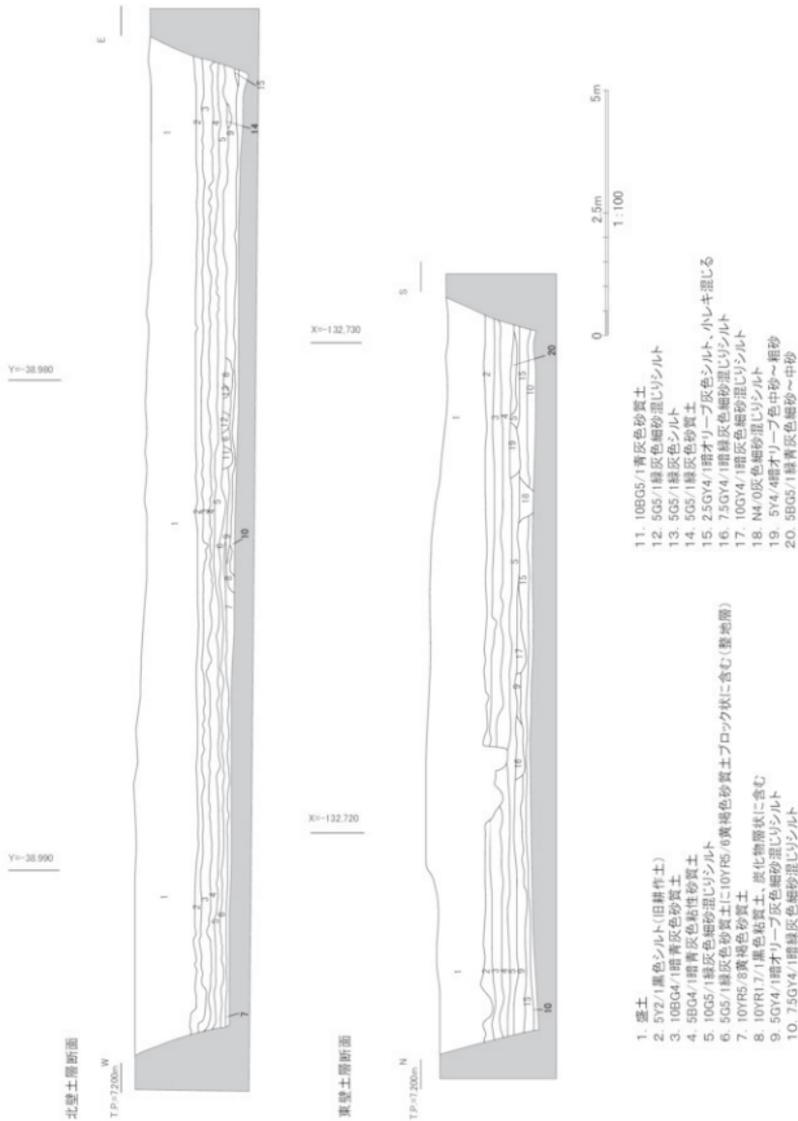
B区は、現地表面の標高は西側で約7.0m、東側で約6.5mをはかる。第1層が現代盛土(層厚約80～120m)。第2層が旧耕地(層厚約15cm)。第3層が10BG4/1暗青灰色砂質土(層厚約20cm)、上面で南北方向の鋤溝からなる第1面(近世末～近代)を検出した。第4層が5BG4/1暗青灰色粘性砂質土(層厚約20cm)、上面で第2面(14世紀後半)を検出した。第5層が10G5/1緑灰色細砂混じりシルト(層厚約15cm)、上面で第3面(14世紀前半)を検出した。第6層は5GY4/1暗オリーブ灰色細砂混じりシルト(層厚15cm)、上面で第4面(13世紀後半)を検出した。

C区は、現地表面の標高は約6.8mをはかる。第1層が現代盛土(層厚約110cm)。第2層が旧耕地(層厚約15cm)。第3層が10GY4/1暗緑灰色粘性砂質土(層厚約10cm)、江戸時代の曲物井戸を検出した。第4層は、5BG6/1青灰色粘土(層厚約15cm)、自然流路を検出した。時期は13世紀から14世紀に相当する。

D区は、第1層が現代盛土(層厚約120cm)。第2層が旧耕地(層厚約15cm)。第3層が5G4/1暗緑灰色粘質土に灰オリーブ色砂質土ブロック状に含む(層厚約20cm)。上面で南北方向の鋤溝を確認し第1面(近世末～近代)と確認した。第4層が2.5GY6/1オリーブ灰色粘性砂質土に7.5YR5/8明褐色砂質土ブロック状に含む(層厚約15cm)。上面で第2面(14世紀後半)を検出した。第5層がN5/0灰色極細砂(層厚約15cm)、上面で第3面(14世紀前半)を検出した。第6層が10GY5/1緑灰色細砂(層厚約10cm)、上面で第4面(13世紀後半)を検出した。

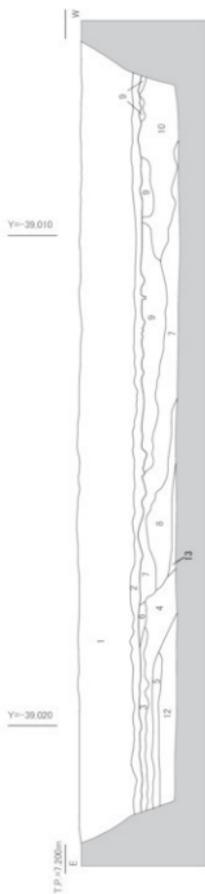


第85図 A区土層断面

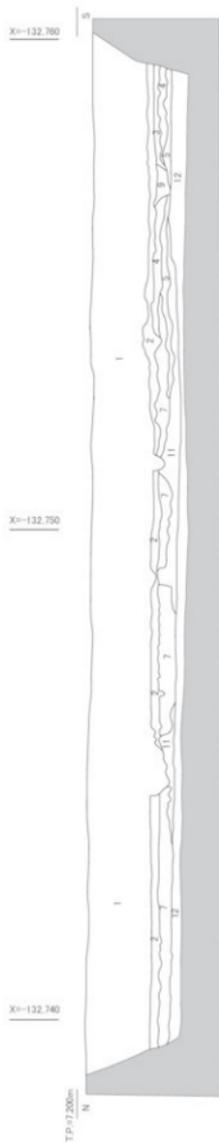


第86図 B区玉櫛遺跡(TK09-1) 土層断面(S=1/200)

南壁土層断面



東壁土層断面



1. 盛土
2. 10YR2/1黒色粘性砂質土(旧耕作土)
3. 7.5Y5/1灰色砂質土に7.5Y5/8明褐色砂質土(鉄分沈着)が混じる
4. 2.5Y6/1黄灰色細砂(7.5YR6/8褐色細砂がラミナ状に混じる)
5. 5YR5/6明赤褐色砂(鉄分沈着)
6. 10YR4/1褐灰色砂質土(ラミナ多り)に7.5YR5/8明褐色砂含む

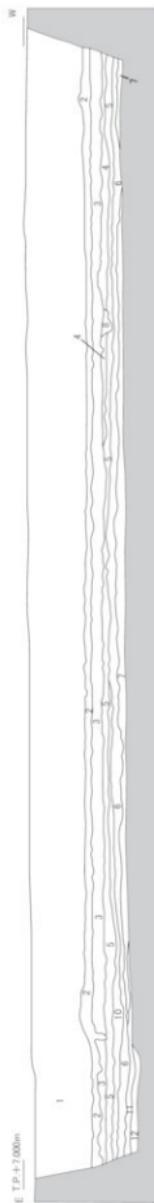
7. 10GY4/1暗黒灰色粘性砂質土
8. 10YR5/1緑灰色砂質土
9. 10GY種灰色シルト
10. 2.5Y6/3にふい黄色砂質土
11. 2.5Y6/1黄灰色粘性砂質土に10YR5/6黄褐色粘性砂質土含む
12. 5B/G6/1青灰色粘質土
13. 10B/G5/1青灰色粘質土

第87図 C区土層断面

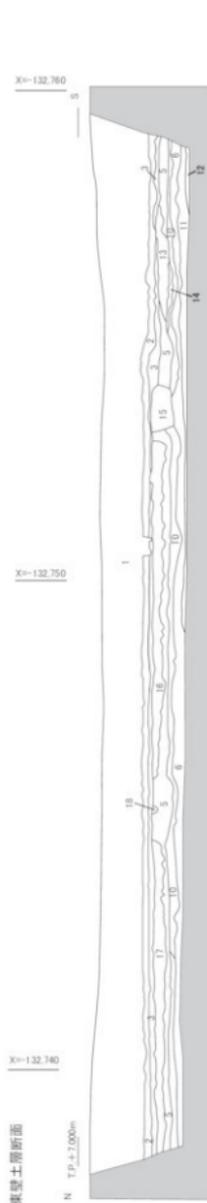
Y=38,990

Y=38,990

南壁土層断面図



東壁土層断面図



13. 2.5Y6/4に多い黄褐色(中砂～粗砂)
14. 2.5Y6/1黄褐色粘質土に7.5YR/4(柱状砂ブロック状)を含む
15. 10YR/8黄褐色(中砂～粗砂)、土取り跡を埋めた砂鉄分沈着
16. 10YR/8黄褐色(中砂～粗砂)、土取り跡を埋めた砂鉄分沈着
17. 5Y6/2オリーブ色砂(中砂～粗砂)、土取り跡を埋めた砂鉄分沈着
18. 5Y6/1灰色粘性砂質土

1. 盛土
2. 7.5Y2/1黒色粘性砂質土(旧層粘土)
3. 5G4/1暗褐色粘質土に7.5Y/6オリーブ色砂質土ブロック状を含む
4. 7.5Y4/1暗褐色シルト(細砂混じる)
5. 2.5Y6/1オリーブ灰色粘性砂質土に7.5YR/8明褐色砂質土ブロック状を含む
6. NS/0灰色粘質砂
7. 10G5/1暗灰色細砂
8. 5Y6/1暗褐色に10YR/8細砂混じる
9. 5Y6/2オリーブ色砂(細砂～中砂)
10. 2.5Yオリーブ灰色粘性砂質土に10YR/6褐色砂が混じる。
11. 10Y4/1灰色シルト
12. NS/1灰色極細砂混じりシルト

0 2.5m 5m
1:100

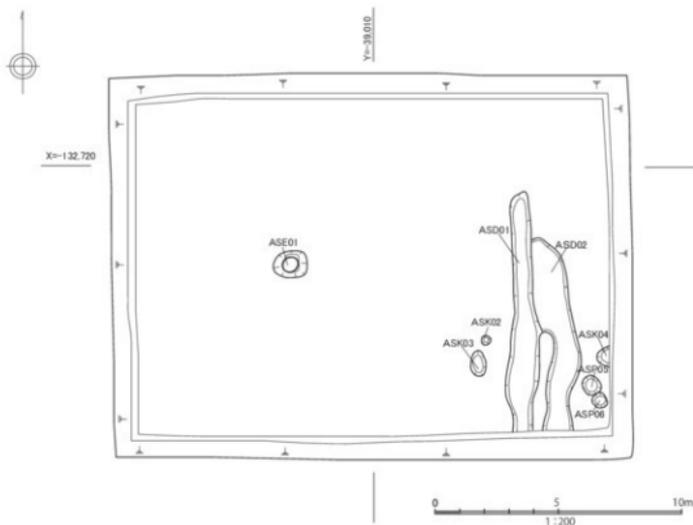
第88図 D区土層断面図

【A区】

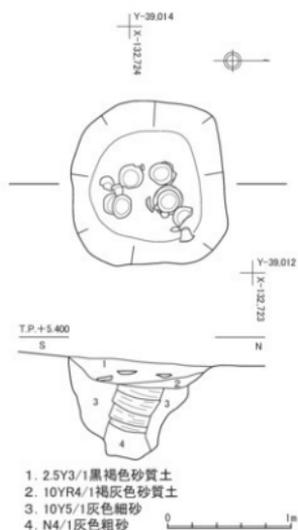
検出遺構

A区は、本調査地の北西部に位置する調査区である。調査区は、南北15.5m、東西20.9mをはかる。第1面は、T.P.+5.5mをはかる。遺構は南北に走る鋤溝を検出した。この面は旧耕土直下の層であり、遺構検出時に出土した遺物類も陶磁器片などが主体であったことから、近世末から近代の遺構であると考えられる。第2面は、T.P.+5.2mをはかる。検出した遺構は、調査区中央部に井戸(ASE01)を、東部に溝(ASD01・02)、土坑(ASK02～06)を5基検出した。

井戸(ASE01)は南北1.2m、東西1.3m、深さ約55cmをはかる(第90図)。井戸底部には曲物の井戸枠(径約35cm)が残っていた。この井戸は、試掘坑の中央に位置し遺構の上層は試掘調査時に掘削されていた。井戸の埋土内からは土師皿が一括廃棄された状態で出土しており、井戸廃絶時に何らかの儀式が行われたと考えられる。この井戸の廃絶した時期は出土した遺物などから14世紀後半に相当する。溝(ASD01・ASD02)は、調査区東部に南北にはしる。ASD01は幅50cm、深さ10cm。ASD02は幅50cm、深さは5cmである。溝ASD02と重複し溝ASD01が存在し、溝ASD02廃絶後溝ASD01を新たに設けた可能性も考えられる。土坑(ASK01～ASK05)は、ASK02は径40cm、深さ7cmをはかる。ASK03は径70cm、深さ10cmをはかる。ASK04は径75cm、深さ8cmをはかる。ASK05は径70cm、深さ10cmをはかる。ASK06は径30cm、深さ10cmをはかる。土坑の埋土はいずれも灰色砂質土であった。第2面は、井戸(ASE01)から出土した土器の時期などから14世紀後半に相当すると考えられる。検出した遺構の深さが全体に浅く、後世の整地などにより削平を受けていると考えられる。



第89図 玉櫛遺跡(TK09-1) A区第2面平面図



第90図 A区井戸(ASE01)土師皿出土状況

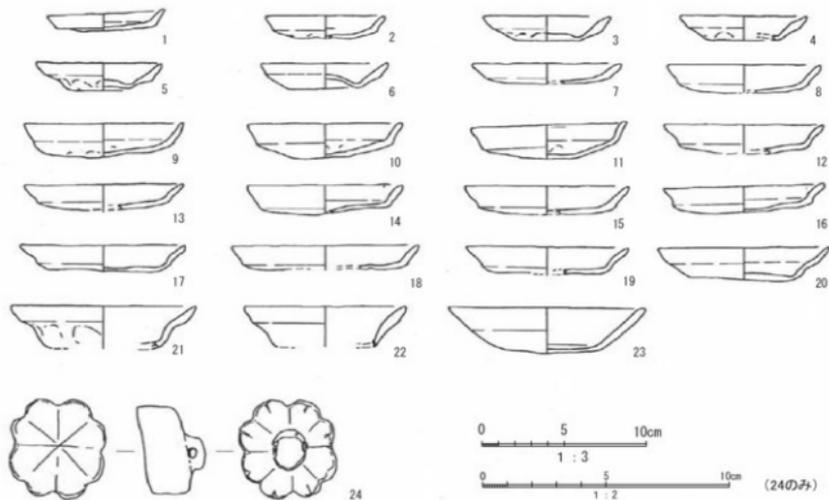
出土遺物(図93-1~24)

A区からの出土遺物の大半が井戸(ASE01)からの出土である。井戸(ASE01)からは総数にして約23枚の土師皿が出土した(図91-1~23)。土師皿は、ほぼ完形に近い状態で出土した。出土した土師皿には中皿と小皿があり、時期は14世紀中頃から後半に相当する。

これら土師皿は、一括で廃棄された様相を呈していたことから、井戸の廃絶に際して祭祀が行われたと考えられる。

このような事例は、茨木市域では平成17年度の春日遺跡の調査においても確認されている。春日遺跡における井戸の時期は、今回の事例よりも古く11世紀頃となるが土師皿を井戸廃絶時に一括廃棄した状態で出土しており、このように井戸を埋める際に土師皿を用いた祭祀が当時広く行われていたものと考えられる。

この他の出土遺物としては、第2面掘削時に包含層から、花形を模した石製品(図91-24)が出土している。全体として調整が粗く、未加工の部分も存在することから未成品であると思われる。滑石



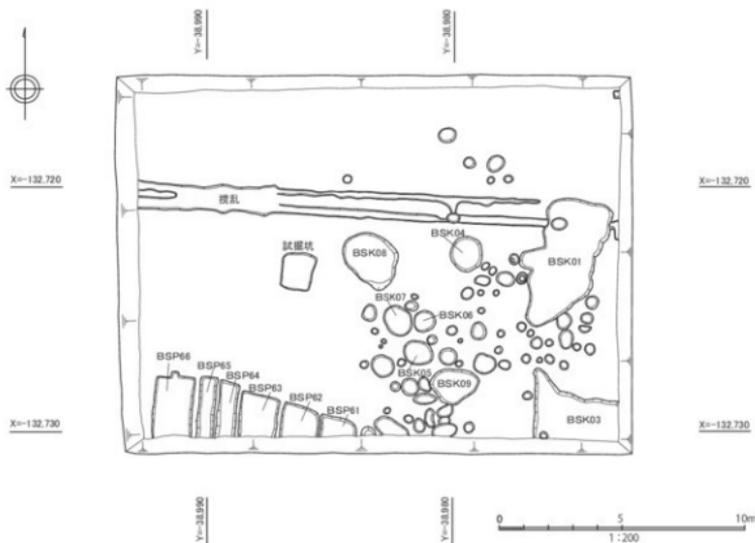
第91図 玉櫛遺跡 A区出土遺物実測図(S=1/3)

製で中央につまみがあり、小さな穴が穿たれていることから、紐をかけて使用するものと考えられるが、用途は不明である。

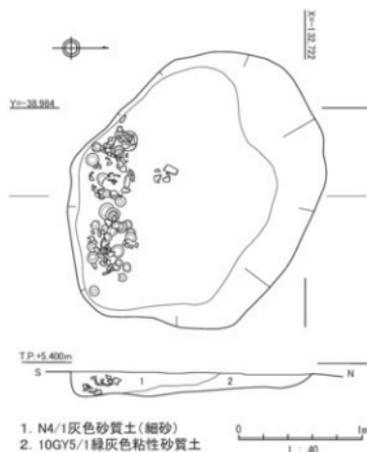
【B区】

検出遺構

本調査地の北東に位置する調査区である。調査区の広さは、南北15.5m、東西20.9mをはかる。B区では、第1面から第4面までの遺構面を確認した。以下、上層から順に述べる。第1面は、T.P.+5.5mをはかる。旧耕土直下の第3層上面で確認した。検出した遺構は南北方向の鋤溝であり、出土遺物には染付などの陶磁器など含まれることから近世末から近代の遺構であると考えられる。第2面はT.P.+5.3mをはかる、第4層の上面で確認した。遺構としては土坑やピットを検出した。以下、主要な遺構の詳細を述べる。土坑(BSK01)は、南北5m、東西3m、深さ12cmをはかる。調査区東側に位置する不定形の土坑である。この土坑からは土師皿や瓦器椀が出土した(図99-25~31)。土坑(BSK07)は、南北1.3m、東西1.0m、深さ22cmをはかる。調査区中央に位置し、土師皿や瓦器椀が出土した(図99-32~35)。土坑(BSK08)は南北3.3m、東西2.3m、深さ20cmをはかる(第93図)。調査区中央に位置し、この土坑からは土師皿が一括廃棄された状態で出土した(図99-36~120)。土師皿の総数は70枚を数える。出土した土師皿はおおきく中皿と小皿に分けられる。土師皿の時期はおおむね14世紀中頃から後半におさまる。これら土師皿は何らかの儀礼に用いられたのち、一括で廃棄されたものと考えられる。調査区の南東隅には大きな不定形土坑BSK05が存在する。また、調査区の南西隅には南北に細長い長方形土坑(BSP61~BSP66)を検出した。これら長方形土坑は、遺構の南北長は不明であるがいずれも幅は約1.5mであり、深さは約10cmと浅く、ほぼ平行して位置している。遺構埋土はいずれも粗砂であった。その中のBSP63からは灰軸陶器の破片(図100-123)が出土している。これら長方形の土坑群は、南側に位置するD区においても検出し、土坑の軸がず



第92図 玉櫛遺跡(TK09-1) B区第2面平面図



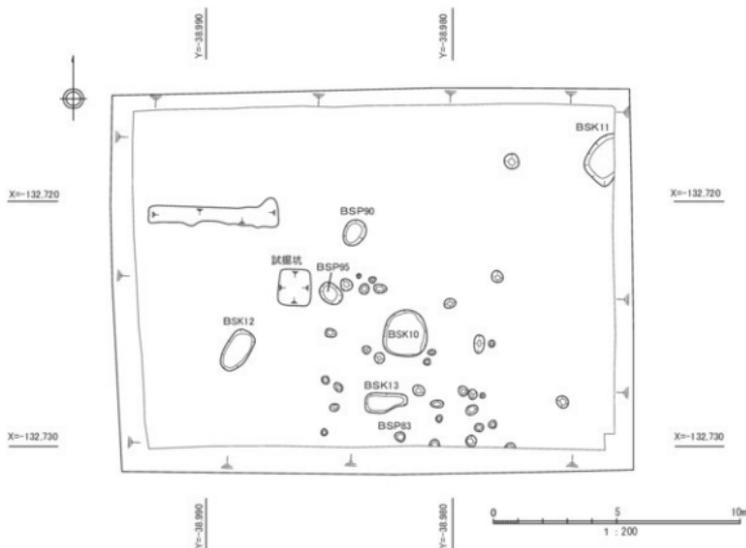
第93図 B区第2面BSK08平面・断面図

(BSK12)は、調査区南西に位置する南北に長軸をもつ楕円形の土坑である。南北1.6m、東西1.1m、深さ12cmをはかる。土坑(BSK13)は調査区中央南側に位置する東西に細長い楕円形の土坑である。

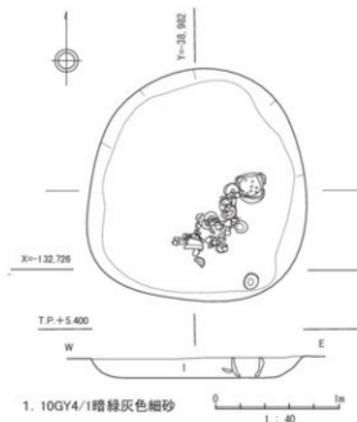
べて平行に並んでいることから一連の遺構であると考えられる。この他にもピットや土坑などの遺構を調査区南東部を中心に検出した。第2面の時期については、遺構から出土した遺物の時期などから14世紀後半に相当するものである。

第3面は、T.P.+5.1mをはかる。第5層上面で確認した。検出遺構としては土坑(BSK10～BSK13)を4基、ピット(BSP83・90・95)を中心に数多くのピットを検出した。以下、詳細をみていく。

土坑(BSK10)は、調査区中央に位置する南北1.9m、東西1.7m、深さ20cmをはかる円形の土坑である。中から土師皿や瓦器碗・白磁片などが一括で出土した(図100-124～157)。この遺構の下層からは焔炉が正置された状態で出土しており(図101-158)、遺構の性格を考えるうえで参考となる(図95)。土坑(BSK11)は、調査区北東隅で検出した遺構である。遺構の一部は側溝にかかるが南北2m、東西1.2m、深さ5cmと全容は判明する。土坑



第94図 B区第3面平面図(S=1/200)



第95図 第3面BSK10平面・断面図

の礎石と考えられる石列、柱穴、等間隔で並ぶ礎石列などを検出した。特に水路状遺構を中心とする付近の遺構は、計画的に配置されており屋敷跡の可能性が高いと考えられる。時期はおおむね13世紀後半に相当し、この時期は既往の調査においても遺物量が豊富な時期であり、中世の玉櫛遺跡における活発な集落活動を伺うことができる。以下、遺構の詳細を順に述べる。

建物1は、調査区の中央に位置する。南北2.5m、東西5mをはかる。礎石立ちの建物である。



第96図 玉櫛遺跡(TK09-1) B区第4面平面図

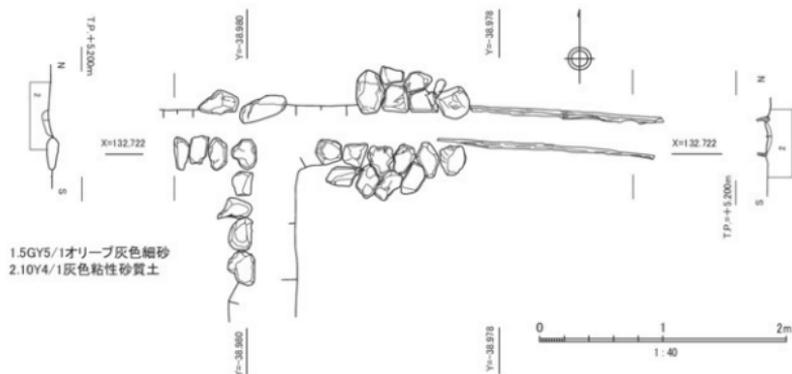
石列A～Cは、調査区中央の南側、建物1の南側に北からA・B・Cとほぼ平行に配置されている。それぞれの石列の長さは約2m、約20cm四方の川原石が10～20cm間隔で配置されていた。建物の礎石と比べてもひとまわり小さい河原石が用いられており、遺構の性格は不明である。この石列付近からは、土師皿や瓦器碗、青磁、白磁などが出土した(図102 - 181～226)。

石列Dは、調査区中央西側、建物1の北西を囲むかたちで位置し、南北9.5m、東西6mをはかる。南側については調査区の外に延びる可能性も考えられる。用いられている河原石の大きさは約30cmである。石列の方向が建物1の軸と並行していることから、建物1に付属する構築物である可能性が考えられる。

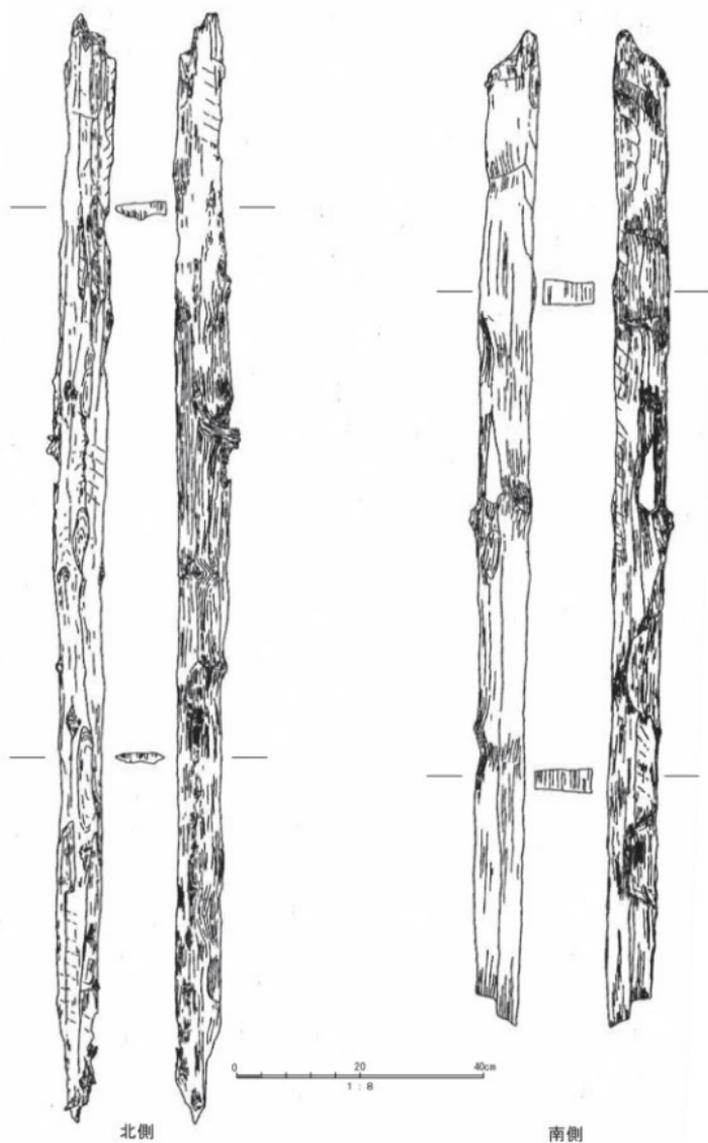
水路状遺構は、調査区東側に位置し、東西に伸びる形で配置されていた(図97)。東西約7.5m、南北3mをはかる。西側に川原石を水路の側壁として配置し、東側は木材を用いて水路の南北の側壁としていた。木材の材質は、北側はコウヤマキ、南側はイママキであり、加工した痕跡より何らかの部材と転用している。西側の石組み部分は、東西に流れる水路から南の水路への分岐点となっている。この施設に付随する水路は浅く、確認できない部分もあった。これらのことから、この水路は農地などに水を引き込むものではなく、屋敷地内に用水を引き込むためのものであった可能性がある。この水路の下層からは土師皿や瓦器碗が出土した(図102 - 227～239)。

溝(BSD12)は、水路状遺構から東側にのびる溝である。東西約2m、幅20cm、深さ10cmをはかる。この溝からは、土師皿が出土した(図103 - 240～241)。溝(BSD20)は、南北にのびる溝である。南北10.5m、東西2.5m、深さ15cmをはかる。この溝からは、土師皿が出土した(図103 - 242)。

ピット(BSP112)は、南北1.5m、南北1.2m、深さ5cmをはかる。埋土から土師皿が出土している(図105 - 243)。ピット(BSP123)は、南北20cm、東西40cm、深さ12cmをはかる。埋土から土師皿や瓦器碗が出土した(図103 - 244～250)。ピット(BSP124)は、南北70cm、東西60cm、深さ8cmをはかる。埋土から土師皿、瓦器碗、銅銭が出土した(図103 - 250～258・269)。ピット(BSP126)は、南北50cm、東西50cm、深さ5cmをはかる。埋土から土師皿、常滑焼の壺の口縁が出土している(図103 - 259・261)。ピット(BSP127)は、南北50cm、東西70cm、深さ7cmをはかる。瓦器碗が出土している(図103



第97図 玉櫛遺跡(TK09-1) B区第4面石組み水路状遺構平面・断面図



第98図 B区第4面水路状遺構軸用木材

- 260)。ピット(BSP128)は、南北60cm、東西60cm、深さ10cmをはかる。埋土から土師皿が出土している(図105-262~265)。ピット(BSP142)は、南北30cm、東西20cm、深さ10cmをはかる。土師皿が出土している(図105-266)。ピット(BSP167)は、南は、南北20cm、東西20cm、深さ20cmをはかる。埋土から東播系こね鉢が出土した(図103-268)。ピット(BSP168)は、南北20cm、東西20cm、深さ18cmをはかる。埋土から瓦器碗が出土している(図103-267)。このほかに、ピット(BSP106・115・145・160)には、柱根が残っていた。それぞれの柱根の木材は、BSP106がニガキ、BSP115がヒノキ、BSP145がクリ、BSP160はマツ属複雑管束亜属(二葉木類)に属するアカマツやクロマツであった。

出土遺物

第2面では、土坑(BSK01・07・08)、ピット(BSP06)から土器が出土している。BSK01からは土師皿が5点(図99-25~31)出土した。時期は14世紀後半頃である。BSK07から土師皿4点(図99-32~35)が出土している。もっとも多く出土したのはBSK08であり、総数70点以上の土師皿(図99-36~図100-120)が出土している。他には、ピット(BSP63)から白磁碗の破片が出土した(図102-123)。他に第2面検出時に土師皿などが出土している(図100-121・122)。第2面から出土した土器の時期はおおむね14世紀後半に相当する。

第3面からの出土遺物は、土坑(BSK10)からの出土遺物が大半をしめる。BSK10からは土師皿(図100-124~143)、瓦器碗(図100-144~156)、白磁1点(図100-157)、焜炉(図101-158)が出土している。特に焜炉は土師質で、内面は丁寧なナデ調整が施され、二次的被熱の痕跡がみうけられたがススなどの付着物はなかった。内部は二重底になっており、土器底部側面には空気を取り入れるための孔が穿たれていた。二重底底部には、複数の孔があけられていた。この孔は整形後にあけられたものであり、焜炉の底に穴をあけたときの工具痕が残っていた。焜炉は遺構の底に据えられたような状態で出土した。土坑(BSK13)からは土師皿が(図101-159)、ピット(BSP83)からは瓦器碗が出土(図101-160)した。ピット(BSP90)からは土師皿と瓦器碗が出土している(図101-161・162)。ピット(BSP95)から土師皿が出土(図101-163~166)。これら第3面から出土した遺物の時期はおおむね14世紀前半に相当する。

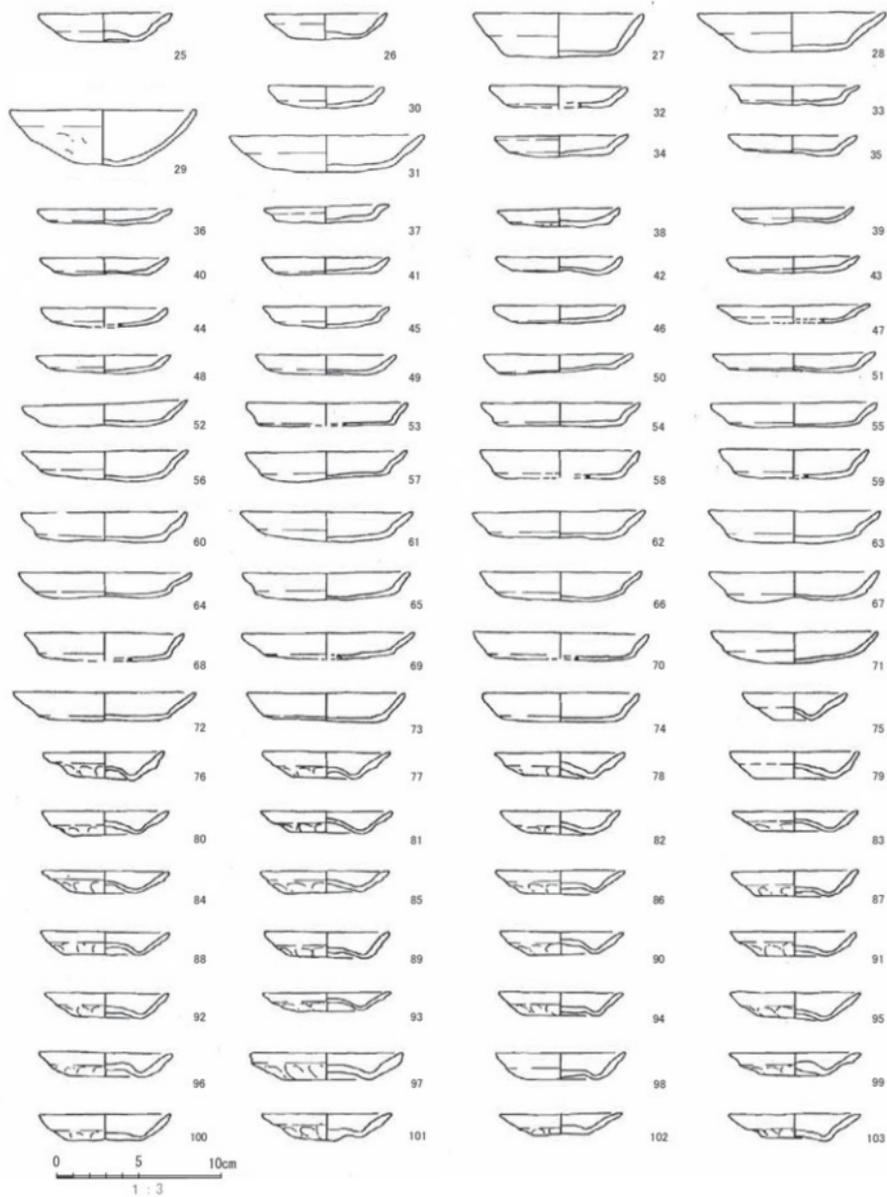
また、B区上層の遺物包含層からも土師皿や瓦器碗などが多数出土した(図101-167~180)。

第4面の出土遺物は、石列A~C付近、水路状遺構、SD12、SD20、SP112、SP123、SP124、SP126、SP128、SP142、SP168、SP169から出土している。

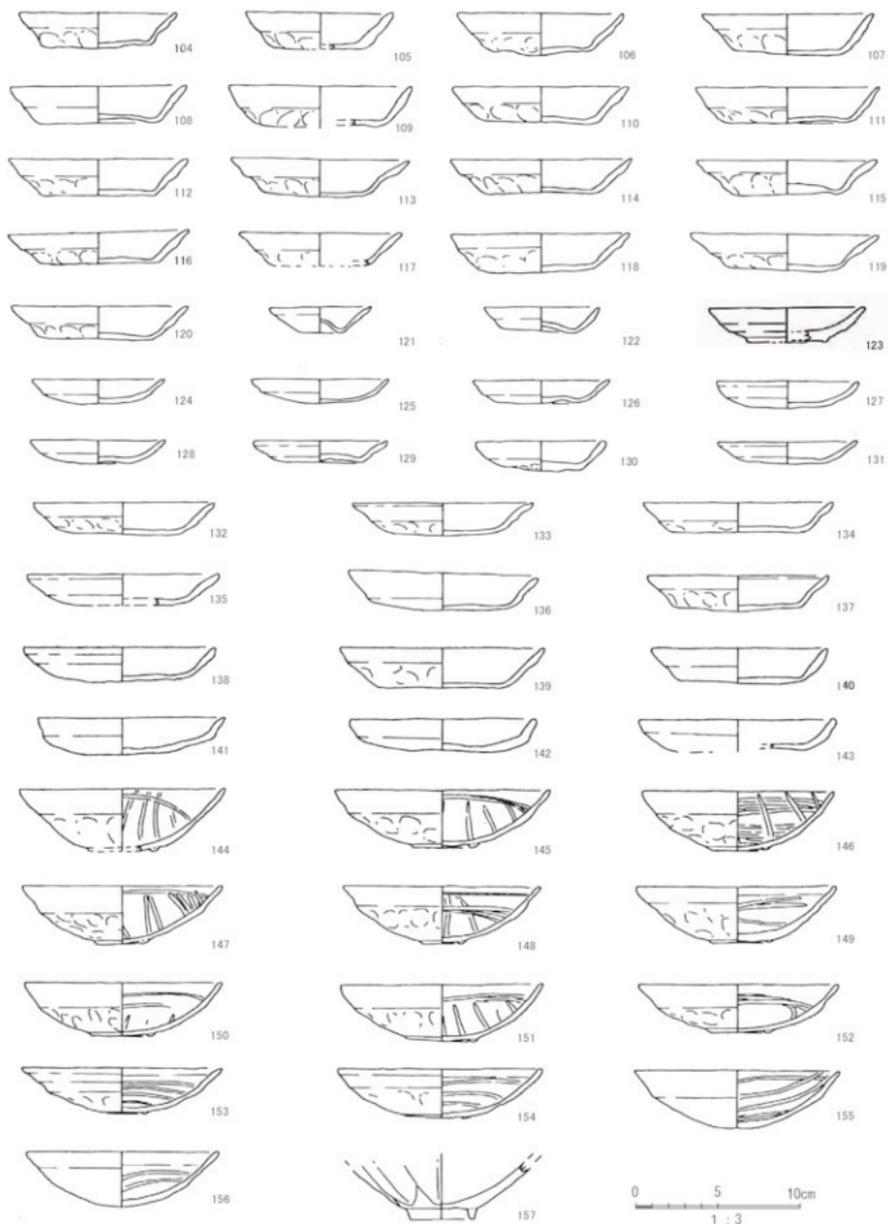
石列からは特に石列A~B間を中心に、土師皿、瓦器碗、青磁碗、白磁碗などが出土した(図102-181~226)。石組み水路状遺構からも土師皿や瓦器碗が出土し(図102-227~239)、水路に接続する溝(BSD12)からも土師皿が出土している(図103-240・241)。

また、第4面直上の包含層からは土師皿や瓦器碗、古瀬戸の卸皿や柄付片口、瓦質羽釜、銅銭などが出土した(図103-270~図105-330)。土器などの時期はおおむね13世紀後半に相当する。

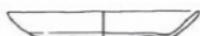
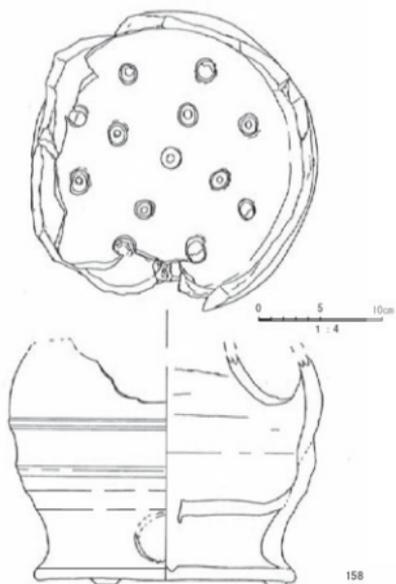
B区では、第4面から一部下層確認を行った。その時に第6層からも土師皿・瓦器碗・瓦質羽釜が出土した(図106-331~340)。これらの土器の時期は、第4面よりもやや古い様相を示しており、13世紀前半に位置づけられる。



第99図 玉櫛遺跡 B区出土遺物実測図(S=1/3)



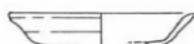
第100図 玉櫛遺跡 B区出土遺物実測図(2)



159



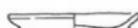
160



161



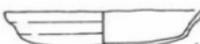
162



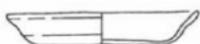
163



164



165



166



167



168



169



170



171



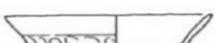
172



173



174



175



176



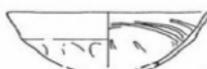
177



178



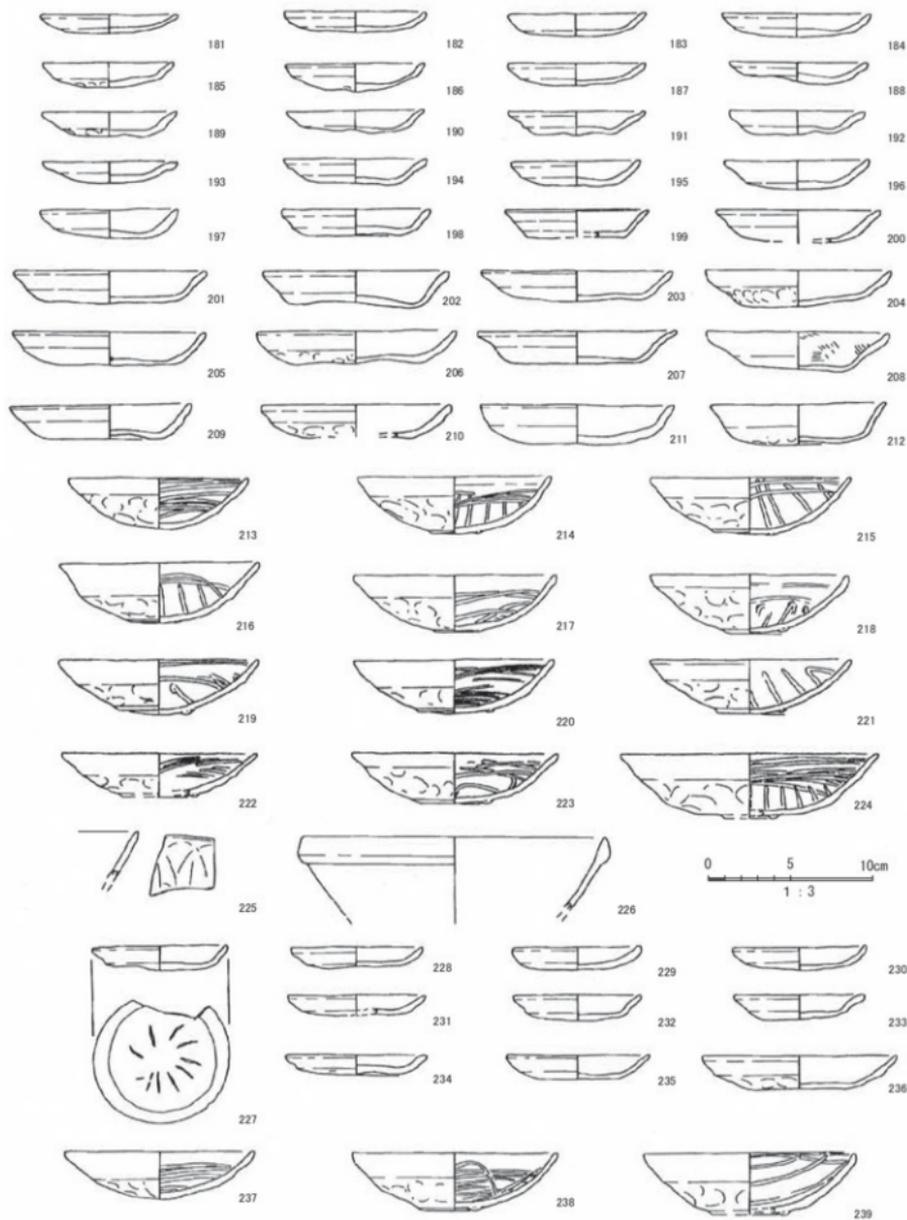
179



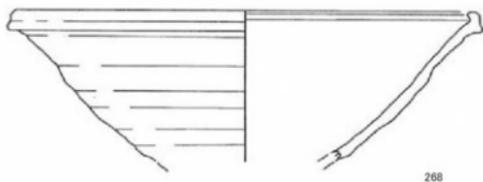
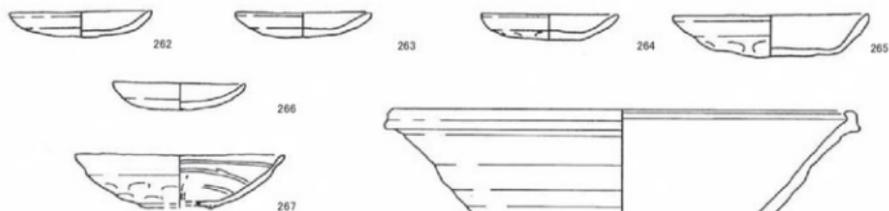
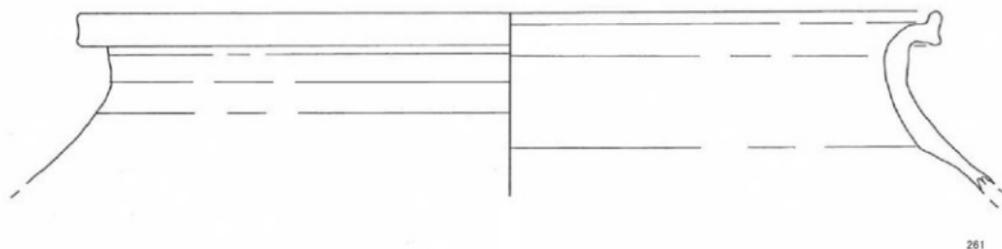
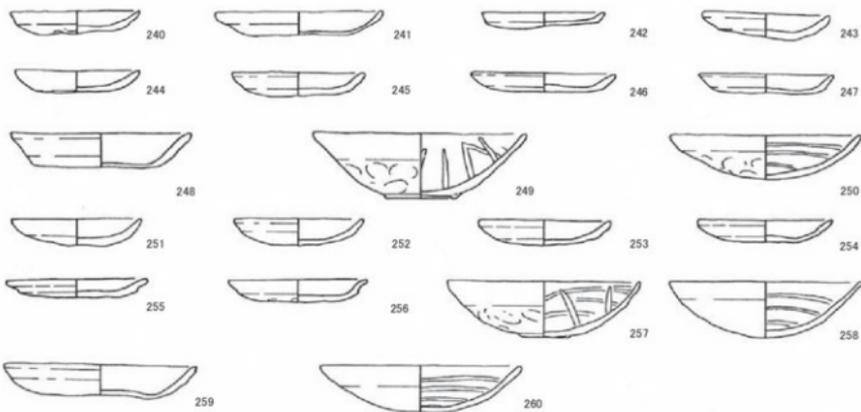
180



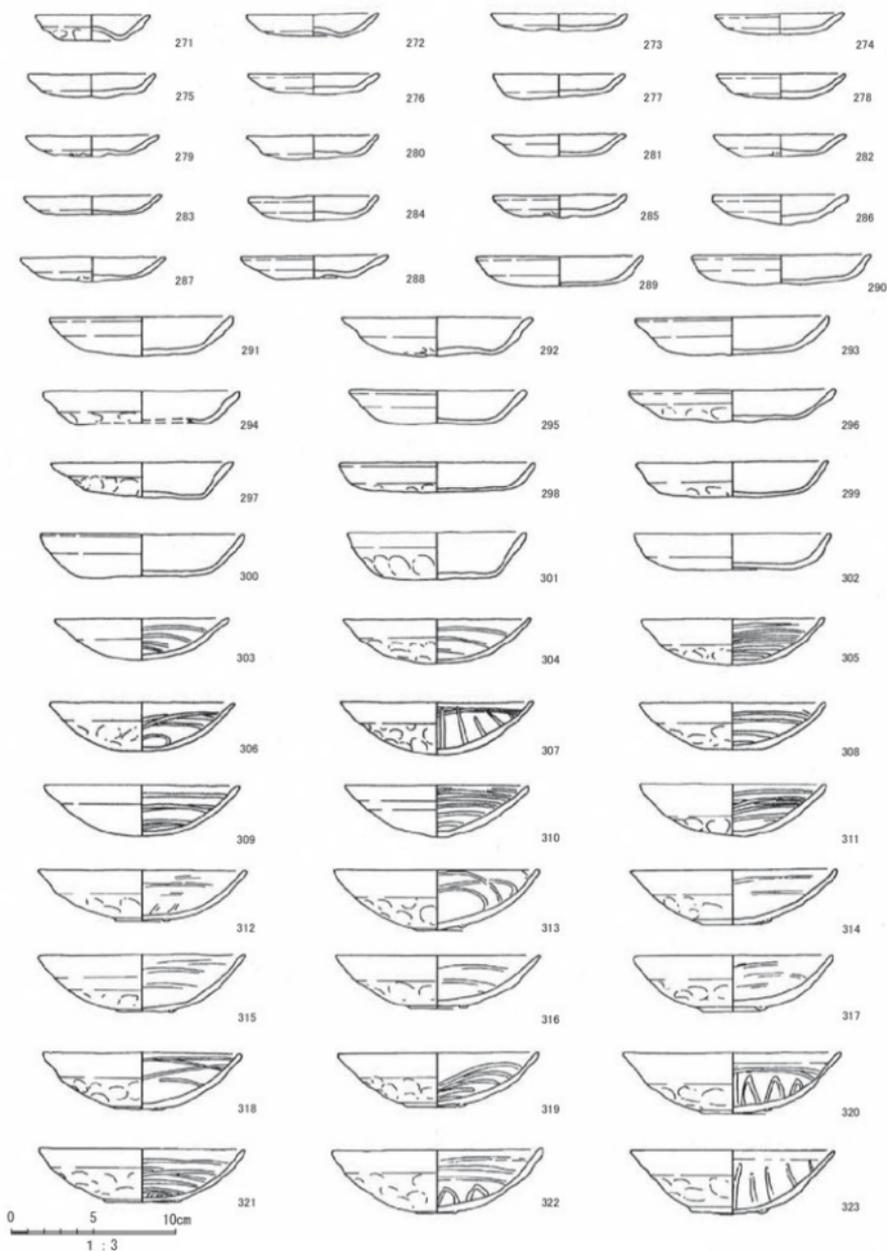
第101図 玉櫛遺跡 B区出土遺物実測図(3)



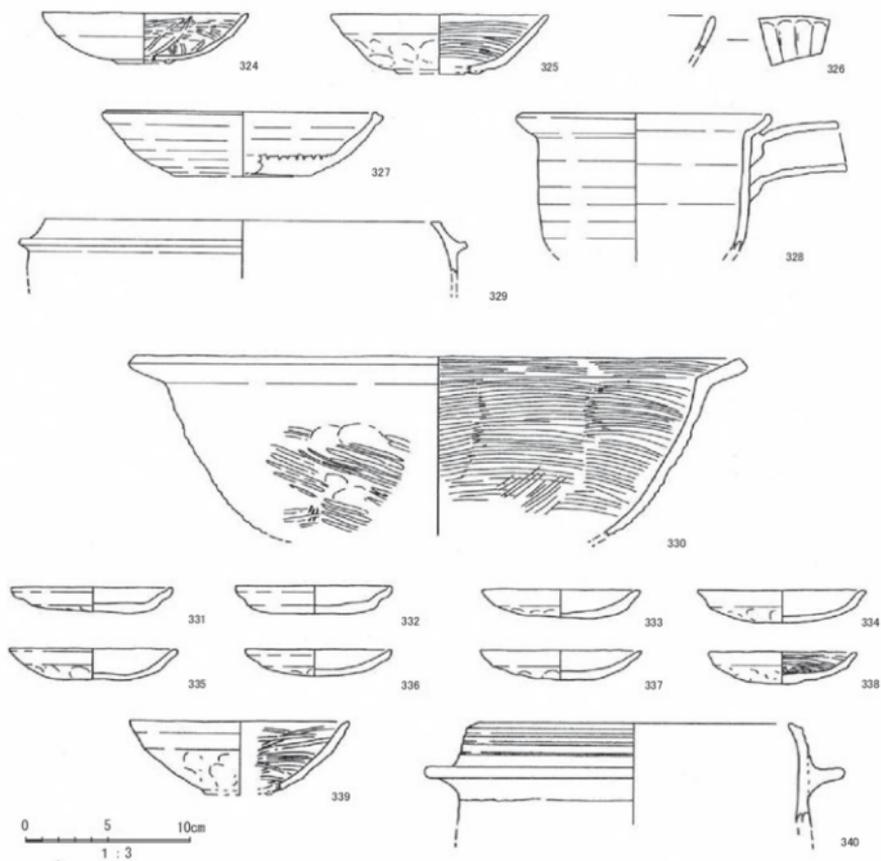
第102図 玉櫛遺跡 B区第4面出土遺物実測図(S=1/3)



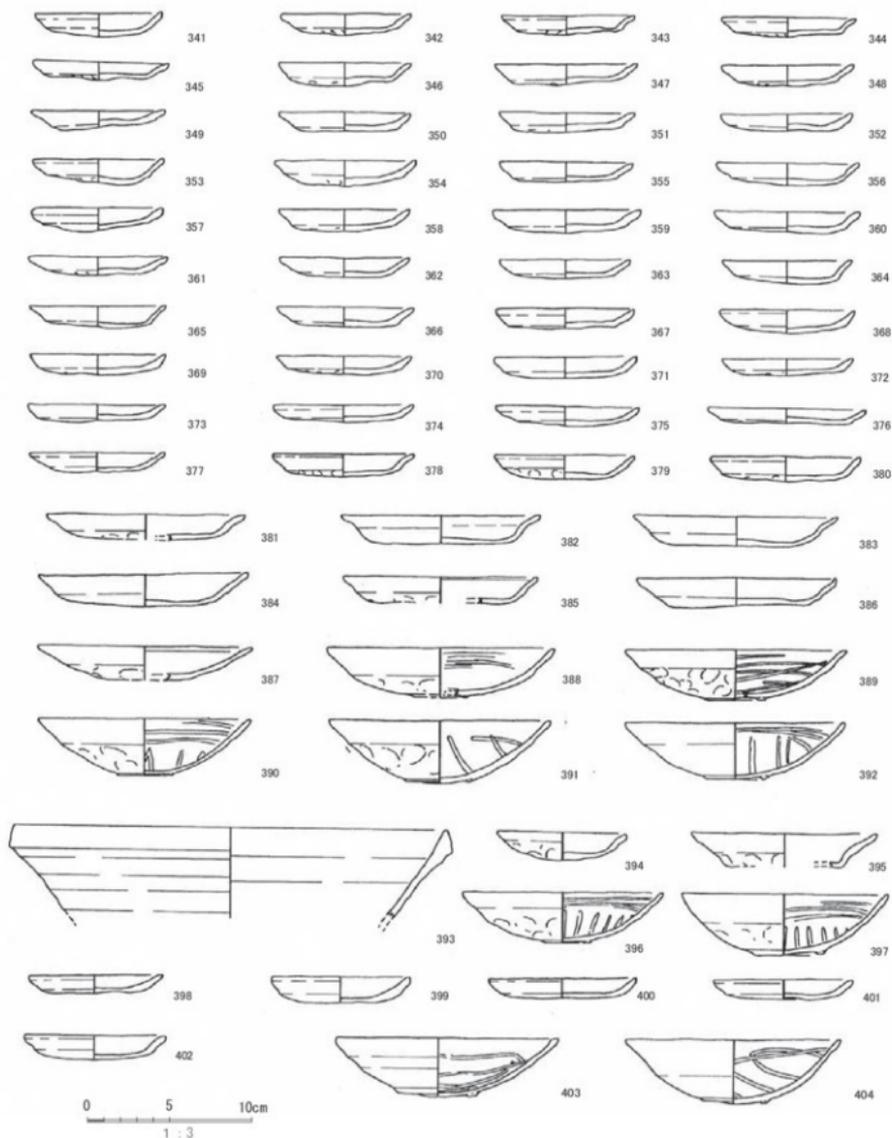
第103図 玉櫛遺跡 B区出土遺物実測図



第104图 玉櫛遺跡 B区第4面出土遺物実測図(S=1/3)



第105図 玉櫛遺跡 B区第4面出土遺物実測図(S=1/3)



第106図 玉櫛遺跡 B区第4面出土遺物実測図(S=1/3)

【C区】

検出遺構

C区は、東南に位置する調査区であり、南北21.4m、東西16.4mをはかる。調査区全域の土層は粗砂から極細砂によって構成されており、C区全体が自然流路内に位置するものと考えられる。出土した遺物はおおむね13世紀から14世紀と考えられる。

調査区北東のT.P. 15.0～5.1mにおいて井戸(CSE01)を検出したが、この井戸は上層から掘りこまれていたものであり、近世のものである。掘り方が南北1.2m、東西1.2mで、径約0.7mの円形の桶組みの井戸である。深さは、確認できたのが桶組み三段目途中までであり、約2.1mであった。一段目の桶は径が0.7mで、高さ約0.9m。タガを三条もち、二段目の桶は径約0.6mで、高さが約0.9m。タガを一条持つ。三段目の桶は径が0.6m、長さは0.4mまでしか確認できなかったが、他の段からみて0.9mであったと想定される(図107)。

自然流路(CNR01)は、調査区を北から南になるがれる。自然流路の幅は調査区内においては12mをはかる。この流路は、(財)大阪府文化財センターの2001年度の調査において、当調査区の西側に位置する調査区でも確認されており、13世紀から14世紀にかけて流れていた河道である。

出土遺物

C区においては、土師皿片や羽釜や羽釜の三足などが出土している。いずれも図化できるものではなかったが、時期は中世中頃におさまるものである。

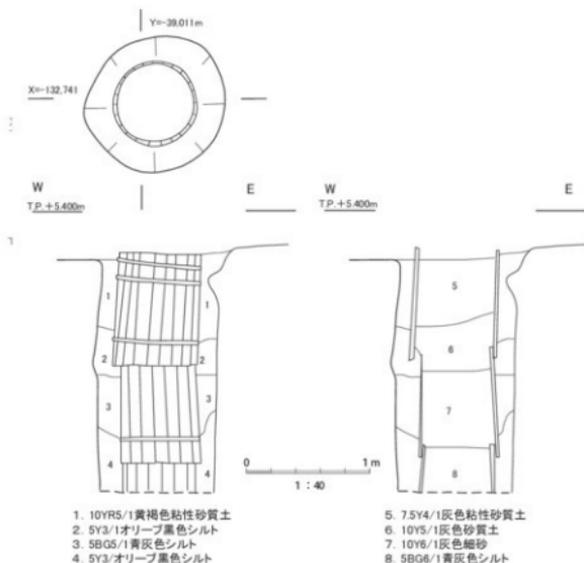


第107図 玉櫛遺跡(TK09-1) C区平面図

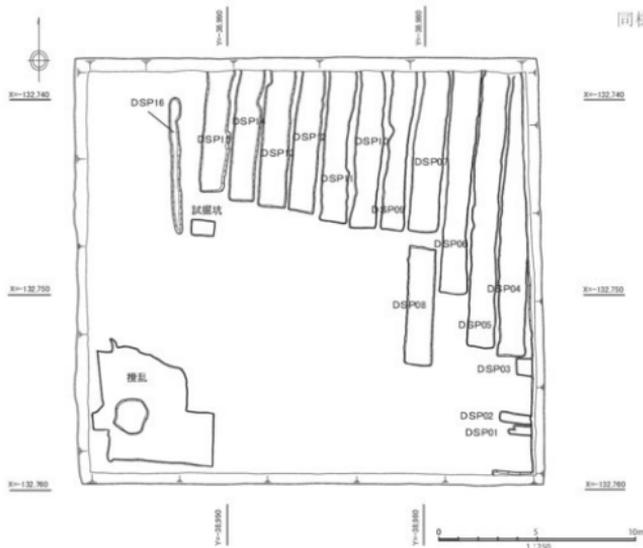
【D区】

検出遺構

D区は、本調査地の南東に位置する調査区である。南北21.8m、東西23.6mをはかり、今回の発掘調査において最も面積が大きい地区である。D区においては、B区と同様に第4面まで遺構面を確認した。第1面は、T.P.+5.5m盛土除去後の旧耕土直下の第3層上面において検出し、南北方向にはゆるい鋤溝を確認した。鋤溝の方向はB区と同様であることなどから、近世末から近代の遺構であると考えられる。第2面はT.P.+5.3m、第5層上面において確認した。検出した遺構は、東西1.5m、南北の長さが14.5mをはかり、深さ約10cmの長方形の土坑群(図109-DSP04



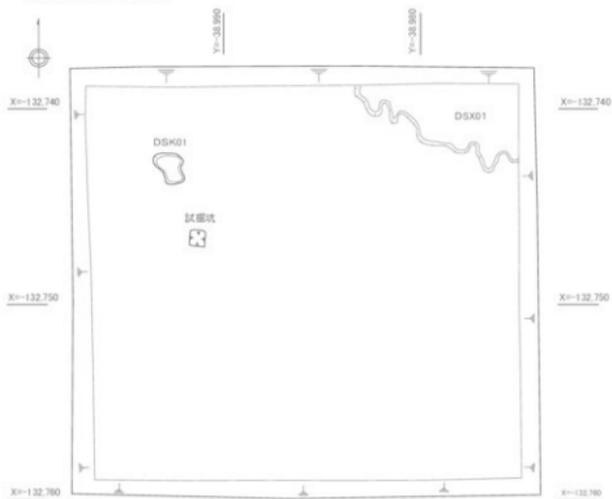
第108図 C区井戸(CSE01)平面・断面図



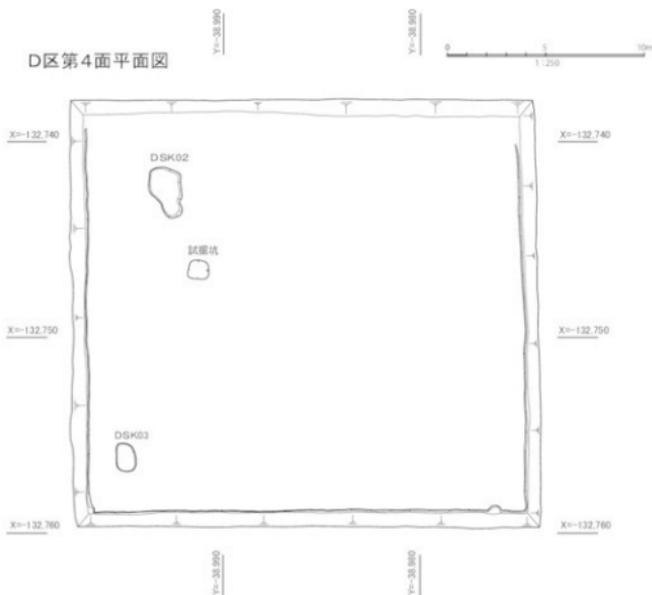
第109図 玉櫛遺跡(TK09-1) D区第2面平面図

～DSP15)である。合計で12基の土坑がほぼ平行して掘削されている。いずれの土坑も細砂～粗砂によって埋め戻されており、B区の南西隅で検出した土坑との類似点が多く、航空測量を行ったところ遺構の方向も一致していた。このことから、B区のBSP61～BSP66と一連の関係にある遺構であると考えられる。また、調査区の南東隅では、規模の小さい土坑(DSP01～DSP03)を検出した。これらも、遺構埋土は細砂から粗砂であり、遺構の深さも10cmと浅い。長軸の方向に違いはあるもののSP04～15と様相が似ており、同様の性格を有するものと考えられる。第2面検出時に出土した土器類は細片で、少量であったため図化することができなかった。B区の第2面の時期なども考慮して14世紀後半ごろに相当すると考える。第3面は、T.P+5.1mをはかる。第10層上層で検出した。遺構は、土坑(SK01)と不定形土坑(DSK01)を検出した。土坑(DSK01)は、調査区北東部に位置し、南北1m、

D区第3面平面图



D区第4面平面图



第110图 玉櫛遺跡(TK09-1) D区平面图

東西2m、深さ15cmをはかる。不定形土坑(DS01)は、南北4m、東西8m、深さ20cmをはかる。土坑(DSK01)からは、土師器・瓦器・こね鉢・土師質甕などが出土している(図106-341~393)。不定形土坑(DS01)からは、土師皿・瓦器椀・羽釜・青磁片が出土している(図106-394~397)。時期は、出土遺物から14世紀前半と考えられる。

第4面は、T.P.+5.0mをはかる。第6層上面で遺構面を検出し、土坑2基(DSK02・DSK03)を確認した。土坑(DSK02)は、南北2.5m、東西1.5m、深さ約20cmをはかる。土坑内から土師皿や瓦器椀が出土した(図106-398~404)。土坑(DSK03)は、南北1m、東西1.5m、深さ約15cmをはかる。第4面の時期は、13世紀後半に位置づけられる。

出土遺物

第2面からの出土遺物は、細片であり図化に耐えうるものではなかった。遺物は土師皿や瓦器椀、羽釜の破片などからなる。出土遺物から時期を特定するには困難を極めるが、遺構の配置状況などからB区第2面と同時期であると考えられることから14世紀後半に相当すると考える。

第3面からは、土坑(DSK01)や落ち込み(DSX01)から遺物が出土した。土坑(DSK01)からは、土師皿(図106-341~386)や瓦器椀(図106-387~392)・東播系すり鉢(図106-393)などが出土した。落ち込み(DSX01)からは土師皿(図106-394・395)や瓦器椀(図106-396・397)が出土した。これら第3面から出土した遺物の時期は、おおむね14世紀前半の範疇におさまるものである。

第4面は、土坑(DSK02)から遺物が多く出土した。出土した遺物は土師皿(図106-398~402)・瓦器椀(図106-403・404)などである。出土した遺物の時期は、13世紀後半に相当する。

まとめ

今回の発掘調査では、B区において数多くの遺構を検出した。

14世紀後半に位置づけられる第2面では、A区とB区において土師皿の一括廃棄土坑(ASE01・BSK08)を検出した。この二つの遺構は、その性格が大きく異なりA区のASE01は井戸廃絶時におこなわれたものであり、B区のBSK08は廃棄された土師皿の量などから何らかの儀礼において用いられた土器を使用後廃棄したものであると考えられる。とくにBSK08での廃棄のあり方は、この付近において儀礼をおこなう施設があったことを示しており、このことは当時の玉櫛遺跡の中心がこの付近であった可能性を示唆している。

第4面では、屋敷地と思われる礎石列や水路状遺構を検出した。これらは、礎石列・水路・石列などの軸が平行に配置されており、計画して設計されたものであると考えられる。これら遺構の時期は、13世紀末から14世紀初頭に相当し、当時の玉櫛遺跡の中心的な施設の一部である可能性が高いと考えられる。

また、遺物では14世紀前半と想定される第3面で検出した土坑(BSK10)から、焔炉と考えられる二重底で、下部側面に通気孔のある土器が出土している。焔炉は、主に江戸時代以降の出土例が多い遺物であるが、遺構からの出土遺物に江戸時代の遺物は含まれていない。また出土した焔炉は土師質であり、江戸時代の焔炉が瓦質や陶質であるのとは様相が異なっている。これらのことから、従来考えられている時期より早く移動式調理器具として焔炉が使用されていたと考えられる。

他に出土した土器類についても、古瀬戸の卸皿・柄付片口や常滑焼の大甕、東播系こね鉢や瀬戸内系鉢、遠くは中国大陸や朝鮮半島からもたらされた青磁や白磁など広く国内外から運ばれた遺物が多く出土している。これは茨木市の他の中世集落においてはみられない様相であり、玉櫛遺跡を特徴づけるものである。この要因の一つは玉櫛遺跡の立地にあると考えられ、玉櫛遺跡が淀川を利用した大阪と京都を結ぶ水上交通の拠点であったことが想定される。

さらに、玉櫛遺跡を考えるうえで重要となるのが都(京都)との関係である。北摂地域は古くは藤原氏の荘園として発展した地域であり、今なお春日神社が数多く存在している。そして、玉櫛遺跡も藤原氏の荘園に想定される場所であり、過去の調査では京都の尊勝寺と同范の軒平瓦などが出土している。このように遺物からも都(京都)との関係を色濃く示すものが多く存在し、玉櫛遺跡から出土する他地域の土器は都(京都)から運ばれたものも含まれていると考えられる。

今回の発掘調査は13世紀後半から14世紀後半という限定された時期ではあるが、玉櫛遺跡の当時の様相が明らかになった。しかしながら、今回の調査では瓦などの寺院関連の遺物や遺構は確認されず、既往の調査において指摘されていた寺院の存在を確認することはできなかった。玉櫛遺跡と寺院との関係については今後の調査成果に期待したい。

参考文献

- 大阪府教育委員会 1993 『玉櫛遺跡発掘調査概要・Ⅰ』
(財)大阪府文化財調査研究センター 1998 『玉櫛遺跡』
(財)大阪府文化財センター 2003 『玉櫛遺跡Ⅱ』
(財)大阪府文化財センター 2008 『玉櫛遺跡Ⅲ』
中世土器研究会編 1995 『概説 中世の土器・陶磁器』
小森俊寛・上村憲章 1996 「京都の都市遺跡出土から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』3(財)京都市埋蔵文化財研究所
瀬戸市 1980 『瀬戸市史 陶磁史篇一』

玉櫛遺跡(TK09-1) 遺物観察表

順	遺物番号	地区	層位	遺構	種類	器種	法量		形状		色調		胎土	焼成	備考	
							口径 (cm)	器高 (残存高) (cm)	内面	外面	内面	外面				
91	1	A区	第2面	ASE01	土師器	皿	7.0	1.4	ナナ	板ナナ	7.5YR6/6黄緑	7.5YR7/3に赤黄緑	精緻	良	14C後半	
91	2	A区	第2面	ASE01	土師器	皿	7.1	1.4	ナナ	ナナ 板ナナ	10YR7/3に赤黄緑	10YR8/3浅黄緑	精緻	良	14C後半	
91	3	A区	第2面	ASE01	土師器	皿	7.6	1.6	ナナ	ナナ	2.5Y7/1灰白	2.5Y7/2灰黄	精緻	良	14C後半	
91	4	A区	第2面	ASE01	土師器	皿	7.5	1.5	ナナ	板ナナ	10YR7/3に赤黄緑	2.5Y7/2灰黄	精緻	良	14C後半	
91	5	A区	第2面	ASE01	土師器	皿	7.5	1.6	ナナ	板ナナ	10YR7/3に赤黄緑	2.5Y6/2～7/2灰黄	精緻	良	14C後半～末 へソ皿	
91	6	A区	第2面	SK-01	土師器	皿	7.8	1.6	ナナ	板ナナ	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	精緻	良	14C後半	
91	7	A区	第2面	ASE01	土師器	皿	8.9	1.3	ナナ	板ナナ	7.5YR8/4浅黄緑	7.5YR8/3浅黄緑	精緻	良	14C後半	
91	8	A区	第2面	ASE01	土師器	皿	9.6	1.7	ナナ	板ナナ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	精緻	良	14C後半	
91	9	A区	第2面	ASE01	土師器	皿	9.7	2.1	同板ナナ	同板ナナ 板ナナ	10YR7/3に赤黄緑	10YR7/3に赤黄緑	精緻	良	14C後半	
91	10	A区	第2面	ASE01	土師器	皿	9.5	2.1	ナナ	板ナナ	7.5YR7/3に赤黄緑	7.5YR7/3に赤黄緑	精緻	良	14C後半	
91	11	A区	第2面	ASE01	土師器	皿	9.8	2.0	ナナ	板ナナ	7.5YR7/3に赤黄緑	7.5YR7/3に赤黄緑	精緻	良	14C後半	
91	12	A区	第2面	ASE01	土師器	皿	9.5	1.7	ナナ	板ナナ	7.5YR7/3に赤黄緑	7.5YR7/2明褐色	精緻	良	14C後半	
91	13	A区	第2面	ASE01	土師器	皿	9.2	1.55	ナナ	ナナ 板ナナ	7.5YR7/2明褐色	7.5YR7/3に赤黄緑	精緻	良	14C後半	
91	14	A区	第2面	ASE01	土師器	皿	9.6	1.9	ナナ	板ナナ	7.5YR7/3に赤黄緑	7.5YR7/3に赤黄緑	精緻	良	14C後半	
91	15	A区	第2面	ASE01	土師器	皿	9.2	1.75	ナナ	ナナ 板ナナ	7.5YR7/3に赤黄緑	7.5YR6/3～8/8黄緑	精緻	良	14C後半	
91	16	A区	第2面	ASE01	土師器	皿	9.8	1.75	ナナ	ナナ 板ナナ	10YR7/3に赤黄緑	10YR7/3に赤黄緑	精緻	良	14C後半	
91	17	A区	第2面	ASE01	土師器	皿	9.8	1.7	ナナ	ナナ 板ナナ	10YR7/2～8/2 灰白～に赤黄緑	灰白～に赤黄緑	精緻	良	14C後半	
91	18	A区	第2面	ASE01	土師器	皿	(11.2)	1.5	ナナ	ナナ	7.5YR7/3に赤黄緑	7.5YR7/2明褐色	精緻	良	14C後半	
91	19	A区	第2面	ASE01	土師器	皿	9.7	1.7	ナナ	板ナナ	10YR7/3に赤黄緑	10YR7/3に赤黄緑	精緻	良	14C後半	
91	20	A区	第2面	ASE01	土師器	皿	10.4	2.1	ナナ	ナナ	10YR6/3に赤黄緑	10YR6/3に赤黄緑	精緻	良	14C後半	
91	21	A区	第2面	ASE01	土師器	皿	(11.1)	2.7	ナナ	ナナ 板ナナ	10YR7/3に赤黄緑	10YR7/3に赤黄緑	精緻	良	14C後半	
91	22	A区	第2面	ASE01	土師器	皿	9.8	2.5	ナナ	板ナナ	10YR7/3に赤黄緑	10YR7/3に赤黄緑	精緻	良	14C後半	
91	23	A区	第2面	ASE01	土師器	皿	11.9	2.9	ナナ	同板ナナ	10YR8/3浅黄緑	10YR8/3浅黄緑	精緻	良	14C後半	
91	24	A区	第2面	第2面直上 包含層	石製品		4.2	2.5								
99	25	B区	第2面	BSK01	土師器	皿	8.1	1.7	ナナ	ナナ	10YR8/3浅黄緑	7.5YR8/4浅黄緑	精緻	良	14C後半	
99	26	B区	第2面	BSK01	土師器	皿	7.4	1.6	ナナ	ナナ	7.5YR7/4に赤黄緑	7.5YR6/2～8/4 灰白～浅黄緑	精緻	良	14C後半	
99	27	B区	第2面	BSK01	土師器	皿	10.2	2.65	ナナ	ナナ	10YR8/3浅黄緑	10YR7/4に赤黄緑	精緻	良	14C後半	
99	28	B区	第2面	BSK01	土師器	皿	11.4	2.3	ナナ	ナナ	10YR6/3～7/3 に赤黄緑	7.5YR7/3に赤黄緑	精緻	良	14C後半	
99	29	B区	第2面	BSK01	土師器	皿	2	11.2	3.3	ナナ	ナナ	N8/0灰白 口径:34.00R	N7/0灰白 口径:34.00R	精緻	良	14C後半
99	30	B区	第2面	BSK01	土師器	皿	6.8	1.35	ナナ	ナナ	7.5YR8/4浅黄緑	7.5YR8/3浅黄緑	精緻	良	14C後半	
99	31	B区	第2面	BSK01	土師器	皿	(11.6)	2.3	ナナ	ナナ	2.5Y8/3浅黄	2.5Y8/2～8/3 灰白～浅黄	精緻	良	14C後半	
99	32	B区	第2面	SK-07 土師器	土師器	皿	8.4	1.3	ナナ	ナナ	7.5YR8/3浅黄緑	7.5YR8/3浅黄緑	精緻	良	14C後半	
99	33	B区	第2面	BSK07	土師器	皿	8.0	1.2	ナナ	ナナ	10YR7/3 に赤黄緑	10YR8/3浅黄緑	精緻	良	14C後半	
99	34	B区	第2面	BSK07	土師器	皿	8.2	1.3	ナナ	ナナ	7.5YR8/4浅黄緑	7.5YR8/4浅黄緑	精緻	良	14C後半	
99	35	B区	第2面	BSK07	土師器	皿	7.8	1.2	ナナ	ナナ	10YR7/2 に赤黄緑	10YR7/2 に赤黄緑	精緻	良	14C後半	
99	36	B区	第2面	BSK08	土師器	皿	8.2	0.9	ナナ	ナナ	7.5YR8/4浅黄緑	7.5YR8/4浅黄緑	精緻	良	14C後半	
99	37	B区	第2面	BSK08	土師器	皿	41	7.4	1.1	ナナ	ナナ	7.5YR8/4浅黄緑	7.5YR8/4浅黄緑	精緻	良	14C後半
99	38	B区	第2面	BSK08	土師器	皿	32	7.4	1.1	ナナ	ナナ	7.5YR8/4浅黄緑	7.5YR8/4浅黄緑	精緻	良	14C後半～末
99	39	B区	第2面	BSK08	土師器	皿	30	7.2	0.8	ナナ	ナナ	7.5YR8/4浅黄緑	7.5YR8/4浅黄緑	精緻	良	14C後半
99	40	B区	第2面	BSK08	土師器	皿	7.6	1.65	ナナ	ナナ	7.5YR8/4浅黄緑	5YR8/4緑	精緻	良	14C後半	

区	建物 番号	地区	階位	造構	種類	部材	重量		断面		新土	完成	備考			
							口積 (㎡)	容積 (立方尺)	内面	外面				内面	外面	
99	41	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	7.83	(1.40)	++	++	10Y8/3C.2.5+黄物	10Y8/3C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半	
99	42	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	7.6	1.0	++	++	7.5Y8/3C.2.5+黄物	7.5Y8/3C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半	
99	43	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	36	8.0	1.0	++	++	7.5Y8/3C.2.5+黄物	10Y8/3C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半
99	44	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	(7.6)	1.2	++	++	10Y8/3C.2.5+黄物	10Y8/3C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半	
99	45	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	7.6	1.35	++	++	10Y8/3C.2.5+黄物	10Y8/3C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半	
99	46	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	7.8	1.1	++	++	7.5Y8/4C.2.5+黄物	7.5Y8/3C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半	
99	47	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	13	0.25	(1.1)	++	++	10Y8/3C.2.5+黄物	10Y8/3C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半
99	48	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	7.4	1.2	++	++	5Y8/4C.2.5+黄物	5Y8/4C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半	
99	49	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	8.3	1.2	++	++	7.5Y8/4C.2.5+黄物	7.5Y8/3C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半	
99	50	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	22	9.2	1.3	++	++	7.5Y8/3C.2.5+黄物	7.5Y8/3C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半
99	51	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	28	9.5	1.2	++	++	7.5Y8/4C.2.5+黄物	10Y8/1C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半
99	52	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	40	9.8	1.5	++	++	7.5Y8/3+8C.2.5+黄物	7.5Y8/4C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半
99	53	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	13	0.83	(1.0)	++	++	7.5Y8/4C.2.5+黄物	7.5Y8/4C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半
99	54	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	43	9.5	1.5	++	++	7.5Y8/3C.2.5+黄物	7.5Y8/2C.5+黄物	精緻	良	14C後半
99	55	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	9.8	1.5	++	++	10Y8/3C.2.5+黄物	10Y8/2C.5+黄物	精緻	良	14C後半	
99	56	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	4	10.1	1.7	++	++	7.5Y8/4C.2.5+黄物	7.5Y8/4C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半
99	57	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	21	9.1	1.8	++	++	7.5Y8/4C.2.5+黄物	10Y8/3C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半～末
99	58	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	6	0.63	1.7	++	++	7.5Y8/3C.2.5+黄物	7.5Y8/3C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半
99	59	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	0.01	1.7	++	++	7.5Y8/2C.5+黄物	7.5Y8/3C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半	
99	60	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	16	10.1	1.90	++	++	7.5Y8/3C.2.5+黄物	7.5Y8/2C.5+黄物	精緻	良	14C後半
99	61	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	10.3	1.9	++	++	7.5Y8/3C.2.5+黄物	7.5Y8/4C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半	
99	62	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	1	10.6	1.7	++	++	10Y8/3C.2.5+黄物	10Y8/3C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半
99	63	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	10.2	2.0	++	++	7.5Y8/4C.2.5+黄物	7.5Y8/4C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半	
99	64	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	3	10.5	1.4	++	++	10Y8/1C.2.5+黄物	10Y8/3+7C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半
99	65	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	(10.6)	1.7	++	++	7.5Y8/4C.2.5+黄物	7.5Y8/4C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半	
99	66	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	25	9.8	1.8	++	++	7.5Y8/4C.2.5+黄物	7.5Y8/4C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半
99	67	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	5	10.2	1.6	++	++	10Y8/2C.5+黄物	10Y8/2C.5+黄物	精緻	良	14C後半
99	68	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	0.53	(1.75)	++	++	7.5Y8/2+8C.2.5+黄物	7.5Y8/2+8C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半	
99	69	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	42	9.4	1.8	++	++	7.5Y8/4C.2.5+黄物	7.5Y8/4C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半～末
99	70	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	10.3	1.7	++	++	7.5Y8/3C.2.5+黄物	7.5Y8/3C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半	
99	71	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	31	10.0	2.0	++	++	7.5Y8/4C.2.5+黄物	7.5Y8/4C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半～末
99	72	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	10.9	1.8	++	++	10Y8/3C.2.5+黄物	7.5Y8/3C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半	
99	73	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	9.6	1.8	++	++	2.5Y7/2C.2.5+黄物	2.5Y7/2C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半	
99	74	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	10	9.5	1.9	++	++	7.5Y8/3C.2.5+黄物	7.5Y8/3C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半
99	75	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	6.3	1.7	++	++	7.5Y8/3C.2.5+黄物	7.5Y8/3C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半	
99	76	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	7.3	1.7	++	++	2.5Y8/2C.5+黄物	2.5Y8/2C.5+黄物	精緻	良	14C後半	
99	77	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	19	7.8	1.7	++	++	10Y8/3C.2.5+黄物	10Y8/3C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半～末
99	78	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	33	7.6	1.4	++	++	10Y8/2+8C.2.5+黄物	10Y8/2+8C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半～末
99	79	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	7.8	1.7	++	++	2.5Y8/3C.2.5+黄物	2.5Y8/3C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半～末	
99	80	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	23	7.7	1.5	++	++	2.5Y8/3C.2.5+黄物	2.5Y8/3C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半
99	81	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	11	8.0	1.3	++	++	10Y8/2C.5+黄物	10Y8/2C.5+黄物	精緻	良	14C後半
99	82	BC	第2面	BS08	土留壁	皿	7.0	1.3	++	++	10Y8/2+8C.2.5+黄物	10Y8/2+8C.2.5+黄物	精緻	良	14C後半	

区	建物番号	地区	階位	造構	種類	器種	設置		調音		色調		新土	竣工	備考	
							口徑 (mm)	器高 (埋存高) (mm)	内面	外面	内面	外面				
99	83	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	13	7.6	1.3	??	??	10Y8/3C2黄	10Y8/3C2黄	楕圓	良	14C後半
99	84	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	14	7.8	1.4	??	??	2.5Y8/3R黄	2.5Y8/2R白	楕圓	良	14C後半
99	85	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	18	7.8	1.4	??	??	10Y8/3C黄	10Y8/3C黄	楕圓	良	14C後半
99	86	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	29	7.9	1.4	??	??	10Y8/3C黄	10Y8/3C黄	楕圓	良	14C後半
99	87	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	7.6	1.6	??	??	10Y8/3C2黄	10Y8/3C2黄	楕圓	良	14C後半	
99	88	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	24	7.7	1.4	??	??	2.5Y8/3R黄	2.5Y8/3R黄	楕圓	良	14C後半
99	89	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	7.6	1.6	??	??	10Y8/3C2黄	10Y8/3C2黄	楕圓	良	14C後半	
99	90	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	39	7.4	1.45	??	??	10Y8/3C黄	2.5Y8/3R黄	楕圓	良	14C後半
99	91	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	27	7.5	1.5	??	??	10Y8/3C2黄	10Y8/3C2黄	楕圓	良	14C後半～末
99	92	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	7.2	1.6	??	??	2.5Y8/2R白	2.5Y8/2R白	楕圓	良	14C後半	
99	93	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	20	7.8	1.2	??	??	10Y8/3C黄	10Y8/3C黄	楕圓	良	14C後半
99	94	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	35	7.6	1.45	??	??	2.5Y8/2R白	2.5Y8/2R白	楕圓	良	14C後半
99	95	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	7.6	1.6	??	??	5Y8/4R赤	2.5Y8/4R赤	楕圓	良	14C後半	
99	96	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	0.90	1.5	??	??	10Y8/2R白	10Y8/2R白	楕圓	良	14C後半	
99	97	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	7.8	2.1	??	??	10Y8/3C黄	10Y8/3C2黄	楕圓	良	14C後半	
99	98	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	7.7	1.6	??	??	2.5Y8/3R黄	2.5Y8/2R白	楕圓	良	14C後半	
99	99	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	37	7.8	1.3	??	??	2.5Y8/2R白	2.5Y7/2R黄	楕圓	良	14C後半
99	100	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	7.9	1.6	??	??	10Y8/1R赤	10Y8/1R赤	楕圓	良	14C後半	
99	101	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	8.0	1.6	??	??	10Y8/3C2黄	10Y8/3C2黄	楕圓	良	14C後半	
99	102	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	(7.4)	(1.1)	??	??	2.5Y7/3R黄	2.5Y7/2R黄	楕圓	良	14C後半	
99	103	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	38	8.0	1.5	??	??	2.5Y7/2R黄	2.5Y7/2R黄	楕圓	良	14C後半
100	104	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	7	14.5	2.2	??	??	10Y8/2R白	10Y8/2R白	楕圓	良	14C後半
100	105	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	0.90	2.1	??	??	2.5Y7/2R黄	2.5Y7/3C黄	楕圓	良	14C後半	
100	106	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	17	10.1	2.5	??	??	7.5Y8/2R白	7.5Y8/2R白	楕圓	良	14C後半
100	107	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	12	10.4	2.5	??	??	7.5Y8/4C黄	7.5Y8/3C2黄	楕圓	良	14C末
100	108	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	10.5	2.3	??	??	2.5Y8/2R白	2.5Y8/3R黄	楕圓	良	14C後半	
100	109	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	(10.6)	2.7	??	??	10Y8/3C2黄	10Y8/3C2黄	楕圓	良	14C後半	
100	110	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	10.5	2.2	??	??	5Y8/4C2黄	10Y8/2C2黄	楕圓	良	14C後半	
100	111	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	11.0	2.25	??	??	10Y8/3C黄	7.5Y8/3C2黄	楕圓	良	14C後半	
100	112	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	10.8	2.25	??	??	7.5Y8/2R赤	7.5Y8/3C2黄	楕圓	良	14C後半	
100	113	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	26	10.7	2.5	??	??	10Y8/3C黄	10Y8/3C2黄	楕圓	良	14C後半
100	114	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	(10.2)	(2.1)	??	??	10Y8/3C黄	10Y8/3C黄	楕圓	良	14C後半	
100	115	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	(10.6)	(2.1)	??	??	10Y8/2R白	10Y8/2R白	楕圓	良	14C後半	
100	116	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	11.0	1.9	??	??	10Y8/3C2黄	2.5Y8/2R黄	楕圓	良	14C後半	
100	117	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	13	(10.0)	(2.0)	??	??	10Y8/3C黄	10Y8/3C2黄	楕圓	良	14C後半
100	118	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	8	10.7	2.1	??	??	10Y8/3C黄	10Y8/3C黄	楕圓	良	14C後半
100	119	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	10.8	2.0	??	??	10Y8/3C黄	10Y8/4C黄	楕圓	良	14C後半	
100	120	BC	第2面	BSK08	土器器	皿	6	10.7	2.0	??	??	10Y8/3C黄	7.5Y8/4C2黄	楕圓	良	14C後半
100	121	BC	第2面	横出中	土器器	皿	6.2	1.6	??	??	10Y8/2R白	10Y8/2R白	楕圓	良	14C末(後半) ～/皿	
100	122	BC	第2面	横出中	土器器	皿	7.0	1.6	??	??	10Y8/2R白	7.5Y8/3C黄	楕圓	良	14C後半	
100	123	BC	第3面	BSK03	灰陶器	小皿	08.0	1.9	??	??	2.5Y8/2R白	2.5Y8/2R白	楕圓	良	不明 軸付蓋	
100	124	BC	第3面	BSK10	土器器	皿	8.0	1.5	??	??	2.5Y8/2R黄	2.5Y7/2R白	楕圓	良	13C末～14C初	

区	道庁番号	地区	種別	遺構	種類	器種	遺量		調査		色器		新土	焼成	備考	
							口径 (cm)	器高 (取付高) (cm)	内面	外面	内面	外面				
100	125	BC区	第3面	BSK10	土師器	皿	8.4	1.5	++	++	7.5YR6/4C-5.5-4黄	7.5YR6/4C-5.5-4黄	精緻	良	BCA~14C初	
100	126	BC区	第3面	BSK10	土師器	皿	8.2	1.4	++	++	6YR7/3C-5.5-黄緑	6YR7/3C-5.5-黄緑	精緻	良	BCA~14C初	
100	127	BC区	第3面	BSK10	土師器	皿	8.6	1.7	++	++	6YR6/4C-5.5-黄緑	6YR7/3C-5.5-黄緑	精緻	良	BCA~14C初	
100	128	BC区	第3面	BSK10	土師器	皿	8.2	1.5	++	++	10YR8/3灰黄	2.5Y7/2灰黄	精緻	良	BCA~14C初	
100	129	BC区	第3面	BSK10	土師器	皿	8.0	1.35	++	++	2.5Y7/3灰黄	2.5Y7/4灰黄	精緻	良	14C初頭	
100	130	BC区	第3面	BSK10	土師器	皿	8.2	1.4	++	++	6YR7/3C-5.5-黄緑	6YR7/3C-5.5-黄緑	精緻	良	14C初頭	
100	131	BC区	第3面	BSK10	土師器	皿	8.4	1.3	++	++	2.5YR/2灰白	2.5YR/2灰白	精緻	良	BCA~14C初	
100	132	BC区	第3面	BSK10	土師器	皿	11.2	1.7	++	++	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	精緻	良	14C初頭	
100	133	BC区	第3面	BSK10	土師器	皿	10.8	2.0	++	++	2.5YR/3灰黄	6YR7/3C-5.5-黄緑	精緻	良	14C初頭	
100	134	BC区	第3面	BSK10	土師器	皿	(11.6)	(1.8)	++	++	2.5Y7/2灰黄	6YR7/3C-5.5-黄緑	精緻	良	14C初頭	
100	135	BC区	第3面	BSK10	土師器	皿	11.5	1.9	++	++	5YR7/4C-5.5-4黄	10YR6/1黄灰	精緻	良	14C初頭	
100	136	BC区	第3面	BSK10	土師器	皿	11.3	2.3	++	++	2.5YR/4灰黄	6YR7/3C-5.5-黄緑	精緻	良	14C初頭	
100	137	BC区	第3面	BSK10	土師器	皿	10.8	2.2	++	++	10YR7/3C-5.5-黄緑	5YR7/3C-5.5-4黄	精緻	良	14C初頭	
100	138	BC区	第3面	BSK10	土師器	皿	11.8	2.1	++	++	5YR8/4黄緑	10YR8/3~5YR7/4 2.5YR6/2~5.2 2.5YR6/2~5.2	精緻	良	14C初頭	
100	139	BC区	第3面	BSK10	土師器	皿	(12.4)	2.1	++	++	10YR7/2~5.2/5.2 5.5-黄緑	灰黄~8YR7灰黄	精緻	良	14C初頭	
100	140	BC区	第3面	BSK10	土師器	皿	10.9	1.8	++	++	7.5YR7/2黄緑	7.5YR7/2黄緑	精緻	良	14C初頭	
100	141	BC区	第3面	BSK10	土師器	皿	11.0	2.5	++	++	10YR8/2灰白	10YR8/2灰黄	精緻	良	14C初頭	
100	142	BC区	第3面	BSK10	土師器	皿	11.4	2.1	++	++	7.5YR/2灰白	7.5YR/2灰白	精緻 中々 やや粗い	良	14C初頭	
100	143	BC区	第3面	BSK10	土師器	皿	11.6	2.2	++	++	7.5YR6/8灰黄	10YR8/3, 7.5YR 8/4黄緑	精緻	良	14C初頭	
100	144	BC区	第3面	BSK10	瓦器	瓶	(12.8)	(3.8)	++	++	N8/0~N4/0 灰白~灰	N8/0~N3/0 灰白~8YR7	精緻	良	14C初頭	
100	145	BC区	第3面	BSK10	瓦器	瓶	13.0	3.6	++	++	N5/0灰	N5/0灰	精緻	良	14C初頭	
100	146	BC区	第3面	BSK10	瓦器	瓶	12.2	3.2	++	++	N5/0~4/0灰	N5/0~4/0灰	精緻	良	14C初頭	
100	147	BC区	第3面	BSK10	瓦器	瓶	12.0	3.3	++	++	2.5YR/2灰白	2.5YR/1灰白	精緻	不良	14C初頭	
100	148	BC区	第3面	BSK10	瓦器	瓶	12.0	3.5	++	++	N5/0灰	N5/0灰	精緻	良	14C初頭	
100	149	BC区	第3面	BSK10	瓦器	瓶	12.1	3.4	++	++	5YR/1灰白	2.5Y7/1灰白	精緻	不良	白灰紀末~14世紀初	
100	150	BC区	第3面	BSK10	瓦器	瓶	12.0	3.3	++	++	N8/0灰白~4/0灰	N8/0灰白~4/0灰	精緻	+++	14C初頭	
100	151	BC区	第3面	BSK10	瓦器	瓶	(12.2)	3.5	++	++	2.5YR/4~2/4灰黄	10YR8/1~8/4 灰白~黄緑	精緻	不良	BC紀平	
100	152	BC区	第3面	BSK10	瓦器	瓶	12.0	2.9	++	++	N2/0灰白 N4/0灰	N2/0灰白 N5/0~4/0灰	中々 粗い	不良	14C初頭	
100	153	BC区	第3面	BSK10	瓦器	瓶	12.0 (取付高)	2.8	++	++	N4/0灰	N4/0灰	精緻	良	14C初頭	
100	154	BC区	第3面	BSK10	瓦器	瓶	12.5	3.0	++	++	N5/0灰	N5/0灰	精緻	良	14C初頭	
100	155	BC区	第3面	BSK10	瓦器	瓶	12.2	3.5	++	++	N6/0灰	N6/0灰	精緻	良	14C中頭	
100	156	BC区	第3面	BSK10	瓦器	瓶	11.8	3.3	++	++	N5/0灰	N4/0灰	精緻	良	14C初頭	
100	157	BC区	第3面	BSK10	瓦器	瓶	(4.0)	(3.6~)	++	++	2.5YR8/0灰白	N8/0灰白	精緻	+++	BC紀平中	
101	158	BC区	第3面	BSK10	土師器	卑形	82.1	(20.0)	++	++	ナゲ 焼熱面附有	5YR7/6黄	10YR7/3C-5.5-黄 緑	粗い	良	自然紀末~14世紀初頭
101	159	BC区	第3面	BSK13	土師器	皿	11.6	1.6	++	++	7.5YR8/4灰黄	10YR7/4C-5.5-黄 緑	精緻	良	14C後半	
101	160	BC区	第3面	BSR83	瓦器	瓶	12.0	3.45	++	++	N8/0~N5/0 灰白~灰	N8/0~N5/0 灰白~灰	精緻	+++	BCA~14C初	
101	161	BC区	第3面	BSR90	土師器	皿	(11.1)	2.0	++	++	10YR8/2~8/3 灰白~灰黄	10YR8/2~8/3 灰白~灰黄	精緻	良	14C前半	
101	162	BC区	第3面	BSR90	瓦器	瓶	(11.4)	2.9	++	++	N4/0灰	N5/0灰	中々 粗い	良	14C前半	
101	163	BC区	第3面	BSR95	土師器	皿	7.8	1.3	++	++	2.5YR/2灰白	2.5Y7/2灰黄	精緻	良	14C前半	
101	164	BC区	第3面	BSR95	土師器	皿	9.0	(1.6)	++	++	2.5YR/2灰白	2.5YR/3灰黄	精緻	良	14C前半	
101	165	BC区	第3面	BSR95	土師器	皿	(12.0)	(2.2)	++	++	2.5Y7/3灰黄	2.5Y7/3灰黄	精緻	良	14C前半	
101	166	BC区	第3面	BSR95	土師器	皿	(11.6)	(2.2)	++	++	10YR8/3灰黄	10YR8/3灰黄	精緻	良	14C前半	

区	道庁番号	地区	種別	遺構	種類	規模	遺構		調査		色紙		新土	焼成	備考
							口径 (cm)	器高 (取付高) (cm)	内面	外面	内面	外面			
101	167	BC区	第3區	甕上包舎 器	土師器	皿	8.2	??	??	7.5/18/3/浅黄緑	10YR6/3.7.5.4-黄緑	精緻	良	14C前半	
101	168	BC区	第3區	甕上包舎 器	土師器	皿	8.0	1.1	??	10YR7/3.7.5.4-黄緑	10YR6/2/浅黄緑	精緻	良	14C前半	
101	169	BC区	第3區	甕上包舎 器	土師器	皿	(7.8)	(1.0)	??	10YR6/2/灰白	10YR6/2/灰白	精緻	良	14C前半	
101	170	BC区	第3區	精査時	土師器	皿	7.8	1.1	??	2.5Y7/2/灰黄	2.5Y7/2/灰黄	精緻	良	14C前半	
101	171	BC区	第3區	精査時	土師器	皿	8.4	1.4	??	2.5Y7/2/灰黄	2.5Y7/2/灰黄	精緻	良	14C前半	
101	172	BC区	第3區	精査時	土師器	皿	8.3	2.05	??	10YR6/4/浅黄緑	10YR7/4.2.5.4-黄緑	精緻	良	14C前半	
101	173	BC区	第3區	精査時	土師器	皿	(10.8)	(1.0)	??	2.5Y7/2/灰黄	2.5Y7/2/灰黄	精緻	良	14C前半	
101	174	BC区	第3區	精査時	土師器	皿	11.0	2.1	??	10YR6/2/灰白	10YR6/2/灰白	精緻	良	14C前半	
101	175	BC区	第3區	精査時	土師器	皿	(11.4)	(2.0)	??	7.5/18/3/浅黄緑	7.5/18/4/浅黄緑	精緻	良	13C末~14C初	
101	176	BC区	第3區	精査時	土師器	皿	12.4	2.2	??	10YR7/4.2.5.4-黄緑	10YR6/4.2.5.4-黄緑	精緻	良	14C前半	
101	177	BC区 北朝	第3區	甕上包舎 器	瓦器	椀	9.0	0.0	??	5/8/0/灰, NS/0/灰	5/8/0/灰, NS/0/灰	精緻	良	13C末~14C初	
101	178	BC区 北朝	第3區	甕上包舎 器	瓦器	椀	11.8	3.55	??	5/8/0/灰 (平行線文)	5/8/0/灰	精緻	良	13C前半	
101	179	BC区 北朝	第3區	甕上包舎 器	瓦器	椀	12.0	3.2	??	5/8/0/灰 (平行線文)	NS/0/灰	精緻	良	13C後半	
101	180	BC区 西朝	第3區	精査時	瓦器	椀	(12.0)	(3.35)~	??	5/8/0/灰 (平行線文)	NS/0/灰	精緻	良	13C後半	
102	181	BC区	第4區	石列 A~B間	土師器	皿	8.3	1.2	??	2.5/8/2~6/1 灰白~黄灰	2.5/8/2~6/1 灰白~黄灰	精緻	良	13C9頃~後半	
102	182	BC区	第4區	石列付皮	土師器	皿	9.5	1.3	??	7.5/18/4.2.5.4-黄緑	7.5/18/4~1.8 2.5.5.4-黄緑	精緻	良	13C中頃~後半	
102	183	BC区	第4區	石列 A~B間	土師器	皿	8.5	1.2	??	2.5/8/3/灰黄	2.5/7/2/灰黄	精緻	良	13C4頃~後半	
102	184	BC区	第4區	石列 A~B間	土師器	皿	9.5	1.4	??	2.5/8/2/灰白	2.5/7/1/灰白	精緻	良	13C9頃~後半	
102	185	BC区	第4區	石列付皮	土師器	皿	7.7	1.5	??	10YR6/3/浅黄緑	10YR6/4/浅黄緑	精緻	良	13C後半	
102	186	BC区	第4區	石列 A~B間	土師器	皿	9.5	1.35	??	7.5/18/2/灰白	10YR6/2/灰白	精緻	良	13C中頃~後半	
102	187	BC区	第4區	石列付皮	土師器	皿	8.2	1.3	??	2.5/7/2/灰黄	2.5/7/2/灰黄	精緻	良	13C後半	
102	188	BC区	第4區	石列 A~B間	土師器	皿	8.4	1.3	??	2.5/8/2/灰白	2.5/7/2/灰黄	精緻	良	13C後半	
102	189	BC区	第4區	石列付皮	土師器	皿	8.6	1.5	??	2.5/8/3/灰黄	2.5/8/3/灰黄	精緻	良	13C後半	
102	190	BC区	第4區 甕上	石列 A~B間	土師器	皿	8.4	1.4	??	10YR6/3/浅黄緑	10YR6/3/浅黄緑	精緻	良	13C後半	
102	191	BC区	第4區	石列付皮	土師器	皿	8.2	1.45	??	7.5/18/6/黄	7.5/18/7.4.2.5.4-黄	精緻	良	13C9頃~後半	
102	192	BC区	第4區	石列付皮	土師器	皿	8.0	1.4	??	10YR6/3/浅黄緑	10YR6/3/浅黄緑	精緻	良	13C後半	
102	193	BC区	第4區	石列 A~B間	土師器	皿	9(2)	1.3	??	10YR6/2/灰白	10YR6/2/灰白	精緻	良	13C中頃~後半	
102	194	BC区	第4區	石列付皮	土師器	皿	8.5	1.35	??	5/8/3/灰黄	5/8/4~7/4 灰黄~2.5.5.4-黄	精緻	良	13C中頃	
102	195	BC区	第4區	石列付皮	土師器	皿	8.0	1.3	??	2.5/8/3/灰黄	2.5/8/3~8/3/灰黄	精緻	良	13C9頃	
102	196	BC区	第4區	石列付皮	土師器	皿	8.9	1.7	??	10YR6/3/浅黄緑	10YR6/3/浅黄緑	精緻	良	13C後半	
102	197	BC区	第4區	石列付皮	土師器	皿	8.4	1.5	??	2.5/8/3/灰黄	10YR6/3/浅黄緑	精緻	良	13C後半	
102	198	BC区	第4區	石列 A~B間	土師器	皿	9(0)	1.7	??	10YR6/2/灰白	10YR7/3.7.5.4-黄緑	精緻	良	13C中頃~後半	
102	199	BC区	第4區	石列 A~B間	陶器	皿	9(0)	(1.7)	輪文なし	5/7/1/灰白	5/7/1/灰白	精緻	良	灰輪小豆(黒?)の? 時期不詳	
102	200	BC区	第4區	石列 A~B間	土師器	皿	(10.0)	(2.0)	??	5/6/2/灰オリーブ	5/6/2/灰オリーブ	精緻	良	13C後半	
102	201	BC区	第4區	石列付皮	土師器	皿	11.6	1.9	??	10YR7/6/明黄	10YR7/4.2.5.4-黄	精緻	良	13C後半	
102	202	BC区	第4區	石列付皮	土師器	皿	11.5	2.2	??	10YR6/3/浅黄緑	10YR7/3.7.5.4-黄緑	精緻	良	13C後半	
102	203	BC区	第4區	石列付皮	土師器	皿	11.5	1.9	??	10YR6/2/灰白	7.5/18/4/浅黄緑	10YR6/2/灰黄	精緻	良	13C後半
102	204	BC区	第4區	石列付皮	土師器	皿	11.5	1.8	??	10YR6/3/浅黄緑	10YR6/2/灰白	精緻	良	13C後半	
102	205	BC区	第4區	石列付皮	土師器	皿	11.7	1.8	??	10YR6/3/浅黄緑	10YR6/2/灰白	精緻	良	13C後半	
102	206	BC区	第4區	石列付皮	土師器	皿	11.9	2.1	??	7.5/18/4/浅黄緑	7.5/18/3/浅黄緑	精緻	良	13C後半	
102	207	BC区	第4區	石列付皮	土師器	皿	12.0	2.0	??	10YR7/3.7.5.4-黄緑	10YR6/3/浅黄緑	精緻	良	13C後半	
102	208	BC区	第4區	石列付皮	土師器	皿	11.1	2.6	??	2.5/8/1~8/2/灰白	2.5/7/1~8/1/灰白	精緻	良	13C末~14C初	

区	道庁番号	地区	地位	道標	種別	道路種別	測量		色測		新土	地成	備考			
							口幅(m)	器高(埋存高)(m)	内面	外面				内面	外面	
102	209	旧区	第4面	石列付立	土鋪路	直	12.0	1.7	++	++	2.5/8/3改良	2.5/7/3改良	精緻	良	D3C後半	
102	210	旧区	第4面上	石列A~1間	土鋪路	直	11.6	0.0	++	++	2.5/7/2改良	2.5/8/2改良	精緻	良	D3C後半	
102	211	旧区	第4面下層	石列付立	土鋪路	直	12.0	2.2	++	++	10/7/3/12.5改良	10/7/3/12.5改良	精緻	良	D3C前半~中頃	
102	212	旧区	第4面	石列付立	土鋪路	直	10.8	2.3	++	++	7.5/8/3改良	10/7/3/12.5改良	精緻	良	D3C~14C初	
102	213	旧区東半部	第4面	石列付立	瓦葺	横	11.0	3.0	++	++	ヘラコキ(平行積文)	N4/0既	精緻	硬良	D3C末~14C初	
102	214	旧区東半部	第4面	石列付立	瓦葺	横	11.8	3.5	++	++	ヘラコキ(平行積文)	N4/0既	精緻	良	D3C末	
102	215	旧区東半部	第4面	石列付立	瓦葺	横	12.0	3.5	++	++	ヘラコキ(平行積文)	N4/0既	精緻	良	D3C末	
102	216	旧区東半部	第4面	石列付立	瓦葺	横	12.0	3.8	++	++	ヘラコキ(平行積文)	N4/0既	精緻	良	D3C後半	
102	217	旧区東半部	第4面	石列付立	瓦葺	横	12.0	3.5	++	++	ヘラコキ(平行積文)	N4/0既	精緻	硬良	D3C後半	
102	218	旧区東半部	第4面	石列付立	瓦葺	横	12.0	3.6	++	++	ヘラコキ(平行積文)	N4/0既	精緻	硬良	D3C後半	
102	219	旧区東半部	第4面	石列付立	瓦葺	横	12.0	3.5	++	++	ヘラコキ(平行積文)	N4/0既	精緻	硬良	D3C後半	
102	220	旧区東半部	第4面	石列付立	瓦葺	横	12.0	3.4	++	++	ヘラコキ(平行積文)	N4/0既	精緻	良	D3C末	
102	221	旧区東半部	第4面	石列付立	瓦葺	横	12.0	3.5	++	++	ヘラコキ(平行積文)	N4/0既	精緻	硬良	D3C後半	
102	222	旧区東半部	第4面	石列付立	瓦葺	横	11.83	2.75	++	++	ヘラコキ	N5/0既	精緻	良	D3C後半	
102	223	旧区東半部	第4面	石列付立	瓦葺	横	12.5	3.1	++	++	ヘラコキ(平行積文)	N4/0既	精緻	硬良	D3C後半	
102	224	旧区東半部	第4面	石列付立	瓦葺	横	13.50	4.05	++	++	ヘラコキ(平行積文)	N4/0~5/0既	精緻	良	D3C前半	
102	225	旧区東半部	第4面	石列付立	瓦葺	横					遺構跡			精緻	良	D3C後半
102	226	旧区東半部	第4面	石列付立	白磁	横	16.23	4.4~	++	++	5/7/2改良	5/7/2改良	精緻	良	D3C	
102	227	旧区	第4面下層	石組水路	土鋪路	直	8.2	1.5	++	++	10/8/3改良	10/8/2改良	精緻	良	D3C中頃	
102	228	旧区	第4面下層	石組水路	土鋪路	直	7.8	1.3	++	++	7.5/8/3改良	7.5/8/3改良	精緻	良	D3C中頃	
102	229	旧区	第4面下層	石組水路	土鋪路	直	7.9	1.15	++	++	10/8/2既	10/8/2既	精緻	良	D3C中頃	
102	230	旧区	第4面下層	石組水路	土鋪路	直	7.9	1.4	++	++	7.5/7/2改良	5/7/2/12.5改良	精緻	良	D3C中頃	
102	231	旧区	第4面下層	石組水路	土鋪路	直	8.2	1.3	++	++	2.5/8/2既	2.5/8/2既	精緻	良	D3C中頃	
102	232	旧区	第4面下層	石組水路	土鋪路	直	8.1	1.35	++	++	2.5/8/2既	2.5/8/2既	精緻	良	D3C中頃	
102	233	旧区	第4面下層	石組水路	土鋪路	直	7.7	1.45	++	++	10/8/2改良	10/8/2改良	精緻	良	D3C中頃	
102	234	旧区	第4面下層	石組水路	土鋪路	直	8.3	1.25	++	++	2.5/8/2既	2.5/8/2既	精緻	良	D3C中頃	
102	235	旧区	第4面下層	石組水路	土鋪路	直	8.6	1.5	++	++	10/8/2既	2.5/7/2改良	精緻	良	D3C中頃	
102	236	旧区	第4面下層	石組水路	土鋪路	直	11.8	2.0	++	++	10/8/3改良	10/7/2既	精緻	良	D3C中頃	
102	237	旧区	第4面下層	石組水路	瓦葺	横	11.4	2.9	++	++	ヘラコキ(平行積文)	N4/0既	精緻	良	D3C中頃	
102	238	旧区	第4面下層	石組水路	土鋪路	直	12.7	3.3	++	++	ヘラコキ	N4/0既	精緻	良	D3C中頃	
102	239	旧区	第4面下層	石組水路	瓦葺	横	13.0	3.4	++	++	ヘラコキ(平行積文)	N4/0既	精緻	良	D3C中頃	
103	240	旧区	第4面	BSD12 東新5号	土鋪路	直	8.6	1.4	++	++	2.5/8/3改良	2.5/8/3改良	精緻	良	D3C後半	
103	241	旧区	第4面	BSD12 東新5号	土鋪路	直	10.23	1.5	++	++	2.5/8/2既	2.5/8/2既	精緻	良	D3C後半	
103	242	旧区	第4面	BSD20 北下層	土鋪路	直	7.6	1.1	++	++	7.5/7/2改良	7.5/7/2改良	精緻	良	D3C後半	
103	243	旧区西側	第4面	BSPI12	土鋪路	直	8.0	1.1	++	++	7.5/7/2改良	7.5/7/2改良	精緻	良	D3C中頃	
103	244	旧区	第4面	BSPI23	土鋪路	直	8.1	1.35	++	++	10/8/2既	10/8/2既	精緻	良	D3C後半	
103	245	旧区	第4面	BSPI23	土鋪路	直	8.0	1.3	++	++	10/8/3改良	10/8/3改良	精緻	良	D3C後半	
103	246	旧区	第4面	BSPI23	土鋪路	直	8.7	1.25	++	++	7.5/7/2改良	10/8/3改良	精緻	良	D3C後半	
103	247	旧区	第4面下層	BSPI23	土鋪路	直	8.1	1.2	++	++	10/8/3改良	10/8/2既	精緻	良	D3C中頃	
103	248	旧区	第4面	BSPI23	土鋪路	直	10.8	2.0	++	++	7.5/8/3改良	7.5/8/3改良	精緻	良	D3C後半	
103	249	旧区	第4面	BSPI23	瓦葺	横	12.7	3.8	++	++	ヘラコキ(平行積文)	N4/0既	精緻	良	D3C後半	
103	250	旧区	第4面	BSPI23	瓦葺	横	11.6	2.7	++	++	ヘラコキ(平行積文)	N5/0既~7/0既	精緻	良	D3C後半	

区	建物番号	地区	階位	造替	種類	設備	出量		調査		色調		新土	完成	備考
							口積 (㎡)	器高 (埋存高) (m)	内面	外面	内面	外面			
103	251	BC区	第4面	ESP124	土留器	皿	8.0 (既2.4)	1.2	++	++	10YR7/3L2.5黄褐	10YR7/3L2.5黄褐	精緻	良	BC後半
103	252	BC区	第4面	ESP124	土留器	皿	7.7 (既2.7)	1.7	++	++	10YR8/4浅黄褐	2.5Y7/4浅黄	精緻	良	BC後半
103	253	BC区	第4面	ESP124	土留器	皿	8.15	1.4	++	++	10YR8/3浅黄褐	10YR8/2灰白	精緻	良	BC後半
103	254	BC区	第4面	ESP124	土留器	皿	8.0	1.4	++	++	10YR8/3浅黄褐	10YR8/3浅黄褐	精緻	良	BC後半
103	255	BC区	第4面	ESP124	土留器	皿	8.4	1.1	++	++	10YR8/2灰白	10YR8/4L2.5黄褐、10YR8/2灰白	精緻	良	BC後半
103	256	BC区	第4面	ESP124	土留器	皿	8.3	1.3	++	++	7.5YR/4浅黄褐	7.5Y7/3L2.5黄褐	精緻	良	BC後半
103	257	BC区	第4面	ESP124	瓦器	椀	11.0	3.2	→7.5YR (平付種文)	++ 粗+中+	N6/0灰	N5/0灰	精緻	良	BC前半
103	258	BC区	第4面	ESP124	瓦器	椀	12.0	3.1	→7.5YR	++	N4/0灰	N4/0灰	精緻	良	BC後半
103	259	BC区	第4面	IS-126	土留器	皿	12.0	2.0	++	→L1+中+	10YR7/4L2.5黄褐	10YR7/4L2.5黄褐	精緻	良	BC後半
103	260	BC区	第4面	ESP127	瓦器	椀	12.0	2.8	→7.5YR	++ 粗+中+	N4/0灰	N5/0灰	精緻	良	BC後半
103	261	BC区	第4面	ESP126	黄漆	壁	32	10~	++	++	7.5YR5/3L2.5黄褐	10YR5/3L2.5黄褐	粗い	不良	BC前半頃
103	262	BC区	第4面	ESP128	土留器	皿	8.2	1.5	++	++	2.5YR/3浅黄	2.5YR/3浅黄	精緻	良	BC後半
103	263	BC区	第4面	ESP128	土留器	皿	8.5	1.5	++	++	2.5YR/2浅黄	2.5YR/3浅黄	精緻	良	BC後半
103	264	BC区	第4面	ESP128	土留器	皿	8.2	1.5	++	++ 粗+中+	2.5YR/2灰白	2.5YR/2灰白	精緻	良	BC後半
103	265	BC区	第4面	ESP128	土留器	皿	12.0	2.5	++	++ 粗+中+	10YR8/4浅黄褐	10YR8/4浅黄褐	精緻	良	BC後半
103	266	BC区	第4面	ESP142	土留器	皿	8.3	1.7	++	++	10YR8/3浅黄褐	10YR8/3浅黄褐	精緻	良	BC後半
103	267	BC区	第4面	ESP168	瓦器	椀	(12.6)	(3.2)	→7.5YR	++ 粗+中+	N8/0~4/0 灰白~灰	N8/0灰白、N4/0 灰	精緻	不良	BC前半頃
103	268	BC区	第4面	ESP167	染織系	二枚織	(27.0)	9.2~	++	++	2.5YR/2暗灰黄	2.5YR/2暗灰黄 口縁部N8/0灰白	粗い	良	BC後半~14C初
103	269	BC区	第4面	ESP124	銅鏡										元朝遺物(北条=1000年)
103	270	BC区	第4面	真土包含器	銅鏡										大野元禮(北条=1020年)
104	271	BC区 西側	第4面	検出時	土留器	皿	(6.8)	(1.0)	++	++ 粗+中+	2.5YR/3浅黄	2.5YR/2灰白	精緻	良	14C初
104	272	BC区 西側	第4面	検出時	土留器	皿	8.0	1.4	++	++	10YR7/4L2.5黄褐	10YR7/4明黄褐	精緻	良	14C初
104	273	BC区 北西部	第4面	非磁化土 器底土時	土留器	皿	8.2	1.1	++	++	2.5YR7/6~6/6暗	2.5YR8/4L2.5黄褐	精緻	良	BC前半
104	274	BC区	第4面	真土包含器	土留器	皿	7.8	1.3	++	++	2.5Y7/2灰黄	2.5Y7/2灰黄	精緻	良	BC後半
104	275	BC区 北西部	第4面	検出時	土留器	皿	7.8	1.5	++	++	10YR8/3黄褐	10YR8/3黄褐 10YR8/4L2.5黄褐	精緻	良	BC後半~14C初
104	276	BC区 北西部	第4面	検出時	土留器	皿	8.0	1.3	++	++	2.5Y7/4浅黄	10YR7/4明黄褐	精緻	良	BC後半
104	277	BC区 北西部	第4面	検出時	土留器	皿	8.0	1.6	++	++	10YR6/6明黄褐	10YR5/6黄褐	精緻	良	BC後半
104	278	BC区	第4面	検出時	土留器	皿	7.7	1.5	++	++	10YR7/3L2.5黄褐	10YR8/2灰白	精緻	良	BC後半
104	279	BC区 南西部	第4面	検出時	土留器	皿	8.0	1.3	++	++	7.5YR7/4L2.5黄褐	2.5YR7/4L2.5黄褐	精緻	良	14C前半
104	280	BC区 南西部	第4面	検出時	土留器	皿	8.0	1.5	++	++	10YR8/3浅黄褐	10YR6/4L2.5黄褐	精緻	良	14C初
104	281	BC区 南西部	第4面	検出時	土留器	皿	(8.2)	(1.2)	++	++	10YR8/4浅黄褐	10YR8/4浅黄褐	精緻	良	BC後半
104	282	BC区 南西部	第4面	検出時	土留器	皿	8.1	1.4	++	++	10YR8/3浅黄褐	10YR7/4~4/4 L2.5黄褐	精緻	良	BC後半
104	283	BC区 南西部	第4面	検出時	土留器	皿	(8.0)	(1.1)	++	++	7.5YR8/4L2.5黄褐	2.5YR7/8暗 7.5YR8/6浅黄褐	精緻	良	BC後半
104	284	BC区 北西部	第4面	検出時	土留器	皿	7.8	1.6	++	++	10YR8/2灰白	10YR8/3浅黄褐	精緻	良	BC後半
104	285	BC区	第4面	検出時	土留器	皿	8.0	1.5	++	++	7.5YR6/6暗	7.5YR8/3浅黄褐	精緻	良	BC後半
104	286	BC区 北西部	第4面	検出時	土留器	皿	8.0	1.6	++	++ 口縁部(土黄)	10YR8/2灰白	2.5YR/2灰白	精緻	良	BC後半
104	287	BC区 西中央	第4面	検出時	土留器	皿	(8.8)	(1.2)	++	++	10YR8/6黄褐	10YR8/6黄褐	精緻	良	BC後半
104	288	BC区	第4面	検出時	土留器	皿	8.9	1.4	++	++	2.5YR/3浅黄	2.5YR/3浅黄	精緻	良	BC後半
104	289	BC区	第4面	検出時	土留器	皿	10.0	1.8	++	++	10YR7/3L2.5黄褐	10YR7/4L2.5黄褐	精緻	良	BC後半
104	290	BC区	第4面	真土包含器	土留器	皿	10.8	1.8	++	++	10YR7/4L2.5黄褐	10YR7/4L2.5黄褐	精緻	良	BC後半
104	291	BC区	第4面	検出時	土留器	皿	11.2	2.2	++	++	7.5YR7/3L2.5黄褐	7.5Y7/3L2.5黄褐	精緻	良	BC後半
104	292	BC区 北西部	第4面	検出時	土留器	皿	11.5	2.4	++	++	2.5YR7/4~3 灰白~黄	2.5Y7/3浅黄 ~5YR6/4黄	精緻	良	BC後半

区	建物番号	地区	階位	用途	種類	設備	建築		調査		新土	完成	備考			
							日積 (㎡)	器高 (階高さ) (㎡)	内面	外面				内面	外面	
104	293	BC区	第4面	検出時	土留器	風	11.6	2.2	++	++	7.5YR7/3C2.5G+黄	7.5YR7/3C2.5G+黄	精緻	良	D3C前半	
104	294	BC区 東端	第4面	検出時	土留器	風	(11.8)	(2.0)	++	++	2.5Y7/2R黄	2.5Y7/2R黄	精緻	良	D3前半	
104	295	BC区 西中央	第4面	検出時	土留器	風	(10.9)	(2.1)	++	++	10YR7/4C2.5G+黄	10YR7/3C2.5G+黄	精緻	良	D3前半	
104	296	BC区 北西部	第4面	検出時	土留器	風	(12.6)	(1.9)	++	++	10YR7/3C2.5G+黄	10YR7/3C2.5G+黄	精緻	良	D3前半	
104	297	BC区	第4面	黄土包含層	土留器	風	11.0	2.3	++	++	10YR8/2R白	7.5YR6/4C2.5G+黄	精緻	良	D3C末~14C初	
104	298	BC区 西中央	第4面	検出時	土留器	風	(11.6)	(1.9)	++	++	2.5YR7/2R白	2.5YR7/2R黄	精緻	良	D3前半	
104	299	BC区 西中央	第4面	検出時	土留器	風	(11.6)	(2.2)	++	++	5YR6/4C2.5G+黄	10YR7/4C2.5G+黄	精緻	良	D3前半	
104	300	BC区	第4面	検出時	土留器	風	12.2	2.6	++	++	10YR8/2R白	10YR8/3R黄	精緻	良	D3前半	
104	301	BC区	第4面	検出時	土留器	風	11.5	2.4	++	++	7.5YR8/4R黄	7.5YR8/4R黄	精緻	良	D3C末~14C初	
104	302	BC区 西中央	第4面	検出時	土留器	風	(11.8)	(2.2)	++	++	10YR8/2R白	7.5YR7/3C2.5G+黄	精緻	良	D3前半	
104	303	BC区 北西部	第4面	検出時	瓦器	瓶	10.4	2.6	++	++	2.5YR7/2R白 N6.0R	N5.0R	精緻	良	D3前半	
104	304	BC区 北西部	第4面	検出時	瓦器	瓶	11.4	2.6	++	++	N2.0~4.0 灰白~灰	N4.0R	精緻	良	D3前半	
104	305	BC区 西中央	第4面	検出時	瓦器	瓶	11.0	2.9	++	++	N4.0R (平行積文)	N5.0R	精緻	良	D3C末~14C初	
104	306	BC区 西中央	第4面	検出時	瓦器	瓶	11.0	3.0	++	++	N4.0R (平行積文)	N5.0R	精緻	良	D3前半	
104	307	BC区 北西部	第4面	検出時	瓦器	瓶	12.0	3.4	++	++	N7.0R (平行積文)	N7.0R白	精緻	良	D3C末~14C初	
104	308	BC区 西中央	第4面	検出時	瓦器	瓶	(11.2)	(2.2)	++	++	N6.0R (平行積文)	N5.0R	精緻	良	D3C末~14C初	
104	309	BC区	第4面	検出時	瓦器	瓶	11.8	3.2	++	++	N4.0R (平行積文)	N3.0R	精緻	良	D3C末~14C初	
104	310	BC区	第4面	検出時	瓦器	瓶	11.3	3.0	++	++	N4.0R	N4.0R	精緻	良	D3C末~14C初	
104	311	BC区	第4面	検出時	瓦器	瓶	11.4	2.9	++	++	N5.0R (平行積文)	N4.0R	精緻	良	D3C末~14C初	
104	312	BC区 南西部	第4面	検出時	瓦器	瓶	12.6	3.1	++	++	N4.0R, N6.0R白	N4.0R, N7.0R白	精緻	やや良	D3C中頃	
104	313	BC区 南西部	第4面	検出時	瓦器	瓶	12.2	3.0	++	++	N8.0~4.0 灰白~灰	N4.0R	精緻	良	D3前半	
104	314	BC区 北西部	第4面	検出時	瓦器	瓶	12.5	3.4	++	++	調整不明瞭 ヒガキム	2.5YR7/1R白	2.5YR7/1R白	精緻	不良	D3前半
104	315	BC区	第4面	検出時	瓦器	瓶	12.3 (器3.4)	3.5	++	++	調整不明瞭 ヒガキム	N6.0~7.0 灰~灰白	N6.0~7.0 灰~灰白	精緻	不良	D3前半
104	316	BC区 西中央	第4面	検出時	瓦器	瓶	12.4	3.2	++	++	調整不明瞭 ヒガキム	N5.0R	N5.0R	精緻	良	D3前半
104	317	BC区 西中央	第4面	検出時	瓦器	瓶	(12.0)	(2.4)	++	++	調整不明瞭 ヒガキム	N5.0R	N5.0R	精緻	良	D3前半
104	318	BC区	第4面	検出時	瓦器	瓶	12.3 (器3.0)	3.2	++	++	N4.0R	N4.0~5.0R	精緻	良	D3前半	
104	319	BC区 北西部	第4面	検出時	瓦器	瓶	12.3	3.4	++	++	N5.0R	N6.0~5.0 灰白~灰	精緻	良	D3前半	
104	320	BC区 東端	第4面	検出時	瓦器	瓶	(13.2)	(3.0)	++	++	N4.0R	N4.0R	精緻	良	D3前半	
104	321	BC区 西中央	第4面	検出時	瓦器	瓶	(12.4)	(3.2)	++	++	N6.0~4.0R	N5.0R	精緻	良	D3前半	
104	322	BC区 東端	第4面	検出時	瓦器	瓶	(13.4)	(3.0)	++	++	2.5YR7/1R白	2.5YR7/1R白	精緻	良	D3前半	
104	323	BC区 北西部	第4面	検出時	瓦器	瓶	(12.4)	(3.7)	++	++	N5.0~4.0R	N8.0~N4.0 灰白~灰	精緻	良	D3前半	
104	324	BC区 西中央	第4面	検出時	瓦器	瓶	(12.4)	(3.1)	++	++	N5.0~4.0R	N6.0~4.0R	精緻	良	D3前半	
104	325	BC区 西中央	第4面	検出時	瓦器	瓶	(13.2)	(3.0)	++	++	N5.0R	N5.0~2.0 灰~灰白	精緻	良	D3前半	
104	326	BC区 西中央	第4面	検出時	青磁	瓶							精緻	良	D3前半	
104	327	BC区 西中央	第4面	検出時	古銅戸	銅皿	17.0 (器8.3)	4.0	++	++	5Y7/4R黄	5Y7/4R黄	精緻	良	I4C初頃	
104	328	BC区 東端	第4面	検出時	古銅戸	銅付片	15.0	8.4	++	++	7.5YR7/2Rオリーブ	7.5YR7/2Rオリーブ	精緻	良	I4C初頃	
104	329	BC区 西中央	第4面	検出時	瓦質	羽釜	(24.0)	3.5~	++	++	10Y7/1R白	10YR8/1R黄	精緻	良	D3C末~14C初	
104	330	BC区 西中央	第4面	検出時	土留器	鏡	(26.6)	(0.9~)	++	++	10YR8/4R黄	10YR7/4C2.5G+黄	++	++	D3前半 鏡戸内蓋	
104	331	BC区 東端 下層	包含層	土留器	風	9.7	1.4	++	++	10YR8/3R黄	2.5YR7/2R黄	精緻	良	D3前半		
104	332	BC区 東端 下層	包含層	土留器	風	9.5	1.7	++	++	10YR8/3R黄	10YR7/3C2.5G+黄	精緻	良	D3前半		
104	333	BC区 東端 下層	包含層	土留器	風	9.3	1.8	++	++	2.5Y7/2~7/3 灰黄~灰白	2.5Y7/2~7/3 灰黄~灰白	精緻	良	D3前半		
104	334	BC区 東端 下層	包含層	土留器	風	9.8	1.6	++	++	10YR8/2R白	10YR8/2R白	精緻	良	D3前半		

区	道庁番号	地区	階位	造構	種類	設備	建築		調査		評価		新土	完成	備考		
							11種 (㎡)	器高 (埋存高) (m)	内面	外面	内面	外面					
105	335	BC区 東海	第4層 下層	包含層	土留置	風	10.0	2.95	++	++	指+α	10YR7/3にL5-1黄 層	10YR8/3洗黄層	精緻	良	D3前半	
105	336	BC区 東海	第4層 下層	包含層	土留置	風	9.2	1.4	++	++	指+α	2.5Y7/1黄灰	2.5Y7/3洗黄	精緻	良	D3前半	
105	337	BC区 東海	第4層 下層	包含層	土留置	風	9.5	1.8	++	++	指+α	10YR8/2洗白	2.5Y8/2洗白	精緻	良	D3C～中端	
105	338	BC区	第4層 下層	包含層	瓦葺	瓦葺	8.8	2.0	++	++	指+α	N4/0洗	N4/0洗	精緻	良	D3C前半	
105	339	BC区	第4層 下層	包含層	瓦葺	瓦	13.2	4.55	++	++	指+α	N4/0洗	N4/0洗	精緻	良	D3C前半	
105	340	BC区	第4層 下層	包含層	瓦葺	瓦葺	(18.4)	6.5～	++	++	指+α	10YR2/0黒	NL5/0黒	精緻	良	D3C前半 5寸付倉	
106	341	D3区	第3層棟出	D3R01	土留置	風	7.8	1.4	++	++	指+α	2.5Y8/4にL5-4黄 7.5YR8/2洗黄	2.5Y7/2洗黄	7.5YR3/1補灰	精緻	良	D4前半
106	342	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	7.7	1.3	++	++	指+α	2.5Y8/2洗白	2.5Y8/2洗白	精緻	良	D4前半	
106	343	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	7.9	1.2	++	++	指+α	10YR8/2洗白	7.5YR8/2洗白	精緻	良	D4前半	
106	344	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	8.0	1.2	++	++	指+α	2.5Y8/2洗白	2.5Y8/2洗白	精緻	良	D4前半	
106	345	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	8.45	1.25	++	++	指+α	10YR8/3洗黄層	10YR8/3洗黄層	精緻	良	D4前半	
106	346	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	7.9	1.4	++	++	指+α	10YR8/2洗白	7.5YR7/2補黄層	精緻	良	D4前半	
106	347	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	8.6	1.2	++	++	指+α	2.5Y8/2洗白	2.5Y8/2洗白	精緻	良	D4前半	
106	348	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	8.0	1.25	++	++	指+α	2.5Y8/2洗白	2.5Y8/2洗白	精緻	良	D4前半	
106	349	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	8.0	1.4	++	++	指+α	10YR8/2洗白	5YR8/3～6/3 洗黄～にL5-4黄	精緻	良	D4前半	
106	350	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	7.8	1.2	++	++	指+α	10YR8/3洗黄層	10YR8/3洗黄層	精緻	良	D4前半	
106	351	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	8.0	1.2	++	++	指+α	10YR8/2洗白	10YR8/2洗白	精緻	良	D4前半	
106	352	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	7.8	1.15	++	++	指+α	2.5Y7/1洗白	2.5Y7/1洗白	精緻	良	D4前半	
106	353	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	7.8	2.0	++	++	指+α	10YR8/3洗黄層	2.5Y8/2洗	精緻	良	D4前半	
106	354	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	8.3	1.6	++	++	指+α	10YR7/2～8/2にL5-4黄層～洗黄層 L5-4黄層～洗黄層	10YR7/3～6/2にL5-4黄層～洗黄層	精緻	良	D3A～14C	
106	355	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	8.1	1.2	++	++	指+α	10YR8/2洗白	2.5Y8/2洗白	精緻	良	D3A～14C	
106	356	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	8.4	1.5	++	++	指+α	10YR6/1～7/2 補灰～にL5-4黄層	10YR7/2 にL5-4黄層	精緻	良	D4前半	
106	357	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	7.8	1.3	++	++	指+α	2.5Y7/2洗黄	2.5Y7/1～2.5Y 8/1洗白～黄灰	精緻	良	D4前半	
106	358	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	7.8	1.3	++	++	指+α	10YR8/3洗黄層	10YR8/3洗黄層	精緻	良	D4前半	
106	359	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	8.9	1.4	++	++	指+α	10YR7/2 にL5-4黄層	10YR7/2 にL5-4黄層	精緻 半中粒 多	良	D4前半	
106	360	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	8.8	1.3	++	++	指+α	2.5Y8/3洗黄	2.5Y8/3洗黄	精緻	良	D4前半	
106	361	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	8.2	1.4	++	++	指+α	10YR8/2洗白	2.5Y7/2洗黄	精緻	良	D4前半	
106	362	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	7.8	1.2	++	++	指+α	2.5Y7/2洗黄	2.5Y7/2洗黄	精緻	良	D4前半	
106	363	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	7.8	1.15	++	++	指+α	10YR8/2洗白	2.5Y8/2洗白	精緻	良	D4前半	
106	364	D3区	第3層北側 北原部	D3R01	土留置	風	7.8	1.4	++	++	指+α	10YR8/2洗白	10YR8/2洗白	精緻	良	D4前半	
106	365	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	16.3	1.4	++	++	指+α	2.5Y8/3洗黄	2.5Y8/3洗黄	精緻	良	D4前半	
106	366	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	8.1	1.2	++	++	指+α	10YR8/2洗白	2.5Y8/2洗白	精緻	良	D4前半	
106	367	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	8.2	1.1	++	++	指+α	2.5Y8/3洗黄	2.5Y8/2洗白	精緻	良	D4前半	
106	368	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	8.0	1.4	++	++	指+α	10YR7/3 にL5-4黄層	10YR7/3 にL5-4黄層	精緻	良	D4前半	
106	369	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	8.0	1.25	++	++	指+α	10YR7/3 にL5-4黄層	10YR7/3 にL5-4黄層	精緻	良	D4前半	
106	370	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	8.23	1.1	++	++	指+α	10YR8/2洗白	10YR8/2洗白	精緻	良	D4前半	
106	371	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	8.53	1.3	++	++	指+α	10YR8/2洗白	10YR8/2洗白	精緻	良	D4前半	
106	372	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	8.0	1.05	++	++	指+α	2.5Y8/2洗白	2.5Y8/2洗白	精緻	良	D4前半	
106	373	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	8.2	1.1	++	++	指+α	10YR8/2洗白	10YR8/2洗白	精緻	良	D4前半	
106	374	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	8.4	1.3	++	++	指+α	10YR8/2～8/3 洗白～洗黄層	2.5Y8/2洗白	精緻	良	D4前半	
106	375	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	8.4	1.3	++	++	指+α	10YR8/2洗白	10YR8/2洗白	精緻	良	D4前半	
106	376	D3区	第3層	D3R01	土留置	風	8.43	0.9	++	++	指+α	7.5Y8/2～6/3 洗白～にL5-4黄	7.5Y8/2～6/3 洗白～にL5-4黄	精緻	良	D4前半	

区	地号	地区	地位	地積	種類	用途	測量		位置		新土	造成	備考		
							口積 (㎡)	器高 (坪/高さ) (m)	内面	外面				内面	外面
106	377	D区	第3画	D801	土師器	皿	8.0	1.3	ナデ	ナデ 箱ナデ	2.5Y8/3灰黄	2.5Y8/3灰黄	精緻	良	14C前半
106	378	D区	第3画	D801	土師器	皿	8.5	1.65	ナデ	ナデ	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	精緻	良	14C前半
106	379	D区	第3画	D801	土師器	皿	8.0	1.5	ナデ	ナデ 箱ナデ	10Y8/2灰白	10Y8/2～7.5Y8/8灰白	精緻	良	14C前半
106	380	D区	第3画	D801	土師器	皿	9.0	1.5	ナデ	ナデ	2.5Y8/2～7/1灰白	2.5Y8/1～6/1灰白～黄灰	やや粗	良	14C前半
106	381	D区	第3画	D801	土師器	皿	12.0	1.6	ナデ	ナデ 箱ナデ	7.5Y8/2灰白	7.5Y8/2灰白	精緻	良	14C前半
106	382	D区	第3画	D801	土師器	皿	12.0	1.7	ナデ	ナデ	10Y8/2灰白	10Y8/2灰白	精緻	良	14C前半
106	383	D区	第3画	D801	土師器	皿	12.2	1.9	板ナデ	板ナデ	10Y8/3灰黄緑	10Y8/3灰黄緑	精緻	良	14C前半
106	384	D区	第3画	D801	土師器	皿	12.5	2.3	ナデ	ナデ	10Y8/2灰白	10Y8/2灰白	精緻	良	14C前半
106	385	D区	第3画	D801	土師器	皿	11.0	1.7	ナデ	ナデ 箱ナデ	7.5Y8/2灰白	7.5Y8/2灰白	精緻	良	14C前半
106	386	D区	第3画	D801	土師器	皿	12.1	1.9	ナデ	ナデ	10Y8/2～3灰白～黄灰緑	10Y8/2～3灰白～黄灰緑	精緻	良	14C前半
106	387	D区	第3画	D801	瓦器	椀	(12.8)	2.1	ヘラシギキ (不明)	ナデ 箱ナデ	N8/0灰白	N8/0灰白	精緻	不良	14C前半
106	388	D区	第3画	D801	瓦器	椀	(13.7)	3.05	ヘラシギキ (不明)	ナデ 箱ナデ	N4/0-8/0灰白	N4/0-8/0灰白	精緻	不良	14C前半
106	389	D区	第3画	D801	瓦器	椀	(13.2)	3.1	ヘラシギキ		N8/0灰白	N4/0灰	精緻	良	14C前半
106	390	D区	第3画抽出	D801	瓦器	椀	13.0	3.5	ヘラシギキ (ジダザク灰陶文)		N5/0灰	N4/0灰	精緻	良	13C末～14C初
106	391	D区	第3画	D801	瓦器	椀	(13.2)	3.5	ヘラシギキ		N8/0灰白, N4/0灰	N8/0灰白, N4/0灰	精緻	やや不良	13C後半
106	392	D区	第3画	D801	瓦器	椀	(13.1)	3.5	ヘラシギキ (平行線文)	ナデ	N5/0灰	N5/0灰	精緻	良	13C後半
106	393	D区	第3画	D801	東洋系	土師器	(8.1)	5.5～	ナデ	ナデ(焼熱痕 線有)	N5/0灰	N5/0灰	精緻	良	14C前半
106	394	D区	第3画	D801	土師器	皿	7.6	1.7	ナデ	ナデ 箱ナデ	10Y8/2灰白	10Y8/2灰白	精緻	良	14C前半
106	395	D区	第3画	D801	土師器	皿	(11.1)	2.05	ナデ		7.5Y8/3 に灰黄緑	10Y8/2 に灰黄緑	精緻	良	14C前半
106	396	D区	第3画	D801	瓦器	椀	12.0	3.1	ヘラシギキ (平行線文)	ナデ 箱ナデ	N5/0灰	N5/0～6/0灰	精緻	良	13C末～14C初
106	397	D区	第3画	D801	瓦器	椀	12.8	3.2	ヘラシギキ (平行線文)	ナデ 箱ナデ	N8/0灰白	N8/0灰白 口縁N4/0灰	精緻	やや不良	13C末～14C初
106	398	D区	第4画	D802	土師器	皿	8.1	(1.1)	ナデ	ナデ	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	精緻	良	13C前半
106	399	D区	第4画	D802	土師器	皿	8.0	(1.3)	ナデ	ナデ	10Y8/2 に灰黄緑	2.5Y8/2灰白	精緻	良	13C前半
106	400	D区	第4画	D802	土師器	皿	9.0	(1.2)	ナデ	ナデ	10Y8/2灰白	10Y8/2灰白	精緻	良	13C前半
106	401	D区	第4画	D802	土師器	皿	8.4	1.2	ナデ	ナデ	10Y8/2灰白	10Y8/2灰白	精緻	良	13C前半
106	402	D区	第4画	D802	土師器	皿	8.6	(1.2)	ナデ	ナデ	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白	精緻	良	13C前半
106	403	D区	第4画	D802	瓦器	椀	(13.5)	(3.4)	ヘラシギキ	ナデ	N5/0灰白	N4/0灰	精緻	良	13C前半
106	404	D区	第4画	D802	瓦器	椀	(13.1)	(3.6)	ヘラシギキ	ナデ	N5/0灰白	N3/0陶灰	精緻	良	13C前半



調査地遠景

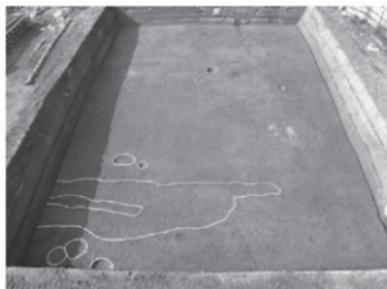


B-C区第2面全景



B-C区第3面全景

第111図 玉櫛遺跡発掘調査写真1



A区第2面全景



C区最終面全景



B区第3面全景



B区第4面水路状遺構と石列



A区井戸 (SE01) 土師皿出土状況



B区土壙 (SK07) 土師皿一括出土状況



B区第3面土壙 (SK10) 土器出土状況



B区第4面石相水路状遺構

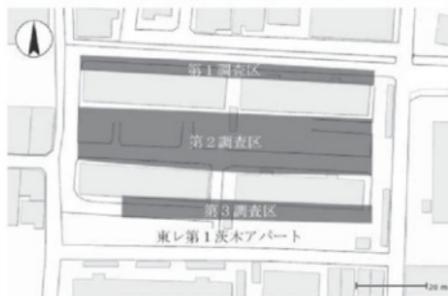
第112図 玉櫛遺跡発掘調査写真2

春日遺跡

所在地 茨木市春日三丁目 150-20 他
調査原因 マンション新築工事
調査期間 平成 21 年 12 月 14 日～
 平成 22 年 2 月 26 日
調査面積 約 2,000 m²
調査担当 中東正之
調査概要

経過 春日遺跡は、上徳積一・二丁目、中徳積一・二丁目、上徳東町、春日一～三・五丁目にかけて広がる集落跡である。地形的には、千里丘陵からのびる段丘と、茨木川が形成した沖積平野に立地している。これまでの発掘調査によると、この地に最初の集落が成立したのは弥生時代中期に遡る。集落は、古墳時代中・後期にかけて最大規模に広がると考えられ、春日三・五丁目あたりを中心に居住域、上徳積一・二丁目にかけては墓域が分布する。その後、奈良時代後半から平安時代前期にかけての時期には春日一・三丁目の範囲に縮小するとみられ、平安時代後期から鎌倉時代には、また広く展開するものと推測される。春日遺跡のほぼ中央に位置する本調査地は、昭和 40 年代の社宅の跡地である。それ以前については、ブドウなどの果樹園が営まれていたと伝え聞く。調査は、北から第 1・第 2・第 3 調査区にわけて実施した。

遺構と遺物 現地表面は、標高約 14.8m を測る。堆積状況は、造成盛土が 0.5m 程度なされ、直下は厚さ 0.05～0.2m の現代耕土である黄灰色シルト質砂が普遍的に広がる。現代耕土下の堆積層は、近世～近代の耕土である厚さ 0.05～0.1m の灰色シルト質砂、床土に相当し中世～近世遺物を包含する厚さ 0.05m ほどの灰黄色砂質シルトがおおむね広がる。以下は、厚さ 0.05～0.3m の弥生時代～古代の遺物を包含する褐灰色砂質シルト（第 3 調査区などでは暗褐色粘土）が偏在し、地山



第 114 図 春日遺跡調査区配置図



第 113 図 春日遺跡位置図

である明黄褐色粘質シルトとなる。尚、第 2・3 調査区西端では現代耕土直下が地山となる。西側の地山では、液状化による噴砂が観察される。

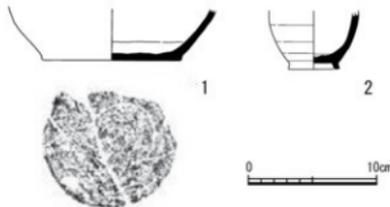
遺構検出は、すべて地山面まで掘り下げて実施した。検出面は、西側の丘陵面から東へ緩やかに下る傾斜面を呈し、標高 13.6～14.4m を測る。各調査区とも近・現代の攪乱・削平がみられた。第 1 調査区はとくに遺存状態が悪い。北壁沿いに遺構が少なからず残るが、ごく浅いものがほとんどで、成立面から削られてい

ることが伺える。第2調査区も遺存状態は良好ではなかった。近・現代の耕作痕と大型の攪乱が目立つ。西半部を中心に削平も顕著で、本来の上面形が捉えられない遺構が多い。第3調査区も削平を受けているが、東端部は比較的良好な状態を呈している。検出遺構は、弥生時代後期と考えられる溝・土壇、古墳時代後期の溝・落ち込み・柱穴、奈良時代後半から平安時代前期の堀立柱建物・溝・土抗・柱穴などを検出した。ほかに中世の溝・柱穴などがある。とくに柱穴を多数検出したが、建物等にまとめることができたのは1棟のみである。以下、主要な遺構について概説する。

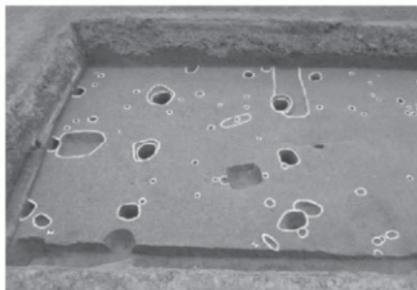
弥生時代後期に遡ると考えられる溝SD-4・10は、各調査区を縦断する南北溝である。SD-4は、北端をやや東方に向けるが、第1調査区では削平のため追認できなかった。幅0.6～0.9m、深さ0.25m前後を測る。底面の比高差はほとんどなく、埋土は3層に分かれる。SD-10は、幅0.5～1.2m、深さ0.2m前後を測る。SD-4と同様底面の比高差は認められない。埋土も3層に分かれるが、下位に砂が混じり、時に排水路として機能したことが伺える。同じく、第2調査区のSK-1は隅丸方形の土抗である。東西0.9m、南北1.2m、深さ0.15mを測る。埋土は2層にわかれ、木棺などの内部施設はなかった。

古墳時代後期の遺構は、全体に少なからず存在していたものと推測されるが、確認できたものはわずかである。第3調査区のSD-9はT字形の溝である。調査区外に至るため全容は不明であるが、幅0.4～0.9m、深さ0.05～0.15m、検出長14m以上を測る。埋土は2層に分かれ、下位には砂層が堆積する。第3調査区のSX-1は湿地状の浅い落ち込みである。東西21m、南北3.3m以上、深さ0.1m程度を測る。埋土は単層で、底面は澱んだ痕跡や人間の足跡もみられた。

奈良時代後半から平安時代前期は、比較的良好な遺構が認められる。SB-1は、第3調査区東端部で検出した堀立柱建物である。両側の妻が調査区外に至るとすれば、桁行は少なくとも4間の片廂建物が想定される。柱根は遺存していなかった。SD-1は、第2調査区東側でSD-10を切る浅い溝である。幅0.3～0.7m、深さ0.05～0.1m、検出長8.0mを測る。SD-3は、第2調査区中央でSD-4を切る浅い東西溝である。調査区外に至るため全容は不明であるが、幅1.2～2.0m、深さ0.1m前後、検出長22m以上を測る。SP-12・17は、第2調査区中央に位置する。ともに径0.35m、深さ0.2m程で、建物などの柱列の可能性が有る。第1調査区のSP-22は径0.3m、深さ0.1m、同じくSP-25は径0.4m、深さ0.05mを測る。削平された柱穴の底部と考えられる。その他、平安時代中期や中世前期の遺物が混入する溝や柱穴も確認されている。



第116図 春日遺跡出土遺物
(1:SP-217 2:SP-212) (1:4)



第115図 春日遺跡堀立柱建物全景(北から)

出土遺物は、整理箱に2箱である。遺構の出土が過半であるが、細片が多く、器形すら判然としにくいものが多かった。弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器などの土器類が主体であり、



第117図 春日遺跡全体図

ほかに中世の土師器・瓦器・瓦質土器・焼締陶器、近世の染付・陶器・瓦などがある。弥生土器はSD-4・10、SK-1 出土のものなどがある。いずれも弥生時代後期と考えられる。古墳時代の遺物は、出土須恵器の傾向から後期のものが主体となる。SD-9、SX-1 のものなどが該当する。奈良時代後半から平安時代前期の遺物は、SB-1 からは9世紀頃の須恵器大型製品や黒色土器B類、SD-1 は土師器と黒色土器B類、SD-3 は土師器や須恵器坏、SP-22 は土師器、SP-25 は黒色土器A類が出土した。完形品は、SP-12の輪高台の付く須恵器瓶子(第118図2)とSP-17の静止糸切り痕を残す平底の須恵器(第118図1)がある。ともに9世紀初頭頃と考えられる。

小結 本調査地での人間活動は、弥生時代後期に遡ると考えられる。周辺調査地の状況から、古墳時代中・後期には本格的に居住域が展開したとみられるが、当地で明確に建物が確認されるのは、集落規模がやや縮小するとみられる奈良時代後半から平安時代前期の段階である。平安時代後期から鎌倉時代にも居住域であったと考えられるが、残念ながら明確なものを検出できなかった。春日遺跡の集落は、中世後期に全域が耕作地化するまで連綿と営まれていたと考えられる。検出例の少ない期間の様相も、今後の調査例の増加による解明が待たれる。

参考文献 茨木市教育委員会 1977 『平成8年度発掘調査概報』



第118図 春日遺跡全景(北西から)

耳原遺跡 (MH09-1)

所在地

茨木市耳原三丁目 18-8 他

調査原因

宅地造成工事

調査期間

平成 21 年 12 月 14 日～
平成 22 年 1 月 30 日

調査面積

585 m²

調査担当

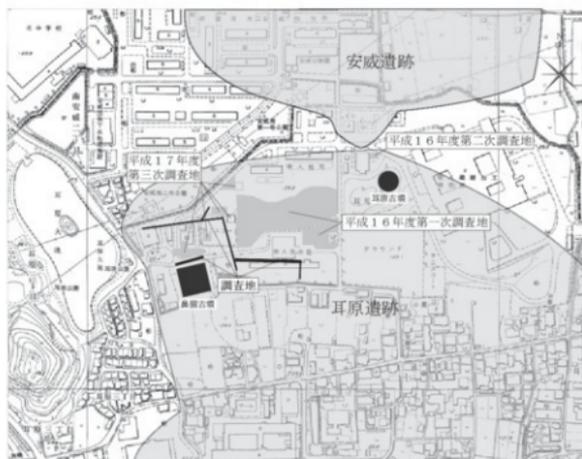
宮本賢治

調査結果

耳原遺跡は、縄文時代晩期から中世にかけて広がる複合集落遺跡である。耳原一丁目から同三丁目、南耳原二丁目にかけて東西約 350m×南北約 300m が遺跡の包蔵地である。

遺跡の包蔵地面積は、約 35 万 4 千 m² を占める。当遺跡は市内の中央部のほぼ東側にあたり、茨木川左岸及び、安威川の右岸の二河川に挟まれた舌状の丘陵上に位置する。既往の調査の一例として、昭和 55 年度の名神高速道路開通に伴う発掘調査が挙げられる。この調査では、縄文時代晩期(澁賀里Ⅲ式・船橋式・長原式)の甕や(深鉢)棺墓が 16 基検出された。また、石鏃が 50 点以上出土している。平成に入ってから、同 16 年度の耳原遺跡の一次調査において、耳原三丁目地内にある耳原古墳と鼻摺古墳の中間地点に存在した丘陵上で、6 世紀後半頃から 7 世紀初頭頃に築造されたと考えられる「耳原西古墳」が確認された。なお、石室内部は既に盗掘された状況であったが、内部の土中より楕円形状の金製環 1 点とガラス小玉が約 43 点出土した。なお、金製環については観察したところひしゃげたような状況が見受けられる事から、本来は正円形だった可能性が考えられる。この耳原西古墳の発見で、耳原古墳・鼻摺古墳と東西に広がる古墳群の様相を示す事となった。

基本層序 基本層序についてであるが、調査対象が 1 トレンチ～7 トレンチの 7 つの調査区分かれ、調査区の東端から西端までは約 270m、北端から南端までは約 125m の距離があるため、基本層序の様相は一様ではない。このため、比較的残りの良好な 1 トレンチに着目することにする。現地表面は、標高約 24.2m を測る。層序は第 1 層～第 5 層に大別され、上層より順に、第 1 層は現代の盛土層で攪乱・造成盛土を含む層である。層厚は約 1m を測る。第 2 層は、オリーブ黒色粘性砂質土 SCL5Y3/2 を主体とし、浅黄色微砂 S5Y7/4 の土性を持つ層で、層厚は約 0.1m を測る。第 3 層はオリーブ黒色粘質土 SC5Y3/1 を主体とし、オリーブ色微砂 S5Y7/4 の土性を持つ層で、層厚は約 0.05m を測る。第 4 層は、褐色粘性砂質土 SC7.5YR4/4 を主体とし、灰白色微砂 S7.5YR8/1 の土性を持つ層で、層厚は約 0.15m を測る。5 層は、オリーブ黒色砂質土 LS5Y3/2 を主体とし、



第 119 図 調査地位置図

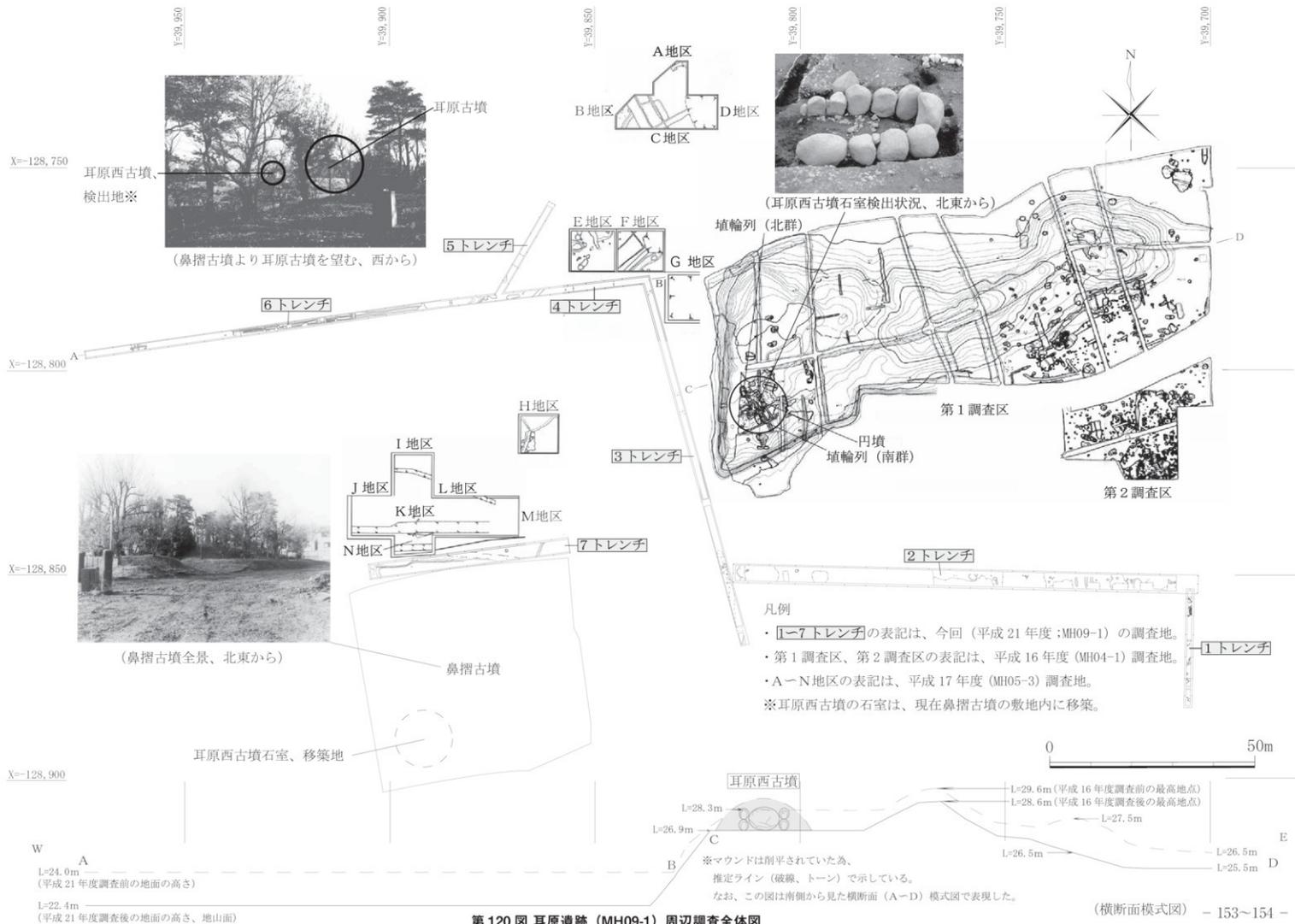
灰オリーブ色粗砂 S5 Y6/2 土性を持つ地山層になる。標高は調査区の北端に位置する 5 トレンチでは、T. P. +24.7m～T. P. 24.5m を測り、調査区の南端に位置する 1 トレンチでは T. P. +24.7m で遺構を検出した。調査区全体をみれば、その比高差はほとんど見られない。

検出遺構・出土遺物 第 1 遺構面が検出されたのは 1 トレンチからのみで、2 トレンチ～7 トレンチは攪乱を受け削平されており、遺構は検出はされなかった。第 1 遺構面からは、平安時代～中世のビット状遺構、溝遺構などが検出された。これは、平成 16 年度の第 2 調査区で検出された時期と様相が同一となる。出土遺物は少なく土師器や須恵器などがあるが、摩滅している為、時期の判断はできなかった。第 2 遺構面では古墳時代～古代のビット状遺構、柱穴、溝状遺構、土壇状遺構、鋤溝などを検出した。第 1 遺構面同様出土遺物は少なく、土師器や須恵器などがあるが、摩滅している為、時期の特定はできなかった。なお、6 世紀～7 世紀にかけての築造年代が考えられている鼻摺古墳の北側の墳丘の裾部に相当する 7 トレンチからは、ほとんど遺物は出土しなかった。遺構は、墳丘の裾部を東西方向に走る溝状遺構を 2 条検出したが、調査区の西端で南に折れ曲がっており、墳丘との位置関係が整合しないことから周濠の可能性は低いものと考えている。

まとめ 平成 16 年度・MH04-1(宅地造成事業)、平成 17 年度・MH05-2(土壌改良工事に伴う掘削工事事業)、そして今回の平成 21 年度・MH09-1(宅地造成工事)と耳原遺跡(耳原三丁目地内)での調査は 3 例目となった(調査区全体図を参照)。平成 16 年度・MH04-2(給排水設備移設事業)の帝人塾大阪研究センター内の調査も含めて現段階での成果を述べたいと思う。平成 16 年度・MH04-1 の調査では、当時耳原古墳と鼻摺古墳の間には東西約 120m、南北約 40m、標高最高地点約 29.6m の丘陵地が存在していた。この丘陵地の西端から古墳時代後期頃の「耳原西古墳」が発見され、この地を支配していた有力な権力者の古墳が築かれた事が判明した。その後、古代には条里制にのった鋤溝遺構が検出されたことから、この地における生産域の存在が認められた(MH09-1)。平安時代～中世にかけてはビット状遺構や柱穴、土壇や溝などの生活痕跡を示す、集落を構成する遺構が数多く検出された(MH04-1、MH04-2、MH09-1)。近世に入ると灌漑や排水などに利用したと考えられる暗渠の他、土取り坑などが検出された(MH05-2)。今後、これらの古墳を含めた周辺での調査成果に期待するものである。

参考文献

- | | | |
|----------|------|------------------|
| 茨木市教育委員会 | 2000 | 『平成 12 年度発掘調査概報』 |
| 茨木市教育委員会 | 2005 | 『平成 16 年度発掘調査概報』 |
| 茨木市教育委員会 | 2006 | 『平成 17 年度発掘調査概報』 |

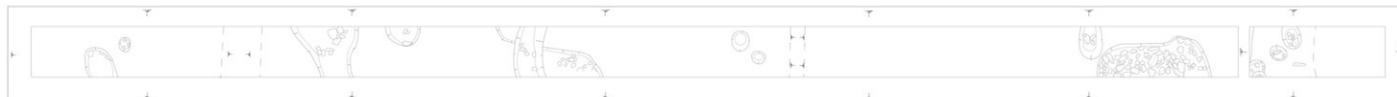


第120図 耳原遺跡(MH09-1)周辺調査全体図

1 トレンチ第1遺構面平面図



1 トレンチ第2遺構面平面図



0 10m

2 トレンチ第2遺構面平面図・西半部



2 トレンチ第2遺構面平面図・東半部



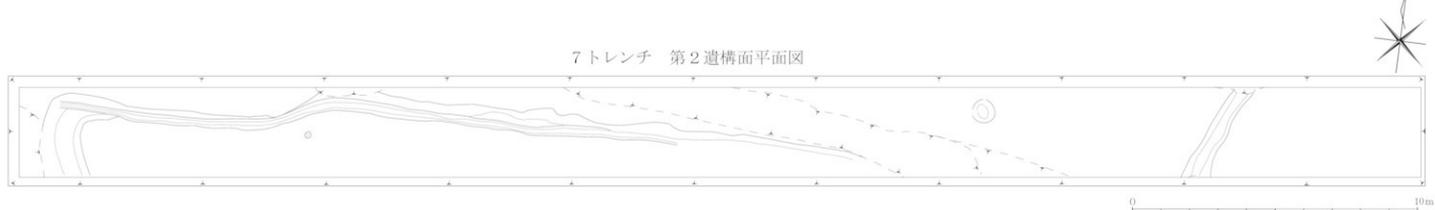
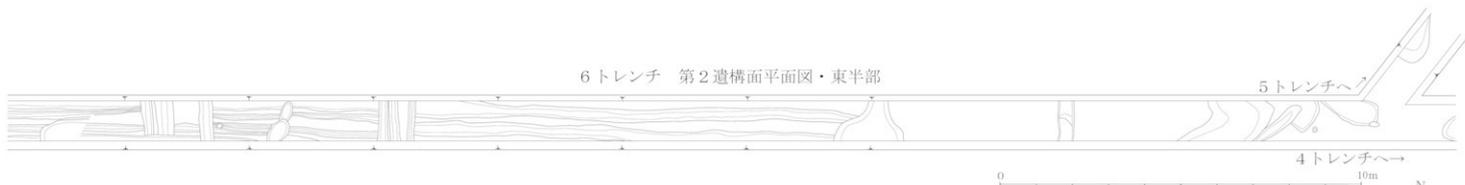
0 10m

3 トレンチ第2遺構面平面図

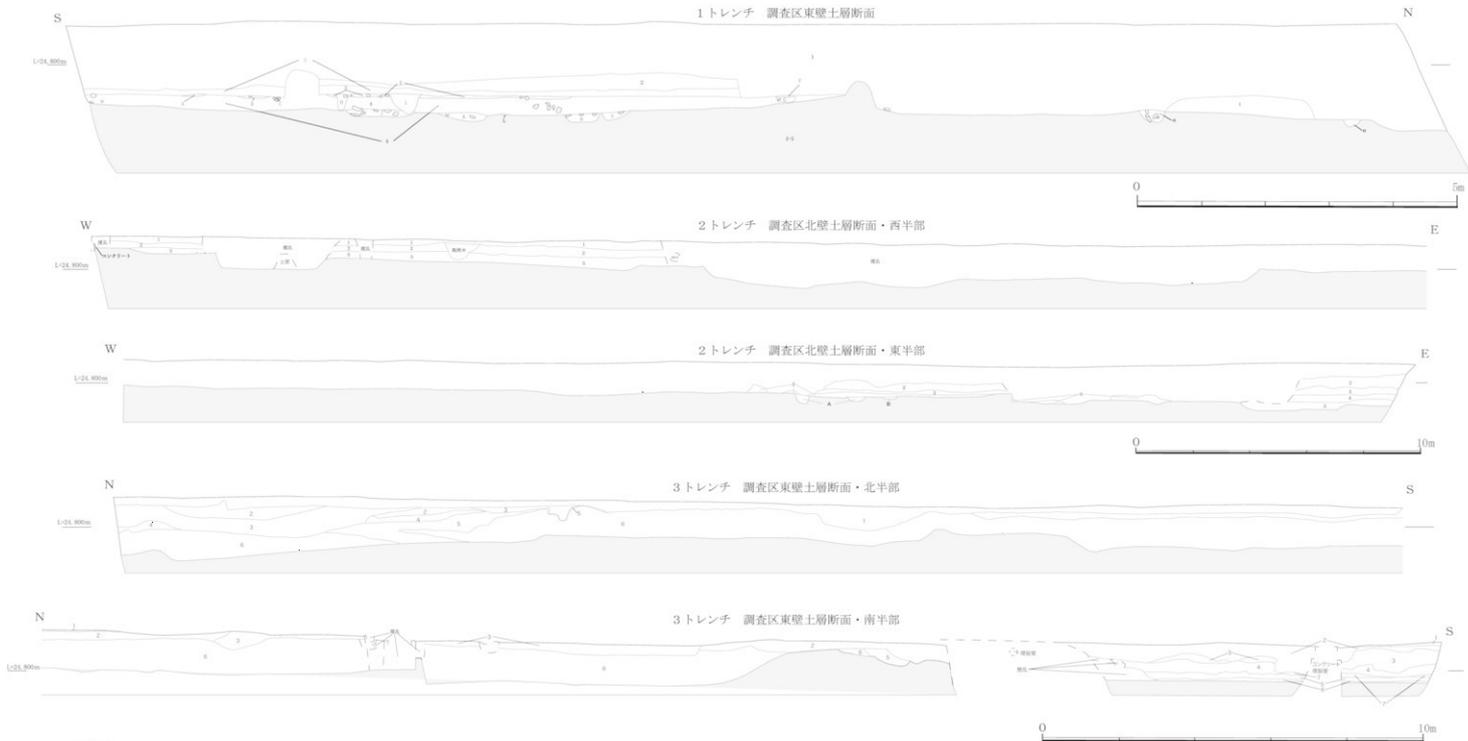


0 10m

※ 1 トレンチは同スケール、同方位となる。
2 トレンチ、3 トレンチは別スケールとなる。



第122図 耳原遺跡 (MH09-1) 4～7トレンチ第2遺構面平面図



基本層序

1 トレンチ

1. 盛土
2. オリーブ黒色粘性砂質土SCL5/3/2に浅黄色微砂S5/7/4
3. オリーブ黒色粘質土SC5/3/1にオリーブ色微砂S5/7/4
4. 褐色粘性砂質土SCL7.5/8/4に灰白色微砂S2.5/8/1
5. オリーブ黒色砂質土LS5/3/2に灰オリーブ色粗砂S5/8/2
- A. 暗赤褐色粘質土SL2.5/8/5に真褐色微砂S2.5/7/1
- B. 黒褐色粘質土SCL2.5/8/3に灰白色微砂S2.5/8/8
- C. オリーブ褐色砂質土SCL2.5/8/4に明黄褐色微砂S2.5/8/8
- D. 暗オリーブ灰色粘質砂質土SCL2.5/8/1に緑灰色微砂S10/8/6/1
- E. 黄灰色粘質土SL2.5/8/4に黄灰色微砂S2.5/8/1 炭化物、微小を含む。
- F. にぶい黄褐色砂質土SCL10/8/4/3に灰白色微砂S10/8/1
- G. 灰黄褐色砂質土SL10/8/4/2に真褐色微砂S10/8/8
- H. オリーブ黒色粘質土SCL7.5/8/1に灰白色微砂S2.5/8/1
- I. 灰オリーブ色粘質土SC5/4/2に灰白色粗砂S5/8/1
- J. 暗灰黄色微砂S2.5/4/2に青灰色粘土ブロックIC58/6/1
- K. 灰オリーブ色粘質土SCL7.5/8/2に換黄色微砂S7.5/8/3
- L. 暗オリーブ褐色粘質土SCL2.5/8/3に黄褐色微砂S2.5/8/8
- M. 暗オリーブ色粘質土SCL7.5/4/3に灰オリーブ色粗砂S7.5/8/3
- N. 灰オリーブ色粘性シルトSIC7.5/4/2にオリーブ黄色粗砂S7.5/8/3
- O. 褐色砂質土SL10/8/4/6に浅黄褐色粗砂S10/8/4 直径約7cmの礫を含む。

※ A～Iは、第1遺構面遺構埋土。
J～Oは、第2遺構面遺構埋土。

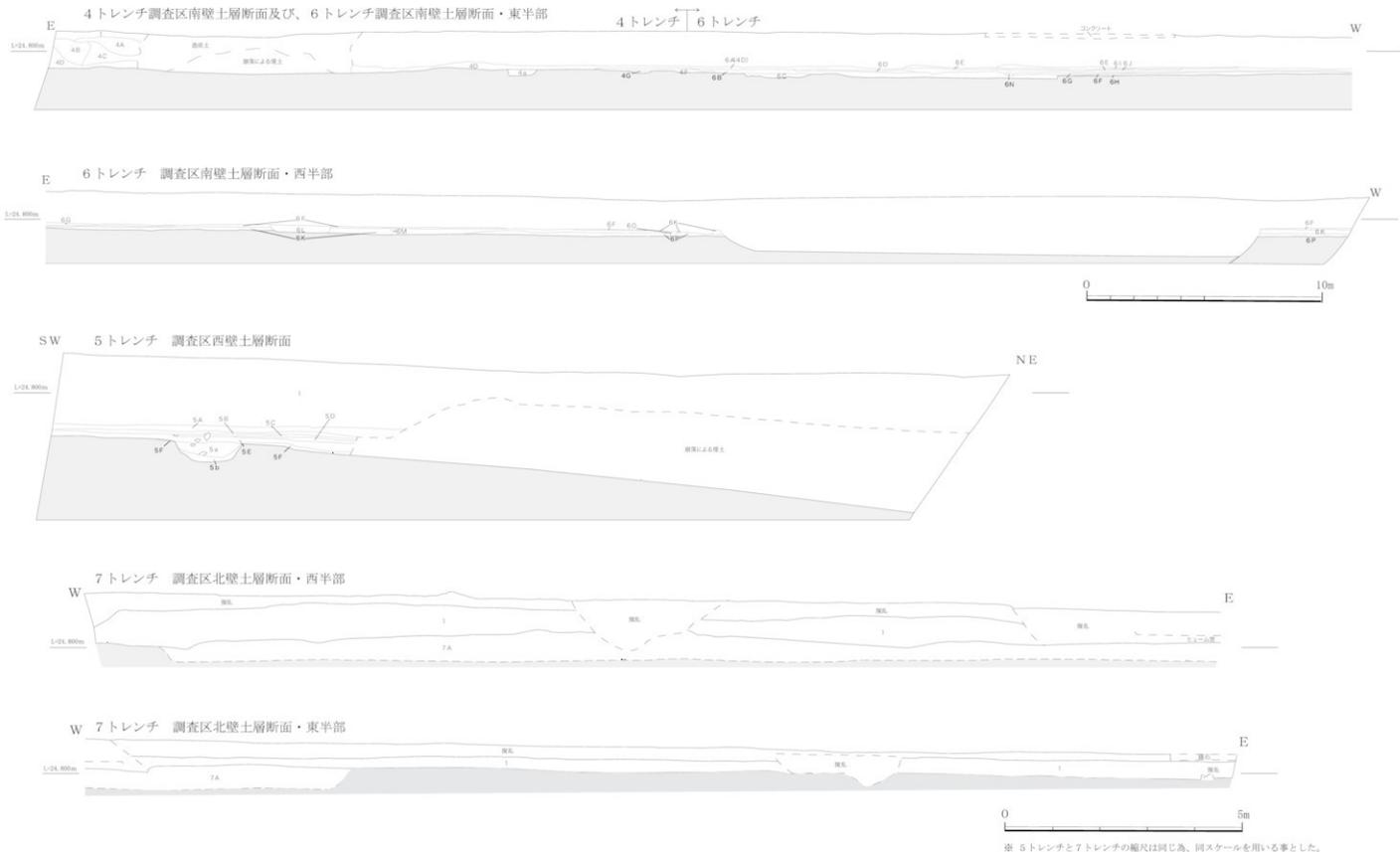
2 トレンチ

1. 盛土
2. オリーブ黒色粘性砂質土SCL5/3/2に浅黄色微砂S5/7/4
3. 黒褐色粘性砂質土SCL2.5/3/2に灰白色微砂S2.5/8/1 ※炭が約3cmの幅でベルト状に含まれる。
4. 浅黄色砂質土SL2.5/7/4に黄色微砂S2.5/8/1
5. オリーブ褐色粘質土IC2.5/4/6に黄灰色微砂S2.5/8/1 ※土器細片、含む。
- A. にぶい黄褐色粘土SC10/8/4に明黄褐色微砂S10/8/6/6混じる。
- B. 褐色粘質土SC10/8/4に明黄褐色粗砂S10/8/6/6混じる。

3 トレンチ

- 3-1. 盛土
- 3-2. 暗褐色微砂S10/8/4に浅黄褐色粗砂S10/8/3
- 3-3. にぶい黄色シルトSICL2.5/8/4と明褐色シルトSICL7.5/8/5/6の互層
- 3-4. 暗赤褐色微砂S2.5/3/3に黄色粗砂S2.5/7/8
- 3-5. 黒褐色微砂S10/8/2に黒色粘質土S10/8/1
- 3-6. 灰黄色微砂S2.5/7/2に明褐色粗砂S7.5/8/6

第123図 耳原遺跡 (MH09-1) 1～3 トレンチ調査区土層断面図



※ 5トレンチと7トレンチの縮尺は同じ高、同スケールを用いる事とした。

基本層序			
4 トレンチ 1. 埋土 4 A. 黒褐色粘土SC10193/2 赤褐色土 4 B. 黒褐色粘土SC10193/1に土灰・黄褐色鉄砂S10197/4 赤褐色土 4 C. 土灰・黄褐色鉄砂S10197/4に炭化物含む。赤褐色土 4 D. 灰黄色土SC10194/1に明黄褐色鉄砂土SC2306/6 4 E. 黒褐色粘土SC10193/1に土灰・黄褐色鉄砂S10196/3 4 F. 黒褐色粘土SC10193/1に黄褐色鉄砂S10195/6 4 a. 黒褐色粘土SC2307/1に灰白色粘りコンクリートブロックSC12.577/1含む。赤褐色埋土。	5 トレンチ 1. 埋土 5 A. 黒褐色粘土SC10193/2に土灰・黄褐色鉄砂S10197/4 赤褐色土 5 B. 黒褐色粘り質土SC10195/1に黒褐色鉄砂S10195/6 5 C. 土灰・黄褐色鉄砂土SC10194/2に灰白色鉄砂S10197/1 5 D. 灰黄色粘り性シルトSC10194/2に明黄褐色粘り土ブロックSC10195/8 5 E. 4 Fに同じ。 5 F. 黒褐色粘りシルトSC10194/1に黄褐色鉄砂S10196/3 5 a. 黒褐色土SC10192/1に土灰・黄褐色鉄砂S10196/4 径5-20mmの礫を含む。遺構埋土。 5 b. 黒褐色粘り質土SC10193/1に黒褐色鉄砂S10194/6 赤褐色埋土。	6 トレンチ 1. 埋土 6 A. 4トレンチの4 Dに同じ。 6 B. 4 Eの4 Eに同じ。 6 C. 黒褐色粘り質土SC2312/1, 灰白色鉄砂S177/2 6 D. オリーブ褐色粘り質土SC2.514/6, 黄褐色鉄砂SC2.515/1 6 E. 暗灰色鉄砂SC2.515/2とオリーブ褐色鉄砂SC2.514/4の互層。径約2mmの礫多量含む。 6 F. 暗褐色粘り質土SC2.519/2/3, 褐色鉄砂SC27.519/6 6 G. 黒褐色粘り質土SC2.515/2, 灰白色鉄砂SC2.519/1 6 H. 黒褐色粘り質土AS312/1, 黄褐色粘り質土プロップAS2.515/6 6 I. 黒褐色粘り質土SC7.5193/1 径径約3-5mmの礫含む。 6 J. 黒褐色粘り質土SC7.5193/1, 暗褐色鉄砂SC27.5197/1	6 K. オリーブ褐色粘り質土SC2.514/6, 土灰・黄褐色鉄砂SC2.515/4 6 L. オリーブ褐色粘り質土SC313/1, 黄色鉄砂SC2.517/1 6 M. オリーブ粘り質土SC316/6, 黄色鉄砂SC317/8 6 N. オリーブ褐色粘り質土SC2.514/3, 浅黄色鉄砂SC2.517/4
			7 トレンチ 1. 埋土 7 A. 褐色粘り質土SC10194/4 赤褐色樹木の根跡有り。

第 124 図 耳原遺跡 (MH09-1) 4~7トレンチ調査区土層断面図



1 トレンチ 遺構面検出状況 (北から)



2 トレンチ 遺構面検出状況 (東から)



3 トレンチ 遺構面検出状況 (北から)



4~6 トレンチ 遺構面検出状況 (東から)



5 トレンチ 遺構面検出状況 (南西から)



7 トレンチ 遺構面検出状況 (西から)



6 トレンチ 遺構面検出状況 (西から)

第125図 耳原遺跡(MH09-1)1~7トレンチ、遺構検出状況

茨木遺跡 (IK09-5)

所在地 茨木市元町

1513-2・1514

調査原因 マンション新築工事

調査期間 平成22年3月3日

～平成22年3月10日

調査面積 約48㎡

調査担当 関 梓

調査結果

位置と環境

茨木遺跡は、茨木市の中心部に位置し、元茨木川の左岸にそって南北約1km、東西約0.45kmの地域を範囲とする。

遺跡の中心には、茨木氏の拠点であった茨木城跡があり、中世においてはその城下町として栄えた。近世になると、徳川幕府の政策により茨木城が破却されると摂津の在郷町として発展した。

茨木遺跡では、古地図や地籍などから茨木城とその城下町の

様相についての復元が研究者によってなされている。特に、平成18年度の発掘調査では、南北方向の流路が確認された。この調査地は復元案において茨木城の外堀に推定されている場所にあたり、茨木城についての文献資料からの研究と発掘調査資料が合致したことにより、今まで不明とされていた茨木城とその城下町の様相の一端が解明されることになった。また、この流路からは職豊期から江戸時代初頭に相当する瓦や陶磁器とともに多量の建具が出土し、茨木城に関連する遺物として注目されている。

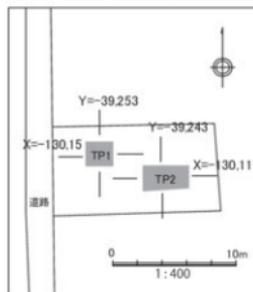
今回の調査地は茨木遺跡の南西部、復元案では城下町における町屋に推定される地域に位置している。

今回の調査は、マンション新築工事に伴い柱状改良工事が行われるため、実施するにいった。

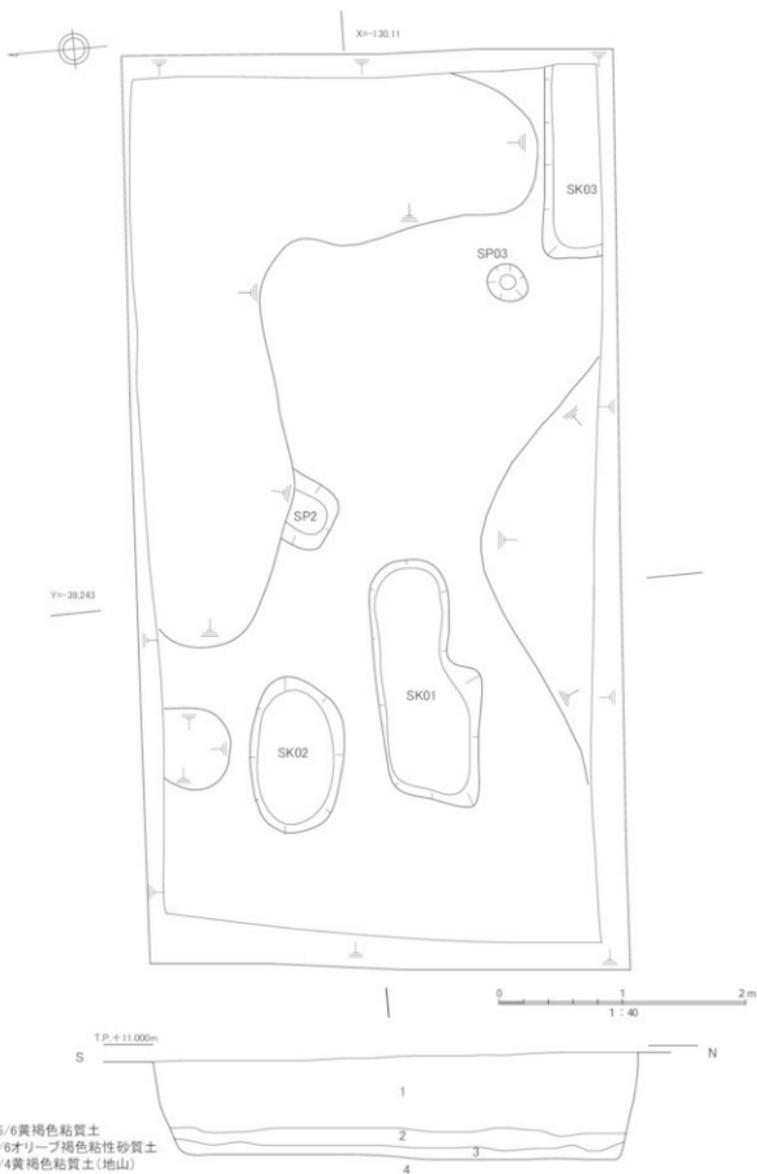
調査区は、住宅が密集した地域に位置し、敷地面積や既存建物による攪乱などを考慮して東西にトレンチを2ヶ所設定した。



第126図 調査地位置図



第127図 調査区配置図



第128図 茨木遺跡(İK09-5) トレンチ1平面・断面図

基本層序

現地表面は標高10.9mをはかる。上層から第1層が現代盛土であり層厚約60cmをはかる。第2層が10YR 5/6黄褐色粘質土層であり、層厚約10cm。第3層は2.5YR5/6オリーブ褐色粘性砂質土層で層厚10cm。第4層は2.5Y5/4黄褐色粘質土層であり、第4層上面で遺構を検出した。

検出遺構

トレンチ1では、調査区の大半が後世のかく乱によって壊されており、破壊を免れたわずかな部分から、土坑やピットを検出した。いずれも深さは比較的浅く、出土遺物も瓦片が主であった。

トレンチ2では、土坑3基とピットを2基検出した。中でもSP02では、大甕がすえられた状態で検出された。

出土遺物

今回、出土した遺物の総量はトレンチ1・トレンチ2をあわせて、コンテナ約2箱分である。その多くはトレンチ2からの出土したものである。出土遺物の大半は瓦の破片や陶磁器類がしめる。以下、その詳細をのべる。

1～5まではいずれもトレンチ2から出土したものである。

1は、陶器の皿である。口径12.2cm、底径4.4cm、器高2.8cmをはかる。内外面は丁寧なナデ調整であり、底部はケズリ出し高台である。2は、瓦質の皿である。口径12.0cm、底径8.6cm、器高3.8cmをはかる。内外面は丁寧なナデ調整であり、胎土は精緻である。3は、湊焼の挿鉢である。口径36.6cm、底径13cm、器高13.3cmをはかる。4は、備前焼の甕の口縁部である。口径45cm、残存高16.5cmをはかる。5は、SP02の中に据えられた状態で出土した備前焼の甕の底部である。底径18cm、残存高38cmをはかる。

まとめ

今回の調査において検出した遺構は、出土遺物の時期から近世に相当するものであるといえる。

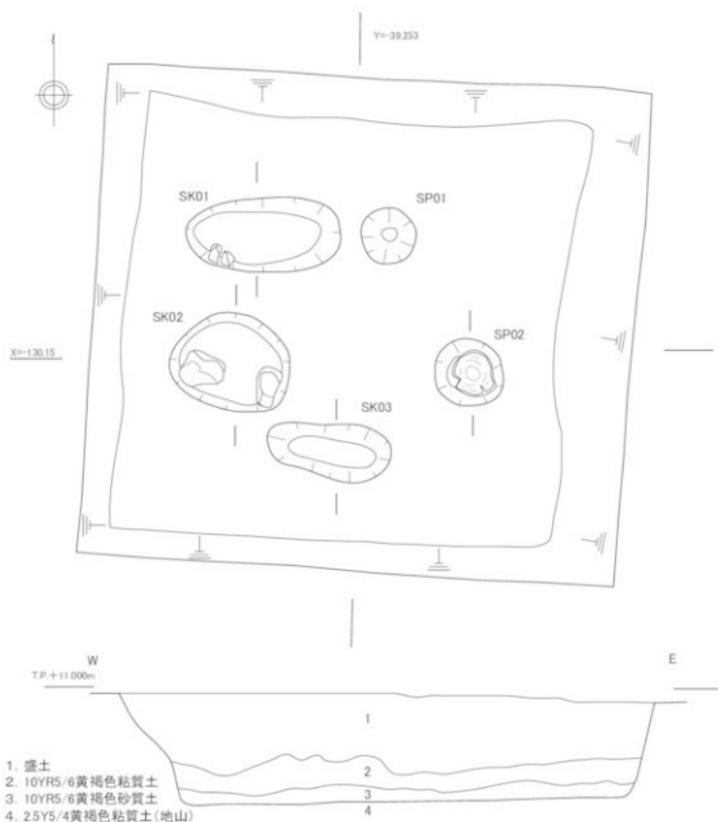
本調査地は、近世在郷町において町屋が位置した地域に想定されている。今回、検出した遺構も近世の町屋に関係するものであるといえる。

茨木遺跡は、茨木城とともに発展し、茨木城破城後はこの地域の在郷町として地域の中心となり発展をとげ、今日の茨木市つながる重要な遺跡である。しかし、調査事例も少なく、その全容は依然としてわかっていない。

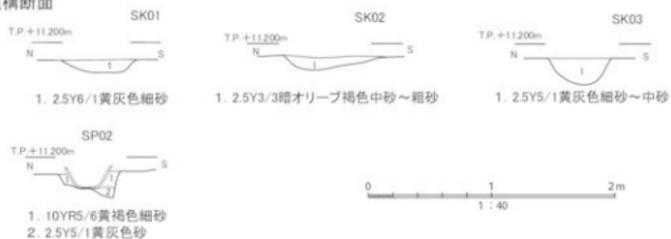
今後、茨木遺跡の調査が増える中で、茨木遺跡の有り様が明らかになり、今回の発掘調査がその一助となればと考える。

参考文献

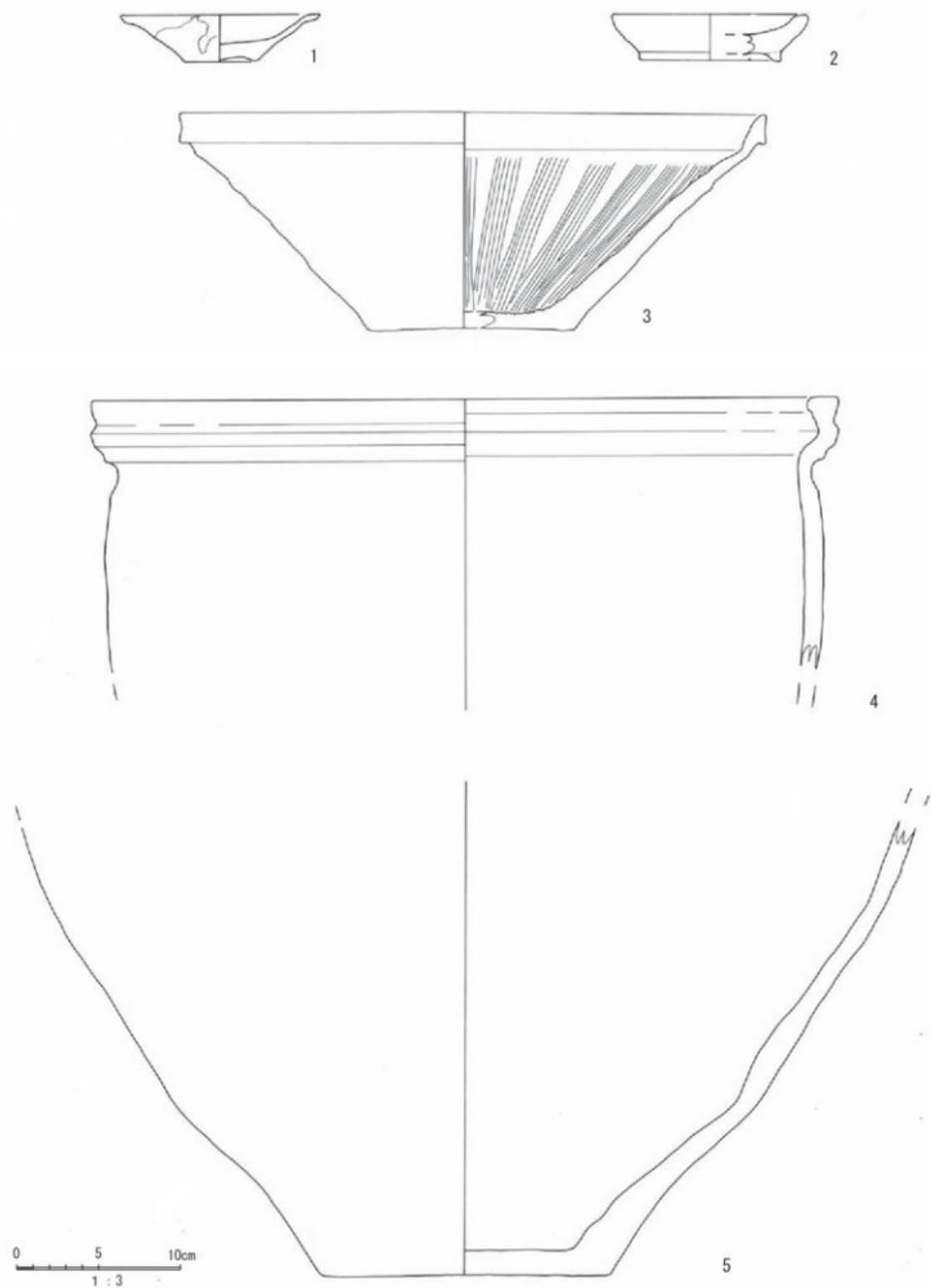
- 茨木市教育委員会 1987 『わがまち茨木城郭編』
- 中村博司編 2007 『よみがえる茨木城』
- 茨木市教育委員会 2007 『平成18年度発掘調査概報』



遺構断面



第129図 茨木遺跡(İK09-5) トレンチ2平面・断面図



第130図 茨木遺跡(İK09-5) 出土遺物



TP1 遺構検出状況



TP1 遺構完掘状況



TP2 遺構検出状況



TP2 遺構完掘状況



TP1 南壁土蔵断面



TP2 南壁土蔵断面

第131図 茨木遺跡(İK09-4) 発掘調査写真

報告書抄録

ふりがな 書名	おおさかふいばらきしへいせいにいじゅういちねんどほくつちうさぎらいほう 大阪府茨木市平成21年度発掘調査概報						
副書名	平成21年度(2009年度)						
巻次							
シリーズ名							
シリーズ書							
編著者名	黒須靖之・中東正之・宮本賢治・関洋						
編集機関	茨木市教育委員会						
所在地	567-8505 大阪府茨木市駅前三丁目8番13号						
発行年月日	西暦2012年12月28日						
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積
総持寺遺跡	庄一丁目347-1	27211	32	34-44-40	135-34-41	20071210 ~ 20080710	6,750.0 m ²
総持寺遺跡	庄一丁目347-2	27211	32	34-49-42	135-34-43	20090113 20090226	2,800.0 m ²
茨木遺跡	大手町752-5, 752-6	27211	104	34-48-58	135-34-23	20090407 ~ 20090409	30.5 m ²
中条小学校遺跡	下中条町125-3, 125-4	27211	52	34-48-48	135-33-56	20090601 20090626	236.0 m ²
中条小学校遺跡	下中条町451	27211	52	34-48-52	135-34-00	20090907 20091022	80.0 m ²
茨木遺跡	片桐町1222	27211	104	34-49-18	135-34-23	20090924 ~ 20090930	270.0 m ²
中条小学校遺跡	下中条町54-2, 54-3	27211	52	34-48-40	135-34-01	20090928 ~ 20091209	1,038.0 m ²
玉櫛遺跡	玉櫛二丁目332	27211	103	34-48-10	135-34-26	20091203 ~ 20090331	1,216.6 m ²
春日遺跡	春日三丁目150-20	27211	60	34-49-14	135-33-43	20091214 ~ 20100226	2,000.0 m ²
耳原遺跡	耳原三丁目18-8他	27211	31	34-50-29	135-33-44	20091214 ~ 20100130	585.0 m ²
茨木遺跡	元町1513-2, 1514	27211	104	34-49-06	135-34-15	20100303 ~ 20100310	48.0 m ²
所収遺跡名	種別	主時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
総持寺遺跡	集落跡	弥生時代～ 近世	耕作遺構・建物跡・溝・土坑・溝 状遺構		弥生土器・土師器・須恵器・陶磁器		
総持寺遺跡	集落跡	弥生時代～ 中世	竈溝・竈穴住居跡・竈立柱建物 跡・溝・井戸・土坑		土師器・須恵器		
茨木遺跡	集落跡	近世	町屋水路跡・柱穴・土坑		陶磁器・軒丸瓦・軒平瓦・建築部材		
中条小学校遺跡	集落跡	弥生時代～ 奈良時代	周溝・竈立柱建物跡・柱穴・土 坑・大溝		弥生土器・土師器		
中条小学校遺跡	集落跡	弥生時代～ 古墳時代	柱穴・溝・土坑		弥生土器・土師器・須恵器・手摺形土器		
茨木遺跡	集落跡	中世～ 近世	竈・井戸・竹管水道・溝・土坑		土師器・陶磁器・瓦・専		遺跡所在の周辺に、弥生時代中期の集落の可能性がある。
中条小学校遺跡	集落跡	弥生時代～ 平安時代	柱穴・溝・井戸・土坑		弥生土器・土師器・須恵器		
玉櫛遺跡	集落跡	中世～ 近世	井戸・石組水路・土坑・礎石列		土師器・陶磁器・瓦器・銅銭・炭炉		
春日遺跡	集落跡	古墳時代～ 近世	竈立柱建物跡・竈溝・柱穴・柱 列跡・溝・土坑		土師器・須恵器・陶磁器		
耳原遺跡	集落跡	中世～ 近世	石敷遺構・竈溝・溝・土坑		土師器・須恵器・陶磁器・瓦・緑釉瓦		調査範囲外より、弥生土器土器 の出土も報告されている。
茨木遺跡	集落跡	中世～ 近世	土坑		陶磁器・瓦		

平成 21 年度発掘調査概報

発行日 平成 24 年 12 月 28 日
発行 茨木市教育委員会
印刷所 株式会社 西川印刷所